

原色鳥類図鑑

小林 伸 助 著



保育社

保育社の原色図鑑 6

原色日本鳥類図鑑

小林桂助 著

BIRDS OF JAPAN
IN

NATURAL COLOURS

BY KEISUKE KOBAYASHI

M.O.S.J., M.B.O.J., M.S.O.F.,
M.A.O.U., M.I.A.O.U.

Colour illustrations and line drawings
by Takashi Miyamoto



保育社

1962

HOIKUSHA
1-CHOME UENOMACHI HIGASHI-KU
OSAKA JAPAN

序

私が鳥類に興味を持つ様になったのは12,3才位の時からである。爾来30余年或は山野を駆け巡り、或は研究室にとじ籠り、将又遠く海外に歩を延ばし、余技としての鳥類の研究は私の生活とは切りはなす事の出来ない密接な関係にある。

現在日ソ交渉の焦点となっている南千島の色丹島、ツンドラを横切り密林を切り開いた小径を行く事九日にして漸くたどりついた北緯50度線の旧日ソ国境線等は何れも普遊の地である。

南に目を転じれば第二次世界大戦中の空爆と無砲射撃との為に嘗ての丘陵地帯が殆ど平地と化してしまったといわれている激戦地の沖縄島、又台湾南端のガランビやタラルも楽しかった思い出の多い地であり、当時採集した数多くの標本は今尚私のキャビネットの中に大切に保存され、よき思い出のよすがとなっている。

豹の吼り声に一晩中まんじりともせずに過ごした朝鮮の山中で、今は殆ど絶滅に瀕しているキタタキを見たり、地平線が烟の端に見える漢州の曠野ではタンチョウやノガン等の群をも心行く迄見る事が出来た。

北海道の大雪山で過ごした10余日、オホーツク海沿岸の森でのキャンプ生活、道難が伝えられ捜索隊が繰り出されているのも知らずに20日間も山に籠った新雪の南アルプス等数えあげれば切りはないが、之等は何れも鳥類研究を目的としての思い出の多い旅であった。

更に海外に歩を延ばしても、博物館の研究室に通ったり、野に山に、森に海辺に鳥を訪ねる事に変わりはなかった。

所蔵標本百万点、世界第一の称ある大英博物館の鳥類部の研究室で絶滅鳥オガサワラマシコを初めとし世界各国の珍鳥とキャリバーとを手にした日の暮れるのも忘れた事も多かったし、バリやニューヨークの自然科学博物館では多くの鳥学者とも語り、タイプ標本の多くを自らの手にする事も出来た。

又野外に出てはローメ河口に紅鶴の群やハチクイのコロニーを訪ね、独乙の森で旧知の鳥友と共に美しい鳥のコーラスをきいたり、テームス河口のデルタでミヤコドリやツクシガモの群に恍惚とした事もあった。

歳かにそそり立つマッターホーンの鋭峰を背景にした標高 3500 米のお花畑に寝ころんで、二万年の昔欧州全土が氷河に蔽われていた時代を想像し乍ら見た多くの高山鳥も印象に深い。

更に砂漠の鳥の生態を探る為にはカリフォルニアのモハベ砂漠 250 哩の縦断もしたし、鳥類中最小で胸欄目を欸く様な多くのハチスズメ類の採集をもした。

この様に旧日本領土の端から端迄、又欧米の各地で観察した鳥類の生態の記録や採集した数々の標本はその一つ一つが私に当時の情景を生き生きと思い出させるものである。

本書は之等の資料に基いて、新日本の領土内から知られた鳥類の全部 59 科 425 種を原色にて図示し解説を加えたものであるが、本書が鳥類知識普及の為に少しでも役立てば著者の幸之に過ぎるものはない。

本書刊行に際し平素著者の為に或は採集に、或は写真の撮影に、多大の御助力を戴いている長友坂根干氏に深甚の謝意を表すると共に、陰に陽に色々と御援助をおしまれなかった清棲幸保博士、橋川次郎、森岡弘之、其他の諸氏にも感謝せねばならない。

又海外の友 Colonel L. R. Wolfe, E. A. Cardiff (以上米国) Dr. J. M. Harrison, J. N. Muscott (以上英国) R. D. Etchecopar (フランス) Dr. W. Makatsch (ドイツ) J. G. Williams (アフリカ) W. B. Hitchcock, (瀋州) C. M. Fennell (朝鮮) 其他の諸氏からも平素絶えず貴重な標本や文献の寄贈を受けている。合わせて茲に感謝の意を表す。

最後に本書を良心的なものとする為に多大の犠牲を払って惜しまれなかった株式会社保育社社長、今井龍雄氏に対し深甚の感謝と敬意とを捧げると共に同社編集主任、堀田喜雄氏他社員各位の誠意ある御努力と御援助に対しても深謝する次第である。

本書に使用した美事なる原色画と凸版図版とは総て宮本孝画伯の麗筆になるものである。原画完成迄に満一十年、一々標本を手にしてたゆまぬ努力の結果他に類例を見ない美事な原画を仕上げられた。又アール印刷株式会社社長、長谷川朝造氏並に同社社員各位は原画に極めて忠実に美事な製版を完成された。之等諸氏に対しても茲に感謝と敬意とを捧げる次第である。

昭和 31 年 2 月

小 林 桂 助

凡 例

(1) 本書には第二次世界大戦後の日本領土から今日までに知られた鳥類の総べて22目61科425種を収録図示している。(但しベニスズメ・キンパラ・ブンチョウ等明らかに飼鳥の逸れたと思われるものは除外している。)即ち北は北海道から南は奄美群島の与論島に至る新日本の国土から、迷鳥として1回でも記録された事のある種類は総べて含めたが、旧日本領土である樺太・千島・小笠原諸島・沖縄以南の琉球諸島・朝鮮・台湾産の鳥は除外した。

(2) 但し1956年3月本書初版刊行されて以来1962年2月までの間に新たに日本産鳥類として追加されたものに下記の8種があるがこれ等は本書には含まれていない。

シベリアジュリン *Emberiza pallasi pallasi* (Cabanis)
LESSER REED-BUNTING

1924年1月27日故川口孫治郎氏により佐賀県にて採集された1♀及び1925年3月1日同氏により佐賀県にて採集されたキタシベリアジュリン *Emberiza pallasi polaris* Middendorff 1♀が京都大学に保管されている事が最近判明した。

イジマムシクイ *Phylloscopus ijimae* (Stejneger)
IJIMA'S WILLOW-WARBLED

従来センダイムシクイの亜種とされていたが別種とされた (P. 29参照)

カラフトワシ *Aquila clanga* Pallas
GREAT SPOTTED EAGLE

本州(神奈川県久里浜)にて1952年12月21日に幼鳥1羽が採集された。

メジロガモ *Aythya nyroca* (Güldenstadt)
WHITE-EYE DUCK or FERRUGINOUS DUCK

1959年12月中旬千葉県新浜にて♂ad 1羽が生捕られた。

オオゲンカンドリ *Fregata minor minor* (Gmelin)
PACIFIC FREGATE BIRD

八丈島・本州(兵庫県伊丹)にて坂根千氏観察)

ヒメウズラシギ *Calidris bairdii* (Coues)
BAIRD'S SANDPIPER

本州(三重県伊勢市)にて1956年9月1日橋本太郎氏により1♀が採集された。

ノミゾツグミ(仮称) *Turdus pilaris* Linné
FIELDFARE

元来欧州産の鳥であるが迷鳥として1960年2月長野県の本曾谷で1羽採集された。

ヒメシロハラミズナギドリ *Pterodroma longirostris longirostris* (Stejneger)
JAPANESE PETREL

従来シロハラミズナギドリの亜種とされていたが別種とされた。(P. 94 参照)

(3) 本書初版の学名、和名、英名は日本鳥学会発行1942年版“改訂日本鳥類目録”に依ったが、この改訂版に於ては主として同会発行1958年版(改訂4版)に従い、一部著者の見解と著しく異なるものは訂正を加えたものもある。

(4) 本書は鳥類の野外に於ける識別に重点をおき、♀、幼鳥、夏羽、冬羽の異な

る種類は紙面の許す限り原色にて図示し、足らざる部分は本文中の凸版図版で補う事とした。またタカ類・カモ類・シギ・チドリ類等の飛翔時に於ける特徴等も凸版図版に依りできるだけ多くを図示する事に努めた。

(5) 実物の縮小率は図版に依り一定していない。また大形の種類は同一図版内に於いて他種よりも著しく縮小してある(例えばキジ・ヤマドリ)。依って大きさに就いては解説中に掲げた各部測定を参照され度い。

(6) 「形態」の項に於いては、野外で見られる静止時または飛翔時の特色を簡単に記述するに止め、標本を手にしなければ判明せぬような各科の記載はできるだけ省略してある。各部の測定は野外観察に於いては実際には役立つことが少ないが他種との大きさの比較を示す為に明記した。

(7) 「生態」の項には棲息環境、渡りの時期、渡来または渡去地、繁殖、食性、特徴ある習性、なき声等につき記述する必要があるが、限られた紙面に之等の一切を収録する事は困難であるので各種毎にその中重要な点のみを簡単に記載するに止めた。

(8) なき声は野外に於いて鳥の種類を識別する場合極めて重要である。然しこれを文字で表現する事は極く特徴のあるものの外は至難の業であり、複雑な鳥のなき声をアルファベットや片かなで記載しても実際には役に立たぬ事が多い。これを学ぶにはレコードに依るか、または熟達した指導者について野外に於いて自ら体得するほかはないのである。

(9) 繁殖も生態上重要な事項である。然し紙面の関係上本文中に記述する事ができないので「日本にて繁殖する鳥類の巣と卵一覧表」として本書末尾に掲げた。従来日本の国土内で巣や卵の発見された事のある種類、また巣や卵は未発見であっても巣立した雛が採集されたり、確実な観察記録のあるものは総べてを収録した。番号は本文中の番号と一致させてある。卵を原色で図示する事のできなかったのは遺憾であるが、その大部分は、小林桂助・石沢建夫共著「日本産鳥類の卵」(英文全16篇)に図示されているから、巣や卵につき一層研究を必要とする読者は同書を参照される事を希望する。

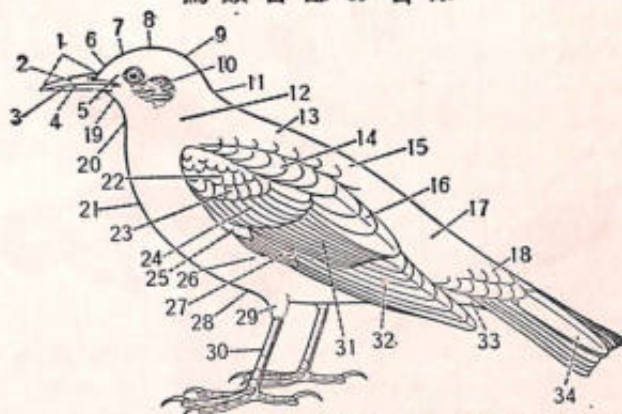
(10) 「分布」の項には日本の国土内に於いて従来報告された事のある確実なる産地のみを記述した。然し分布に就いては未知の地も多く、殊に紀伊半島・本州西部・四国・九州等からは今後新産地として多くの種類が報告される事と思う。

(11) 亜種の同定は一部のものを除いては標本を手にして精密な調査をせぬ限り困難であり、野外での識別は不可能の場合が多い。依って比較的顕著なものをのぞいては図示する事を避け、本書には「亜種」の項に日本産の亜種名とその産地とを簡単に記述するに止めた。

(12) 卵は亜種を異にしても殆ど区別のつかない事が多い。依って末尾の「日本にて繁殖する鳥類の巣と卵一覧表」に於いては1亜種に就いてのみ記述するに止めた。

(13) 尚本書の原色版に使用した鳥類は極めて少数を除く以外は総べて著者所蔵の標本に基づき宮本孝画伯が一々実物を手にして精密に写生されたものであることを付記しておく。

鳥類各部の名称

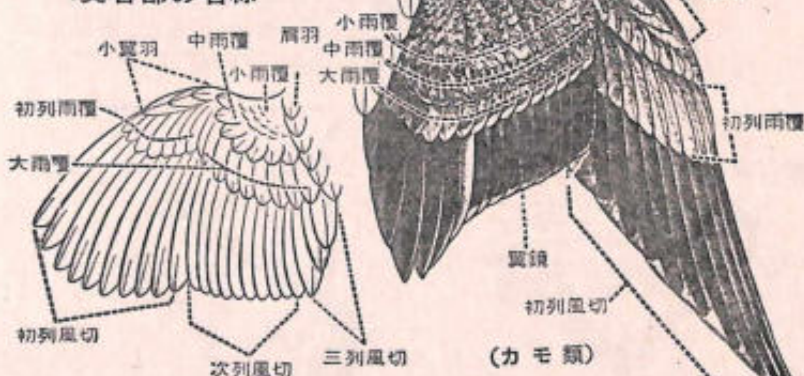


- | | | | | | |
|--------|-------|----------|---------|----------|----------|
| 1. 嘴 | 7. 前 | 13. 糸 | 19. 腮 | 25. 小翼羽 | 31. 次列風切 |
| 2. 上 | 8. 頭 | 14. 肩 | 20. 喉 | 26. 脇 | 32. 初列風切 |
| 3. 下 | 9. 後 | 15. 背 | 21. 胸 | 27. 初列雨覆 | 33. 下尾筒 |
| 4. 全合線 | 10. 耳 | 16. 三列風切 | 22. 小雨覆 | 28. 腹 | 34. 尾 |
| 5. 眼 | 11. 後 | 17. 腰 | 23. 中雨覆 | 29. 腿 | |
| 6. 額 | 12. 頸 | 18. 上尾筒 | 24. 大雨覆 | 30. 跗蹠 | |

頭部諸線の名称



翼各部の名称



翼 帯

静 止 時



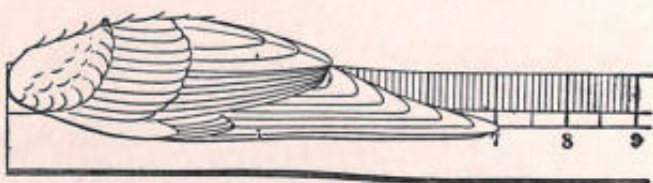
飛 翔 時

鳥類各部の測定

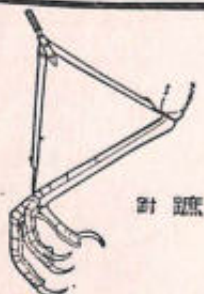
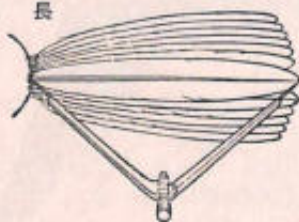


(タカ類)

翼 長



尾 長



跗 蹠



目 次

序 文.....	I ~ II
凡 例.....	III ~ VI
科 名 目 次.....	VII ~ X
原 色 図 版.....	PL. 1 ~ PL. 64
図 版 解 説.....	p. 1 ~ p. 142
日本にて繁殖する鳥類の巣と卵一覧表	p. 143 ~ p. 177
和名さくいん	p. 178 ~ p. 186
英名さくいん	p. 187 ~ p. 195
学名さくいん	p. 196 ~ p. 204

科 名 目 次

(科) (名) (種数) (図版)

PASSERES 燕 雀 目

CORVIDAE	カラス科	10	1, 2
STURNIDAE	ムクドリ科	3	2
ORIOIDAE	コウライウグイス科	1	2
PLOCEIDAE	キンパラ科	2	3
FRINGILLIDAE	アトリ科	36	3, 4, 5, 6, 7
ALAUDIDAE	ヒバリ科	4	8
MOTACILLIDAE	セキレイ科	10	8, 9
ZOSTEROPIDAE	メジロ科	1	9
CERTHIDAE	キバシリ科	1	9
SITTIDAE	ゴジュウカラ科	1	10
PARIDAE	シジュウカラ科	8	10
LANIIDAE	モズ科	5	11
BOMBYCILLIDAE	レンジャク科	2	11
BRACHYPODIDAE	ヒヨドリ科	1	11
CAMPEPHAGIDAE	サンショウクイ科	1	12
MUSCICAPIDAE	ヒタキ科	7	12
SYLVIIDAE	ウグイス科	15	10, 13, 14
TURDIDAE	ツグミ科	21	15, 16, 17, 18
PRUNELLIDAE	イワヒバリ科	3	18
TROGLODYTIDAE	ミソサザイ科	1	18
CINCLIDAE	カワガラス科	1	18
HIRUNDINIDAE	ツバメ科	5	19
PITTIDAE	ヤイロチョウ科	1	19

CYPSELI 雨 燕 目

MICROPODIDAE	アマツバメ科	2	19
--------------	--------	---	----

CAPRIMULGI 怪 鷗 目

CAPRIMULGIDAE	ヨタカ科	1	20
---------------	------	---	----

UPUPAE 戴 勝 目

UPUPIDAE	ヤツガシラ科	1	20
----------	--------	---	----

CORACIAE 仏 法 僧 目

CORACIIDAE	ブッポウソウ科	1	20
------------	---------	---	----

(科)	名)	(種数)	(図版)
	HALCYONES ^ヒ 翡翠 ^{スイ} 目		
ALCEDINIDAE	カワセミ科	4	20
	PICI ^{キツツ} 啄木鳥 ^キ 目		
PICIDAE	キツツキ科	10	21, 22
	CUCULI ^{ホトト} 杜鵑 ^{グス} 目		
CUCULIDAE	ホトトギス科	4	22
	STRIGES ^{フクロウ} 梟 ^ウ 目		
STRIGIDAE	フクロウ科	10	23, 24
	ACCIPITRES ^{ハヤブサ} 鷹 ^カ 目		
FALCONIDAE	ハヤブサ科	5	25
ACCIPITRIDAE	ワシタカ科	16	26, 27, 28
AEGYPTIDAE	ハゲワシ科	1	28
PANDIONIDAE	ミサゴ科	1	28
	GRESSORES ^{コウノトリ} 鶴 ^カ 目		
CICONIIDAE	コウノトリ科	2	29
PLATALEIDAE	ヘラサギ科	4	29
ARDEIDAE	サギ科	16	29, 30, 31
	ANSERES ^{ガンカモ} 雁 ^{カモ} 目		
ANATIDAE	ガンカモ科	41	32, 33, 34, 35 36, 37, 38
	STEGANOPODES ^{ガンバ} 全蹼 ^バ 目		
PHALACROCORACIDAE	ウ ^科	4	38
FREGATIDAE	グンカンドリ科	1	39
PELECANIDAE	ガラントウ科	1	39
SULIDAE	カツオドリ科	1	39
PHAETHONTIDAE	ネッタイチョウ科	2	39
	TUBINARES ^{ウミツバメ} 管鼻 ^ノ 目		
HYDROBATIDAE	ウミツバメ科	7	40
PROCELLARIIDAE	ミズナギドリ科	9	41, 42
DIOMEDEIDAE	アホウドリ科	3	42

(科)	(名)	(種数)	(図版)
	PYGOPODES 阿比目		
PODICIPIDAE	カイツブリ科	5	43
GAVIDAE	アビ科	3	43
	COLUMBAE 鳩目		
COLUMBIDAE	ハト科	6	44
	LIMICOLAE 鶺鴒目		
SCOLOPACIDAE	シギ科	43	45, 46, 47, 48 49, 50, 51, 52
CHARADRIIDAE	チドリ科	15	53, 54, 55
GLAREOLIDAE	ツバメチドリ科	1	55
	LARI カモメ 鵞目		
LARIDAE	カモメ科	23	56, 57, 58, 59
STERCORARIIDAE	トウゾクカモメ科	4	59
	ALCAE ウミ スズメ 海雀目		
ALCIDAE	ウミスズメ科	14	60, 61
	ALECTORIDES ツル 鵒目		
OTIDIDAE	ノガン科	2	62
GRUIDAE	ツル科	6	62
RALLIDAE	クイナ科	8	63
	HEMIPODI 三斑鶉 鶉目		
TURNICIDAE	ミフウズラ科	1	64
	GALLI ジュン ルイ 鶉 鶏目		
PHASIANIDAE	キジ科	7	64

22 目

61 科

425 種



[PLATE 1]

1. ワタリガラス

Corvus corax kamtschaticus Dybowski

KAMCHATKAN RAVEN

—カラス科—

形態 カラス類中最大形。嘴峰70~81%, 翼長410~460%, 尾長210~255%, 跗蹠62~75%。全体光沢ある黒色にて、嘴は強大である。♀は♂に比し稍小形である。

生態 シベリア東部・カムチャッカ・樺太・千島等で繁殖し、11月頃北海道の東北海岸に多数渡来して越冬する。又北海道の利尻島・礼文島には留鳥として棲息している。他のカラス類よりも濁った声でカボツ、カボツとなき又飛翔中クルッ、クルッとなき事がある。冬期は主として海岸に群居して、魚場付近に棄てた魚肉に集まり、又夏期にはカモメ類の集団繁殖地を襲ってその卵や雛を奪取して啄食する事もある。

分布 冬鳥として北海道に渡来する他利尻島及び礼文島では繁殖するものがある。

2. ハシブトガラス

Corvus leuillantii japonensis Bonaparte

JAPANESE JUNGLE-CROW

—カラス科—

形態 ハシボソガラスより嘴の大なる事により容易に区別される。嘴峰58~75%、翼長318~385%、尾長192~255%、跗蹠54~68%。全体黒色。♀は♂より稍小さい。

生態 一般にハシボソガラスより少ない鳥である。人家付近、畑地等に棲み、高山には少ない。北海道では海岸付近には特に多く、繁殖期以外には群棲する事が多い。

分布 北海道・本州・佐渡・伊豆七島・四国・九州・種子島・屋久島・馬毛島等に留鳥として棲息繁殖する。

分類 対馬に棲息する亜種はナウセンハシブトガラス *Corvus leuillantii mandshuricus* Buturlin、奄美大島・徳之島産の亜種はリュウキュウハシブトガラス *Corvus leuillantii connectens* Stresemann である。

3. ハシボソガラス

Corvus corone orientalis Eversmann

EASTERN CARRION-CROW

—カラス科—

形態 前種より小さく、嘴は細い。嘴峰45~63%、翼長302~374%、尾長154~220%、跗蹠51~68%。全体紫色の光沢ある黒色であるが、春期換羽しない為夏羽は光沢なく稍褐色を帯びる。

生態 前種同様人家付近、村落、畑地等に棲息するが、遙かに数多く各地に極めて普通である。繁殖期以外には群棲し、夕方大群をなしてねぐらの森に帰って行く。

分布 留鳥として北海道・本州・四国・九州・愛媛・対馬に分布繁殖する他八丈島にも迷行する事がある。

4. ミヤマガラス

Corvus frugilegus pastinator Gould

EASTERN ROOK

—カラス科—

形態 嘴前種よりも細く且嘴の周囲に羽毛を欠き、灰白色の皮膚を露出す。嘴峰45~52%、翼長289~317%、尾長150~172%、跗蹠51~56%。全体紫色光沢ある黒色。

生態 シベリア東部・蒙古・中国・満州等で繁殖し秋期大群をなして朝鮮を経由して北九州・本州西部・四国に渡来する。

分布 冬鳥として北九州・対馬・本州西部・四国に渡来する他随に東京・横浜・日光・宮城県・鹿児島県・五島列島等で採集された事がある。

5. コクマルガラス

Corvus monedula dauricus Pallas

DAURIAN JACKDAW

—カラス科—

形態 ハシボソガラスより遙かに小さい。嘴峰27~30%、翼長215~240%、尾長118~134%、跗蹠42~45%。本種には淡色形のものとして黒色形のものがあり後者はトウガラスとも称せられている。淡色形のは体は黒色で幅の広い頭頂と下面とは灰白色、又目の後方から耳羽の辺にかけ灰色を混じえている。黒色形のは上記の灰白色の部分で灰黒色を呈している。

生息 シベリア・蒙古・満州・中国に分布し冬期朝鮮には多数渡来するが我国では迷鳥として稀に採集された記録があるに過ぎない。朝鮮ではミヤマガラスと混じって数百から時には千羽以上の大群を畑に見る事稀でない。朝鮮では黒色形のは淡色形のものに比し遙かに数が少ない様である。

分布 北海道・本州・九州から数回採集の記録がある。

6. カササギ

Pica pica japonica Temminck & Schlegel

KOREAN MAGPIE

—カラス科—

形態 金剛光沢のある緑黒色の長い尾が顕著である。嘴峰29~39%、翼長186~220%、尾長200~265%、跗蹠47~55%。体は光沢のある黒色で肩と腹部とは白色。

生息 元来本種は日本原産ではなく17世紀の初期に朝鮮から輸入されたもので、現在では北九州に多数棲息し、天然記念物に指定されている。村落付近や農耕地に棲息し人をあまり恐れない。高い声でカチ、カチ、カチとなく。

分布 留鳥として九州北部(福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県)に分布繁殖する。

7. オナガ

Cyanopica cyanus japonica Parrot

JAPANESE BLUE MAGPIE

—カラス科—

形態 カササギより小さく灰青色の長い尾が顕著である。嘴峰25~29%、翼長129~139%、尾長200~206%、跗蹠34~35%。頭黒。背面暗灰色、翼は黒色で体下面は灰白色。

生息 低山帯、低地帯の森林や人家の近くに繁殖し、冬期には群をなして温暖な低地帯の森林に移動する事がある。ギューイ、キュッ、キュッとなき波状に飛翔する。

分布 留鳥として本州・九州北部・四国等に棲息するが分布は局地的である。



ワクリガラス



ハシブトガラス



ハシボンガラス



ミヤマガラス



コクマルガラス

1. ワタリガラス



2. ハシブトガラス



3. ハシボソガラス



黒色形

5. コクマルガラス



淡色形

4. ミヤマガラス



6. カササギ



7. オナガ





8. ホシガラス

9.a ミヤマカケス



9. カケス

10. ルリカケス



11. ムクドリ

12. コムクドリ

13. カラムクドリ



14. コウライウグイス

8. ホシガラス *Nucifraga caryocatactes japonicus* Hartert

JAPANESE NUTCRACKER

—カラス科—

【形態】 カラスより遙かに小さい。体の顕著な白斑により他種と混同する事はない。嘴峰39~48%、翼長170~187%、尾長113~128%、跗蹠36~41%、全体暗赤褐色で背、顔、頸側から下面にかけ美しい白色の縦斑がある。尾の先端には白色帯があり、外側程白色帯の幅広く、飛翔時には極めて顕著である。

【生態】 繁殖期には亜高山帯の森林限界線に近い針葉樹や岳樺の森林に棲息するが、晩夏には群をなして高山帯のハイマツ林に集まりハイマツの実を啄食する。冬期には稍標高の低い地に漂行し、平地に出現する事もある。夏期日本アルプスや富士山では針葉樹の梢に止まってガーッ、ガーッ、又はシャー、シャーとないている姿を屢見る事がある。亜高山帯の森林中で繁殖する。

【分布】 北海道・本州・四国・九州（祖母山）の山岳地帯で繁殖し、冬期には伊豆七島にも飛来す。

【亜種】 ハシナガホシガラス *Nucifraga caryocatactes macrorhynchos* Brehm はシベリア・満州・樺太等に分布する亜種で、迷鳥として九州で採集された事がある。

9. カケス *Garrulus glandarius japonicus* Temminck & Schlegel

JAPANESE JAY

—カラス科—

【形態】 鳩より稍小形の美しい鳥である。嘴峰28~31%、翼長159~180%、尾長136~159%、跗蹠35~39%、頭上白色にて黒色の縦斑がある。背と下面とはぶどう色、腰と喉とは白く、尾は黒色である。翼は白と黒との斑にて翼の基部は美しい藍色と黒との斑となっている。飛翔時には黒い尾と白い腰、白と黒との斑の翼は顕著である。

【生態】 低山帯の森林中で繁殖するが、亜高山帯の下部に及ぶものもある。冬期は小群をなして山麓に漂行する。ジエーイッ、ジエーイッとなき飛翔は緩慢である。野外に於いて他の鳥の声を巧みに真似する事もあるが、飼ひ馴らした鳥は口笛其他をよく真似する。雑食性の鳥で秋期には橡や榎の実を食し、昆虫類、更枝類、くも類等をも食す。繁殖期には他の小禽類の巣を漁りその卵や雛等を窃取して啄食する事が稀でない。

【分布】 留鳥として本州・四国及び九州北部に分布繁殖する。

【亜種】 北海道に棲息する亜種はミヤマカケス *Garrulus glandarius pallidifrons* Kuroda である。頭上は赤栗色で黒色の縦斑がある。又佐渡産のものはサドカケス *Garrulus glandarius tokugawae* Takatsukasa、九州南部（熊本県・鹿児島県・宮崎県）及び伊豆下田付近のものはヒュウガカケス *Garrulus glandarius hiugaensis* Momiyama、対馬産のものはツシマカケス *Garrulus glandarius nanaiyei* Kuroda、屋久島産のものはヤクシマカケス *Garrulus glandarius orii* Kuroda とそれぞれ亜種を異にする。

10. ルリカケス

Garrulus lidthi Bonaparte

LIDTH'S JAY

—カラス科—

形態 カケスと略同大。嘴峰27~34%、翼長169~182%、尾長167~188%、跗趾41~46%。背と腹とは暗赤栗色で他の部分は光沢のある暗るり色、尾端には白帯がある。

生態 奄美大島及び徳之島特産の鳥で世界的に有名である。天然記念物に指定されている。深い森林中に棲息するが、数は極めて多く、夕方になると農耕地に飛来して甘藷を食害する。其他 椎の実、昆虫類、爬虫類等をも食す。ギャー、ギャーとなく。

分布 留鳥として奄美大島・徳之島に分布繁殖する。

11. ムクドリ

Sturnus cineraceus Temminck

GREY STARLING

—ムクドリ科—

形態 橙黄色の嘴が野外に於いて顕著である。嘴峰25~29%、翼長121~135%、尾長58~70%、跗趾28~33%。全体灰褐色で頭上は濃色である。顔には灰白色の斑がある。

生態 村落付近の森林、市内の公園、神社の境内等各地に極めて普通な鳥であり、集団して営巣する。秋期から冬期にかけては大群にて農耕地に下り、害虫を啄食する。冬期北海道には少数留まるが大多数は本州中部以南に渡り又一部は中国南部にも渡る。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州に分布繁殖する他奄美大島にも渡来す。

12. コムクドリ

Sturnia philippensis (Forster)

RED-CHEEKED MYNA

—ムクドリ科—

形態 ムクドリより小さい。嘴峰14~17%、翼長102~109%、尾長48~52%、跗趾23~25%。♂♀色彩を異にする。♂は頭上灰白色、背紫黒色、翼及び尾は光沢ある藍黒色で頸側に顕著な栗色の斑紋がある。♀は背面灰褐色で頸側の栗色斑を欠く。

生態 北海道・本州中部以北で繁殖し、秋期は大群をなして日本列島を南下して馬來群島に渡る。桜桃、柿、無花果等の果実を好んで食す。春の渡りは秋程大群でない。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州・種子島・屋久島

13. カラムクドリ

Sturnia sinensis (Gmelin)

CHINESE MYNA

—ムクドリ科—

形態 コムクドリと略同大で全体灰白色。嘴峰18~21%、翼長95~108%、尾長53~62%、跗趾24~27%。翼は光沢のある黒色。尾は黒色で先端に灰白色帯がある。

生態 台湾・中国南部・馬來・印度等に分布し我国には迷鳥として稀に渡来する。

分布 本州（東京都・茨城県・埼玉県から合計4羽採集された記録がある。）

14. コウライウグイス *Oriolus chinensis diffusus* Sharpe

BLACK-NAPED ORIOLE

—コウライウグイス科—

形態 緑黄色の美しい鳥。嘴峰29~33%、翼長143~160%、尾長86~99%、跗趾24~27%。全体緑黄色で黒色の幅広い過眼線が後頭で連なり環状になる。翼黒。嘴淡桃色。

生態 元来シベリア東部・中国・瀋陽・朝鮮・台湾等にて繁殖し、冬期馬來・印度地方に渡来する鳥であり、我国には春期と秋期との渡りに対馬に渡来するだけである。朝鮮では村落付近の樹林に稀でない。高い声でなき常に繁茂した樹間を潜行する。

分布 旅鳥として対馬に渡来す。

[PLATE 3]

15. スズメ

Passer montanus saturatus Stejneger

JAPANESE TREE-SPARROW

—キンバラ科—

形態 嘴峰11~12%, 翼長65~70%, 尾長46~56%, 跗蹠17~19%. 上面は赤褐色で背に黒色の縦斑がある。顔と頭側とは灰白色で、耳羽の後半と喉との黒色斑顯著。

生態 人家のある所には各地に極めて普通である。稲の害鳥。昆虫類をも食す。

分布 留鳥として北海道以外の日本全土に分布繁殖する。

亜種 北海道に棲息する亜種はカラフトスズメ *Passer montanus kaibatoi* Munsterhjelm である。

16. ニュウナイスズメ

Passer rutilans rutilans (Temminck)

RUSSET SPARROW

—キンバラ科—

形態 スズメと略同大なるも♂♀色彩を異にする。嘴峰9~12%, 翼長67~75%, 尾長43~49%, 跗蹠16~18%. ♂は上面スズメより赤味を帯び顔の黒斑を欠く。腮及び喉の中央黒。♀は上面灰褐色にて灰黄色の眉斑顯著。喉の黒斑を欠く。

生態 秋期スズメの群に混じって飛来し、稲に害を与える事がある。

分布 北海道及び本州中部以北の山地の森林中で繁殖し、秋期には群をなして本州の平地・八丈島・四国・九州・奄美大島等に飛来する。

17. シメ

Coccothraustes coccothraustes japonicus

Temminck & Schlegel

JAPANESE HAWFINCH

—アトリ科—

形態 体の割合に嘴巨大。嘴峰20~21%, 翼長98~102%, 尾長53~65%, 跗蹠21~22%. ♂は頭上黄褐色、上頭灰色、翼は光沢ある藍黒色で幅広い白帯がある。目先、腮から喉中央にかけて黒。尾は藍黒色は尾端に幅広い白帯がある。嘴は白黄色であるが夏期は鉛色になる。♀は頭上より著しく淡色である。

生態 渡りの時は小群をなすが、冬期は単独の事が多い。樹枝上に止まり、チチッ、チチッとなく。地上に下りて植物の種子を啄む事もある。

分布 北海道で繁殖し、秋期本州・伊豆七島・四国・九州・屋久島・対馬等に渡来して越冬する。稀に本州中部以北の山地で繁殖するものがあるらしい。

亜種 チシマシメ *Coccothraustes coccothraustes lönnerbergi* Bergman は中部及び南部千島産の亜種であるが北海道及び本州（青森県）で採集された事がある。またカラフトシメ *Coccothraustes coccothraustes verticalis* Buturlin はシベリア東南部・樺太等に繁殖する亜種であるが、北海道（石狩）・本州（鳥取県・長野県・福井県）で稀に採集された事がある。

18. イカル

Eophona personata personata

(Temminck & Schlegel)

JAPANESE GROSBEAK

—アトリ科—

形態 嘴シメより大にて黄色。尾もシメより長い。嘴峰21~24%, 翼長109~115%, 尾長71~82%, 跗蹠22~24%. 全体灰褐色にて頭部、顔の前半、翼、尾、喉は藍黒色。翼中央の白帯は飛翔時顯著。嘴は黄色であるが基部は灰色を帯びる。♂♀同色。

生態 北海道では海岸に近い森林にも繁殖するが本州では低山帯で繁殖する。本州西部の山地には繁殖するものも多い。秋期には数十の群をなして人里近くにも飛来する。キョッ、キョッと地なきするほか、澄んだ声でキイー、コー、キイーと囀る。

分布 北海道では平地や低山帯、本州では低山帯で繁殖し、冬期には本州平地の他伊豆七島・四国・九州・対馬に渡来するものもある。

19. コイカル

Eophona migratoria migratoria Hartert

MIGRATORY CHINESE GROSBEAK —アトリ科—

形態 前種に類似するが稍小形。嘴峰17~21%, 翼長94~102%, 尾長67~75%, 跗趾20~23%, 背面灰褐色。♂は顔の黒色部が前種よりも多く、又翼は先端が白い。♀は頭部の黒色部を欠き、背面と同じ灰褐色である。

生態 シベリア東南部・満州・朝鮮等で繁殖し、冬期は中国中南部に渡る。我国には冬期イカルの群に混って渡来するが数は少ない。習性、なき声共イカルに類似する。

分布 年に依り冬期本州・伊豆七島・四国・九州等に少数渡来する。

20. コカワラヒワ

Chloris sinica minor (Temminck & Shlegel)

SMALL JAPANESE GREENFINCH —アトリ科—

形態 飛翔時翼の幅広い黄色帯は極めて顕著で他種と間違える事はない。嘴峰11~12%, 翼長74~83%, 尾長45~52%, 跗趾16~18%。帯緑褐色の鳥で尾の基部は黄色である。♀は♂に比し色淡く且褐色を帯びている。

生態 農耕地、村落付近に極めて普通に、冬期は大群をなす。飛翔中キリ、キリ、キリ、キリとなき、梢に止まってピーン、ピッ、ピッ、ピッと鳴る。

分布 留鳥として本州・四国・九州・伊豆七島・対馬等に分布繁殖する。

亜種 オオカワラヒワ *Chloris sinica kawarabata* (Temminck) は千島にて繁殖し冬期はコカワラヒワの群に混じり日本各地に渡来する。カラフトカワラヒワ *Chloris sinica sitchitensis* Momiyama は樺太・北海道で繁殖する亜種で冬期には本州にも渡来する。チョウセンカワラヒワ *Chloris sinica ussuriensis* Hartert は満州から朝鮮にかけて分布する亜種であるが、迷鳥として1941年3月5日1♂が鳥根県浜田港馬島で採集された事がある。

21. マヒワ

Carduelis spinus (Linnaeus)

SISKIN —アトリ科—

形態 緑黄色で小形。嘴峰10~12%, 翼長66~75%, 尾長39~49%, 跗趾12~16%。♂は頭部黒色、背面は緑黄色で黒色の縦斑がある。尾は黒色で基部は黄色。翼には二条の黄色帯がある。♀は頭上の黒色を欠き、下面灰白色で褐色縦斑顕著である。

生態 少数のものは北海道、本州北部の森林中で繁殖するが、冬期我国に渡来する多くのものはシベリアから飛来する。数百の大群が密集して飛翔しチュウイン、チュウインとなく。春の渡去期前には市街地の人家の庭園にも多数飛来す。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・屋久島

22. ベニヒワ

Carduelis flammea flammea (Linnaeus)

MEALY REDPOLL —アトリ科—

形態 前種より稍大にて頭上は紅色。嘴峰8~10%, 翼長69~79%, 尾長49~58%, 跗趾14~16%, 灰褐色で背には褐色の縦斑がある。翼には二条の白帯があり、腰と胸とは美しいばら色である。尾は黒。♀は頭上のみ紅色で下面のばら色を欠く。

生態 欧亜大陸の北部、アラスカ等で繁殖し、我国には冬鳥として渡来する。冬期北海道では雪原の枯草の穂に止まってその種子を啄んでいる大群を見る事も稀でない。西日本には稀に渡来するにすぎない。

分布 冬鳥として北海道・本州・伊豆七島・九州等に渡来する。

亜種 コベニヒワ *Carduelis flammea exilipes* (Coues) は冬期北海道・本州に渡来するがその数は少ない。



15. スズメ



♂

♀

16. ニュウナイスズメ



夏羽 雄

冬羽 雄

17. シメ



18. イカル



19. コイカル

♂

♀

♀



♂

20. コカワラヒワ



♀

♀

♂

♂

21. マヒワ



22. ベニヒワ

24. フン



23. ベニマシコ



24. ベニバウフン



25. アカマシコ



26. オオマシコ



27. ギンザンマシコ



28. イスカ



29. ナキイスカ



30. アトリ冬羽



アトリ
夏羽

23. ベニマシコ

Uragus sibiricus sanguinolentus

(Temminck & Schlegel)

JAPANESE LONG-TAILED ROSE-FINCH —アトリ科—

形態 ぶはばら色にて尾長い。嘴峰8~10%。翼長62~70%。尾長60~69%。跗趾15~17%。ぶのばら色は額及び下面は特に濃い。背には褐色縦斑がある。頭上は桃色を帯びた銀白色、尾は黒色で外側は白。翼に2条の白帯がある。♀はぶのばら色部分全部褐色

生態 灌木林や草原に棲息し秋から冬にかけては小群をなす。なき声ビッピー、ビッピーと聞こえる。あまり人を怖れない。

分布 北海道、本州北部で繁殖し、秋期本州・四国・九州等に渡来して越冬する。

24. ウソ

Pyrhula pyrrhula griseiventris Lafresnaye

JAPANESE BULLFINCH

—アトリ科—

形態 ぶは顔と喉ばら色にて美麗。嘴峰9~11%。翼長80~89%。尾長60~68%。跗趾16~18%。体青灰色にて頭上、嘴の周囲、翼、尾は漆黒、腰は白い。♀は顔と喉灰褐色で体も暗褐色を帯びている。嘴は黒く丸味を帯ぶ。

生態 秋から冬にかけては小群をなし、樹木の新芽、桜や梅等の蕾を啄み害を与える事がある。フィー、フィーと口笛の様な声でなき、あまり人を怖れない。

分布 北海道の山地、本州の聖高山帯で繁殖し、冬期には平地に漂行し、又伊豆七島・四国・九州にも渡来する。

分類 ベニバラウソ *Pyrhula pyrrhula cassini* Baird は冬期稀に本州に渡来する。チシマウソ *Pyrhula pyrrhula kurilensis* Sharpe は冬期少数北海道・本州・四国等に渡来し、アカウソ *Pyrhula pyrrhula rosacea* Seeborn は冬期本州では稀でない。

25. アカマシコ

Erythrura erythrura grebnitskii (Stejneger)

KAMCHATKAN SCARLET-FINCH

—アトリ科—

形態 ぶは頭上及び喉から胸にかけ鮮紅色。嘴峰10~12%。翼長76~89%。尾長52~63%。跗趾18~20%。背面暗褐色にて赤味を帯びる。翼、尾は褐色。♀はぶの赤色部の総べてを欠き、淡褐色にて褐色の縦斑あり、下面は灰白色で脇に淡褐色の縦斑がある。

生態 本種はシベリア東部・満州・蒙古・中国北部等に分布する鳥である。

分布 迷鳥として稀に本州（日光及び京都）・八丈島で採集された記録がある。

26. オオマシコ

Erythrura rosea (Pallas)

PALLAS'S ROSE-FINCH

—アトリ科—

形態 色彩はベニマシコに似るが大。嘴峰10~13%。翼長83~95%。尾長58~74%。跗趾19~21%。ぶの頭上と喉とは桃色を帯びた銀色。上面はばら色にて褐色の縦斑がある。胸から腹にかけ美しい鮮紅色。翼には2条の白帯がある。♀は淡褐色にて、上面及び下面に褐色の縦斑があり、頭上前半と喉から胸にかけて淡いばら色である。

生態 シベリア東部で繁殖し、秋期我国に渡来するが西日本には少ない。尚北海道知床半島では少数繁殖するともいわれているがまだ確証はない。

分布 冬鳥として北海道・本州・九州に渡来する。

27. ギンザンマシコ *Pinicola enucleator urupensis* Buturlin
KURILE PINE-GROSBEAK —アトリ科—

形態 ぶは鮮紅色，♀は暗緑色の大型のマシコ。嘴峰15～17%，翼長100～108%，尾長74～87%，跗趾22～23%。ぶの頭上，顔，喉，胸は鮮紅色。背面灰褐色で赤色斑あり。翼の白帯顕著。♀は灰褐色にて暗緑色を帯ぶ。頭上，顔，喉は暗緑色強い。
生態 北海道の大雪山山頂部のハイマツ林で繁殖し，冬期は小群となり山麓地帯に漂行する。人を怖れず動作も緩慢な鳥である。一カ所に長い間止まって居り，ピー，ピー，ビュイと澄んだ声でなく。マツ科植物の種子を主食としている。

分布 北海道。稀に本州に迷行するものがある。(1948年，1956年石川県にて採集)

28. イスカ *Loxia curvirostra japonica* Ridgway
JAPANESE CROSSBILL —アトリ科—

形態 上下嘴の先端が交叉している点他種と異なる。嘴峰17～21%，翼長87～102%，尾長51～62%，跗趾17～21%。ぶは暗紅色にて翼と尾とは黒褐色。♀はぶの暗紅色の部分がかへて暗黄緑色である。体は丸味を帯びている。

生態 繁殖期以外には群棲する。ギョツ，ギョツ，ギョツとなき，好んで松の種子等を食す。本種の繁殖期は同一の地方に於いても年により著しい差異があり，2月頃から8月頃に及んでいる。然も繁殖期にはあまり声を出さないでその巢の発見は極めて困難である。北海道・本州の山地では稀ならず繁殖していると思われるが，今日までに巢や卵の確認されたのは岩手県と伯耆大山との二カ所だけである。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州等に分布する。

29. ナキイスカ *Loxia leucoptera bifasciata* (Brehm)
TWO-BARRED CROSSBILL —アトリ科—

形態 ぶ♀共色彩前種と酷似するが翼に2条の白帯がある事により区別される。嘴峰16～19%，翼長84～94%，尾長56～64%，跗趾13～15%。

生態 本種は欧州北部・シベリア北部等に分布し，我国には年により冬期小数のものがイスカの群に混じって渡来するに過ぎない。

生態 北海道・本州（青森・宮城・福島・長野・栃木・京都・島根・鳥取・神奈川等の諸府県で主として秋期渡網によって採集された）八丈島でも採集された事がある。

30. アトリ *Fringilla montifringilla* Linnaeus
BRAMBLING —アトリ科—

形態 黒，黄褐色，白の取合せの美しい鳥。嘴峰11～14%，翼長83～94%，尾長55～66%，跗趾17～22%。頭上，背，顔は黒と黄褐色との斑で眼は白。喉，胸，脇は黄褐色で腹部は白。翼と尾とは黒く翼には白帯がある。夏羽は頭上から背にかけ漆黒となる。♀はぶに比べ全体的に色彩が淡い。

生態 本種は欧亜大陸の北部で繁殖し，冬期はその南部に渡る。我国には冬鳥として渡来する。秋から冬にかけては群棲し，山麓地帯や平地に普通である。キョツ，キョツ，キョツとなく。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州・屋久島・種子島

【PLATE 5】

31. ハギマシコ

Leucosticte arctoa brunneonucha (Brandt)

JAPANESE GROUND-LINNET

—アトリ科—

〔形〕 オオマシコより大で黒褐色を帯びる。嘴峰11~12%, 翼長97~112%, 尾長63~75%, 跗趾19~22%。頭上は淡黒色, 背は黒褐色, 腰は暗紅色を帯びる。下面は淡黒色にて腹部以下暗紅色を帯びる。尾と翼とは黒褐色であるが翼羽の外縁が暗紅色であるので翼を畳んだ時は暗紅色の斑に見える。♀は♂に比し色淡く紅味を欠く。

〔生〕 シベリアの東北部に分布し, 北千島でも繁殖するものがある。我国には冬鳥として渡来するがその数はあまり多くない。冬期は群棲して居りチツ、チツとなく。

〔分〕 北海道・本州(本州中部以西には稀)

32. ゴマフスズメ

Passerella iliaca insularis Ridgway

KODIAK FOX SPARROW

—アトリ科—

〔形〕 黒褐色にて前種と略同大。下面白色にて黒褐色の縦斑あり。嘴峰13%, 翼長83%, 尾長70%, 跗趾26%。頭上, 背は黒褐色, 腰と尾とは赤褐色を帯びる。下面は灰白色にて黒褐色の縦斑が顕著である。♀は♂と殆ど同色である。

〔生〕 本種はアラスカの Kodiak 島で繁殖し, 冬期は太平洋沿岸をカリフォルニア州南部に遡る。日本からは迷鳥としてただ1回 1935年11月に♂1羽が日光にて採集されただけである。本種は16亜種に分かたれ, 広く北米に分布する。

〔分〕 本州(ただ1回)

33. ミヤマシトド

Zonotrichia leucophrys gambelii (Nuttall)

GAMBEL'S SPARROW

—アトリ科—

〔形〕 ♂は灰白色の幅広い頭中央線とその両側の黒色線とが極めて顕著である。嘴峰11~13%, 翼長73~75%, 尾長67~71%, 跗趾23%。白色眉斑あり。背面は褐色にて黒褐色の縦斑がある。胸は淡灰褐色にて下部に移るに従い淡色となる。翼は黒褐色にて2条の白帯が顕著。♀は頭中央線暗緑色でその両側に褐色の幅広い線が走っている。

〔生〕 北米産の鳥であり, 我国では迷鳥としてただ1回 1936年12月に千葉県木更津で♂1羽が採集されただけである。北米産の本種は4亜種に分かたれている。

〔分〕 本州(ただ1回)

34. キガシラシトド

Zonotrichia atricapilla (Gmelin)

GOLDEN-CROWNED SPARROW

—アトリ科—

〔形〕 ミヤマシトドの♀に似ているが本種には白色の眉斑がない。嘴峰12.5%, 位, 翼長80%, 位, 尾長67~76%, 跗趾24%, 位。頭中央線は暗黄色にて幅広く, その両側には幅広い黒色帯がある。背は灰褐色にて黒褐色の縦斑がある。下面は淡灰褐色にて腹部は灰白色。翼と尾とは黒褐色にて, 翼に不鮮明な白帯がある。♂♀類似する。

〔生〕 本種も北米産の鳥であり, 我国ではただ1回 1925年12月東京に於いて♀1羽が採集された記録があるに過ぎない。

〔分〕 本州(ただ1回)

35. キアオジ

Emberiza citrinella citrinella Linnaeus

YELLOW BUNTING

—アトリ科—

形態 一見アオジに似ているが稍大。嘴峰10~11%, 翼長80~93%, 尾長66~75%, 跗蹠18~21%。♂は頭部緑黄色にて暗緑色の縦斑がある。背は褐色にて黒色の縦斑があり、腰は赤褐色。顔及び下面は緑黄色にて胸部に少量の褐色斑がある。尾は淡墨色にて外側は白。♀は♂に比し暗色。頭部は暗緑色である。

生態 欧州に広く分布し、畑地、牧場、灌木林等には普通である。街道沿いの電線にてよく見かける。アオジに似た声でチツ、チツとなく。英国には特に多い。

分布 本州（1935年12月長野県に於いて♂1羽が採集されたのみである）

36. シラガホオジロ

Emberiza leucocephalos S. G. Gmelin

PINE BUNTING

—アトリ科—

形態 ホオジロより稍大にて♂は頭上の白斑顕著。嘴峰11~12%, 翼長82~96%, 尾長71~79%, 跗蹠19~21%。♂は頭上白斑の両側には黒色帯がある。過眼線は栗色にて耳羽は白。背面黒褐色にて黒色の縦斑がある。腮、喉は栗色、それ以下の下面は灰白色で淡褐色の幅広い胸帯がある。♀は頭上褐色にて黒色縦斑あり、下面淡褐色。

生態 シベリア東部・満州北部・樺太等で繁殖し、冬期はペルシア・印度北部・中国北部・日本等にも渡来する。我国では比較的稀な鳥である。

分布 北海道・本州・八丈島等で採集された事がある。

37. ズグロチャキンチョウ

Emberiza melanocephala Scopoli

BLACK-HEADED BUNTING

—アトリ科—

形態 ♂は頭部黒、背栗褐色、下面黄色の調和の美しい鳥。嘴峰13~15%, 翼長84~99%, 尾長70~80%, 跗蹠21~23%。♂は頭上から頭側にかけて黒色、背は栗褐色で腰は黄色を帯びる。下面は美しい黄色。♀は上面灰褐色で黒褐色の縦斑が散布する。

生態 欧州東南部・小アジア等に分布し、冬期は印度の北西部に渡り稀に中国南部にも渡来する。我国では迷鳥として八丈島にて2回採集された事がある。

分布 八丈島（1928年11月6日♂幼鳥、1930年11月21日♂幼鳥）

38. シマノジロ

Emberiza rutila Pallas

CHESTNUT BUNTING

—アトリ科—

形態 ♂は上面栗色、下面黄色の美しい鳥。嘴峰10~11%, 翼長67~77%, 尾長52~61%, 跗蹠17~19%。♂は頭部、背、腰から上胸まで美しい栗色。それ以下の下面は鮮黄色である。翼と尾とは黒褐色で暗黄色の羽縁がある。♀は上面暗緑黄色で黒褐色の縦斑がある。下面は淡黄褐色で胸から脇にかけて褐色の縦斑が散布している。

生態 シベリア東部・満州・中国北部・北朝鮮等に分布し、冬期には印度支那・シヤム・中国南部等に渡る。我国には迷鳥として極めて稀に渡来するに過ぎない。

分布 北海道（函館）、本州（秋田県・長野県）にて採集された事がある。

31. ハギマシコ



32. ゴマフスズメ



33. ミヤマシトド



34. キガシラシトド



36. シラガホオジロ



35. キアオジ



37. ズグロチャキンチョウ



38. シマノジコ





39. シマアオジ



40. ミヤマホオジロ



41. アオジ



42. ノジコ



43. ホオジロ



冬羽 ♂



夏羽 ♂

44. ホオアカ

39. シマアオジ

Emberiza aureola ornata Shulpin

USSURIAN YELLOW-BREASTED BUNTING アトリ科—

形態 ぶは上面濃栗色、下面黄色の美しい鳥である。嘴峰は11~14%, 翼長70~82%, 尾長53~64%, 跗趾18~22%。頭、顔、喉は漆黒で背面は濃栗色。下面は鮮黄色で上胸には栗色の横帯がある。翼には大きな白斑と1条の白帯とがある。♀は♂に比し小。背面緑褐色の縦斑があり、下面の黄色が程顕著ではない。♀は一見アオジに似ているが淡黄褐色の顕著な眉斑がある事により容易に区別できる。

生態 北海道に夏鳥として渡来し、北部や東部の草原には多数繁殖するが石狩平野以南には多くない。草の穂先や、灌木等にとまってヒョ、ヒョ、ヒリ、ヒョーと早朝から美声で囀る。冬期は日本列島を經由せず大陸に沿って南下し台湾・馬來半島等に渡る。

分布 北海道で繁殖、本州（青森県・長野県・埼玉県・神奈川県）九州（佐賀県）で採集された事がある。

40. ミヤマホオジロ

Emberiza elegans elegans Temminck

YELLOW-THROATED BUNTING アトリ科—

形態 梢に止まって頭上の羽毛を冠状に起立させる点カシラダカに似るが、♂の頭上と顔漆黒にて、眉斑と喉とは鮮黄色なる事により区別する事ができる。嘴峰10~11%, 翼長68~80%, 尾長62~74%, 跗趾18~20%。背面黄褐色にて黒褐色の縦斑あり。下面は灰白色にて上胸には黒色の幅広い横帯がある。脇は栗色である。♀は頭上も顔も黒褐色にて、眉斑と喉とは淡褐色であり、胸の黒帯を殆ど欠く。

生態 東部シベリアで繁殖し、秋期朝鮮を經由して我国に渡来する。冬期西日本には稀ならず。数羽の群をなして人里近くにも来る。灌木叢林に見る事が多い。

分布 冬鳥として北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・屋久島・種子島に渡来。

41. アオジ

Emberiza spodocephala personata Temminck

JAPANESE BUNTING アトリ科—

形態 背面暗緑色、下面黄色。嘴峰12~14%, 翼長64~75%, 尾長59~69%, 跗趾18~22%。♂は頭上、顔、耳羽は濃灰緑色で嘴の周囲は黒色である。背には赤褐色と黒褐色との縦斑がある。下面は緑黄色にて上胸は濃灰緑色、脇に黒褐色の縦斑がある。♀は♂に比し全体的に淡色にて嘴の周囲の黒色を欠く。

生態 北海道に於いては海岸の草原から大雪山の亜高山帯に至る迄各地で繁殖するが本州では中部以北の山地帯で繁殖し、西日本からは繁殖の記録がない。繁殖期には複雑な美しい声で囀るが冬期には、チツ、チツとなく。叢林中を潜行して地上で啄食する事が多い。冬期は山麓、村落付近、市内の庭園等各地に極めて普通である。

分布 北海道・本州（中部以北の山地）で繁殖し、冬期は本州の平地・伊豆七島・四国・九州・対馬・屋久島・種子島・奄美大島等に渡来する。

亜種 シベリアアオジ *Emberiza spodocephala spodocephala* Pallas はシベリア東部に分布する亜種であるが稀に本州で採集される事がある。

42. ノ ジ コ

Emberiza sulphurata Temminck & Schlegel

JAPANESE YELLOW BUNTING

—アトリ科—

〔形 態〕 アオジに似るがそれより黄色を帯び且小。嘴峰10~11%, 翼長67~74%, 尾長52~60%, 跗趾17~19%。頭上, 背面灰緑色にて背に黒褐色の斑がある。下面は灰緑黄色。♀は頭上から背にかけ黄褐色を帯びる。下面は淡黄褐色である。

〔生 産〕 本州中部の低山帯にて繁殖するがその数はあまり多くない。秋期は西日本に渡行し温暖の地で越冬する他, 台湾・中国・フィリピンに渡るものもある。越冬中を渡行する事が多いので目にとまる事は少ない。囀は極めて美声であり, チン, チン, チョロリー, チョン, チョンと繰り返す。日本以外から繁殖の記録はない。

〔分 布〕 北海道・本州・伊豆七島・九州・対馬・屋久島

43. ホ オ ジ ロ

Emberiza cioides ciopsis Bonaparte

JAPANESE MEADOW BUNTING

—アトリ科—

〔形 態〕 ♂は顔黒く2条の白線顕著。嘴峰11~13%, 翼長71~78%, 尾長66~76%, 跗趾19~21%。♂は眉斑白色, 眼先から耳羽にかけ黒色でその下部に1条の白線が走る。背は赤褐色で黒褐色の縦斑あり。腿, 喉は灰色にてそれ以下の下面は赤褐色である。♀は♂に比し全体的に色淡く, 眉斑と頸線とは淡黄褐色で耳羽は淡褐色である。

〔生 産〕 日本全土に極めて普通の鳥である。北海道では平地で繁殖し, 本州では平地にも山地にも繁殖する。「一筆啓上仕候」ときこえる美しい声で囀るので飼鳥として飼育されるものが多い。冬期は群集して耕地や山麓の灌木, 喬木林等に棲息しチツ, チツとなく。飛翔時には尾羽の外側の白色が目立つ。

〔分 布〕 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・種子島・屋久島等に分布繁殖し, 北海道以外では冬期にも多数棲息する。

〔生 産〕 空枝及び対馬に棲息する亜種は *Emberiza cioides iijimae* Stejneger である。

44. ホ オ ア カ

Emberiza fucata fucata Pallas

GREY-HEADED BUNTING

—アトリ科—

〔形 態〕 前種に似るが耳羽は栗色。嘴峰11~13%, 翼長66~78%, 尾長57~72%, 跗趾20~23%。眉斑と頸線とは淡黄褐色。頭上, 頸, 背は灰色で黒褐色の小縦斑が走っている。喉は赤褐色。下面は灰白色で上胸に環状の黒帯と栗色の横帯とがあり, 夏羽ではこの2帯は幅広く特に顕著になる。♀は♂に比し淡色にて特に耳羽の栗色淡い。

〔生 産〕 北海道では平地に多数繁殖するが, 本州では主として中部以北の山地の草原で繁殖する。西日本からの繁殖例は少ないが伯耆大山では少数繁殖している。囀は美しくチュン, ビター, チュン, ビターと聞える。冬期は温暖な地方に渡行し耕地や草原には極めて普通であるが, ホオジロの様に大群をなさず単独又は数羽の事が多い。

〔分 布〕 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・種子島・屋久島・奄美大島

[PLATE 7]

45. カシラダカ

Emberiza rustica latifascia Portenko

KAMCHATKAN RUSTIC BUNTING —アトリ科—

形態 ホオジロに似て稍小。ミヤマホオジロの様に頭上の羽毛を冠状に起立させる事あり。嘴峰11~13%, 翼長72~82%, 尾長55~64%, 跗趾18~20%, 冬羽は頭上, 背は赤褐色と黒褐色との斑, 眉斑淡黄褐色であるが, 夏羽は頭上, 眼から耳羽にかけて黒色で白色の眉斑と喉, 上胸の栗色帯とが顕著。♀の夏羽はその冬羽に似る。

生態 シベリア東部で繁殖し, 秋から冬にかけ我国に渡来する。冬期本州では山麓の喬木林や農耕地, 草原等に多数群棲する。チツ, チツとなく。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬

46. コホオアカ

Emberiza pusilla Pallas

LITTLE BUNTING —アトリ科—

形態 ホオアカより遙かに小。赤褐色の頭中央線と同色の耳羽顕著。嘴峰9~10%, 翼長64~76%, 尾長53~68%, 跗趾16~18%, 頭中央線は幅広く, その両側は黒褐色。背は黄褐色と黒褐色との斑である。下面は灰白色で胸以下に黒褐色の小縦斑走る。

生態 欧州北部・シベリア・蒙古等で繁殖し, 冬期は中国・朝鮮・フィリピン・印度支那・ビルマ等に渡来する。我国には稀に迷鳥として渡来するだけである。

分布 本州(新潟・長野・東京・埼玉・静岡・愛知の諸県) 四国(高知県) 九州(五島列島)で採集された事がある。

47. クロジ

Emberiza variabilis Temminck

JAPANESE GREY BUNTING —アトリ科—

形態 ♂は暗灰色。♀は緑褐色でアオジに似る。嘴峰11~15%, 翼長74~90%, 尾長60~81%, 跗趾19~24%。♂は全体暗灰色で頭上から背にかけ黒褐色斑あり, 腹部稍淡色。♀は頭上褐色, 背面は緑褐色で黒褐色の斑がある。下面は淡色で淡褐色の縦斑あり。

生態 北海道では雄阿寒岳, 北見峠, 大雪山等で繁殖。本州でも秋田県の八幡平や日光・尾瀬・白山では少数繁殖するらしい。冬期は本州の平地には普通な種類であるが, 常に叢林中を潜行しているので目にとまる事は比較的少ない。チツ, チツとなく。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・奄岐・対馬・種子島・屋久島・奄美大島

48. シロハラホオジロ *Emberiza tristrami* Swinhoe

TRISTRAM'S BUNTING —アトリ科—

形態 白色の頭中央線と眉斑顕著。嘴峰11~12%, 翼長65~79%, 尾長51~62%, 跗趾18~20%。♂は頭上黒色で頭中央線白。顔は黒色で頬線白く, 腿と喉とは黒色。背は黄褐色で黒褐色の縦斑あり。♀は頭上黒褐色で頭中央線と眉斑とは暗黄色。喉黄褐色。

生態 本種は元来シベリア東部に分布し, 冬期中国や朝鮮に渡来する鳥である。従来我国からは未記録の鳥であるが, 稀には迷行するものもあるらしく, 著者は1936年11月19日栃木県上都賀郡にて採集された♀を所蔵している。

分布 本州(ただ1回上記の採集例があるだけである)

49. コジュリン

Emberiza yessoënsis yessoënsis (Swinhoe)

JAPANESE REED-BUNTING

—アトリ科—

形態 ♂の夏羽は頭部漆黒。嘴峰10~12%, 翼長58~68%, 尾長54~64%, 跗蹠18~20%。♂夏羽は頭部漆黒で背は赤褐色と黒褐色との斑。胸以下の下面は灰白色。冬羽は灰褐色の眉斑顯著にて耳羽と頬線黒褐色、喉は黄褐色となる。背は夏羽より遙かに淡い赤褐色。♀は♂の冬羽に似ている。

生態 富士山麓と宮城県とで繁殖の記録があるだけであるが夏期青森県・長野県・茨城県・富山県等でも生殖羽のものが観察されているので恐らく本州中部以北には他にも繁殖地があると思われる。冬期は本州中部の太平洋沿岸の比較的温暖な地の葦原や湿地に棲息する。我国特産（千島にも産す）の鳥で比較的数字が少ない。

分布 北海道・本州

50. オオジュリン

Emberiza schoeniclus nortoniensis Gmelin

SWINHÖE'S REED-BUNTING

—アトリ科—

形態 ♂の夏羽は頭部、喉黒色なるも顕著な白色の頸線に依り前種と区別できる。嘴峰10~12%, 翼長75~86%, 尾長58~71%, 跗蹠19~21%。背は赤褐色と黒褐色との斑、腰は暗灰色である。♀は頭上褐色にて暗黄色の眉斑がある。喉は黄白色で頸線黒褐色。背は黄褐色と黒褐色との斑である。♂の冬羽は♀に類似する。

生態 北海道では平地の草原で繁殖する。冬期本州では池畔、川畔、海岸等の葦原に群棲する。飛翔すると外側尾羽の白色が目立つ。

分布 北海道で繁殖し、秋期本州・伊豆七島・四国等に渡来して越冬する。

51. ツメナガホオジロ *Calcarius lapponicus lapponicus* (Linnaeus)

LAPLAND BUNTING

—アトリ科—

形態 後趾の爪がヒバリの様に長い。嘴峰10~12%, 翼長83~99%, 尾長52~68%, 跗蹠20~23%。♂夏羽は頭上、顔、腮、喉漆黒で黄白色の眉斑顯著。冬羽は頭上に黄褐色斑あり、喉にも淡黄褐色の斑がある。後頸栗色、背は黄褐色と黒褐色との斑である。♀は♂の冬羽に似る。

生態 広く欧亜大陸の極北部に分布するが満州や樺太でも繁殖するものがある。

分布 冬期北海道に渡来するが数は少ない。本州・八丈島に迷鳥として稀に渡来す。

52. ユキホオジロ

Plectrophenax nivalis pallidior Salomonson

SNOW BUNTING

—アトリ科—

形態 色純白と黒との大形の雀科の鳥。嘴峰10~12%, 翼長100~114%, 尾長62~72%, 跗蹠21~23%。♂夏羽で黒い部分は背、肩羽、中央尾羽、初列風切の前半、三列風切、小翼羽でその他の部分は純白。冬羽は頭部と頸部白と淡赤褐色との斑となり、背と肩羽も白色、黒色、淡赤褐色の斑となる。

生態 北極圏及びその周囲部に分布する鳥で我国には迷鳥として冬期稀に渡来す。

分布 北海道（札幌・函館・天塩・稚内等）及び本州（山形県）で採集された事がある。

45. カシラダカ

夏羽 ㊦

冬羽 ㊦

46. コホオアカ

㊦

48. シロハラ
ホオジロ

㊦

㊦

夏羽 ㊦

49. コジュリン

♀

冬羽 ㊦

47. クロシ

夏羽 ㊦

冬羽 ㊦

ユキホオジロ

夏羽 ㊦

50. オオジュリン

夏羽 ㊦

冬羽 ㊦

冬羽 ㊦

51. ツメナガホオジロ

52. ユキホオジロ



53. クビワコウテンシ



54. カラフトコヒバリ



55. ヒバリ



56. ハマヒバリ 夏羽



57. マミジロ
タヒバリ



58. ピンズイ



59.
セジロタヒバリ



60. ムネアカタヒバリ



61. タヒバリ

53. クビワコウテンシ

Melanocorypha bimaculata bimaculata

(Menetries)

EASTERN CALANDRA LARK

—ヒバリ科—

形態 ヒバリに似ているが喉の両側に大なる黒斑がある。嘴峰16~17%, 翼長112~126%, 尾長53~61%, 跗趾26~27%, 頭上及び背面黄褐色で黒褐色の縦斑がある。喉の下方の黒斑顕著。

生態 カスピ海・トルキスタン・アフガニスタン等に分布し冬期はアラビア・北アフリカ・印度等に渡る。我国では迷鳥として八丈島にて1回採集されただけである。

分布 八丈島 (1923年3月22日♀1羽)

54. カラフトコヒバリ

Calandrella cinerea puii Yamashina

YAMASHINA'S SHORT-TOED LARK

—ヒバリ科—

形態 嘴ヒバリに比し短かく、後趾の爪は後趾より長くない。嘴峰10~13%, 翼長88~99%, 尾長48~62%, 跗趾19~22%, 頭上、背は黄褐色にて黒褐色の縦斑がある。眉斑は淡い黄褐色である。下面は砂色を帯びた白色で、胸の両側には暗褐色斑がある。

生態 蒙古・満州北部・中国北部に分布し、樺太や朝鮮にも渡来する。

分布 我国では稀な迷鳥として1932年4月に佐渡で2羽、1958年5月6日神奈川県にて1羽採集されただけである。

55. ヒバリ

Alauda arvensis japonica Temminck & Schlegel

JAPANESE SKYLARK

—ヒバリ科—

形態 嘴峰11~14%, 翼長90~108%, 尾長58~68%, 跗趾23~25%, 頭上、背は黄褐色と黒褐色との斑である。眉斑は淡黄褐色。下面灰白色で胸、脇は稍黄褐色を帯び、胸には黒褐色の縦斑がある。翼と尾とは黒褐色で外縁黄褐色。外側尾羽は殆ど白い。

生態 ピーチュク、ピーチュクと囀り乍ら空高く舞い上がるのは人のよく知る所である。日本全国の畑地や草原には普通で、冬期には積雪の少ない温暖の地に移行する。

分布 北海道・本州・四国・九州等で繁殖し、冬期は伊豆七島・対馬・種子島・屋久島・馬毛島・奄美大島等に渡るものもある。

亜種 オオヒバリ *Alauda arvensis pekinensis* Swinhoe はカムチャツカ・千島・樺太・北海道の東部等で繁殖し、冬期本州・伊豆七島・四国・九州等に渡る。カラフトチュウヒバリ *Alauda arvensis lönnerbergi* Hachisuka は樺太・北海道で繁殖し、冬期本州・伊豆七島・九州・四国等に渡来す。又九州南部に棲息する亜種はカゴシマヒバリ *Alauda arvensis kagoshimae* Yamashina とされている。

56. ハマヒバリ

Eremophila alpestris flava (Gmelin)

SHORE LARK または HORNED LARK —ヒバリ科—

形態 夏羽は前頭、頬、胸の黒斑と喉の黄色との対照極めて美しい。嘴峰9~12%, 翼長101~114%, 尾長63~85%, 跗趾21~23%, 腹は背面砂褐色にて黒褐色の不鮮明な

斑がある。黄色の眉斑は前方に延び額を取巻く。前頭の黒色部は眉斑に沿って後方に延び先端角状に反り上がっている。上胸の黒斑は三角形にて大。♀は前頭の黒斑を欠き胸の黒帯狭く且眉斑と喉とは淡黄色。背面より暗色である。♂の冬羽は♀に似る。

生態 欧亜大陸の北極圏にて繁殖し、冬期は稍その南方に渡る。

分布 我国には迷鳥として稀に渡来し、北海道・本州(長野県・静岡県・滋賀県)、対馬等で合計10羽程採集された事があるに過ぎない。

57. マミジロタヒバリ *Anthus novaeseelandae richardi* Vieillot

RICHARD'S PIPIT

—セキレイ科—

形態 我国産タヒバリ属中最大。特に跗趾と後趾の爪とが長い。嘴峰13~16%、翼長85~101%、尾長68~81%、跗趾28~33%、後趾爪13~23%。頭上、背は黄褐色で黒褐色の縦斑がある。眉斑淡黄褐色。下面喉、胸、脇は黄褐色にて黒い縦斑がある。

生態 シベリア・蒙古・満州で繁殖し、冬期は台湾・中国・ビルマ・印度等に渡る。

分布 我国では迷鳥として八丈島で1回採集された事があるのみ。

58. ピンズイ *Anthus hodgsoni hodgsoni* Richmond

CHINESE TREE-PIBIT

—セキレイ科—

形態 タヒバリに似るが背は暗緑褐色で黒褐色の縦斑がある。嘴峰12~13%、翼長78~86%、尾長54~63%、跗趾19~22%。頭上は背と同様暗緑褐色で黒色縦斑密。眉斑灰白色。下面灰白色で胸から腹にかけての黒色縦斑幅広く顕著である。

生態 北海道では海岸に近い平地から大雪山の高山帯迄、本州中部では標高800米位から3,000米に近い高山帯迄の間に繁殖する垂直分布の広い鳥である。喬木の頂に止まってビイ、ビイ、ビイ、チチチチと美しい声で囀る。冬期は集団で平地の畑や山林等に渡行する。ツイー、ツイーと細い声で地鳴をする。

分布 北海道・本州及び四国の山地で繁殖し、冬鳥として本州及び四国の平地・伊豆七島・九州・対馬に渡来するが、一部はフィリピン・印度支那半島等にも渡る。

生態 カラフトピンズイ *Anthus hodgsoni yunnanensis* Uchida & Kuroda はシベリア東部・満州北部・蒙古・樺太・千島・北海道等で繁殖し冬期本州・九州に渡来する。

タヒバリ類

種名	棲息環境	
マミジロタヒバリ	我国には迷鳥として渡来するに過ぎない。	最大形。上面
ピンズイ	夏期本州中部以北では低山帯から高山帯迄普通。冬期は平地、山麓の粗林、畑地に集団する。	上面暗緑色ではムネアカタヒバリ
セジロタヒバリ	我国には迷鳥として渡来するに過ぎない。	上面の色はマ
ムネアカタヒバリ	秋期大飯湾沿岸に渡来するものは海岸に近い湿地に棲息する。5, 6羽の群の事が多い。	夏羽は眼先、ズイに似るが野外にては
タヒバリ	冬期は群棲し、掘り起こされた畑、沼沢地、水田、海岸、河原等に多い。数10羽の群をなす事もある。	夏羽は春の渡面も稍赤味がある。下

59. セジロタヒバリ

Anthus gustavi gustavi Swinhoe

PETCHORA PIPIT

—セキレイ科—

形態 マミジロタヒバリに似るが体小にて跗蹠短く後趾爪も短い。嘴峰12~14%。翼長75~87%。尾長51~60%。跗蹠22~24%。後趾爪9~12%。頭上、背は黄褐色にて黒褐色の縦斑があり、背の上部には灰白色斑がある。眉斑白黄色。胸、脇に黒褐色斑あり。

生息 シベリア東部・蒙古等で繁殖し、満州・中国・朝鮮・台湾等を経て、冬期はフィリピン・セレベス島・大スンダ島・小スンダ島等に渡る。

分布 我関では迷鳥として本州（静岡県）にて1894年9月に1回採集された。

60. ムネアカタヒバリ

Anthus cervina Pallas

RED-THROATED PIPIT

—セキレイ科—

形態 夏羽は喉から胸にかけ煉瓦色。嘴峰12~14%。翼長79~90%。尾長52~65%。跗蹠19~23%。頭上及び背は淡褐色で褐色斑がある。眼先、眉斑、頬は胸と同じ煉瓦色。胸以下の下面は黄褐色で脇には黒斑がある。冬羽は煉瓦色を全く欠きビンズイに類似するが、頭上と背との黒色縦斑一層顕著。下面淡黄褐色にて縦斑の幅は一層狭い。

生息 欧亜大陸の北部で繁殖し、冬期中国・印度・馬來・アフリカ北部にまで渡る。我関には極めて稀に渡来するものとされていたが、大阪湾海岸地帯には毎年10月上旬渡来するもの稀でない。

分布 本州（東京都・千葉県・静岡県・大阪府・兵庫県）佐渡・八丈島・九州（五島列島）・奄美大島

61. タヒバリ

Anthus spinoletta japonica Temminck & Schlegel

JAPANESE WATER-PIPIT

—セキレイ科—

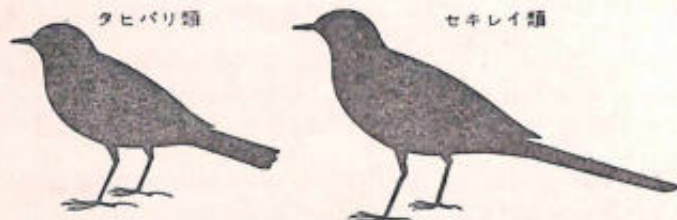
形態 冬羽はビンズイに比し頭上、背暗色にて縦斑不顕著。嘴峰13~16%。翼長81~90%。尾長56~70%。跗蹠22~25%。夏羽は著しく異なる。頭上、背は灰褐色、眉斑と下面とは淡煉瓦色で胸に僅かな黒褐色斑がある。翼の灰白色帯は冬羽より一層顕著となる。

生息 東部シベリア・カムチャッカ・千島等にて繁殖し、我関には冬鳥として渡来する。本州にては冬期は群棲して河原、乾田、沼池、海岸等に多い。主として湿地を好む。ピツ、ピツ、ピツと鋭い声を立てて飛立つ。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・種子島・奄美大島等に冬期渡来。

の 野 外 鑑 別

特	徴
黄褐色で黒色縦斑あり。セジロタヒバリに似るが遙かに大。	
ムネアカタヒバリの冬羽に似ているが緑色味が強い。上面は白色にて胸の黒色縦斑ヒバリより遙かに粗大である。	
ミジロタヒバリに似るが肩間部の羽縁白き為白色の縦斑に見える。	
種、頭、胸、喉、胸の煉瓦色顕著である。野外に於いては一層赤く見える。冬羽はビンズイに似るが、冬羽はビンズイに近い。なき声もタヒバリに似てピツ、ピツと鋭い。タヒバリに比し著しく緑色味強く見える。	
去刻の4月上・中旬に見られるが、下面の煉瓦色が野外では著しく顕著である。上帯びて見える事もある。冬羽は背面著しく暗色にて野外にては殆ど黒く見える事。面の黒斑もビンズイより多く、胸は殆ど黒色に近く見える。	



【PLATE 9】

62. ハクセキレイ

Motacilla alba lugens Gloger
JAPANESE PIED WAGTAIL

—セキレイ科—

形態 顔白色で黒色過眼線顯著。嘴峰12~18%、翼長87~102%、尾長84~103%、跗蹠22~26%。冬羽の♂は額から頭頂迄白色、後頭、後頸は黒色にて以下の背面は灰色。頬は白く黒色過眼線がある。下面は喉白く胸に幅広い黒帯あり、以下は灰白色。翼は白色にて先端は黒い。尾は黒色にて外側の二枚は白。♀は頭頂と頭も背と同じ灰色にて胸部の黒色帯は♂より幅狭い。夏羽の♂は背も頭頂と同じ黒色で胸の黒帯は喉に迄及ぶ。♀も夏羽では背は冬羽より暗色となる。

生態 北海道・本州北部で繁殖す。冬期は北海道南部に少数見られるが、多くは本州以南に渡り台湾・中国沿岸に迄渡来するものもある。冬期本州以南の海岸や水辺には各地に極めて普通である。チュン、チュンと優しい声でなく。

分布 北海道・本州・伊豆七島・志岐・対馬・四国・九州・種子島・屋久島・奄美大島・徳之島

亜種 ホオジロハクセキレイ *Motacilla alba leucopsis* Gould は台湾には周年棲息し、朝鮮には夏期渡来する鳥であるが、我国では稀に本州（長野県）・九州（鹿児島）・八丈島・対馬等で採集された事がある。本亜種は黒色の過眼線を欠く。

63. セグロセキレイ

Motacilla grandis Sharpe
JAPANESE WAGTAIL

—セキレイ科—

形態 前種に似るが眼先、頬は黒く白色の眉斑が顯著。嘴峰14~15%、翼長87~98%、尾長90~97%、跗蹠24~27%。額から頭頂迄白、以下の上面は黒。下面は白く喉から胸にかけ黒。翼先端の黒色部は前種よりも多い。冬羽は背面稍鼠色を帯びる。

生態 各地の水辺や農耕地に留鳥として普通。絶えず尾を上下に振り、飛翔は波状である。高山にはあまり棲息しないが仙臺大山では1,700米の山頂附近でも繁殖する。

分布 北海道・本州・四国・九州で繁殖し、冬期は北海道や本州北部のものは稍南方に遷行する他伊豆七島・対馬・屋久島・奄美大島等に渡るものもある。

64. キセキレイ

Motacilla cinerea caspica (S. G. Gmelin)
EASTERN GREY WAGTAIL

—セキレイ科—

形態 前種より稍小にて背面石板色、下面黄色。嘴峰11~15%、翼長76~87%、尾長85~100%、跗蹠19~22%。黄白色の眉斑がある。尾は黒色で外側の3枚は殆ど白い。♂は夏羽では腿と喉とが黒色であるが冬羽ではこの部分白。♀は♂よりも一般に色淡

く、夏羽に於いても腮と喉とは黒色とならない。

生息地 各地の水辺に普通。繁華な市内の路根に営巣する事もあり、夏期は 3,000 米に近い高山帯にも棲息する。常に長い尾を上下に振り水辺に近い地上を忙しく歩き回って採餌する。飛翔は波状。飛翔中 チチン、チチンとなく。

分布 北海道・本州・四国・九州で繁殖し、冬期は伊豆七島・鴨波・対馬・屋久島・種子島・奄美大島・喜界島等に渡るものもある。

65. マミジロツメナガセキレイ *Motacilla flava simillima* Hartert
EASTERN BLUE-HEADED WAGTAIL —セキレイ科—

形態 キセキレイに似るが比較的尾が短かく、跗趾と後趾の爪とが長い。嘴峰 12~15%、翼長 75~85%、尾長 66~76%、跗趾 23~25%、後趾の爪 10~13%。頭上及び背は一樣に緑灰色。黄白色の肩斑は顕著。下面は夏羽は黄色であるが、冬羽では白色に近い程淡くなる。♀は一般に♂よりも淡色である。♂の喉は夏羽でも黒くならない。

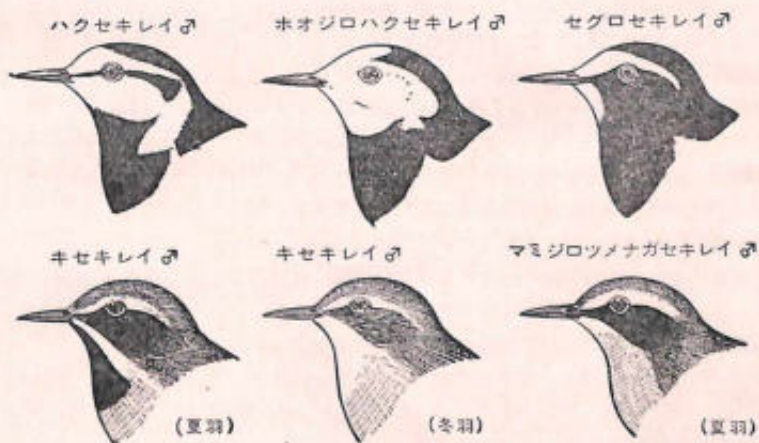
生息地 シベリア東北部・カムチャッカ・千島等で繁殖し、満州・朝鮮等を経て冬期は中国南部・台湾・モルッカ諸島等に渡る。我国には迷鳥として渡来する。

分布 本州(埼玉県・東京都・静岡県・京都府)八丈島で数回採集されただけである。

亜種 ツメナガセキレイ *Motacilla flava taiwana* (Swinhoe) は樺太で繁殖しているが北海道や本州からは記録なく、奄美大島で採集された事がある。

66. イワミセキレイ *Dendronanthus indicus* (Gmelin)
FOREST WAGTAIL —セキレイ科—

形態 翼の 2 条の黒帯と胸の 2 条の黒帯とが顕著。嘴峰 13~14%、翼長 74~84%、尾長 63~73%、跗趾 19~24%。背面はオリーブ褐色で黄白色の肩斑がある。翼には幅の広い黒帯と白帯とが各 2 条宛ある。下面は白色で胸には 2 条の顕著な黒帯がある。♂♀同色。



生息地 ウスリー・漢州・朝鮮・中国北部等で繁殖し、冬期は中国南部・馬來・印度・モルッカ諸島等に渡る。樹枝上又は地上にて尾を左右に振って回転させる習性は他のセキレイ類と異なる。地上では盛んに地蜂を捕食する。

分布 従来迷鳥として本州(静岡県)九州(佐賀県)八丈島で採集された記録があるに過ぎないが、鳥取県の伯耆大山山麓には少数乍ら5月上中旬に渡来するものがある。

67. メジロ *Zosterops palpebrosa japonica* Temminck & Schlegel
JAPANESE WHITE-EYE —メジロ科—

形態 嘴峰10~12%。翼長55~62%。尾長38~43%。跗趾17~18%。上面一様に暗緑色。目の周囲には顕著な白色環がある。下面は黄色で腹は殆ど白く、脇は淡褐色。

生態 北海道・本州中部以北では夏鳥であるが、本州中部以南には留鳥として棲息し西南日本には特に数が多い。平地から低山帯にかけて棲息し、秋期には数10の群をなして人里近くに飛来し熟した柿やいちじくに集まって之を食し又冬期は柿の花に集まって蜜を吸う。

分布 北海道南部・本州・四国・九州等で繁殖し、冬期は伊豆七島・種子島・屋久島・奄美大島等に渡来するものも少なくない。

亜種 シナトウメジロ *Zosterops palpebrosa stejnegeri* Seeböhm は伊豆七島に棲息する亜種であり、体はメジロより大で特に嘴峰と跗趾とが長い。イイジマメジロ *Zosterops palpebrosa ijimae* Kuroda は九州北部・五島・壱岐・対馬に棲息する亜種であり、背の緑色が濃い。体も稍大。リュウキュウメジロ *Zosterops palpebrosa loochoensis* Tristram は奄美大島・徳之島・喜界島・沖永良部島・与論島及琉球諸島に分布する。体側がメジロの様に淡褐色でなくクリーム色である。シマメジロ *Zosterops palpebrosa insularis* Ogawa は種子島・屋久島に分布し、メジロより喉の黄色濃く、背も暗緑色でメジロより濃い。尚北海道南部産のものはエゾメジロ *Zosterops palpebrosa yesonensis* N. H. Kuroda として別亜種とされている。

68. キバシリ *Certhia familiaris japonica* Hartert
JAPANESE TREE-CREEPER —キバシリ科—

形態 褐色と白との斑の小さい鳥。嘴峰11~16%。翼長59~65%。尾長51~60%。跗趾15~16%。頭上、背は黄褐色にて白色縦斑あり。眉斑白、頬褐色。翼は白と褐色との斑、尾は淡褐色にて先端細い。下面は白色。

生態 低山帯から亜高山帯に亘り棲息し、樹幹を旋回しながら登る。色彩が地味で且小さいのであまり目立たない鳥である。数は多くない。

分布 留鳥として本州で繁殖するほか九州にも分布。

亜種 北海道に産する亜種はキタキバシリ *Certhia familiaris orientalis* Domanevski であり、また四国産のものはシコクキバシリ *Certhia familiaris shikokiana* Mishima と別亜種とされている。

62. ハクセキレイ



63. セグロセキレイ



65.
マミジロツメ
ナガセキレイ



66. イワミセキレイ

64. キセキレイ

67. メジロ



68. キバシリ

69. ゴジュウカラ



70. シジュウカラ



71. a
オーストンヤマガラ



71. ヤマガラ



74. ヒガラ



73.
ヘンソノハシブトガラ



72. コガラ



♀



75.
エナガ



♂

♂



78. ヒゲガラ

76. スインホーガラ



75. a
シマエナガ

♂



♀

77. キクイタダキ



69. ゴジュウカラ *Sitta europaea hondoensis* Buturlin
HONDO NATHATCH ーゴジュウカラ科ー

〔形態〕 頭上、背は灰青色で黒色の縦斑顯著。嘴峰14~20%, 翼長74~86%, 尾長35~47%, 跗蹠17~20%, 尾は体に比し著しく短い。頬と下面とは白く腹以下淡褐色を帯び、下尾筒は濃い栗色である。♂♀同色。

〔生態〕 キツツキ類の様に樹幹を旋回し乍ら昆虫類を啄むのでキマワリとも称せられている。低山帯から亜高山帯の森林中に棲息し、冬期には多少その下方に漂行するが平地の人里近くにはあまり来ない。フィ、フィ、フィと高い声でなく。伯耆大山には特に多産する。

〔分布〕 本州

〔亜種〕 北海道に棲息する亜種はシロハラゴジュウカラ *Sitta europaea baicalensis* Taczanowski, また本州太平洋沿岸・四国・九州産の亜種はキウシュウゴジュウカラ *Sitta europaea roseilia* Bonaparte とそれぞれ亜種を異にしている。

70. シジュウカラ *Parus major minor* Temminck & Schlegel
JAPANESE GREAT-TIT ーシジュウカラ科ー

〔形態〕 頭と喉淡黒で頬の白いのが目立つ活潑な鳥。嘴峰9~11%, 翼長65~70%, 尾長56~66%, 跗蹠17~20%, 頭上黒、背は暗緑色、腹以下灰青色。頬は白い。下面は腿、喉は黒いがそれ以下は白く、腹の中央には幅広い黒帯が縦走している。♂♀類似。

〔生態〕 平地から低山地帯にかけ各地に極めて普通に繁殖す。秋、冬には小群をなして市街地にも漂行する。挙動活潑でピーツツ、ジュク、ジュクとなく。

〔分布〕 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・宅岐・対馬等に分布繁殖する。

〔亜種〕 九州南部のものはカゴシマシジュウカラ *Parus major kagoshimae* Takatsukasa, 又奄美大島及び徳之島に棲息するものはアマミシジュウカラ *Parus major amamiensis* Kleinschmidt とそれぞれ別亜種にされている。

71. ヤマガラ *Parus varius varius* Temminck & Schlegel
VARIED TIT ーシジュウカラ科ー

〔形態〕 シジュウカラに似るが下面が栗色である。嘴峰10~13%, 翼長69~82%, 尾長49~59%, 跗蹠18~21%, 頭上黒く中央にクリーム色の縦線がある。後頭クリーム色、背は灰青色。眼先と頬とはクリーム色。下面は栗色であるが腿、喉は黒色。♂♀類似。

〔生態〕 亜高山帯の下部から低山地帯に繁殖し、冬期は人里近くにも漂行する。ツツビー、ツツビーと繰り返してなく。人に馴れ易い鳥である。

〔分布〕 留鳥として北海道・本州・伊豆七島（大島）四国北部等に分布、繁殖する。

〔亜種〕 ナミヤマガラ *Parus varius namiyei* Kuroda は伊豆七島の利島・新島・神津島に、オーストヤマガラ *Parus varius oustoni* Ijima は伊豆七島の三宅島・

御蔵島・八丈島に、ツシマヤマガラ *Parus varius ijimae* (Kuroda) は四国南部・九州・対馬に、タネヤマガラ *Parus varius sunsumi* Kuroda は種子島に、ヤクシマヤマガラ *Parus varius yakushimensis* Kuroda は屋久島に、アマミヤマガラ *Parus varius amamii* (Kuroda) は奄美大島及び徳之島に、それぞれ棲息する亜種である。また鹿児島南部産のものはカゴシマヤマガラ *Parus varius sataensis* N.H. Kuroda とされている。

72. コ ガ ラ *Parus atricapillus restrictus* Hellmayr
JAPANESE WILLOW-TIT —シジュウカラ科—

形態 頭黒、背淡灰褐色。嘴峰10~11%、翼長61~68%、尾長51~58%、跗蹠16~17%、頬から頭上、頭にかけ黒色であるが稍褐色を帯びている。頬、頸側、下面は白色であるが咽と喉とは黒色である。♂♀同色。

生態 亜高山帯に多数棲息するが、低山帯の潤葉樹林中でも繁殖する。冬期にはその下方に漂行するものもある。チチ、ジュー、ジュー、ジューとなく。

分布 留鳥として本州・四国・九州に棲息する。北海道にも少数棲息する。

亜種 カラフトコガラ *Parus atricapillus sachalinensis* Lönnberg は千島・樺太等に棲息する亜種であるが迷鳥として北海道・本州（新潟県）で採集されたことがある。

73. ヘンソンハシブトガラ *Parus palustris hensoni* Stejneger
HENSON'S MARSH-TIT —シジュウカラ科—

形態 コガラに酷似するが頭部は光沢のある濃黒色である。嘴峰8~11%、翼長60~68%、尾長53~60%、跗蹠14~16%、野外に於いてコガラとの区別はなき声に依る以外極めて困難である。

生態 北海道では各地の森林中に稀でない。なき声は、ビスイ、ビスイ、ビスイときこえるのでコガラと容易に区別出来るが、色、形、動作等コガラに類似する。

分布 周年北海道に棲息、繁殖する。

74. ヒ ガ ラ *Parus ater insularis* Hellmayr
JAPANESE COAL-TIT —シジュウカラ科—

形態 色彩はシジュウカラに似るが遙かに小。嘴峰8~9%、翼長55~62%、尾長42~49%、跗蹠14~17%、頭上、後頸は光沢ある藍黒色で後頸の中央に白紋がある。背は青灰色、頬と頸側とは白色。眼、喉黒く以下の下面は灰白色。♂♀同色。

生態 低山帯から亜高山帯に亘って棲息し数は多い。森林中の高い梢に止まってツツピン、ツツピン、ツツピンと長く連続してなく声はシジュウカラよりも遙かに金属性を帯びる。冬期にはシジュウカラの群に混じって山麓の人里近くにも漂行する。

分布 北海道・本州・四国・九州・屋久島等に分布繁殖し、伊豆七島にも渡来する。

亜種 対馬に棲息する亜種はツシマヒガラ *Parus ater teraokai* (Kuroda) である。

75. エナガ *Aegithalos caudatus trivirgatus* (Temminck & Schlegel)
JAPANESE LONG-TAILED TIT

—シジュウカラ科—

形態 極めて小さい鳥で白と黒との斑。尾が著しく長い。嘴峰6~8%、翼長56~62%、尾長72~84%、跗蹠16~18%。頭上、顔は白く幅広い黒色眉斑がある。背は灰黒色で白や淡ぶどう酒色の羽毛が混じる。下面は殆ど白い。♂♀同色。

生態 平地、低山帯、亜高山帯の下部に至る森林中に各地に普通に繁殖す。チー、チー、ジュリ、ジュリとなき秋から冬にかけては群棲して人里近くにも来る。

分布 留鳥として本州各地に広く分布繁殖する。

亜種 シマエナガ *Aegithalos caudatus japonicus* Práázák は北海道に棲息する亜種であるが稀に本州で採集される事もある。黒色眉斑を欠き頭部は純白である。また対馬に棲息する亜種はチョウセンエナガ *Aegithalos caudatus magnus* (Clark)、四国・九州に棲息する亜種はキウシュウエナガ *Aegithalos caudatus kiusiuensis* Ku-roda である。

76. スインホーガラ *Remiz pendulinus consobrinus* (Swinhoe)

CHINESE PENDULINE TIT

—シジュウカラ科—

形態 頭部灰色で黒色の過眼線があり、背は褐色で他のカラ類と色彩の趣を異にしている。嘴峰8~10%、尾長52~58%、翼長40~47%、跗蹠14~15%。過眼線の黒色は前額の黒色部に連なり、且眼の後方では幅広がり野外にては一見頬に黒斑ある様に見える。♀はこの部分が黒褐色であり、且背の色も♂より淡い。

生態 中国北部・満州・朝鮮等に分布し、我國には迷鳥として稀に直来するに過ぎない。垂れ下った枝の末端に花穂を集めて作った楕円形の巣を垂れ下げる。あまり人を恐れない。他のカラ類と異なり林縁にあるイネ科植物の穂先等に止まって昆虫類を捕ったり巣の材料の花穂を集めたりする。

分布 迷鳥として本州（東京都・千葉県）九州（長崎県）で採集された事がある。

77. キクイタダキ *Regulus regulus japonensis* Blakiston

JAPANESE GOLDCREST

—ウグイス科—

形態 オリーブ色の極く小さい鳥で頭尖の橙黄色美麗。嘴峰9~10%、翼長50~59%、尾長35~43%、跗蹠15~18%。頭上、背共オリーブ色で、頭尖には、2本の黒条に挟まれた顕著な橙黄色部がある（♀はこの部分黄色）。翼には白帯と白斑とがある。

生態 北海道、本州の亜高山帯の針葉樹林中で繁殖す。冬期はシベリア大陸からも多数渡来し、エナガ、シジュウカラ等の群に混じって、山麓や人里近くに来るものが多い。チリッ、チリッと細い声でなき、あまり人を恐れない。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・種子島・屋久島

78. ヒゲガラ *Panurus biarmicus russicus* (Brehm)

EASTERN BEARDED TITMOUSE

—シジュウカラ科—

形態 カラ類としては著しく大きく且尾が長い。♂は眼先から黒色鬚状の羽毛垂下す。嘴峰7~8%、翼長61~66%、尾長82~90%、跗蹠18~19%。頭上は鼠色で背以下は

赤褐色。下面は灰白色で脚は稍灰色を帯び、脇は赤褐色である。下尾筒は黒く尾は赤褐色。♀は頸状の羽毛を欠き、頭上は淡褐色、背は♂より淡色で暗褐色の縦斑がある。

生息地 小アジア・ソ連南部・中国北部・蒙古・満州北部等に分布する。他のカラ類と異なり、水辺の草原中に棲息し、水の比較的低い所に営巣する。

分布 我国では迷鳥として山形県にて1920年10月22日に♂1羽が獲られたのみ。

[PLATE 11]

79. オオモズ *Lanius excubitor bianchii* Hartert

SAKHALIN GREY SHRIKE

—モズ科—

形態 大形のモズ。嘴峰17—21%、翼長108—114%、尾長102—115%、跗蹠24—27%。頭上、背は灰色で顕著な黒色過眼線と白色の眉斑とがある。翼は黒色で大形の白紋が中央にある。尾は中央は黒いが外側のものは基部のみ黒く前半は白。下面は白。♀は♂に類似するが、個体によって下面に細い横縞のあるものもある。

生態 樺太で繁殖し、冬期北海道に渡来するが一般にその数は多くない。モズの様にあまり人家の近くには来ない。林縁や水辺の枯枝等に静止して居り、時々尾を動かして上下に動かすが、この動作はモズの様に頻繁でない。冬期はあまり声を立てない。

分布 冬期北海道に渡来するほか本州（岩手・長野・大阪）で採集された事がある。

亜種 シベリアオオモズ *Lanius excubitor mollis* Eversmann は蒙古、中国に棲息する亜種であるが、迷鳥として本州（日光）及び九州で採集された事がある。

80. オオカラモズ *Lanius sphenocercus sphenocercus* Cabanis

CHINESE GREAT GREY SHRIKE

—モズ科—

形態 前種より一段と大きい。嘴峰18—20%、翼長115—126%、尾長130—148%、跗蹠30—34%。色彩は前種に似て居るが、翼に2個の大きな白紋あり、尾羽は中央は黒いが、外側の3対は白色である点異なる。

生態 元来ウスリー地方・満州・蒙古・朝鮮・中国北部等に棲息する種類であり、稀に迷鳥として我国に渡来する。

分布 本州（兵庫県・鳥取県）四国（愛媛県）九州（宮崎県）対馬等で採集された記録がある。

81. モズ *Lanius bucephalus bucephalus* Temminck & Schlegel

BULL-HEADED SHRIKE

—モズ科—

形態 嘴峰15—18%、翼長80—92%、尾長80—97%、跗蹠24—27%。♂は頭上、後頸赤褐色、背は灰色。黒色の顕著な過眼線と黄白色の眉斑とがある。翼は煙黒色で大きな白紋がある。尾は黒褐色。下面肥、喉は白色にて以下は淡赤褐色であるが、中央は淡い。♀は背より著しく赤褐色を帯び、下面には細い波状の横縞がある。

生態 各地に極めて普通で、秋期前に止まって、キイー、キイー、キイーと鋭い声でなくのは周知の通りである。直翅目の昆虫や蛙、トカゲ等を樹木の刺や小枝、鉄糸網の刺等に突き刺して所謂「モズノハヤニ」を作る習性があるのは有名である。野外に於いてもよく他の鳥のなき声の真似をする。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・奄岐・対馬等で繁殖し、北海道（少数冬期も残留）以外には留鳥として周年棲息す。冬期は種子島・屋久島・奄美大島等にも渡来する。

82. チゴモズ

Lanius tigrinus Drapiez
THICK-BILLED SHRIKE

—モズ科—

形態 モズより稍小さい。上面は前半灰色、後半褐色で美しい。嘴峰15~16%、翼長82~90%、尾長69~80%、跗蹠21~25%。♂の額と過眼線とは黒。頭上、後頭、上背は灰色で以下の背面は赤褐色で黒褐色の横斑が散布す。下面は白色。♀は額から眉斑に連なる黒色帯なく、耳羽のみ黒い。上面より暗色で下面腹、腹側には黒色波状斑顯著。

生態 局地的な鳥であり比較的少ない。東北地方や本州中部の山地又東京では市内や郊外でも繁殖するが、近畿地方や中国地方では繁殖の確証がない。繁殖地には5月上旬から9月上旬頃迄止まるが、冬期は馬來諸島・印度支那半島等に渡る。ギチ、ギチと濁った声でなく。

分布 夏鳥として本州で繁殖するほか北海道・四国・八丈島・対馬・屋久島・種子島等からも記録されている。

83. アカモズ

Lanius cristatus superciliosus Latham
JAPANESE RED-TAILED SHRIKE

—モズ科—

形態 モズに似るが額白く、頭上赤褐色で美しい。嘴峰15~18%、翼長85~94%、尾長85~95%、跗蹠23~25%。過眼線黒。白色眉斑は額の白色に連なる。上面はモズより赤味強い。下面は白く、胸以下稍クリーム色を帯びる。♀は過眼線黒褐色で、脇と腹側とに波状の横縞がある。

生態 我国には夏鳥として渡来する。チゴモズより数は多いが局地的の鳥であり、北海道では南部には稍多いが、其他の地方にはあまり多くない。東北地方、本州中部の山地、東京の郊外、鈴鹿山脈等では繁殖するが近畿地方以西からは繁殖の確証がない。冬期は中国東部を経て馬來諸島や印度支那半島に渡来する。

分布 北海道・本州で繁殖し、九州・四国（繁殖？）・対馬からも記録されている。

84. キレンジャク

Bombycilla garrulus centralasiae Poljakov
EASTERN WAXWING

—レンジャク科—

形態 全体どうど灰褐色にて、頭上の羽冠顯著。嘴峰11~13%、翼長110~121%、尾



モズの飛翔



モズのハヤニエ

長58~67%。跗蹠18~23%。背は稍暗色。上嘴基部は黒色で後方に延び黒色過眼線となる。腮と喉とは黒。尾は黒く先端の鮮黄色顕著である。翼は黒く初列風切の外弁の先端は黄色。次列風切の先端は白く、その先に紅色の蠟状物がある。♀♀酷似。

生態 シベリアの東北部で繁殖し、我国には秋期渡来して越冬する。冬期は数十の群をなして落葉した闊葉樹の梢等に止まりヒィー、ヒィーと低い声でなく、ヤドリギの果実を特に好む。本州中部以北には稀でないが、近畿地方ではヒレンジャクの方が遙かに多く、本種はヒレンジャクの群に混じって少数見られるのみである。

分布 冬鳥として北海道・本州・伊豆七島・四国・九州等に渡来す。

85. ヒレンジャク *Bombycilla japonica* (Siebold)

JAPANESE WAXWING

—レンジャク科—

形態 前種に似ているが尾の先端は鮮紅色。嘴峰10~12%。翼長103~112%。尾長49~58%。跗蹠18~20%。其他前種との主な相違点は次の通りである。初列風切の先端が白く、稍紅色の部分がある。次列風切先端は黒色で、前種の様に白斑や紅色の附屬物がない。大雨覆の先端暗紅色。初列雨覆の先端は青灰色。(前種は白い)。

生態 シベリア東南部で繁殖し、我国には秋期渡来して越冬する。習性は前種と類似している。本州中部以西では本種の方が遙かに数が多い。春期渡去の直前には数十の群をなして市街地の庭園にも渡来し電線に一列に止まって、その下を人が通って恐れぬ程である。ヒィー、ヒィーと低い声でなく事も前種と同じである。

分布 冬鳥として北海道・本州・伊豆七島(三宅島・八丈島)四国・対馬等に渡来する。

86. ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis amaurotis* (Temminck)

BROWN-EARED BULBUL

—ヒヨドリ科—

形態 青灰色で尾は長い。嘴峰25~29%。翼長122~136%。尾長109~125%。跗蹠22~24%。頭上、後頭は青灰色で羽毛の先端尖る。背は黒味を帯びる。耳羽から下喉にかけ暗栗色斑がある。尾と翼とは煙黒色。下面は灰褐色と白との斑で脇は稍赤褐色。

生態 各地に極めて普通であり、甲高い声で、ピーヨ、ピーヨとなき遠方まで聞こえる。春秋の渡りの時は百羽以上の群となり海洋上を低く波状に飛ぶ事がある。秋期から冬期にかけては市街地の庭園に来るもの多く、南天の実や椿の蜜を特に好む。山地でも市街地の庭園でも繁殖する。

分布 留鳥として本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・奄美等に棲息し、冬期は種子島・屋久島・奄美大島等に渡来するものもある。

亜種 エゾヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis hensoni* (Stejneger) は北海道で繁殖し、冬期は本州・九州・対馬・種子島・屋久島等に渡来する。ヒヨドリより総体的に淡色である。ハチジョウヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis matchie* Momiyama は八丈島・種子島・屋久島に棲息する亜種でヒヨドリより暗色。アマミヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis ogawae* (Hartert) は奄美大島・徳之島に棲息し前亜種に酷似するが体は一層小さい。

80. オオカラモズ

81. モズ



79. オオモズ



82. チゴモズ

83. アカモズ



84. キレンジャク

85. ヒレンジャク

86. ヒヨドリ



PLATE 12



87. サンショウクイ *Pericrocotus roseus divaricatus* (Raffles)

ASHY MINIVET

—サンショウクイ科—

形態 体細長く上面灰青色。嘴峰12~13%。翼長92~100%。尾長88%~98%。跗蹠13~15%。♂は頭の前半は白く、後半と頭とは藍黒色。以下の背面は青灰色。下面は灰白色。嘴は扁平で翼には白斑がある。♀は頭上も背と同じ青灰色で黒色部を欠く。

生態 我国には春期渡来し主として低山帯で繁殖する。ヒリヒリッ、ヒリヒリッとなきながら波状に飛ぶ。冬期は南琉球・台湾・馬來諸島・印度支那半島に渡去越冬。

分布 本州で繁殖する他伊豆七島・四国・九州・対馬にも渡来する。

亜種 リュウキュウサンショウクイ *Pericrocotus roseus tegimae* Stejneger は九州南部・種子島・屋久島・奄美大島・徳之島に棲息する亜種である。又迷鳥としてチヨウセンサンショウクイ *Pericrocotus roseus intermedius* Clark が1948年8月長野県で採集された。

88. サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata atrocaudata* (Eyton)

JAPANESE PARADISE FLYCATCHER

—ヒタキ科—

形態 ♂は紫黒色で著しく尾が長い。嘴峰15~22%。翼長84~95%。尾長♂300~340%。♀78~90%。跗蹠15~17%。♂は頭、頸、胸は紫黒色で羽冠がある。背は赤紫色で尾は黒く著しく長い。胸以下の下面は白。眼の周囲は青空色にくまどられている。♀は頭、頸、胸は煙黒色で背は赤褐色。羽冠は♂より短い。♂の尾は老鳥程長い。

生態 夏鳥として我国に渡来し、低山帯や市街地の樹林に営巣する。本州中部以西に多い。冬期は台湾・中国南部・馬來等に越冬。「月・火・星・ボイ、ボイ」となく。

分布 本州・四国・九州で繁殖、北海道・八丈島・対馬等にも分布する。

亜種 リュウキュウサンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata illex* Bangs は九州南部・屋久島・奄美大島・徳之島・喜界島等に棲息する亜種である。

89. コサメビタキ *Miscicapa latirostris latirostris* Raffles

SUMATRAN BROWN FLYCATCHER

—ヒタキ科—

形態 灰褐色小形の地味な鳥。嘴峰9~11%。翼長66~77%。尾長42~53%。跗蹠12~14%。♂♀共に上面灰褐色で下面灰白色。胸、脇僅かに灰褐色。嘴は扁平である。

生態 我国には春期渡来し、低山帯や市街地の林縁の樹枝上に営巣する。各地に普通の鳥である。10月下旬頃渡去し、冬期は中国南部・馬來諸島・印度支那半島等に渡る。

分布 北海道・本州・四国・九州等で繁殖し伊豆七島・老岐・対馬等にも渡来する。

90. エゾビタキ *Miscicapa griseisticta* (Swinhoe)

CHINESE GREY-SPOTTED FLYCATCHER

—ヒタキ科—



エゾビタキ

コサメビタキ

サメビタキ

形態 前種に似るが遙かに大きい。嘴峰10~12%。翼長81~90%。尾長46~54%。跗蹠13~15%。上面暗褐色で翼に白帯がある。下面は白く暗褐色の顕著な縦斑がある。

生態 ウスリー地方・沿海州・カムチャッカ・樺太等で繁殖し、冬期は馬來諸島にて越冬し、我国には渡りの際春は4～5月、秋は10月頃出現するが九州英彦山では繁殖するものがあるといわれている。

分布 北海道・本州・九州・対馬・種子島に渡来する。

91. サメビタキ

Muscicapa sibirica sibirica

SIBERIAN FLYCATCHER

—ヒタキ科—

形態 前種に似ているが上面は一層暗色。嘴峰10%。翼長78～83%。尾長51～56%。跗趾12～14%。翼帯黄褐色。胸以下の下面は暗褐色で腹の中央と下尾筒とは白色。

生態 我国には夏鳥として渡来す。北海道では平地でも少数繁殖するが、大雪山には普通。本州中部では亜高山帯に繁殖す。冬期は馬來諸島・印度支那半島に渡る。

分布 北海道・本州で繁殖し、伊豆七島・四国、対馬・屋久島・種子島にも渡る。

92. ムギマキ

Muscicapa mugimaki Temminck

MUGIMAKI FLYCATCHER

—ヒタキ科—

形態 黒と赤褐色との配色美しい鳥。嘴峰8～13%。翼長67～79%。尾長44～57%。跗趾14～18%。♂は上面顔は黒く眼の後方に白色の線状斑がある。下面顔以下は美しい赤褐色。尾と翼とは黒く翼には大きな白紋がある。♀は上面暗緑褐色、胸は淡赤褐色。

生態 シベリア東部・樺太等で繁殖し冬期は馬來諸島に渡る。我国には春期と秋期とに旅鳥として出現するが数は多くない。ビイー、ビイー、クチュ、クチュとなく。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・種子島等に渡来する。

93. キビタキ

Muscicapa narcissina narcissina Temminck

NARCISSUS FLYCATCHER

—ヒタキ科—

形態 前種に似るが一層美麗。嘴峰11～14%。翼長69～82%。尾長45～56%。跗趾16～18%。♂は上面前半、翼、尾は黒。肩斑、上面後半、腮、喉、胸は美しい橙黄色。翼には大きな白紋がある。♀は暗緑褐色で下面は灰白色と暗緑褐色との斑となっている。

生態 夏鳥として渡来し、北海道では平地でも繁殖するが、本州では低山帯から亜高山帯の森林中で繁殖する。ビッコロ、ビッコロと美声でなく。冬期は馬來諸島・印度支那半島等に渡る。

分布 北海道・本州・四国(?)で繁殖し、伊豆七島・九州・対馬・奄美大島にも渡来。

亜種 マミジロキビタキ *Muscicapa narcissina zanthopygia* Hay は迷鳥として稀に本州・九州に渡来し、ヤクシマキビタキ *Muscicapa narcissina jakusshima* Hartert は種子島・屋久島・奄美大島産の亜種であり、稀に四国でとれたこともある。

94. オオルリ

Muscicapa cyanomelana cyanomelana Temminck

JAPANESE BLUE FLYCATCHER

—ヒタキ科—

形態 ♂はるり色で美しい。嘴峰12～14%。翼長88～96%。尾長57～66%。跗趾15～17%。♂は頭上光沢あるるり色で以下の背面、尾は藍色。顔、腮、喉、胸は黒。以下の下面は白く脇は黒色。♀は上面暗緑褐色で下面は淡黄褐色である。♂の幼鳥は♀に似るが腰と尾はるり色を帯び、風切羽の外弁もるり色である。

生態 我国には夏鳥として渡来繁殖し各地に普通。低山帯に営巣する事が多いが、渡りの際には市街地の公園、公園にも稀でない。高い梢に止まってピッ、ピッ、ギチ、ギチ、ギチと美声でなく。冬期は中国南部・馬來諸島等に渡る。

分布 北海道・本州・四国・九州で繁殖する他、伊豆七島・対馬・屋久島にも渡来。

[PLATE 13]

95. エゾムシクイ

Phylloscopus tenellipes Swinhoe

PALE-LEGGED WILLOW-WARBLER ウグイス科—

形態 上面暗緑褐色で小形の地味な鳥。嘴峰9~13%。翼長57~67%。尾長43~57%。跗趾17~19%。眉斑黄白色。下面は白く脇及び腹側淡褐色。♂♀類似。

生態 我国には夏鳥として渡来し亜高山帯下部の薄暗き針葉樹林中で繁殖する。渡りの際には市街地の庭園等にも来るが叢林中を潜行するので目に止まる事は少ない。ヒーターキー、ヒーターキーとなく。冬期は中国南部・印度支那半島等に渡る。

分布 北海道・本州で繁殖し、伊豆七島・九州にも渡来する。

96. メボソムシクイ

Phylloscopus borealis xanthodryas Swinhoe

SWINHOE'S WILLOW-WARBLER ウグイス科—

形態 前種より稍大形で上面暗緑色。嘴峰10~13%。翼長59~74%。尾長45~55%。跗趾19~21%。眉斑黄白色。下面は淡緑黄色。

生態 我国には春期渡来し、亜高山帯の森林中にて繁殖する。深い森林中に棲みジュリ、ジュリ、ジュリと高い声でなく。冬期は馬來諸島・印度支那半島に渡る。

分布 本州・四国の山地で繁殖し、北海道・伊豆七島・対馬にも渡来する。

亜種 オオムシクイ *Phylloscopus borealis examinandus* Stresemann は北海道・本州に旅鳥として渡来す。上面はメボソムシクイに酷似し下面は灰白色で緑黄味を欠く。コムシクイ *Phylloscopus borealis borealis* (Blasius) は背面メボソムシクイより暗色、下面はオオムシクイに酷似す。渡りの時には全国に普通。北海道の高山で繁殖するのは本亜種であろう。

97. センダイムシクイ

Phylloscopus occipitalis coronatus

(Temminck & Schlegel)

TEMMINCK'S CROWNED WILLOW-WARBLER ウグイス科—

形態 前種に似るが灰緑色の頭中央線がある。嘴峰10~12%。翼長58~66%。尾長43~50%。跗趾17~19%。上面はメボソムシクイに似るが下面は灰白色。黄白色の細い眉斑顕著。頭中央線は個体により不明瞭である。

生態 我國には夏鳥として渡来して主として低山帯に繁殖する。一般に前種より標高の低い地に分布し、市街地の公園等でも繁殖することがある。チヨ、チヨ、ジュイと繰り返してなく。冬期は馬來諸島・印度支那半島等に渡る。

分布 北海道・本州・四国で繁殖し、九州・対馬・屋久島にも渡来する。

亜種 イイジマムシクイ *Phylloscopus occipitalis ijimae* (Stejneger) は伊豆七島で繁殖する亜種である。本亜種には頭中央線がない。本亜種を別種とする学者もある。

98. ウグイス *Cettia diphone cantans* (Temminck & Schlegel)
JAPANESE BUSH-WARBLER ーウグイス科ー

形態 上面暗緑色で灰白色の眉斑がある。♀は♂に比し著しく小さい。嘴峰♂12~13%, ♀11~12%, 翼長♂64~71%, ♀56~60%, 尾長♂65~73%, ♀52~59, 跗趾♂24~26%, ♀21~23, 下面は汚白色で腹側は暗緑褐色を帯びる。

生息地 北海道・本州北部では夏鳥である。本州中部以西では低山帯から亜高山帯に亘り繁殖するが、冬期は本州中部以南の温暖な平地に渡りし市街地の庭園にも飛来する。

分布 北海道・本州・四国・九州・老蛟・対馬に分布、繁殖する。

亜種 カラフトウグイス *Cettia diphone sakhalensis* (Yamashina) は南千島・樺太で繁殖する亜種で北海道・本州・九州に渡来す。イジマウグイス *Cettia diphone ijimae* (Kuroda) は伊豆七島のうち利島から八丈島まで及び種子島に棲息。トリシマウグイス *Cettia diphone panafidinicus* (Moriyama) は伊豆七島の鳥島産亜種。リュウキュウウグイス *Cettia diphone riukiensis* (Kuroda) は屋久島・奄美大島に分布する亜種である。

99. ヤブサメ *Urosphena squameiceps squameiceps* Swinhoe
SHORT-TAILED BUSH-WARBLER ーウグイス科ー

形態 暗赤褐色で極めて小形。尾は短い。嘴峰11~12%, 翼長51~56%, 尾長28~32%, 跗趾18~20%, 黒褐色の過眼線と黄褐色の眉斑顕著。下面白、胸と腹側淡褐色。

生息地 夏鳥として渡来し低山帯にて繁殖。深い森林中の地上近くを潜行するので姿を見ることは困難であるが、シー、シー、シーと虫のような細い声でなくのが顕著。西日本には多産す。冬期は中国南部や印度支那半島に渡来する。

分布 北海道・本州・四国・九州で繁殖し、種子島・屋久島・奄美大島等にも渡来する。

亜種 テョウセンヤブサメ *Urosphena squameiceps ussuriensis* Seeböhm は朝鮮にて繁殖する亜種であるが旅鳥として対馬に渡来する。

100. オオセッカ *Bradypterus pryeri pryeri* (Seeböhm)
JAPANESE SWAMP-WARBLER ーウグイス科ー

形態 上面赤褐色で黒色縦斑がある。嘴峰10~13%, 翼長51~58%, 尾長51~61%, 跗趾18~22%, 上面の黒色斑は頭上は細かく背は粗い。眉斑淡褐色。下面白、下尾筒褐色。

生息地 本州特産の稀種で従来採集された個体数は少ない。湿地の葦の中に棲息する。

分布 宮城県・太平洋沿岸で巢の発見された事がある。冬期は本州中部（東京都・千葉県・神奈川県・静岡県・愛知県等）の太平洋沿岸の温暖な地に渡行する。

メボソムシクイ・オオムシクイ・コムシクイ の識別

種名	上	面	下	面	翼	(野外にては識別不可能)	雄声	渡り
メボソムシクイ	暗	緑	色	緑	黄色	初列風切第1羽は初列雨覆より長い	区別	春秋の渡り
オオムシクイ	暗	緑	色	灰	白色	ほとんど 同 長	困難	本州では殆ど同時期。
コムシクイ	暗	緑	褐色	灰	白色	ほとんど 同 長		

95. エゾムシクイ



96. メボソムシクイ



97. センダイムシクイ



96.a コムシクイ



97.a イイジマ
センダイムシクイ



♀

98. ウグイス



♂



99. ヤブサメ



100. オオセッカ

PLATE 14

101. エゾセンニュウ



102. シマセンニュウ



102♂ ウチャマ
シマセンニュウ

103. シベリア
センニュウ



105. ハシブト
オオヨシキリ



104.
マキノセンニュウ



106. オオヨシキリ



107. コヨシキリ



冬羽

108. セ ッ カ



夏羽



101. エゾセンニュウ *Locustella fasciolata* (Gray)
GRAY'S GRASSHOPPER-WARBLER —ウグイス科—

形態 オオヨシキリに似ているが暗色である。嘴峰16~19%, 翼長76~86%, 尾長67~75%, 跗蹠26~29%, 頭上、背、翼、尾は暗緑褐色。灰白色の眉斑がある。下面は灰白色で胸と脇とは暗緑褐色。幼鳥は下面黄色を帯び、喉から胸にかけて暗緑褐色の横斑がある。椋状尾である事及び嘴に嘴毛のない事によりオオヨシキリと区別できる。

生態 5月下旬~6月頃北海道に渡来して繁殖する。冬期は馬來諸島に渡り本州では渡りの時に通過するだけである。繁殖地では主に河川に沿った深い森林中に棲息するので目にふれる事は比較的少ないが、夕方から夜間にかけてトッピンカケタカと高い声で盛んになく。北海道ではトッピンまたはホトトギスと呼ばれている。

分布 北海道で繁殖し、本州・屋久島・奄美大島から旅鳥として記録されている。

102. シマセンニュウ *Locustella ochotensis ochotensis* (Middendorff)
MIDDENDORFF'S GRASSHOPPER-WARBLER —ウグイス科—

形態 前種に似ているが稍小。嘴峰11~17%, 翼長62~76%, 尾長48~60%, 跗蹠20~26%。上面前種より稍淡く、且微かに赤味を帯びている。眉斑は灰白色。下面灰白色で胸と脇僅かに淡褐色であるが前種より淡色である。尾には暗色の横縞があり尾端は白色。♂♀類似。幼鳥は下面著しく緑黄色を帯びている。

生態 夏期北海道で繁殖するが、数は前種程多くない。森林中に棲息する。

分布 北海道で繁殖し旅鳥として本州を通過し、冬期は馬來諸島に渡る。

亜種 ウチヤマシマセンニュウ *Locustella ochotensis fleskei* Taczanowskiは伊豆七島(新島・三宅島・御蔵島・八丈島)九州(福岡県、大島)で繁殖しているほか本州で採集された事もある。シマセンニュウより上面稍暗色で嘴も稍長い。

103. シベリアセンニュウ *Locustella certhiola minor* David & Oustalet
DAVID'S GRASSHOPPER-WARBLER —ウグイス科—

形態 セッカに似て大。嘴峰12~13%, 翼長57~69%, 尾長44~53%, 跗蹠18~22%。上面暗緑褐色にて黒褐色の縦斑があり、頭部に特に顕著で腰には殆どこれを欠く。汚白色の眉斑あり。喉は白く以下の下面は淡褐色であるが、腹の中央は白色。尾は黒褐色にて不鮮明な横斑あり、先端は汚白色。

生態 北海道の利尻島・礼文島には夏鳥として渡来し、繁殖している事が中村幸雄氏により報ぜられる。本種はシベリア南部・アムール・ウスリー・満州等で繁殖し、冬期は印度・馬來諸島に渡来し我國では上記以外に記録がない。依ってその渡りは日本列島を経由せずシベリア大陸から海を越え直接上記の島に飛来するものと考えられる。

分布 北海道(利尻島・礼文島)

105. マキノセンニュウ *Locustella lanceolata* (Temminck)
STREAKED GRASSHOPPER-WARBLER —ウグイス科—

形態 前種より小さく下面にも縦斑あり。嘴峰10~12%, 翼長52~62%, 尾長41~55

%, 跗趾17~20%。頭上, 背は黄褐色で黒褐色の縦斑顯著。眉斑は淡黄褐色。尾は黒褐色で不明瞭な横斑がある。下面白く喉, 胸, 脇には黒褐色の小さい縦斑が走っている。

生息地 北海道北部及び東部では海岸に近い草原に繁殖するもの種でない。本州では富士山の標高 2,000 米に近い草原で巣が発見された事がある。尾瀬沼や菅平でも繁殖するらしいがまだ確証はない。葦から舞い上がりヒッ、チリリッと小声でなき乍ら短距離を低く飛翔して再び叢に下りる。

分布 北海道及び本州高山で繁殖し冬期は中国南部・馬來諸島・印度支那半島・印度等に渡る。

105. ハシブトオオヨシキリ *Phragmaticola aëdon rufescens*
AMUR PALLAS'S REED-WARBLER

—ウグイス科—

形態 オオヨシキリに似るが嘴太く短い。嘴峰13~16%, 翼長74~80%, 尾長79~84%, 跗趾26~27%。頭上及び背は暗緑褐色。下面灰白色で胸, 脇は淡黄褐色。

生息地 シベリア南部・アムール・ウスリー・満州・北朝鮮等で繁殖し, 冬期は印度支那半島・印度等に渡来する。

分布 迷鳥として長野県でただ1回採集された事がある。

106. オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus orientalis*
(Temminck & Schlegel)
EASTERN GREAT REED-WARBLER —ウグイス科—

形態 淡褐色で地味な鳥。嘴峰17~20%, 翼長76~95%, 尾長62~78%, 跗趾26~30%。上面尾, 翼共淡褐色。黄白色の不鮮明な眉斑がある。下面は黄白色で頸側, 喉には淡褐色の縦斑が僅かにある。嘴には嘴毛がある。

生息地 各地の水辺の葦原に棲息しその数は多い。葦の茎に止まってギョッ、ギョッ、ケケシー、ケケと大きな声でなく。我国には4月下旬から5月中旬にかけ渡来して10月頃渡去す。冬期は印度支那半島・馬來諸島・印度等に渡る。

分布 北海道・本州・四国・九州で繁殖, 伊豆七島・奄美大島にも渡来する。

107. コヨシキリ *Acrocephalus bistrigiceps* Swinhoe
VON SCHRENCK'S REED-WARBLER —ウグイス科—

形態 オオヨシキリより小さく眉斑鮮明。嘴峰10~12%, 翼長50~57%, 尾長46~53%。跗趾20~22%。上面, 尾, 翼はオオヨシキリより褐色強い。眉斑は黄白色で, その上方に眉斑に沿って黒褐色の線が走る。下面は白く胸, 脇, 腹側稍黄褐色を帯びる。

生息地 本種は水辺の草原の他乾燥した高原の草原や畑地にも棲息する。北海道では平地に極めて多い。本州中部では平地と共に高原にも棲息し, 分布は局地的である。本州中部以西では旅鳥としては渡来するが繁殖の確証はまだない。オオヨシキリに似た声でケケシ、ケケシ、カチ、カチ、カチとなくが声低く且金属性を帯びる。

分布 夏鳥として渡来し北海道・本州で繁殖し, 冬期は印度支那半島・印度等に渡る。伊豆七島(大島)九州・対馬等にも旅鳥として渡来する。

108. セツカ *Cisticola juncidis brunniceps* (Temminck & Schlegel)
JAPANESE FAN-TAIL WARBLER —ウグイス科—

形態 黄褐色小形にて尾が割合に長い。嘴峰10~12%, 翼長47~57%, 尾長40~56%。

附趾19~21%。冬羽は頭上、背面黄褐色で黒褐色の縦斑がある。腰は黄褐色。尾は中央長く外側程短いのので開くと扇状になる。先端には顕著な白斑がある。下面は灰白色で脇と下尾筒黄褐色。夏羽は頭上黒褐色、背の黒褐色斑も大。

生態 本州太平洋沿岸の比較的温暖な草原に多いが、高原や河原の草原にも棲息する。草原から飛び立ちヒッ、ヒッ、ヒッとなきながら上昇し、下降に移る時にはチャッ、チャッ、チャッとの声でなく。冬期は温暖の地に漂行し本州では著しく数を減じる。

分布 本州・奄美大島・沖永良部島・喜界島で繁殖する他、伊豆七島・四国・九州・種子島・屋久島に分布する。

[PLATE 15]

109. トラツグミ

Turdus dauma toratugumi Momiyama

GOLDEN MOUNTAIN THRUSH

—ツグミ科—

形態 ツグミ類中最大。褐黄色に黒斑あり美麗。嘴峰23~30%。翼長149~166%。尾長89~155%。附趾32~39%。頭上、背は褐黄色で大形の黒色三日月形斑一面に散布する。翼と尾とは褐黄色。下面は白色で腹の中央部以外には大形の黒色三日月形斑がある。♂♀同色。

生態 北海道では平地の森林中にも繁殖するが、本州では低山帯や亜高山帯の森林中で繁殖する。北海道・本州中部以北のものは冬期は温暖な地方に漂行し、西日本では冬期平地の森林中に稀でない。また一部冬期は台湾・中国南部・馬來諸島・印度支那半島等に渡るものもある。主として密林中に棲息し、早期や夜間または曇天の日にヒー、ヒョーと低い極めて静かな声でなく。

分布 北海道・本州・四国・八丈島・屋久島で繁殖し、伊豆七島・九州・対馬・種子島・奄美大島にも渡来する。

亜種 オオトラツグミ *Turdus dauma amami* Hartert は奄美大島に限り棲息する亜種で体はトラツグミより稍大(嘴峰27~32%、翼長159~168%、尾長111~125%、附趾38~42%)で尾羽12枚(トラツグミは14枚)なる点が異なる。密林中に棲息し、その数は少ない。なき声はトラツグミとは異なり、晴天の日にビリビリーッ、キョッ、キョッと美声でなく。巣と卵についてはまだ知られていない。又キタトラツグミ *Turdus dauma aureus* Holandre は南東シベリア産の亜種であるが迷鳥として1羽が1947年1月12日茨城県多賀郡南中郷村で採集された事がある。

110. マミジロ

Turdus sibiricus davisoni (Hume)

DAVISON'S GROUND-THRUSH

—ツグミ科—

形態 ♂♀異色。♂は全体黒く、白色眉斑顯著。嘴峰19~22%。翼長117~130%。尾長85~97%。附趾27~31%。♀は上面黒褐色、眉斑は黄褐色である。下面は地色は汚白色であるが、咽、喉、腹の中央以外は黄褐色を帯び且黒褐色の三日月形斑がある。

生態 北海道及び本州の山地で繁殖するが本州中部の標高1500m前後の森林中に多い。本州中部以西からは繁殖の確証はまだない。繁殖期には高い梢に止まってチョボー、チーと美声でなく。冬期は中国南部・馬來諸島・印度支那等に渡って越冬する。

分布 北海道・本州(中部以北の山地)で繁殖し、四国・九州にも渡来する。

111. クロツグミ

Turdus cardis cardis Temminck

JAPANESE GREY-THRUSH

—ツグミ科—

形態 雄♀黒色。♂は胸以下白色である以外全体黒色。嘴峰18~21%、翼長109~121%、尾長64~82%、跗趾28~31%。眉斑はない。マミシロは嘴黒色であるが本種は黄色(秋期は黒褐色)。胸以下の白色部には粗大な黒斑がある。♀は頭上、背暗褐色、下面は地色は白色であるが、胸と脇とは黄褐色を帯び、黒褐色の斑紋が散布している。

生態 北海道では平地の森林に繁殖するもの多く本州では中部以北の低山帯で繁殖しているが垂直分布はアカハラやマミシロに比べて低い。近畿・中国地方の山でも800米前後の地には繁殖するものもあるが数は少ない。ビョイ、ビョイ、ビョイ、キョコ、キョコと笑声でなく。冬期は中国南部・印度支那等に渡って越冬する。

分布 北海道・本州・四国で繁殖し、八丈島・九州・屋久島等にも渡来する。

112. ワキアカツグミ

Turdus musicus musicus Linnaeus

REDWING

—ツグミ科—

形態 飛翔時赤褐色の腋羽が顕著である。嘴峰21~23%、翼長111~119%、尾長76~85%、跗趾29~31%。頭上、背、尾、翼は暗褐色。眉斑汚白色。下面は汚白色にて臍と腹の中央以外には暗褐色の幅広い縦斑がある。

生態 本種は元来広く欧州に分布する鳥であり、我国では迷鳥としてただ1回千葉県で採集された事があるに過ぎない。欧州では北欧で繁殖し、冬期はイギリス・欧州大陸各地・北アフリカに渡る。

分布 本州。1933年千葉県にて♀1羽が採集された。

113. カラアカハラ

Turdus pallidus Gmelin

PALE OUZEL

—ツグミ科—

形態 アカハラに似るが上面暗灰色。嘴峰18~22%、翼長110~122%、尾長74~89%、跗趾29~32%。喉、上胸は淡灰色、下胸、脇、腋羽は濃い灰色である。腹部中央と下尾筒とは白。♀は臍、喉の縦斑がより顕著。胸は白く褐色の縦斑がある。

生態 本種はシベリア東部・満洲等で繁殖し、冬期は中国南部・印度支那等に渡る。朝鮮には渡りの時に渡来するもの稀でないが、我国では迷鳥としてただ1回採集された事があるに過ぎない。

分布 本州。1890年石川県にて♀1羽が採集された。

114. シロハラ

Turdus pallidus Gmelin

PALE OUZEL

—ツグミ科—

形態 暗緑褐色の地味な鳥である。嘴峰19~22%、翼長116~134%、尾長84~98%、跗趾29~33%。♂は頭上、顔、喉は灰黒色で背は暗緑褐色。胸以下の下面は汚白色で脇は淡褐色である。♀は頭上も背と同じ暗緑褐色。下面臍、喉は白く淡褐色の縦斑がある。胸と脇とは淡褐色で他は白。♂の幼鳥は♀に似ている。

生態 ウスリー河流域、満洲等で繁殖し、秋期我國にも多数渡来して越冬する。冬期は薄暗い灌木林中に棲息し、キョツ、キョツと甲高い声でなく。朝鮮でも少数繁殖。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・種子島・屋久島・奄美大島



109. トラツグミ



110. マミジロ



♀

マミジロ



111. クロツグミ



♀

112. ワキアカツグミ



113. カラアカハラ



♀

114. シロハラ



115. マミチャジナイ



117. アカコッコ



116. アカハラ



118. ツグミ



118.a
ハチジョウツグミ



119. インヒヨドリ



♂ 幼鳥

115. マミチャジナイ

Turdus obscurus obscurus Gmelin

GREY-HEADED THRUSH

—ツグミ科—

形態 アカハラに似るが白色の眉斑が顕著。嘴峰17~20%。翼長115~130%。尾長81~93%。跗趾29~33%。上面暗緑褐色、頭上は稍黒味を帯びる。眼先黒、眉斑白色。腮と下嘴の基部白く、顔、喉、頸側は黒。以下の下面は暗灰色にて腹の中央と下尾筒とは白色。♀は頭上も背と同色、喉は白く暗緑褐色の縦斑走る。♂の幼鳥は♀に似ているが喉の白色部は♀より狭く、縦斑は一回多い。

生態 シベリア東南部・満州・ウスリー地方で繁殖し、秋期シロハラ、ツグミ等と共に多数のものが日本海を横切り北陸地方に渡来する。我国でも稀に富士山の低山帯の森林中で繁殖すると報ぜられている。冬期は中国南部・馬來諸島・印度支那半島等に渡るが、稀に冬期我国にて採集される事もある。習性はアカハラに似ている。

分布 富士山麓で少数繁殖する他、北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・種子島等に渡来する。夏期北海道大雪山でも採集された事もあるが繁殖の確証はない。

116. アカハラ

Turdus chrysolaus chrysolaus Temminck

JAPANESE BROWN-THRUSH

—ツグミ科—

形態 前種に似るが眉斑を欠く。嘴峰17~22%。翼長113~128%。尾長77~93%。跗趾28~33%。♂は上面、顔、喉暗緑褐色で胸と腹側とは美しい灰色。♀は上面の色♂よりも稍淡く、腮と喉とは白色で淡緑褐色の細い縦斑がある。胸と腹側との灰色も♂よりも稍淡い。♂の幼鳥は♀に似て腮と喉白く縦斑があるが縦斑は♀よりも密である。

生態 我国で繁殖するツグミ類中最も普通の種類である。北海道では平地、山地の森林中で、又本州では中部以北の低山帯から亜高山帯下部にかけて多数繁殖しているが西日本からは繁殖の確証はない。冬期は関東地方にも少数見られるが多くは西南日本の温暖地に渡り又一部は琉球・台湾・中国南部・フィリピン等に渡る。繁殖期にはキョロン、キョロン、ジーと美声でなく。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・種子島・屋久島・奄美大島

亜種 オオアカハラ *Turdus chrysolaus orii* Yamashina は千島で繁殖する亜種で、冬期は本州・伊豆七島（大島）にも渡来する。アカハラより一般に色濃く且稍大。

117. アカコッコ

Turdus celanops celanops Stejneger

SEVEN ISLANDS THRUSH

—ツグミ科—

形態 アカハラに類似するが頭部と尾とが黒色。嘴峰20~23%。翼長110~129%。尾長80~98%。跗趾30~36%。♂は頭部全体と後頸黒、背は赤褐色。胸以下の下面は濃い灰色で腹の中央のみ白。♀は頭上、顔、後頸黒褐色にて腮、喉は灰白色と黒褐色との縦斑となっている。胸と腹との灰色は♂よりも淡く、腹の中央の白色部♂より広い。♂の幼鳥は頭上、後頸は赤味を帯びた黒色。尾は成鳥程黒くない。腮、喉は白と赤味を帯びた黒色との縦斑となっている。

生態 伊豆七島特産の種類でその数は多い。海岸から山頂に到る迄全島の森林中に周年棲息繁殖している。なき声、習性はアカハラに類似している。

〔分布〕 伊豆七島のうち大島・利島・新島・式根島・神津島・三宅島・青ヶ島・御蔵島・八丈島に分布するが、大島には冬期に渡来する。稀に本州（東京都・長野県・静岡県、三重県）で採集されたことがある。

〔亜種〕 ヤクシマアカコッコ *Turdus celanops yakushimensis* (Ogawa) は屋久島に棲息する亜種であるが稀。アカコッコより一般に色濃く且稍大。

118. ツグミ

Turdus naumanni eunomus Temminck

DUSKY THRUSH

—ツグミ科—

〔形態〕 極めて普通な冬鳥。嘴峰19~20%、翼長122~137%、尾長81~96%、跗蹠29~34%。上面黒褐色と赤褐色との斑、尾は黒。黄白色の顕著な眉斑がある。耳羽は黒。喉と喉とは黄白色で黒褐色斑がある。胸は黒色、腹は白く、腹側には黒色や黒褐色の斑がある。♀は上面♂よりも灰色を帯び、胸、腹側の斑点も♂程顕著でない。幼鳥は老鳥に比し一般に淡色にて、殊に胸の黒帯は不明瞭である。

〔生息〕 シベリア東南部・ウスリー・カムチャッカ・北緯太等で繁殖し、秋期大群をなして日本海を渡り北陸地方に渡来する。別に韓太・千島から北海道を経由して日本列島を南下するもの、又日本海を越え山陰地方に渡来するものもある。冬期北海道・本州中部以北には少ないが、本州中部以南では農耕地や市街の邸園等にも来るもの多い。又冬期中国南部・印度北部に渡るものもある。春期の渡りは秋期の様に顕著ではない。

〔分布〕 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・奄岐・対馬・種子島・屋久島

〔亜種〕 ハナジョウツグミ *Turdus naumanni naumanni* Temminck はツグミよりも稍北方で繁殖し冬期は蒙古・中国・瀋州・朝鮮等に多数渡来するが、我国にもツグミの群に混じって少数渡来する。本種は上面はツグミに似るが眉斑は赤褐色、下面喉、胸、腹側及び尾も赤褐色を呈している。

119. イソヒヨドリ

Monticola solitarius magnus (La Touche)

LARGE RED-BELLIED ROCK-THRUSH

—ツグミ科—

〔形態〕 ♂は暗青色と濃栗色との配色美しい鳥。嘴峰21~25%、翼長115~129%、尾長70~89%、跗蹠28~33%。♂は頭部、背、上胸一様に美しい暗青色にて下胸以下の下面は濃栗色で少量の黒褐色と黄白色との横斑が散在する。♀は♂と色彩を全く異にし、頭上、後頭は黒灰色、背は黒灰色で稍青味を帯びている。背には不明瞭な黒色の横斑がある。下面は灰黄色で黒褐色斑が一面に散在する。♂の幼鳥は上面、喉、上胸は♀に似て稍暗青色の羽毛を混じえ、下胸の栗色は♂成鳥より淡く横斑も多い。

〔生息〕 本種は海岸や島嶼の岩礁等に棲息して居り、時には海浜に近い森林や漁村等でも見られる。ツツ、ピーコーと美しい声でなく。北海道のものは冬期本州以南に渡行するが、其他の地方では留鳥として周年棲息繁殖する。

〔分布〕 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・奄岐・対馬・種子島・屋久島・奄太大島・喜界島・徳之島等に棲息する。

[PLATE 17]

120. イナバヒタキ

Oenanthe isabellina (Temminck)

ISABELLINE WHEATEAR

—ツグミ科—

形態 砂褐色にて腰白く、尾の黒いのが飛翔時に特に顕著である。嘴峰14~17%、翼長94~106%、尾長56~61%、跗蹠29~33%。頭上及び背は砂褐色にて上尾筒と尾の基部とは白く尾の先半分は黒。眉斑黄白、過眼線は暗黄褐色。下面は淡黄褐色にて胸は稍濃い。♂♀酷似。

生息地 シベリア東部・蒙古・満州・中国北西部・チベット・裏海・イラン・トルコ等に分布する種類であり、我国からは迷鳥としてただ1回採集されたに過ぎない。草の粗生する高原等に棲息する。

分布 本州（鳥取県にて春期（1905~1910）♂1羽採集された事がある。）

121. ノビタキ

Saxicola torquatus stejnegeri (Parrot)

JAPANESE STONECHAT

—ツグミ科—

形態 夏羽の♂は頭部黒く、栗色の胸は翼の白紋と共に著しく目立つ。嘴峰10~12%、翼長63~71%、尾長42~55%、跗蹠21~24%。背、尾、翼黒く頸側と上尾筒とは白。♀は上面黒褐色と黄褐色との斑にて上尾筒は黄褐色。下面脚、喉は淡黄褐色にて胸の栗色は♂に比べ淡い。冬羽の♂は♀に似るが上面それより稍赤褐色を帯びる。上尾筒は栗色となり、胸部の栗色も♀より濃い。

生息地 北海道では海岸に近い草原にも多数繁殖するが、本州では主として中部以北の高原で繁殖する。春秋の渡りの際には平地の稲田や水辺の草原等に渡来するものも多い。冬期は中国南部・印度支那・印度等に渡って越冬する。

分布 北海道・本州で繁殖し、伊豆七島・四国・九州・対馬・種子島・屋久島にも渡来する。

122. ルリビタキ

Erithacus cyanurus cyanurus (Pallas)

SIBERIAN BLUE-TAIL

—グミツ科—

形態 ♀は暗青色で美しい。嘴峰10~11%、翼長73~84%、尾長52~63%、跗蹠21~24%。♂は頭上、顔、背は暗青色にて白色眉斑顕著。下面は白く脇は橙黄色。♀は♂の暗青色の部分は何れも暗緑色で上尾筒稍青味を帯びる。♂の幼鳥は♀に似る。

生息地 北海道及び本州の亜高山帯の森林中で多数繁殖している。ビョロロ、ビョロロ、ビチュ、ビチュ、ビーとなく。冬期は平地にも銀行し市街地の庭園にも渡来し、体を前方に振ってクワツ、クワツとなき、またヒツ、ヒツともなく。

分布 北海道及び本州の亜高山帯で繁殖し、冬期は本州中部以南・伊豆七島・四国・九州・岩手・対馬・種子島・奄美大島等に渡来する。

123. ジョウビタキ

Phoenicurus auroreus auroreus (Pallas)

DAURIAN REDSTART

—ツグミ科—

形態 ♀は胸以下美しい栗茶色で翼の白紋が目立つ。嘴峰11~14%、翼長66~77%、尾長56~67%、跗蹠21~23%。♂は頭上、上背は栗色。後背、翼、中央尾羽、額、顔、脚、喉は黒、上尾筒と他の尾羽とは栗色。♀は上面灰褐色下面淡褐色である。

生息地 シベリア南部・満州・中国北部・朝鮮等で繁殖し、秋期我国に多数渡来越冬する。山麓や市街地の庭園等各地に普通で、尾を上下に振りヒツ、ヒツとなく。

分布 冬鳥として北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・奄岐・対馬・種子島・屋久島・奄美大島等に渡来するが、北海道と本州中部以北には少ない。

124. ノゴマ *Erithacus calliope calliope* (Pallas)

RUBY-THROAT

ツグミ科

形態 嘴は喉紅色で美しい。嘴峰12~16%, 翼長70~78%, 尾長50~62%, 跗跖27~31%。上面灰褐色、頭上は稍暗色。眼先は黒く白色の眉斑と頬線とがある。腮、喉の両側は黒く中間の鮮紅色部分は稍三角形に広がっている。胸以下の下面は灰褐色で下方に移るに従い淡い。♀は上面黄褐色、眉斑白色、頬線を欠き腮、喉は白色である。

生態 繁殖期には♂は巣の付近の灌木の頂に止まってチュル、チュル、チュルリと美声でなき紅色の喉が顕著であるが、♀は常に灌木叢林の中を潜行しているので目に止まることが少ない。北海道では標高に関係なく海岸や高山の草原で繁殖す。冬期は中国南部・フィリピン・印度支那等に渡る。渡りの時には市街地の庭園にも渡来する。

分布 北海道で繁殖し、旅鳥として本州・九州・対馬・種子島・屋久島・奄美大島に分布。

亜種 オオノゴマ *Erithacus calliope camtschathensis* (Gmelin) はカムチャッカ及び千島で繁殖し、旅鳥として北海道・本州も渡来する。

125. コマドリ *Erithacus akahige akahige* (Temminck)

JAPANESE ROBIN

ツグミ科

形態 地味な鳥であるが美声。嘴峰12~15%, 翼長71~79%, 尾長49~56%, 跗跖27~31%。上面暗赤褐色。額、顔、腮、喉、上胸は橙黄褐色。下胸部はスレート色で腹は白色。♀は上面より暗緑褐色を帯び、顔、喉は黄褐色。胸も暗緑褐色を帯びる。

生態 日本列島特産種。亜高山帯の深い森林中で繁殖し、ヒン、カラ、カラ、カラッ……と甲高い美声でなくが、深い森林中を潜行しているためあまり目に止まらない。冬期は南日本の温暖地に渡り越冬するが、一部は中国南部・台湾にも渡去する。冬期も少数は本州中部以南の太平洋沿岸の温暖地の鰲原には残留するらしい。

分布 北海道・本州・四国で繁殖し、九州・伊豆七島の大島・利島にも渡来する。

亜種 タネコマドリ *Erithacus akahige tanensis* (Kuroda) は伊豆七島の神津島から八丈島まで分布し、ヤクコマドリ *Erithacus akahige kobayashii* Momiyama は屋久島に棲息する亜種である。

126. アカヒゲ *Erithacus komadori komadori* (Temminck)

TEMMINCK'S ROBIN

ツグミ科

形態 姿はコマドリに似るが、♂は上面濃暗赤色で美麗。嘴峰12~16%, 翼長72~79%, 尾長42~51%, 跗跖26~28%。額、眼先、頬、腮、喉、胸は漆黒にて以下の下面は白く脇に黒斑あり。♀は上面赤褐色、下面は黒色を欠き灰鼠色と白との斑で腹の中央は白。

生態 琉球列島特産種。奄美大島の深い山中に多産す。溪流に沿って棲息することが多い。ピッ、ピルルルルと高らかな美声でなくが、密林中の地上近くの枝をわたり歩くのでその姿を見る事は容易でない。コマドリと共に飼鳥として珍重されている。

分布 奄美大島の他トカラ群島・種子島・徳之島にも周年棲息繁殖している。

120. イナバヒタキ



121. ノビタキ



夏羽 ♂

ノビタキ



冬羽 ♂

夏羽 ♀



122. ルリヒタキ



124. ノゴマ



123. ジョウヒタキ



125. コマドリ



126. アカヒゲ

128.
シマゴマ



127.
オガワコマドリ



コルリ
♀ 幼鳥



129.
コルリ



♂

132.
カヤクグリ



131.
ヤマヒバリ



130.
イワヒバリ



133.
ミンサザイ



134.
カワガラス



成鳥

幼鳥

127. オガワコマドリ *Erithacus svecica weigoldi* (Kleinschmidt)
WEIGOLD'S RED-SPOTTED BLUE-THROAT ツグミ科一

形態 首は喉から上胸にかけ青、栗色、白、黒の配色美麗。嘴峰12~13%、翼長70~75%、尾長51~52%、跗蹠26~28%、上面灰褐色で黄白色の眉斑がある。腮、喉、前頸は三角形に美しい青色で、中央に栗色斑紋のあるものもある。上胸には黒、白、栗色の三帯があり、以下の下面は帯褐色汚白色。冬羽は青色三角形斑殆ど消失する。♀は喉から上胸にかけ黄白色で上胸に黒褐色斑があり、♂の美麗色を欠く。

生態 本種は元来満州・中国に棲息し、我国では迷鳥としてただ3回採集されたのみ。

分布 本州（静岡県、1906年12月9日1♂、埼玉県、1956年2月25日1♀、兵庫県、1960年3月1日1♂）

128. シマゴマ *Erithacus sibilans* (Swinhoe)
SWINHOE'S RED-TAILED ROBIN ツグミ科一

形態 暗褐色の地味な鳥。嘴峰11~13%、翼長63~74%、尾長44~53%、跗蹠22~26%、上面暗褐色で尾は赤褐色。下面は汚白色で喉、胸には淡褐色の波状斑がある。

生態 シベリア南部・蒙古、満州北部・樺太等で繁殖し、冬期は中国南部・印度支那等に渡る。我国には春秋の渡りの際に稀に出現するにすぎない。深い叢林中を潜行し、渡りの時にはあまり声を発しないので、その姿を見ることは容易でない。

分布 稀に北海道・本州・四国等に渡来する。

129. コルリ *Erithacus cyane* (Pallas)
PALLAS'S BLUE ROBIN ツグミ科一

形態 首は上面青色、下面白色で美麗。嘴峰11~14%、翼長69~80%、尾長42~52%、跗蹠24~28%、上面の暗青色と下面の白色とを区切る眼先、眼の下、頬、耳羽は幅の広い黒帯となっている。♀は上面は尾に至るまでオリーブ色。下面は白色で腮と胸とにオリーブ色の波状斑あり、脇もオリーブ色を帯びる。♂の幼鳥は♀に似るが、背、腰、尾は暗青色を帯びる。

生態 夏期本州中部の山地には多数繁殖する。標高800mから1500m辺りの密林中に多く、ビュリ、ビュリ、ビルルルルと甲高い美声でなく。密林中の下枝をわたり歩くのでその姿を目にすることは少ない。夏期四国・九州にも棲息するらしいが、本州中部以西の山地からはまだ繁殖の確認はない。北海道では山地に繁殖するがその数は本州中部ほど多くなく、垂直分布は幾分低い。冬期は中国南部・印度支那半島に渡って越冬するが、渡りの際には市街地の庭園等にも渡来す。

分布 北海道・本州・伊豆七島（青ヶ島）・四国・九州。

130. イワヒバリ *Prunella collaris erythropygia* (Swinhoe)
NORTH CHINA ALPINE ACCENTOR イワヒバリ科一

形態 高山に棲息。黒褐色でヒバリより稍大。嘴峰13~15%、翼長95~107%、尾長

63～71%, 跗趾22～26%, 頭上, 背は黒褐色で腹は赤褐色。翼は黒く白斑あり, 尾は黒く先端に赤褐色斑がある。下面顴, 喉, 上胸は灰鼠色で顴と喉とには微小な白色横斑が密布する。以下の下面は濃い栗茶色で僅かに白色縦斑がある。♂♀同色。

生態 夏期は本州中部以北の高山の高山帯に多数繁殖している。岩石の豊饒した地に多く, 山小屋の周囲の盛捨場等にて啄食しあまり人を恐れない。細い美しい声でチヨ, チヨ, チヨとなく。冬期は数羽の群となって標高の低い山麓に漂行する。

分布 本州の高山にて繁殖し, 冬期は山麓に漂行して越冬する。

131. ヤマヒバリ *Prunella montanella badia* Portenko
CHINESE MOUNTAIN HEDGE-SPARROW イワヒバリ科—

形態 淡黄褐色の縞斑濃著。嘴峰10～12%, 翼長65～78%, 尾長52～71%, 跗趾18～21%。頭上黒褐色, 背は栗色を帯び腹と尾とは暗褐色。翼には細い黄白色帯がある。眼先, 頬, 耳羽は黒褐色, 下面顴, 喉, 上胸は眉斑と同じ淡黄褐色であり以下の下面は淡く, 脇は淡黄褐色である。♂♀同色。

生態 シベリア東部に繁殖し, 満州・中国北部・朝鮮等に渡来する。我国には秋から冬にかけて極めて稀に渡来するに過ぎない。冬期朝鮮では人里近くにも稀でなく灌木叢林や溝端の草間を潜行して居りあまり人を恐れない。

分布 北海道(札幌)本州(秋田県・岩手県・長野県・鳥取県等で採集された。)

132. カヤクグリ *Prunella rubida rubida* (Temminck & Schlegel)
JAPANESE HEDGE-SPARROW イワヒバリ科—

形態 暗褐色の地味な鳥。嘴峰12～13%, 翼長66～71%, 尾長53～60%, 跗趾20～22%。頭上, 後頸は黒褐色, 背は赤褐色で黒褐色の縦斑がある。耳羽は黒褐色で微小な黄白色斑がある。下面は灰鼠色で顴と喉とは黒褐色を帯びる。♂♀同色。

生態 日本列島特産種。亜高山帯上部のオオシラビソ, コメツガの森林や高山帯のハイマツ, ウラジロナナカマド等の灌木林で多数繁殖している。細い声でティー, ティー, チリ, チリとなく。冬期は低地に漂行し暖温な地方の叢林中には稀でない。

分布 本州の高山で繁殖し, 冬期は本州の平地・伊豆七島・四国・九州等に渡来する。

生態 エゾカヤクグリ *Prunella rubida fervida* (Sharpe) は北海道の高山や南千島諸島で繁殖する亜種である。

133. ミソサザイ *Troglodytes troglodytes fumigatus* Temminck
JAPANESE WREN ミソサザイ科—

形態 極く小形で褐色。尾は短かい。嘴峰10～13%, 翼長45～54%, 尾長27～38%, 跗趾16～19%。上面は茶褐色で背以下尾に至る迄黒色の小さな横縞がある。眉斑は黄褐色で不明瞭。下面は上面より稍淡く下胸部以下には上面と同様の横縞が密在する。

生態 夏期亜高山帯の森林中に多いが, 低山帯で繁殖するものもある。登山道や溪流

に沿って棲息するものが多い。短い尾を立てて岩角や切株の上に止まりチョロチョロと高らかに美声でなく。冬期には山麓地方に漂行し小川沿いの叢林や人家の生垣等にも渡来し、チョツ、チョツとなき下ら叢を潜行する。

分布 北海道・本州・伊豆七島（大島）・四国に棲息繁殖する。

亜種 モスケミソサザイ *Troglodytes troglodytes mosukei* Momiyama は伊豆七島の神津島・新島・三宅島・御蔵島・八丈島に棲息する亜種である。ツシマミソサザイ *Troglodytes troglodytes utanoi* Kuroda は九州本土（福岡県・長崎県・宮崎県・鹿児島県）及び奄美・対馬に棲息し又オガワミソサザイ *Troglodytes troglodytes ogawae* Hartert は種子島・屋久島に棲息する亜種である。又迷鳥としてチョウセンミソサザイ *Troglodytes troglodytes peninsulæ* (Clark) 1羽が1935年12月島根県浜田港馬島で採集された事がある。

134. カワガラス

Cinclus pallasii hondoensis Momiyama

PALE PALLAS'S DIPPER

—カワガラス科—

形態 渓流沿いに棲み全体黒。尾は短い。嘴峰19~23%, 翼長95~103%, 尾長54~68%, 跗蹠27~30%, 全体黒色であるが、背と下面とは稍赤褐色を帯びている。眼の上と下とに小さな白斑がある。

生態 山間の渓流に沿って棲息し、一番宛の領域を有し常に領域内で生活する。岩角に止まり尾を立て、ビツ、ビツとなく。時々水中に飛び込み、水底を歩いて啄食するが、上から見ると体は気泡に包まれ銀色に見える。飛翔は水平で水面を低く飛ぶ。

分布 北海道・本州・四国・九州・屋久島等に周年棲息繁殖する。

[PLATE 19]

135. ツバメ

Hirundo rustica gutturalis Scopoli

EASTERN HOUSE-SWALLOW

—ツバメ科—

形態 尾が長く燕尾状である。嘴峰7~10%, 翼長105~120%, 尾長68~100%, 跗蹠9~11%, 頭上、背は光沢ある藍黒色。額、腮、喉栗色にて上胸には黒帯がある。翼は黒色にて長く、嘴は扁平な三角形で大きく開き飛翔中の昆虫を捕食するのに適す。

生態 我国には春期渡来して、各地の人家の軒にて繁殖する事はよく知られている。冬期は印度・印度支那半島・馬來諸島・濠洲北部にまで渡るが、少数のものは本州にても越冬している所がある。越冬地としては浜名湖畔、京都桂川流域、千葉県東金等がよく知られている。その他四国・九州にも越冬するものがあるらしい。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州等で繁殖し、旅鳥として対馬・屋久島・喜界島等にも渡来する。

亜種 アカハラツバメ *Hirundo rustica mandchurica* Meise はシベリア東南部・満州・中国等に分布するが、我国では迷鳥として青森県・鹿児島県・福岡県・八丈島で採集された。

136. リュウキュウツバメ *Hirundo tahitica namiyei* (Stejneger)

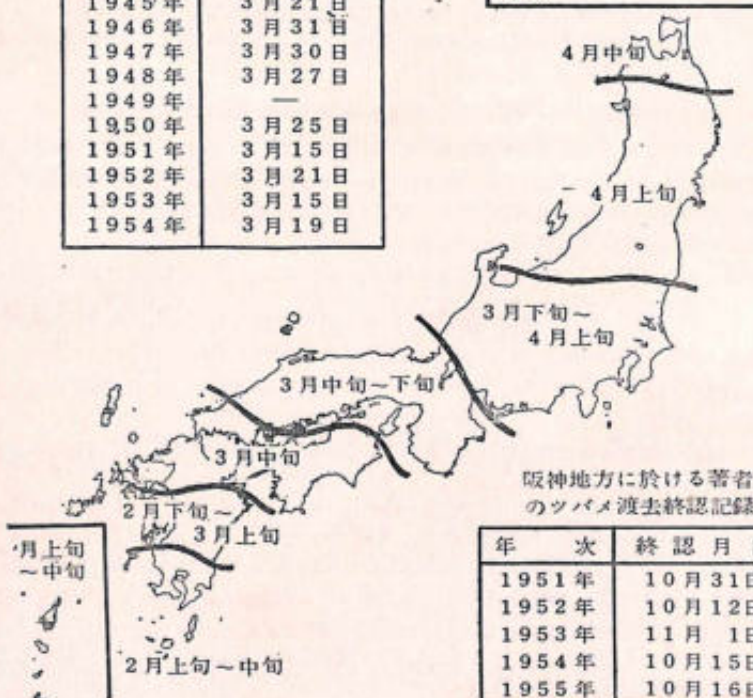
RIU KIU BUNGALOW SWALLOW —ツバメ科—

形態 ツバメに似るが尾短く下面褐色。嘴峰7~9%, 翼長108~113%, 尾長46~54%, 跗蹠10~11%, 頭上、背は光沢ある藍黒色。額と喉とは栗色。胸は褐色にて下方に移るに従い淡色となる。

ツバメの渡来期

阪神地方に於ける著者の
ツバメ渡来初認記録

年 次	初 認 月 日
1941 年	3 月 16 日
1942 年	3 月 21 日
1943 年	3 月 7 日
1944 年	3 月 24 日
1945 年	3 月 21 日
1946 年	3 月 31 日
1947 年	3 月 30 日
1948 年	3 月 27 日
1949 年	—
1950 年	3 月 25 日
1951 年	3 月 15 日
1952 年	3 月 21 日
1953 年	3 月 15 日
1954 年	3 月 19 日



阪神地方に於ける著者の
ツバメ渡去終認記録

年 次	終 認 月 日
1951 年	10 月 31 日
1952 年	10 月 12 日
1953 年	11 月 1 日
1954 年	10 月 15 日
1955 年	10 月 16 日

生息地 奄美大島以南の琉球列島に留鳥として周年棲息し、習性はツバメに類似。人家の軒に営巣する事が多いが、洞穴の奥に構築する事もある。台湾にも棲息する。

分布地 奄美大島・徳之島・喜界島

157. コシアカツバメ *Hirundo daurica japonica* Temminck & Schlegel
JAPANESE STRIATED SWALLOW —ツバメ科—

生息地 ツバメに似るが稍大。腹赤褐色にて、下面に黒褐色の縦斑ある事により容易に区別出来る。嘴長8～9%, 翼長110～126%, 尾長85～112%, 跗蹠12～13%, 頭上と背とはツバメと同色。頸側赤褐色。

生態 我国には春はツバメより稍遅く渡来する。本州中部以北には稀であるが、西日本には多い。高層建築物に集団にて営巣することが多い。冬期は中国南部・ビルマ等に渡って越冬するが、年により伊勢市付近や姫路付近には少数越冬するものもある。

分布 本州（主として中部以西）・四国・九州等で繁殖し、伊豆七島（八丈島）・屋久島にも渡る。

138. イワツバメ

Delichon urbica dasypus (Bonaparte)

JAPANESE HOUSE-MARTIN

—ツバメ科—

形態 ツバメより小さく臍白く尾短い。嘴峰6~8%, 翼長102~111%, 尾長42~49%, 跗蹠8~11%, 頭上と背とはツバメと同色。下面は白色で喉と上胸と臍とは汚白色。

生態 春期ツバメと同じ頃渡来する。北海道・本州北部では平地にも多数繁殖する。本州中部では高山の頂に近い岩壁に営巣するものが多いが近來は標高の低い地にも分布の低下してくる傾向があり、長野市や松本市には多数営巣している。中国地方では海岸の岩壁、山間の村落、伯耆大山等に多数繁殖し、九州でも海岸の岩壁で繁殖する。人家に営巣するものは密集して巣を作る。冬期は中国南部・馬來諸島等に渡るが少数のものは冬期も我国に残留する。越冬地として知られているのは島根半島・大分県日田市・熊本県 神瀬等であるが之等以外にもあると思われる。

分布 北海道・本州・九州で繁殖、伊豆七島にも渡来する。

139. ショウドウツバメ

Riparia riparia ijimae (Lönnerberg)

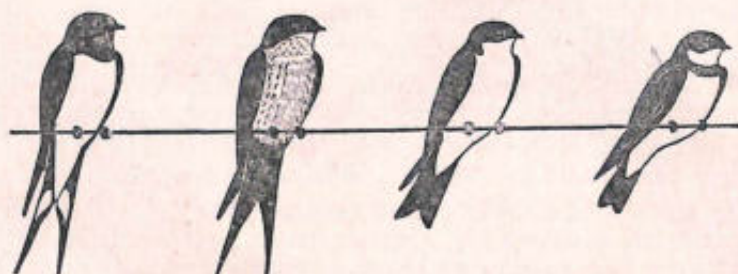
EASTERN SAND-MARTIN

—ツバメ科—

形態 イワツバメより一層小さく灰褐色。嘴峰6~8%, 翼長98~110%, 尾長50~56%, 跗蹠10%, 上面灰褐色、下面は白く胸に灰褐色帯がある。

生態 我国には春期渡来し、北海道では河川に沿った砂層の断層に集団営巣している所が各所にある。本州北部（秋田県）でも繁殖するが中部以西では渡りの時に観察されるだけである。大阪湾・琵琶湖付近には毎年10月上・中旬頃少数渡来するが春期の渡りは明かでない。本種の渡りの主要経路は大陸から直接北海道に到るものと思われる。冬期は中国南部・フィリピン等に渡る。飛翔時は著しく褐色に見える他のツバメ類より著しく小さい。

分布 北海道・本州北部で繁殖し、旅鳥として本州中部・八丈島にも渡来する。



ツバメ

コシアカツバメ

イワツバメ

ショウドウツバメ

140. ヤイロチョウ *Pitta brachyura nympha* Temminck & Schlegel
FAIRY PITTA —ヤイロチョウ科—

形態 極めて美麗且稀な鳥。嘴峰22~25%。翼長113~127%。尾長35~42%。跗蹠38~42%。嘴は太く尾は短かい。頭上は茶褐色で太い黒色の頭尖線がある。後頭黒く背は光沢ある暗緑色で上尾筒は光沢あるコバルト色。尾は黒色で先端青色。眉斑は黄白色で細くその下方の幅の広い黒色過眼線は後方に延び後頭の黒色部に連なる。小兩翼は光沢あるコバルト色。初列風切は黒く中央に白斑がある。下面肥、喉は白。胸以下黄褐色で腹の中央から下尾筒にかけ鮮紅色である。♂♀同色。

生態 台湾の山地では繁殖するもの散見して稀でないが、我国には夏期極めて少数渡来するに過ぎない。四国・九州では繁殖もするが、繁殖の確認されたのは高知県だけである。深い森林中に棲息しており、且警戒心強く中々人に姿を見せない。♂は高い声でシロベン、クロベンまたはホホベン、ホホベンと聞こえるなき方をするが、♀は低い声でクイー、クイーとなく。冬期は印度支那・馬來諸島等に渡去する。

分布 夏鳥として本州(福井県・長野県・栃木県・静岡県・和歌山県・愛知県・広島県・鳥取県・島根県)・四国(高知県)・九州(福岡県・熊本県・鹿児島県)・対馬等に渡来す。

141. アマツバメ *Apus pacificus kurodae* (Domaniewski)
KURODA'S WHITE-RUMPED SWIFT —アマツバメ科—

形態 ツバメに似て大。翼は著しく長い。嘴峰6~8%。翼長170~184%。尾長72~85%。跗蹠10~12%。頭上、背は黒褐色で腰は白色。尾は燕尾状で光沢ある黒色。下面肥、喉は白く細い黒色縦斑がある。胸以下は黒色で白色の横斑が散在している。

生態 我国には夏鳥として渡来する。標高に関係なく高山の頂上付近から海岸に到るまで岩壁のある所に繁殖する。冬期は中国南部・印度支那・馬來諸島・印度から濠洲にまでも渡来して越冬する。チリー、チリーとなきながら鋭状の翼を張って高空を飛行する。近くをかすめ飛ぶ時にはヒューと凄まじい羽音がする。

分布 本州・四国・伊豆七島・徳之島等で繁殖し、種子島・屋久島等にも渡来する。

分類 キタアマツバメ *Apus pacificus pacificus* (Latham) は北海道にて繁殖する亜種である。

142. ハリオアマツバメ *Chaetura caudacuta caudacuta* (Latham)
NEEDLE-TAILED SWIFT —アマツバメ科—

形態 アマツバメに似て翼一層長く、尾は短い。嘴峰8~9%。翼長196~219%。尾長47~54%。跗蹠16~18%。頭上、後頭は光沢のある藍黒色。背は淡褐色。尾は光沢ある藍黒色で角尾。尾羽の羽軸の先端は針状になって羽端から突出している。下面肥、喉は白く胸、腹は煙黒色。下尾筒は白。三列風切には白斑がある。

生態 我国には夏鳥として渡来す。北海道では平地にも多数棲息するが、本州では渡りの時以外は高山にのみ棲息する。飛行時翼の幅広いことと尾の著しく短いことにより容易にアマツバメと区別することができる。飛行中ジュリリ……とアマツバメより濁った声でなく。冬期は濠洲・タスマニアにまで渡って越冬する。

分布 北海道・本州で繁殖し、九州・対馬・伊豆七島にも渡来する。

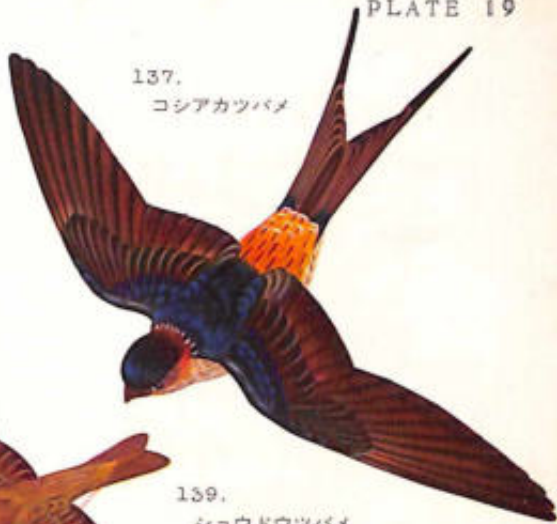
135.
ツバメ



136.
リュウキュウ
ツバメ



137.
コシアカツバメ



139.
ショウドウツバメ



138.
イワツバメ



140.
ヤイロチョウ



142.
ハリオアマツバメ



141.
アマツバメ



143. ヨタカ



144. ヤツガシラ



145. ブッポウソウ



146. ヤマセミ



148. ヤマショウビン



149. アカショウビン



147. カワセミ



143. ヨ タ カ *Caprimulgus indicus jotaka* Temminck & Schlegel
JAPANESE JUNGLE NIGHTJAR —ヨタカ科—

形態 ハト大、全体黒褐色の地味な鳥。嘴は扁平で幅が広い。嘴峰8~13%、翼長202~224%、尾長117~146%、跗蹠15~18%。上面は黒褐色で、不規則な黒色縦斑があり頭中央部では特に顕著。尾も同色で黒色の横斑があり、中央のもの以外には尾端に近く大きな白斑がある。翼の中央にも大きな白斑があつて飛翔時目立つ。下面も上面と略同様であるが、喉に大きな白紋がある。脚は短い。嘴の縁には剛毛がある。

生態 我国には夏鳥として渡来する。昼間は森林中に棲み、夕方から夜間活動する。キョッ、キョッ、キョッとなき乍ら低空を飛翔して昆虫類を捕食する。幅の広い嘴と嘴縁の剛毛とはこの習性に適応した形態である。昼間樹枝に止まる時は体を枝に平行にして腹部を枝につけ隠れている。冬期は中国南部・印度支那半島・馬來諸島等に渡る。

分布 北海道・本州・四国で繁殖し、伊豆七島・九州・対馬等にも渡来する。

144. ヤツガシラ *Upupa epops saturata* Lönnerberg
TIBETAN HOOPOE —ヤツガシラ科—

形態 淡赤褐色、白、黒の配色美しい鳥で長い羽冠顕著。嘴峰49~59%、翼長140~157%、尾長93~110%、跗蹠21~24%。頭上、背は淡赤褐色で後頭の羽毛は長い羽冠をなし先端黒。尾は黒く幅広い白帯があり、翼も黒く幅広い四条の白帯がある。飛翔時には之等白帯は極めて顕著。下面は胸迄は背と同色で以下は白。嘴は細長い。

生態 元來蒙古・満州・中国・朝鮮等で繁殖する種類であり、我国には稀に迷鳥として渡来するに過ぎない。知地等の地上に下りて啄食する事が多く、稻叢等の頂に止まって羽冠を逆立てる。ボウ、ボウ、ボウとツツドリに似た低い声でなくが遠方迄よく聞こえる。飛翔時には羽冠は倒して居るが頭、背が著しく赤褐色に見え、且両翼の白帯は下背と頰とに於いて連結し、尾の白帯と共に著しく目立つ。冬期は中国南部・印度支那・印度等に渡る。

分布 北海道(函館・札幌)本州(青森県・愛知県・三重県・和歌山県)四国(徳島県)九州(福岡県)対馬・種子島・徳之島等で採集された事がある。

145. ブッポウソウ *Eurystomus orientalis abundus* Ripley
CHINESE BROAD-BILLED ROLLER —ブッポウソウ科—

形態 嘴と脚とは赤く体青緑色で極めて美麗な鳥。嘴峰21~27%、翼長183~198%、尾長89~103%、跗蹠17~20%。頭上、後頸は藍黒色で以下の背面は濃青緑色。尾は黒。初列風切は黒いが外弁は青味を帯び、中央にコバルト色の大きな斑紋がある。下面は藍黒色で以下は上面と同じ濃青緑色。

生態 我国には夏鳥として渡来するが、局地的な鳥でありその数はあまり多くない。山地の針葉樹の巨木のある所に好んで棲息する。ゲッ、ゲッ、ゲッとなき笑声ではない。

ヤツガシラ



ブッポウソウ



ヨタカ



カワセミ



高い樹枝に止まり舞い上がって付近を飛翔する昆虫類を捕らえては又元の所に戻る習性がある。大形のコガネムシ類を好んで捕食し不消化物だけをペリットとして口から吐き戻す。樹洞に営巣する事もあるが、朽ちた電柱の穴に営巣する場合は自ら穴を穿つらしい。朝鮮ではカササギの古巣に営巣するものが多い。冬期は馬來諸島・印度等に渡る。

分布 本州（山形・長野・岐阜・山梨・兵庫・岡山・鳥取の諸県）・九州（宮崎県・鹿児島県等）・四国（高知県）で繁殖する他、北海道・佐渡・対馬等にも棲息する。

146. ヤマセミ *Ceryle lugubris lugubris* (Temminck)

JAPANESE PIED KINGFISHER

—カワセミ科—

形態 カワセミ類中最大。白と黒との斑で美しい。嘴峰63~70%、翼長179~196%、尾長106~125%、跗蹠12~14%。頭上は黒色に白斑を混じえ、頭部の羽毛は長く伸び羽冠をなす。以下の背面は一面に淡黒色と白との鹿の子斑。尾は黒く白色の横縞がある。翼は黒く背と同様の白斑が多量散在している。頬と頭側とは白色。下面は白色で喉の両側、胸、脇に黒斑がある。ふには喉の両側と胸とに淡栗色斑があるがりは之を欠く。嘴は太く強大である。

生態 山地の溪流に沿って棲息するがその数はあまり多くない。ギャラッ、ギャラッとなき乍ら流れに沿って低く飛翔し、常に同一の場所に止まる事が多い。警戒心強く接近する事は困難である。常に清流に棲み、大雨等の為に濁流となると附近の更に狭い谷間に一時移動する事がある。一番の領域は溪流沿いに4軒前後の様である。

分布 本州・四国・九州に周年棲息繁殖する。

亜種 エゾヤマセミ *Ceryle lugubris pallidus* Momiyama は北海道に産する亜種であり、ヤマセミより稍淡色で且稍小さい。

147. カワセミ

Alcedo atthis bengalensis Gmelin

COMMON INDIAN KINGFISHER

—カワセミ科—

形態 上面り色、下面栗色で嘴長く尾は短かい。嘴峰33~43%、翼長68~76%、尾長28~35%、跗蹠9~10%。頭上、後頭は藍黒色でコバルト色の横縞がある。以下の背面は光沢のあるコバルト色、眼先と耳羽とは栗色で後方に白斑がある。頬線は太く頭上と同色。下面肥、喉白く以下は美しい栗色。♂♀同色。

生態 各地の池畔や川畔に極めて普通な鳥である。フィーとなき、流れに沿って直線に低く飛翔する。杭の上や、低い樹枝にいつ迄も静止して居り、小魚を目かけて水面に急降下して巧みに捕らえる。捕らえた小魚はそのまま呑み込み不消化の骨はペレットとして口から吐出す。粘土質や砂層の土手に自ら穴を穿ってその奥に産卵する。

分布 北海道・本州北部では夏鳥として繁殖するが、本州中部以南・四国・九州・奄美大島等には周年棲息繁殖し、また八丈島・対馬・種子島・喜界島・徳之島・沖永良部島にも棲息する。

148. ヤマショウビン *Halcyon pileata* (Boddaert)

BLACK-CAPPED KINGFISHER

—カワセミ科—

形態 朱赤色の大きな嘴と体の黒、白、群青の配色極めて美麗。嘴峰55~69%、翼長123~136%、尾長75~89%、跗蹠13~16%。頭上、眼の下、耳羽は黒。後頭白。以下の背面は群青色で兩覆羽は黒。下面肥、喉、額は白く後頭の白色部に連結する。胸以下の下面は淡栗色。

生態 中国・漢州・朝鮮・印度支那半島・馬來諸島・印度等に分布し、我国には迷鳥として稀に渡来するのみである。朝鮮には春期渡来して繁殖するがその数はあまり多くない。池畔や川畔の樹枝上に長く止まっている。キョロッ、キョロッとい声でなく。

分布 本州（富山県・愛知県・兵庫県）九州（福岡県・佐賀県）で迷鳥として採集された事がある。

149. アカショウビン *Halcyon coromanda major*

(Temminck & Schlegel)

JAPANESE RUDDY KINGFISHER

—カワセミ科—

形態 全体赤褐色。嘴峰53~59%、翼長118~128%、尾長60~74%、跗蹠16~17%。嘴は赤くて大。上面は稍褐色を帯びた暗赤色。尾も翼も同様であるが、腰の中央に淡青色斑がある。下面は栗色であり、肥と喉と腹の中央は稍淡色。脚も赤。

生態 夏鳥として我国に渡来し、四国の山地には特に多い。僅のカワセミ類と異なり通常密林中に棲息する事が多い。キョロロロー、キョロロローと特徴のある声でなく。カタツムリやサワガニ等を好んで食す。冬期は台湾・中国南部・フィリピン等に渡る。

分布 北海道・本州・四国で繁殖し、伊豆七島・九州・対馬にも渡来する。

亜種 リュウキュウアカショウビン *Nalcyon coromanda bangs* (Oberholser) は奄美大島・徳之島・沖永良部島及び琉球列島で繁殖する亜種であり、上面は栗色の光沢強く腹の青色斑はアカショウビンより顕著である。

[PLATE 21]

150. ヤマゲラ *Picus canus jessoensis* Stejneger
JAPANESE BLACK-NAPED GREEN WOODPECKER —キツツキ科—

形態 暗緑色のキツツキで北海道に棲息する。嘴峰30~39%。翼長136~150%。尾長87~104%。跗趾25~28%。♂は額から頭の中央迄鮮紅色であるが♀は之を欠く。眼先と顎線とは黒。尾には不明瞭な横斑がある。初列風切の外弁には淡黄褐色斑がある。下面は灰緑色。幼鳥は♀に似て腹部に不明瞭な横斑がある。

生態 北海道では各地の森林中に稀でない。ピョー、ピョー、ピョーと甲高い声でなく。冬期には市街地の街路樹や庭園にも飛来する。

分布 周年北海道に棲息繁殖する。稀に本州からも記録されている。

151. アオゲラ *Picus awokera awokera* Temminck
JAPANESE GREEN WOODPECKER —キツツキ科—

形態 前種に似るが♂の頭上は全体鮮紅色。嘴峰29~36%。翼長138~148mm。尾長93~106%。跗趾24~26%。背は前種より濃い緑色。眼先は黒く顎線は鮮紅色でその前後は黒。下面は灰緑色で腹以下には顕著な黒色横斑あり。♀は後頭だけ鮮紅色。

生態 我国特産種。主として低山帯の森林に棲息するが、亜高山帯にも分布する。針葉樹の巨木林に棲息する事が多く、冬期には市街地の庭園にも顔行する事がある。ピョー、ピョーと鋭い声でなきキャラ、キャラとなく事もある。好んで蟻類を食す。西日本ではキツツキ類中コゲラに次いで多い種類である。

分布 本州に周年棲息繁殖。

亜種 カゴシマアオゲラ *Picus awokera horii* Takatsukasa は四国・九州に分布する亜種で一般にアオゲラより暗色で且稍小。タネアオゲラ *Picus awokera takatsukasa* Kuroda は種子島及び屋久島産の亜種で、体は一層暗色で一層小。

152. アカゲラ *Dendrocopos major hondoensis* (Kuroda)
HONSHU GREAT SPOTTED WOODPECKER —キツツキ科—

形態 黒、白、赤の配色顕著なキツツキ。嘴峰26~29%。翼長124~136%。尾長77~90%。跗趾21~23%。額白く以下の背面は黒。肩羽の先端白く背に大きな白紋を形成する。♂は後頭鮮紅色であるが♀は之を欠く。尾は中央のものは黒、その他は白く黒色横斑がある。翼は黒く白色横斑あり。顔と下面とは汚白色で顎線は太く黒い。顎側にも黒帯がある。下腹部と下尾筒とは美しい鮮紅色。幼鳥は♂♀共頭上全体が紅色である。

生態 山地の森林中に棲息する。飛翔は波状。キョツ、キョツとなき時々嘴で樹幹を打ちカラ、カラ、カラ……と音を立てる事は他のキツツキ類と同様である。

分布 本州（中部以北には普通であるが西日本には少ない）・対馬に棲息繁殖し、八丈島でも採集された事がある。

亜種 エゾアカゲラ *Dendrocopos major japonicus* (Seeböhm) は北海道に棲息する亜種で肩羽の白紋はアカゲラより一層大。

153. オオアカゲラ *Dendrocopos leucotos stejnegeri* (Kuroda)
JAPANESE WHITE-BACKED WOODPECKER —キツツキ科—

〔形態〕 アカゲラに似て大。下面の黒色縦斑顕著。嘴峰37~43%。翼長148~152%。尾長71~95%。跗蹠25~29%。♂は頭上鮮紅色で後頭と背とは黒。下背は汚白色。尾と翼とはアカゲラに似る。顔と下面とは汚白色で喉の両側と頸側には黒帯がある。胸と脇には黒色縦斑があり、腹と下尾筒とは暗紅色。♀は頭上も黒い。

〔生態〕 本州中部では亜高山帯の森林中に棲息するが数はアカゲラより遙かに少ない。本州北部では低山帯にも棲息する。習性はアカゲラに類似する。

〔分布〕 本州（中部以北）及び佐渡にて繁殖、周年棲息する。

〔亜種〕 エゾオオアカゲラ *Dendrocopos leucotos subcirris* Stejneger は北海道に棲息する亜種で多産す。ナミエオオアカゲラ *Dendrocopos leucotos namiyei* (Stejneger) は本州南西部・四国・九州・隠岐に棲息する亜種でオオアカゲラより一般に黒味を帯びている。オーストンオオアカゲラ *Dendrocopos leucotos oustoni* (Ogawa) は奄美大島に棲息し、全体にオオアカゲラより著しく黒味が強い。数は多い。

154. コアカゲラ *Dendrocopos minor amurensis* (Buturlin)
AMUR LESSER SPOTTED WOODPECKER —キツツキ科—

〔形態〕 コゲラに似るが下面に縦斑のない事、♂の頭上鮮紅色なる事により容易に区別出来る。嘴峰15~18%。翼長91~98%。尾長57~64%。跗蹠14~15%。♂は顔汚白色で頭上鮮紅色。後頭、後頸は黒く、背は黒色で白色の横縞がある。尾は中央の2対黒く他は白で黒斑がある。翼は黒く5条の白帯がある。耳羽汚白色、下嘴基部から後方に向い黒線走り頸側の黒色部に連なる。下面は汚白色。♀は頭上の鮮紅色を欠く。

〔生態〕 北海道では一般にエゾコゲラより少ないが北見地方の海岸に近い森林には多数棲息繁殖し、その数はエゾコゲラと変らない。習性はコゲラに類似する。

〔分布〕 北海道で繁殖し周年棲息する。

155. コゲラ *Dendrocopos kizuki nippon* (Kuroda)
HONSHU PIGMY WOODPECKER —キツツキ科—

〔形態〕 キツツキ類中最小。嘴峰14~16%。翼長81~90%。尾長45~51%。跗蹠14~15%。頭上灰褐色。背と翼とは黒色で白色横縞顕著。尾は中央の1対は黒であるが其他は白く黒色の横縞がある。眼の後方と頸側には白帯がある。耳羽は灰褐色でその下方の白線に沿ひ黒色の頸線がある。下面は汚白色で胸以下には黒褐色の縦斑が多数走っている。♂は後頭の両側に微小な紅色斑があるが♀は之を欠く。

〔生態〕 主として低山帯の森林中に棲息し、キツツキ類中最も数が多い。ギイー、ギイーと特有の声でなく。秋から冬にかけエナガ、シジュウカラ等の群に混じて人里近くにも来る。

〔分布〕 本州中部以北で繁殖し周年棲息する亜種である。

〔亜種〕 エゾコゲラ *Dendrocopos kizuki seebohmii* (Hargitt) は北海道に棲息する亜種でコゲラよりも全体淡色である。ミヤケコゲラ *Dendrocopos kizuki matsudairai* (Kuroda)

は、伊豆七島(三宅島・御蔵島・八丈島)及び屋久島に分布する亜種で体はコゲラより濃色。シコクコゲラ *Dendrocopos kizuki shikokuensis* (Kuroda) は本州西南部及び四国に産する亜種でコゲラより暗色。キュウシュウコゲラ *Dendrocopos kizuki kizuki* (Temminck) は九州一円に分布する亜種で体は一層濃色。ツシマコゲラ *Dendrocopos kizuki kotataki* (Kuroda) は隠岐・対馬に分布し、またアマミコゲラ *Dendrocopos kizuki amamii* (Kuroda) は奄美大島と徳之島とに分布し、体は著しく濃色である。

156. エゾミユビゲラ *Picoides tridactylus inouyei* Yamashina
INOUE'S THREE-TOED WOODPECKER—キツツキ科—

156. エゾミユビゲラ *Picoides tridactylus inouei* Yamashina
INOUE'S THREE-TOED WOODPECKER—キツツキ科—

形態 頭の頂上黄金色なる事により他のキツツキ類と容易に区別出来る。嘴峰25~29%。翼長120~126%。尾長83~87%。頭上の羽毛絹糸状でまは黄金色であるがまは白。後頭は黒。背は殆ど白く僅かに黒斑あり、肩羽は黒。翼は黒く白斑は他のキツツキ類より少ない。眉斑黒く眼の後方には白縁走る。耳羽は黒く、その下方に白線と黒色の額線とがある。下面は白く脇には黒色縦斑がある。他のキツツキ類は4趾を有すが本種は3趾のみである。

生態 北海道中央部の山地の密林中に棲息し、その数は少ない。

分布 北海道に周年棲息する。

コゲラ 亜種の 分布図





150. ヤマゲラ



151. アオゲラ



152. アカゲラ



153.
オオアカゲラ



153. a
オーストン
オオアカゲラ



154. コアカゲラ



155.
コゲラ



156. エノミユビゲラ

157.
クマゲラ



♀

♀

158.
キタタキ



♂

159.
アリスイ



161.
ツツドリ



♀



♀

赤色形

160.
カッコウ



成鳥

幼鳥

162.
ホトトギス



♂

♀

赤色形

幼鳥

成鳥

163.
ジュウイチ



157. クマゲラ *Dryocopus martius* (Linnaeus)
GRAET BLACK WOODPECKER

—キツツキ科—

〔形態〕 全体黒色の巨大なキツツキ。嘴峰53~64%, 翼長228~253%, 尾長151~195%, 跗蹠34~39%。♂は頭上から後頭にかけて鮮紅色であるが♀は後頭に僅かに鮮紅色部がある。

〔生態〕 山地の巨木の多い森林に棲息する。竈で樹幹を叩くコロ、コロと聞こえる音は遠方迄もひびく。キョッ、キョッと鋭い声でなく。

〔分布〕 北海道の山地に周年棲息繁殖し、本州では秋田県八幡平に少数棲息している。



158. キタタキ *Dryocopus javensis richardsi* Tristram
TRISTRAM'S WOODPECKER

—キツツキ科—

クマゲラ

〔形態〕 前種と略同大であるが下背と腰、胸と腹とが白色。

嘴峰58~66%, 翼長242~257%, 尾長170~190%, 跗蹠31~37%。♂は頭上、後頭鮮紅色、下背の基部に鮮紅色斑があるが♀は之等の鮮紅色を欠き黒色である。

〔生態〕 朝鮮では巨木の保存された御陵の森等には敢えて稀ではない。キラッ、キラッと烈しい声でなく。対馬では天然記念物に指定されているが今では殆ど絶滅に近い。

〔分布〕 対馬に周年棲息する他朝鮮に分布する。

159. アリスイ *Jynx torquilla japonica* (Bonaparte)
JAPANESE WRYNECK

—キツツキ科—

〔形態〕 灰褐色の地味な鳥。嘴峰15~17%, 翼長77~83%, 尾長59~67%, 跗蹠18~21%。上面は灰褐色で褐色、黒褐色の細い横斑散在する。後頭の中央から背にかけて黒色の幅広い1条の黒帯が走る。下面汚白色で腮、喉、胸には黒色の細い波形横斑散在する。

〔生態〕 北海道には夏鳥として渡来し平地の森林中で繁殖する。クイ、クイ、クイと濁った声でなく。冬期は本州以南に渡来し人里に近い灌木林にも来るが数は少ない。地上に下りて好んで蟻を食す。

〔分布〕 北海道で繁殖、冬期本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・種子島に渡来。

160. カッコウ *Cuculus canorus telephonus* Heine
JAPANESE CUCKOO

—ホトトギス科—

〔形態〕 灰鼠色で飛翔は小形のタカ類に似る。カッコウとなく声顕著。嘴峰20~24%, 翼長210~240%, 尾長148~178%, 跗蹠19~24%。上面灰鼠色、尾は長く黒色で羽軸に沿って白帯がある。腮、喉は灰色、以下灰白色で黒褐色の細い横斑散在する。♀は喉稍赤褐色を帯びる。本種の♀には稀に赤色形のものがある。幼鳥は上面黒褐色で背、尾、翼には赤褐色の横斑散在し下面にも一面に幅広い横斑散在する。

〔生態〕 我国には夏鳥として渡来繁殖する。北海道・本州北部では平地や山地の草原



や灌木林に棲息するが本州中部では高原に多い。♂はクワッ、クワッ、カッコー とのどかな声でなく、♀はピッ、ピッ、ピッ と鋭い声でなく。自分で巣を作らず他の鳥の巣にその卵を托す。寄託鳥はカラフトカワラヒワ、ベニマシコ、シマアオジ、アオジ、ホオジロ、ホオアカ、ヒバリ、ビンズイ、ハセタキ、セグロセキレイ、キセキレイ、モズ、チゴモズ、アカモズ、キビタキ、オオヨシキリ、コヨシキリ、クロツグミ、ノビタキ等であるが、ホオジロ、モズ、オオヨシキリ、コヨシキリに托卵する事が最も多い。冬期は中国南部・馬來諸島・印度支那半島・印度等に渡って越冬する。

分布 北海道・本州・四国・対馬で繁殖し、伊豆七島・九州等にも渡来する。

161. ツツドリ *Cuculus saturatus horsfieldi* Moore

HIMALAYAN CUCKOO

—ホトトギス科—

形態 カッコウに似るが下面の横斑の幅が広く、且なき声 ボッ、ボッ、ボッと顕著。嘴峰19~25%。翼長184~215%。尾長124~162%。跗蹠18~24%。上面はカッコウより青味を帯びた暗灰鼠色である。♀は上胸緑青色を帯びこの部分にも横斑がある。本種の♀には赤色形のものがある。上面褐赤色で幅広い黒色横斑がある。尾も同様の縞にて翼にも大きな褐赤色斑散在す。下面は黄白色で腿から下尾筒迄黒色横斑が散在している。

生態 我國にはカッコウより早く4月中旬には渡来する。本州中部の低山帯には繁殖するものが多いが、北海道や西日本にはあまり多くない。森林に棲息し♂はボッ、ボッ、ボッとなき♀はピッ、ピッ、ピッと鋭い声でなく。カッコウと同様自ら巣を作らず卵を他の鳥の巣に托す。センダイムシクイの巣に托卵する事が最も多いが其他メボソムシクイ、ヤブサメ、メジロ、キビタキ、オオルリ、サンコウチョウ、ウグイス、ノジロ、アオジ、モズ、アカモズ、ビンズイ、キクイタダキ等にも托卵する。冬期は馬來諸島・印度・濠洲等に渡って越冬する。

分布 北海道・本州・四国で繁殖し、伊豆七島・九州・対馬等にも渡来する。

162. ホトトギス *Cuculus poliocephalus poliocephalus* Latham

LITTLE CUCKOO

—ホトトギス科—

形態 ツツドリに類似するが小形にて♂はテッペンカケタカのなき声顕著。嘴峰17~20%。翼長152~171%。尾長119~149%。跗蹠17~19%。下面の黒色横斑の幅はツツドリと同様であるが腹には横斑少ない。本種にも♀には赤色形がある。ツツドリの赤色形

に似ているが上面の横斑はツツドリ程明瞭でなく、下面側、喉は暗色にてこの部分の横斑は不明瞭且幅狭く密である。胸以下は白く横斑は粗である。

分布 北海道では函館付近には稍多いが他の地方ではあまり多くない。本州中部の低山帯には多数繁殖し、亜高山帯の森林中にも棲息する。近畿・本州西部・四国の山にも普通である。♂はテッペンカケタカと高い声で昼夜ともなく。♀はピッ、ピッ、ピーとなくだけである。本種も自分で巣を作らず卵を他の鳥の巣に托す習性がある。ウグイス、イイジマウグイス、ミソサザイに托卵する事が最も多いが其他センダイムシクイ、イイジマセシダイムシクイ、アオジ、ベニマシコ、ウチヤマシマセンニュウ、クロツグミ等に托卵した例が知られている。我国には夏鳥として渡来し、冬期は印度支那半島・馬來諸島等に渡って越冬する。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州で繁殖。

163. ジュウイチ

Cuculus fugax hyperythrus Gould

CHINESE HAWK-CUCKOO

—ホトトギス科—

形態 他のホトトギス類と異なり尾に横帯あり、下面に横斑がない。嘴峰21~22%。翼長191~215%。尾長131~146%。跗蹠22~24%。上面灰褐色で後頭に白紋がある。尾は灰褐色で4条の黒色帯あり先端は赤褐色。翼の内弁には横縞がある。下面は灰褐色。喉は汚白色、胸は淡赤褐色で下方に移るに従い淡色となる。幼鳥は上面稍赤褐色を帯び特に翼と尾に於いて顕著である。下面は汚白色で赤褐色と黒褐色との縦縞がある。

生態 我国には5月上旬頃渡来し、本州中部の低山帯、亜高山帯又四国の山地には多数繁殖するが近畿・本州西部では繁殖の確証はない。北海道では大雪山で少数繁殖する。本種も自分で巣を作らず卵を他の鳥の巣に托す。コルリ、ルリビタキ、オオルリに托卵する事が多いが其他ビンズイ、コサメビタキ、キビタキ、クロツグミ、ツカハラ、ノビタキ、コマドリ等にも托卵する事がある。♂は高い声でジュイチー、ジュイチーとなき、♀はジュ、ジュ、ジュ、ジュと早声でなく。♂は夜間なく事もある。冬期は中国南部・馬來諸島等に渡って越冬する。

分布 北海道・本州・四国で繁殖。

ホトトギス類の野外識別

種類	カッコウ	ツツドリ	ホトトギス	ジュウイチ
生息環境	草原、灌木林	森林、灌木林	森林、灌木林	森林、灌木林
なき声	カッコー、カッコー	ボウ、ボウ、ボウ	テッペンカケタカ	ジュイチー
夜間啼鳥	夜間はなかない。	夜間はなかない。	夜間も盛んになく。	夜間時々なく。
繁殖地	北海道・本州中部には多いが西日本には少ない。	本州中部の低山帯に多い。北海道・西日本には少ない。	北海道では南部以外には少ない。本州以南に多い。	本州中部の低山帯に多い。北海道には稀。
卵を委託する主な種類	モズ、オオロシキリ、ホオジロ	センダイムシクイ	ウグイス、ミソサザイ	コルリ、ルリビタキ、オオルリ

[PLATE 23]

164. シロフクロウ *Nyctea scandiaca* (Linnaeus)

SNOWY OWL

—フクロウ科—

形態 純白に近い白色巨大なフクロウ。嘴峰25~30%, 翼長395~475%, 尾長195~245%, 跗趾42~45%。全体殆ど純白で所々に褐色の横斑あるも、量は個体に依って変化に富む。横斑は額、肩、胸、翼等に認められる。♀は顔、喉、上胸は純白であるが其他には褐色横斑が散在している。頭上、後頭には淡褐色斑がある。♀は♂より大。

生態 本種は広く北極圏の周囲部に繁殖し、冬期は欧亜大陸に於いても北米に於いても稍その南部に渡来する。我国では冬期南に北海道に渡来し、又迷鳥として本州で採集された事もある。

分布 北海道・本州(千葉県・岐阜県・鳥取県・広島県)

165. ワシミミズク *Bubo bubo tenuipes* Clark

CLARK'S EAGLE-OWL

—フクロウ科—

形態 巨大なフクロウ。嘴峰30~36%, 翼長413~480%, 尾長224~280%, 跗趾74~88%。背面は赤褐色で黒色の縦斑がある。頭上両側には黒褐色60%程の長い羽角がある。尾は黄褐色で黒褐色の不規則な横帯がある。下面喉は白く以下は赤褐色。胸には幅広い黒色の縦斑がある。腹の縦斑は細く、且細い横縞が多数散在している。跗趾も趾も淡黄褐色の羽毛で覆われている。虹彩は橙黄色である。

生態 北海道に棲息するが極めて稀である。居間は密林の樹枝上や山間の岩壁の岩棚等をめぐらして休み、夜間飛び出して活動する。野兎、鼠、鳥類等を捕食し、獲物は鋭い爪で押さえ嘴でひきちぎって食し、羽毛骨等の不消化物はペリットとして吐き出すのでねぐらの付近にはペリットが散在している。山間の岩壁の岩棚上に営巣して巢には兎の毛等を多量に敷く事がある。北海道の他朝鮮・中国・南千島にも分布するが朝鮮では数は北海道よりも多い。

分布 北海道の他九州の五島及び奄美大島でも採集された事がある。

166. シマフクロウ *Bubo blakistoni blakistoni* Seebohm

BLAKISTON'S EAGLE-OWL

—フクロウ科—

形態 ワシミミズクより一層大。趾には羽毛なく裸出する点が前種と異なる。嘴峰34~38%, 翼長498~534%, 尾長243~286%, 跗趾81~102%。上面灰褐色で黒色縦斑がある。尾は褐色で淡黄褐色の散条の横帯がある。頭側の羽角は前種と略同大。下面は黄褐色で黒褐色の細い縦斑がある。ワシミミズクは胸の縦斑は幅が広いが本種は腹部の縦斑も腹部の縦斑と同様に幅狭い。虹彩黄色なる点も前種と異なる。♀は♂より稍大。

生態 北海道に周年棲息するがその数は多くない。居間は巨木のある山地の密林中に棲み夜間飛び廻って鼠、野兎等を捕食する。北海道では雛が採集された事があるので繁殖する事は疑いないがその巣や卵はまだ発見されていない。

分布 北海道の他南千島と樺太とに分布する。

164.
シロフクロウ



成鳥



幼鳥

165.
フシミミズク



166.
シマフクロウ



167.
オオコノハズク



淡色形



暗色形



168. コノハズク



169.
トラフズク



171. アオバズク



172. キンメフクロウ



173. フクロウ

167. オオコノハズク *Otus asio semitorques* Temminck & Schlegel
FEATHERED-TOED SCOPS OWL 一フクロウ科一

形態 羽角顕著な小形のフクロウ。嘴峰14~17%。翼長155~182%。尾長71~92%。跗蹠31~37%。上面赤褐色で黒褐色の不明瞭な細い縦斑がある。後頭部には淡黄褐色の不明瞭な頸輪がある。下面喉と腹の中央とは白く、その他の部分は黄褐色で黒色の縦斑と褐色の不明瞭な横斑とがある。跗蹠、趾共羽毛で蔽われている。虹彩は黄赤色。

生態 低山帯や平地の人里近くの森林や神社の森に棲息する。昼間は深い繁みの樹枝上で眠り、夜間飛び出して活動する。夕方から夜間にかけてホッ、ホッ、ホッ、ホッとだんだん低くなる声でなくが、この声は近くではウォッ、ウォッ、ウォッと聞こえる。鼠類、小鳥をも食するが、好んで大形昆虫類を捕食する。

分布 北海道・本州・四国・九州には周年棲息繁殖し、伊豆七島・対馬・屋久島にも分布す。

亜種 サメイロコノハズク *Otus asio ussuriensis* (Buturlin) は冬鳥として朝鮮に渡来するが我国では迷鳥として新潟県で採集された事がある。リュウキュウオオコノハズク *Otus asio pryori* (Gurney) は八丈島と沖繩本島及び屋我地島とに産する亜種であり、その数は少ない。

168. コノハズク *Otus scops japonicus* Temminck & Schlegel
JAPANESE SCOPS OWL 一フクロウ科一

形態 我国産フクロウ類中最小。嘴峰11~12%。翼長136~149%。尾長57~69%。跗蹠22~25%。上面は褐色で不明瞭な黒色や褐黄色の斑がある。頭上には数条の黒線が走っており、後頭には黄白色斑がある。羽角は小。下面はオオコノハズクに酷似する。跗蹠は羽毛で蔽われているが、趾は裸出して羽毛を欠く。虹彩は黄色である。本種には全体著しく赤褐色を帯びた桔色形のものがある。

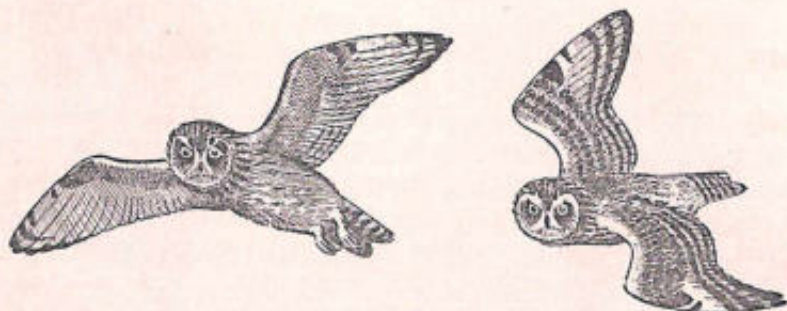
生態 春期我国に渡来し、低山帯の針葉樹の巨木林に棲息する。昼間は高い梢に止まっているので発見困難である。夜間飛び出して活動し、主として昆虫類を捕食する。夕暮から夜にかけてブッパン、ブッパンとよく響く声でなく、その声は古来高山の霊鳥「仏法僧」として有名である。冬期は中国南部に渡去するが、渡りの時には稀に市街地の庭園、公園等にも来る事がある。一部は本州で越冬する。

分布 北海道・本州の低山地帯で繁殖し、旅鳥として伊豆七島（鳥島）・四国（蕃殖?）・九州（蕃殖?）・対馬・奄美大島（冬期）にも渡来する。

亜種 リュウキュウコノハズク *Otus scops elegans* (Cassin) は奄美大島・徳之島及び琉球諸島に産する亜種でコノハズクよりも濃色。長崎で採集されたことがある。

169. トラフズク *Asio otus otus* (Linnaeus)
LONG-EARED OWL 一フクロウ科一

形態 中形のフクロウで羽角長い。嘴峰15~18%。翼長275~310%。尾長127~155%。跗蹠35~40%。上面は黄褐色の地色に黒褐色の縦斑と虫喰斑とが密に散在する。下面



コミミズク

も上面と同様であるが一般に淡色。附趾、趾共褐黄色の羽毛で蔽われている。

生態 山麓や里近くの叢林、森林中に棲息し、主として夕方から夜間にかけて活動するが曇天の日等には昼間でも飛び廻る事がある。冬期は数羽のものが群棲する事もある。主として小形の鼠類を捕食し不消化物をベリットとして吐き出す。

分布 北海道・本州で繁殖し、冬期は伊豆七島・四国・九州・種子島・屋久島等にも渡来する。

170. コミミズク *Asio flammeus flammeus* (Pontoppidan)

SHORT-EARED OWL

—フクロウ科—

形態 トラフズクと略同大で羽角は短い。嘴峰15~17%、翼長293~316%、尾長140~160%、附趾42~44%。全体黄褐色の地色に黒褐色の粗大な縦斑のある点トラフズクに似るが虫喰状斑を欠いているのでトラフズクより一般に淡色である。個体変異多く中には地色淡黄褐色で縦斑の著しく少ない個体もある。

生態 欧亜大陸の北部で繁殖し、我国には冬鳥として渡来する。草原や耕地の地上にて休み時には7, 8羽群居する事もある。昼間にも活動し飛翔はタカ類(特にサシバ)に似ているが翼動は緩慢である。高く低く長時間旋回して元の所に下りる。然し夕方から捕食の為に飛翔する時は昼間の飛翔より遙かに早く草の上をすれすれに滑翔する。畑地を飛び廻り主として小形の鼠類を捕食する。

分布 冬鳥として北海道・本州・伊豆七島・四国・九州等に渡来する。

171. アオバズク *Ninox scutulata japonica* (Temminck & Schlegel)

BROWN HAWK-OWL

—フクロウ科—

形態 フクロウ類中最も普通な種類。羽角はない。黒褐色で夜間ホーツ、ホーツとなく。嘴峰14~15%、翼長202~228%、尾長107~124%、附趾25~30%。上面黒褐色で頭上は特に黒味強い。尾には数枚の黒帯がある。下面も殆ど黒褐色で胸から腹にかけて白色の顕著な縦斑がある。附趾には羽毛があるが趾には刺毛がある。虹彩は鮮黄色。

生態 我国には春期渡来して人里近くの森や市街地の庭園、神社境内等の森で繁殖するものが多い。夜間ホーツ、ホーツと2声ずつなく。昼間は繁った樹枝上にて休み夜

間活動する。飛翔は直線的で早い。大形昆虫類を主食としている。冬期は中国南部・フィリピン諸島等に渡去して越冬する。南日本には稀に越冬するものもあるらしい。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州で繁殖するほか対馬・種子島・奄美大島にも渡来す。

亜種 チョウセンアオバズク *Ninox scutulata macroptera* Blasius は満州・朝鮮等に分布する亜種であるが北海道・本州・八丈島で採集された事がある。またリュウキュウアオバズク *Ninox scutulata totogo* Momiyama は琉球諸島・台湾産の亜種であるが奄美大島で採集された事がある。

172. キンメフクロウ *Ægolius funereus sibiricus* (Buturlin)
SIBERIAN TENGMALM'S OWL ーフクロウ科一

形態 羽角のない小形のフクロウで全体白っぽい。嘴峰14~16%。翼長195~178%。尾長95~109%。跗蹠19~20%。頭上、背、尾、翼は暗褐色で白紋が散布している。前頭から頭頂にかけての白紋は小さくて密でありその他は粗である。後頭には白帯がある。顔盤は殆ど白。下面は白く暗褐色の斑紋が散在する。跗蹠、趾共白い羽毛で覆われている。虹彩は美しい淡黄色である。

生態 シベリア東南部・蒙古・満州・樺太・千島等に棲息し、分布の南限は北海道に及んでいる。樺太では極く普通の種類であるが、北海道では極めて稀に採集されるに過ぎない。北海道からは繁殖の確証はない。

分布 北海道

173. フクロウ *Strix uralensis hondoensis* (Clark)
HONSHU URAL OWL ーフクロウ科一

形態 大形にて羽角はない。里近くに棲む普通種。ゴロスケ、ホッ、ホッとなく。嘴峰23~25%。翼長305~336%。尾長220~254%。跗蹠44~50%。上面、尾、翼共黒褐色で背と翼とには大小の黄白色や白色の斑点が散在する。後頸、頸側は黒褐色と褐色ととの縦斑となっている。顔盤は汚白色。下面は白く下方に移るに従いクリーム色を帯び胸、腹には黒褐色の粗大な縦斑がある。跗蹠、趾共羽毛で覆われている。

生態 周年棲息し各地に普通。低山帯の森林にも棲息するが人里近くの森に棲んで繁殖するものもある。夜間ゴロスケ、ホッホッと淋しい声でなく。また犬の遠吠えの様にウオッ、ウオッとだんだん低くなる声でないたり、ギャーと聞こえる声を立てたりする。主として野鼠類を食するが、直翅目の昆虫類をも好んで食す。夜間のみ活動し飛翔は直線的で音を立てずに飛ぶ。

分布 本州の東北地方・新潟県・栃木県等に棲息する亜種である。

亜種 エゾフクロウ *Strix uralensis japonica* (Clark) は北海道に棲息する亜種で稍小さく且全体著しく淡色である。モミヤマフクロウ *Strix uralensis momiyamae* Takatsukasa は本州中部以西、山陰方面の亜種でフクロウより稍濃色、キュウシュウフクロウ *Strix uralensis fuscescens* Temminck & Schlegel は四国・九州・千葉県と静岡県南部・紀伊半島に産する亜種で一段と濃色である。これ等の亜種にはそれぞれ中間形のものもあり、また一地方に亜種の区別困難なものも混棲している。



ハヤブサ類
翼は尖り、尾は
長くて開けない

ノスリ類
翼は幅広く
尾も幅広く
まるい

オオタカ類
翼は幅広く、尾
は比較的長い

チュウヒ類
翼長く尾も長い

[PLATE 25]

174. ハヤブサ

Falco peregrinus japonensis Gmelin
JAPANESE PEREGRINE FALCON

—ハヤブサ科—

形態 中形の鷹で飛翔時翼尖り尾の幅狭い。嘴峰20~26%。翼長305~377%。尾長136~181%。跗蹠47~55%。♀は♂より大。頭上、後頭、眼の周囲、頬線、翼は黒色。背は石板色、腰は灰色で暗色の横斑がある。尾は暗灰色で暗色の横斑あり先端は灰白。下面は灰白色で喉と上胸とに縦斑があり、以下には顕著な横斑が密に散布する。幼鳥は上面褐色を帯び下面は黄白色で喉以下に幅広い縦斑が密に走り成鳥に見る横斑を欠く。

生態 飛翔早く古来放鷹に用いられる。上空を旋回し獲物を目掛けて急降下して蹴落す。森林よりも広闊な地を選んで棲息し、冬期は農耕地、海岸の干潟等に棲み又市街地の神社の高い屋根等に止まって鳩を襲うもの種でない。繁殖期には海岸や山地の聳立した岩壁の岩窟等に営巣する。シベリア東南部・満州・朝鮮・樺太等で繁殖し、冬期我國に渡来するものが多いが、少数のものは北海道の利尻島・山陰道の日本海沿岸・東北地方の太平洋沿岸・新潟県・福島県・伊豆七島（三宅島）等の岩壁で繁殖する。

分布 北海道・本州・伊豆七島では繁殖し周年棲息する他・四国・九州・奄美大島にも分布す。

事考 オオハヤブサ *Falco peregrinus pealei* Ridgway は千島・アリューシャン列島・アラスカ南部等で繁殖し、冬期北海道に渡来する。シベリアハヤブサ *Falco peregrinus harteii* Buturlin はシベリア東部・カムチャツカ半島・樺太等で繁殖する亜種であり、我國では富山県・新潟県で採集された事がある。シマハヤブサ *Falco peregrinus frontalis* Momiyama は硫黄島で繁殖する亜種であり、伊豆七島の鳥島に渡来する事がある。

175. シロハヤブサ

Falco rusticolus uralensis

(Severtzov & Menzbier)

SIBERIAN GYRFALCON

—ハヤブサ科—

形態 ハヤブサより遙かに大にて白色。嘴峰23~28%。翼長360~425%。尾長190~255%。跗跖60~71%。全体白色。頭上に細い褐色斑あり、背にも褐色の横斑がある。尾には横縞がある。胸、脇に褐色縦斑あり、老鳥にはこれ等の斑紋は極く少ない。幼鳥は上面、翼淡褐色にて白斑散布する。尾の横帯は顕著である。下面汚白色にて脇に淡褐色の縦斑がある。♀は♂より大。

生態 広く北極圏の周回部で繁殖し、冬期はその南部に渡る。中部千島には繁殖の確証がある。習性はハヤブサに類似する。

分布 冬期北海道に渡来するがその数は少ない。

176. チゴハヤブサ

Falco subbuteo subbuteo Linnaeus

HOBBY

—ハヤブサ科—

形態 ハヤブサに似るが著しく小さい。嘴峰13~15%。翼長240~280%。尾長122~141%。跗跖36~37%。上面石板灰色で頭、眼の周囲、頬縁は黒色。尾は暗石板色で中央のもの以外には赤褐色の横帯がある。下面は黄白色で胸以下に黒褐色の縦斑顕著。腿、腹、下尾筒は赤褐色。幼鳥は上面褐色を帯び、淡赤褐色の斑がある。下面の地色成鳥より濃く、且腿、腹、下尾筒の赤褐色は成鳥ほど濃くない。

生態 広く欧亜大陸の北部に分布し、我国では北海道・本州北部で繁殖しているがその数は多くない。北海道では海岸に近い森林中でも繁殖し、草原、農耕地に棲息するが、大雪山の高山帯にも飛来する事がある。飛翔は直線的。冬期は本州以南に渡る。

分布 北海道・本州北部で繁殖し、冬期は本州・四国・九州等の温暖地に漂行する。

177. コチウゲンボウ

Falco columbarius insignis (Clark)

ASIATIC MERLIN

—ハヤブサ科—

形態 小形の鷹。♂♀異色。♂は上面の青灰色顕著。嘴峰12~16%。翼長♂196~211%。♀216~225%。尾長♂117~129%。♀131~137%。跗跖♂35~39%。♀37~39%。♂は上面青灰色で後頭には赤褐色の頭輪がある。黒色の細い縦斑が特に頭上に多い。尾も青灰色で尾端には幅広い黒帯があり最先端は白。下面は黄白色で頭側と脇とは稍赤褐色。胸以下に褐色の縦斑がある。♀は♂より著しく大。上面灰褐色で赤褐色の斑があり頭上には黒色の細い縦斑がある。頭輪は汚白色。尾は黒褐色で赤褐色の数条の横帯があり先端は白。下面汚白色で胸以下には栗茶色の幅広い縦斑が顕著。

生態 我国には冬鳥として渡来して海岸の干潟、農耕地、原野の様な広闊な地に棲息するが、チウゲンボウに比しその数は少ない。飛翔形はチウゲンボウに類似して稍小形で比較的尾が短いだけであるから上空のものは識別困難である。本種はシベリア東北部で繁殖し、冬期は中国南部・印度北部・日本等に渡来する。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州

178. チョウゲンボウ

Falco tinnunculus interstinctus Horsfield

JAPANESE KESTREL

—ハヤブサ科—

形態 前種より稍大にて尾が比較的長い。嘴峰13~15%, 翼長221~267%, 尾長157~183%, 跗跖37~45%。♂は頭上、後頭青灰色で黒色の細い縦斑がある。背は顕著な煉瓦色で黒色三角形斑が散布している。尾は青灰色で先端に幅の広い1黒条があって最先端は白。下面肥, 喉は汚白色, 以下は淡赤色で黒色の縦斑がある。♀は上面灰褐色で、頭上には赤褐色の縦斑, 又背には赤褐色の幅の広い横斑が密に散在している。尾は黒と赤褐色との顕著な横帯となっており先端白。下面は汚白色で胸以下には黒褐色の縦斑がある。幼鳥は♀成鳥に似て上面煉瓦色と黒褐色との横縞。尾も♀成鳥に似る。

生態 夏期は主として山地に棲息し、高山帯にも出現するが、冬期は平地に漂行し、農耕地や海岸の干潟等に棲息する。飛翔は直線的で速い。上空で羽搏き乍ら一カ所に停止して獲物を目掛けて急降下して捕らえる事がある。直翅目の昆虫類を好んで捕食するが、小形の鼠類や小鳥等をも捕らえる。山形県、山梨県、長野県等で繁殖地が発見されたが長野県下高井郡十三座の繁殖地には毎年数10のものが集団繁殖して居り天記念物に指定されている。山梨県及び長野県の集団繁殖地では川に面した断崖に穿たれた穴の奥に産卵するが、本種は又他のタカ類やカササギ等の古巣を利用して営巣する事もある。朝鮮半島・満州南部・中国北部に繁殖するものも本亜種である。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・種子島に分布する。



ハヤブサ



チゴハヤブサ



チョウゲンボウ



コチョウゲンボウ



幼鳥

174. ハヤブサ



♀



成鳥

175.
シロハヤブサ

176. チゴハヤブサ



♀

♂

幼鳥



♀

177.
コチョウゲンボウ



幼鳥

♀



♂

178.
チョウゲンボウ



♂

幼鳥

179. イヌワシ



180.
カタシロワシ



181.
オオノスリ



182.
ノスリ

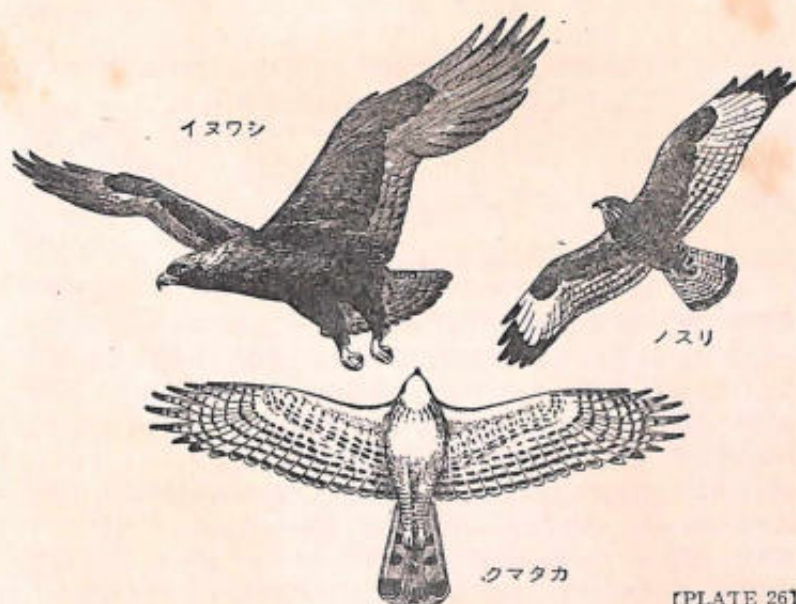


183.
ケアシノスリ



184. クマタカ





[PLATE 26]

179. イヌワシ

Aquila chrysaetos japonica Severtzow

JAPANESE GOLDEN EAGLE

—ワシタカ科—

形態 全体黒褐色の鷲。嘴峰38~44%, 翼長573~630%, 尾長310~347%, 跗蹠96~107%。尾には淡色の3条帯がある。幼鳥、亜成鳥の尾は灰白色で先端のみ黒褐色。

生態 本州の山岳地帯で繁殖し周年棲息するが数は少ない。高空を翱翔し獲物を見付けると翼をすぼめて猛烈な勢で降下して之を捕らえる。兎、雷鳥、ヤマドリ等を主食としている。本亜種は我国の他千島・朝鮮にも分布し之等の地方では数も稍多い。

分布 北海道・本州・四国・九州に棲息する。

180. カタジロワシ

Aquila heliaca ricketti Swann & Wetmore

CHINESE IMPERIAL EAGLE

—ワシタカ科—

形態 全体黒褐色で肩羽の数枚は白色。嘴峰41~46%, 翼長505~614%, 尾長280~307%, 跗蹠55~93%。後頭淡黄褐色、尾は灰褐色にて先端には幅の広い黒褐色帯があり最先端は黄褐色。幼鳥の尾は褐色にて先端赤褐色。

生態 バイカル地方・蒙古にて繁殖し、冬期中国南部に渡り稀に朝鮮・台湾等に迷行するものがある。我国には迷鳥として極めて稀に渡来するに過ぎない。

分布 本州(岩手県にてただ1回採集された事がある。)

181. オオノスリ

Buteo rufinus hemilasius Temminck & Schlegel

UPLAND BUZZARD

—ワシタカ科—

形態 ノスリに似るが大形で上面著しく淡色。嘴峰24~29%, 翼長429~510%, 尾長

207~260%, 跗蹠 83~95%, ノスリの経羽は白色であるが本種は赤褐色。尾羽ノスリは黒褐色で不鮮明な横帯があるが本種は淡褐色、灰褐色等で横帯がある。

生態 本種はシベリア東南部・蒙古・満州北部・チベット等で繁殖し、冬期は朝鮮・中国・印度等に渡来するが、我国では迷鳥として冬期稀に採集されるに過ぎない。

分布 九州（長崎県）対馬にて採集された事がある。

182. ノスリ *Buteo buteo burmanicus* Hume

JAPANESE BUZZARD

—ワシタカ科—

形態 黒褐色の中形の鷹。比較的に多い。嘴峰20~26%, 翼長351~411%, 尾長191~235%, 跗蹠64~77%, 黒褐色の頸線顯著。下面は地色黄白色で黒褐色の縦斑が散在しているが個体に依り縦斑の著しく粗なものと密なものがある。

生態 北海道では平地の森林でも繁殖するが本州では主として低山帯で繁殖し冬期には山麓に遷行し、市街地に出現する事もある。上空を旋回してビー、ユー となく。飛翔時は体著しく淡色に見え、頭状に開いた尾は先端に丸味があるのでトビと容易に区別出来る。鼠類、鳥類、蛙、カナヘビ、蛇、鞘翅目の昆虫等を捕食する。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国等で繁殖し周年越冬する他九州・対馬・奄美大島等にも分布する。

183. ケアシノスリ *Euteo lagopus menzbieri* Dementiev

SIBERIAN ROUGH-LEGGED BUZZARD —ワシタカ科—

形態 ノスリに似るが稍大きく且上面、特に頭上は著しく淡色。嘴峰20~25%, 翼長417~453%, 尾長218~252%, 跗蹠60~74%, 頭上、後頭は白く褐色縦斑がある。尾は白く先端は黒褐色。跗蹠は全部羽毛で蔽われる。これ等の点ノスリと異なる。個体変異が多い。

生態 シベリアの北部・カムチャッカ半島・北千島及びチベット等にて繁殖し、冬期中国・満州・日本北部等に渡るが我国では稀種である。習性はノスリに似ている。

分布 冬期北海道・本州（青森県・宮城県・山形県・長野県・栃木県）・九州（福岡県）等で採集された事がある。

184. クマタカ *Spizaetus nipalensis orientalis*

Temminck & Schlegel

JAPANESE HAWK-EAGLE

—ワシタカ科—

形態 巨大な鷹で鷲の様である。♀は♂より大。嘴峰32~38%, 翼長♂475~518%, ♀500~540%, 尾長325~395%, 跗蹠104~126%, 頭上、後頭は黄白色で黒色縦斑顯著にて後頭部毛羽は長く羽冠となる。背は褐色。尾羽の数条の黒帯は顯著。下面は白く、喉、胸には黒色縦斑あり、以下の腹面には淡褐色の横帯が密に散布している。

生態 我国特有の亜種である。日本アルプスの亜高山帯、東北地方の山地、伯耆大山等で繁殖し、周年棲息するが、冬期には低山帯に遷行するものもある。兎、ライチョウ、キジ、ヤマドリ等を捕食する。飛翔時尾の黒帯顯著で容易に識別できる。

分布 北海道・本州・九州で繁殖するほか、四国にも分布する。

[PLATE 27]

185. チュウヒ

Circus aeruginosus spilonotus Kaup

EASTERN MARSH HARRIER

—ワシタカ科—

形態 中形の鷹で翼と尾長く飛翔は早くない。嘴峰20~27%。翼長377~443%。尾長220~255%。跗趾90~99%。♂成鳥は頭上、後頭黒く背は黒褐色にて小白斑がある。次列風切、初列風切は灰色にて顕著。下面は白く臍、喉には黒色縦斑がある。腹白。♀成鳥は上面灰褐色、頭上、後頭には黄褐色の斑がある。尾には数条の黄褐色帯がある。下面は赤褐色にて褐色縦斑がある。♂幼鳥は上面♀に似て淡く成鳥の灰色部を欠く。

生態 我国には冬期渡来す。海岸に近い沼沢地に多く、低空をゆっくり旋回し、時々地上に下りて休む。シベリア・蒙古・満州等で繁殖し、冬期印度・支那半島・馬來諸島・中国・日本等に渡来する。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国

186. ハイロチュウヒ

Circus cyaneus cyaneus (Linnaeus)

HEN HARRIER

—ワシタカ科—

形態 前種に似て稍小さい。♂♀共に上尾筒の白色飛翔時特に顕著。嘴峰15~19%。翼長341~390%。尾長200~266%。跗趾65~80%。♂成鳥は翼の先端が黒色で他は灰色。下胸以下の下面は白。♀は全体濃褐色で後頭淡褐色。♂幼鳥は上面♀に似て淡色。下面は汚白色にて褐色の縦斑がある。♂成鳥に見られる灰色は殆ど現われていない。

生態 冬期我国に渡来するがチュウヒより数は少ない。習性はチュウヒに似る。♂成鳥は野外では著しく白く見える。欧州一円及びアジアの北部に広く分布繁殖する。

分布 冬鳥として北海道・本州・八丈島・四国・九州・奄美大島等に渡来する。

187. オオタカ

Accipiter gentilis fujiyamae (Swann & Hartert)

JAPANESE GOSHAWK

—ワシタカ科—

形態 中形の鷹。幼鳥と成鳥著しく異なる。♀は♂より大。嘴峰20~26%。翼長♂280~300、♀302~350%。尾長200~268%。跗趾64~82%。成鳥は上面灰黒色で後頭白色を混ず。耳羽黒く白色眉斑顕著。下面は白く灰黒色の横斑密に散在し老鳥ほど密である。尾には4条の褐色帯がある。幼鳥は上面褐色、下面には褐色縦斑密布し横斑はない。

生態 主として低山帯の森林中で繁殖する。古来放鷹に用いられるが、ハヤブサの様に上空から急下降して獲物に襲いかかる事なく、横合いから鋭い爪で獲物を捉える点が異なる。

分布 本州で繁殖する他、伊豆七島・四国・対馬に分布する。

亜種 北海道で繁殖する亜種はチョウセンオオタカ *Accipiter gentilis schvedowi* (Menzies) であり冬期稀に本州にも渡来す。

188. ハイタカ

Accipiter nisus nisosimilis (Tickell)

ASIATIC SPARROW-HAWK

—ワシタカ科—

形態 ♀成鳥はオオタカに似て小。♂成鳥は上面灰青色、下面横斑は赤錆色にて特に脇の赤錆色顕著。♂は♀より著しく小。嘴峰♂11~12%。♀14~16%。翼長♂203~216%。♀236~258%。尾長♂145~161%。♀175~194%。跗趾♂52~55%。♀60~65%。幼

鳥は上面は褐色、下面の横縞は黄褐色にて成鳥より幅広く且粗である。

生態 本州では主として低山帯の森林中で繁殖し、冬期は平地の農耕地や市街地近くにも漂行するもの稀でない。小鳥を捕る為に放鷹に使用される。♂はコノリと称せられている。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・種子島・屋久島

生態 ハイロハタカ *Accipiter nisus pallens* Stejneger は北海道・本州・カムチャッカ・海南島等から記録された事のある稀種。

189. ツ ミ *Accipiter virgatus gularis* (Temminck & Schlegel)
JAPANESE SPARROW-HAWK 一ワシタカ科一

形態 ハイタカに似て一層小。嘴峰♂10%, ♀13~15%, 翼長♂163~170%, ♀182~200%, 尾長♂114~119%, ♀131~145%, 跗蹠♂47%, ♀51~55%, ♂は上面石板色下面胸、腹は淡褐色で不明瞭な横縞あり。♀は上面灰黒色、下面胸以下には淡黒褐色の横縞が密。幼鳥は上面赤褐色、下面胸以下に赤褐色の縦縞とハート形斑とが散在する。

生態 本州中北部の低山帯には夏期も棲息しているので繁殖する事は疑いないと信ぜられていたが、1954年高田武夫氏が富士山麓にて2巣（5月27日2卵、8月18日3卵）を発見され、初めて繁殖の確証が得られた。秋期は人里近くの農耕地にも稀でなく冬期は馬來諸島・印度支那半島等に渡来するが我国に残留するものもある。♂はエッサイと称せられている。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・屋久島・奄美大島

190. ト ビ *Milvus migrans lineatus* (Gray)
BLACK-EARED KITE 一ワシタカ科一

形態 全体暗褐色。他の鷹類と異なり尾は叉状となる。嘴峰24~32%, 翼長455~530%, 尾長270~335%, 跗蹠58~67%。

生態 農耕地、海岸、市街地等に多く上空に円を廻きビー、ヒョロ、ヒョロとなき乍ら滑翔するのは人のよく知る所である。死魚、小動物の死体等を啄食する。

分布 全国各地に同年棲息繁殖し数も多い。

ハイロチュウヒ



チュウヒ

185. チュウヒ

含 幼鳥



186. ハイロチュウヒ

含 幼鳥



187. オオタカ

成鳥

幼鳥



188. ハイタカ

含

含 幼鳥



189. ツミ

含

含



190. トビ



191. オジロワシ

192. オオワシ

193. ハチクマ
暗色形

ハチクマ

194.
サシバ

幼鳥

成鳥

196.
ミサゴ

195. ハゲワシ



191. オジロワシ

Haliaeetus albicilla albicilla (Linnaeus)

WHITE-TAILED SEA-EAGLE

—ワシタカ科—

形態 全体褐色、尾は白。主として海岸の岩壁に棲む。嘴峰 46~55%。翼長 570~720%。尾長 225~288%。跗蹠 90~113%。頭頸部は淡黄褐色。尾羽は 12 枚にて中央稍突出する。幼鳥は尾羽黒褐色にて先端に白色斑がある。

生態 我国では北海道で繁殖し、本州以南には冬鳥として渡来する。主として岩壁のある海岸に棲息し魚類を捕食するが小獣や鳥類をも捕らえる。山中の湖畔や池畔等に棲息するものもある。欧州・中央アジア・シベリア・カムチャッカ・樺太・千島等に広く分布繁殖する。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬



オジロワシ

192. オオワシ

Haliaeetus pelagicus pelagicus (Pallas)

STELLER'S SEA-EAGLE

—ワシタカ科—

形態 黒褐色で中、小雨覆と尾とは白。嘴は黄色で強大。嘴峰 66~75%。翼長 560~650%。尾長 330~400%。跗蹠 95~115%。額、脛、上下尾筒も白。尾羽は 14 枚。幼鳥は尾羽は白と褐色との霜降り模様をなし、額、雨覆、尾筒、脛は褐色である。

生態 カムチャッカ・樺太等で繁殖し冬期千島を経て我国に渡来する。冬期根室、北見の海岸には稀でないが本州以南には稀。主として海岸に棲息し魚類を主食とするが獣類や鳥類をも捕食する。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・奄美大島

193. ハチクマ

Pernis apivorus japonicus Kuroda

JAPANESE HONEY BUZZARD

—ワシタカ科—

形態 尾に 3 条の顕著な黒褐色帯がある。嘴峰 23~26%。翼長 420~450%。尾長 246~302%。跗蹠 50~60%。上面は黒褐色。顔の羽毛は鱗片状で灰褐色、褐色等である。黒色の頸線と腿線顕著。下面の色は赤褐色、黄白色又は褐色で幅広い白色横斑のあるもの等個体に依り区々であるが、何れも胸には細長い顕著な縦斑がある。

生態 北海道には平地の森林にも棲息するが本州では山地の森林中で繁殖する。ジバチの巣を掘り起こして好んでその幼虫や蛹を専食する。其他鱗翅目の幼虫、直翅目、鞘翅目の昆虫、小獣類、両棲類等をも食す。冬期は馬来半島・馬来諸島等に渡る。

分布 北海道・本州で繁殖し、九州にも渡来する。

194. サ シ バ

Butastur indicus (Gmelin)
EASTERN BUZZARD-HAWK

—ワシタカ科—

形態 上面褐色の中形の鷹にて飛翔中ビツ、クイーとなく声顯著。嘴峰19~23%、翼長313~347%、尾長182~200%、跗蹠54~65%、翼赤褐色。尾の4条の黒色帯顯著。肩斑白。下面肥、喉白く褐色縦線あり。上胸は赤褐色、以下の下面は赤褐色と白との横線。幼鳥は肩斑黄白色にて下面白く、上胸には褐色の太い縦斑あり、以下の赤褐色横線は太く且粗である。



サシバ

生態 我国には夏鳥として渡来し、西日本には夏期最も普通の鷹で平地の松林や雑木林に営巣する。飛翔時は淡赤褐色に見える。春期の渡りはあまり顯著でないが秋期大群をなし九州南端から琉球列島を南下し馬来諸島に渡る。

分布 本州・四国・九州で繁殖し、伊豆七島・対馬・屋久島・奄美大島・徳之島等にも渡来す。

195. ハゲワシ

Ægyptius monachus chincoi (Daudin)
CHINESE CINEREOUS VULTURE

—ハゲワシ科—

形態 黒褐色の巨大な鷹で後部は綿羽のみにて後頸には羽毛なく皮膚を裸出す。嘴峰57~67%、翼長770~887%、尾長350~410%、108~144%。

生態 チベット・中国北部・蒙古・満州・朝鮮北部等に分布し、我国には迷鳥として稀に渡来するに過ぎない。獣類の死屍を好んで食す。

分布 北海道(釧路)本州(福島県・島根県・静岡県・兵庫県)四国(高知県)等で採集された事があるに過ぎない。

196. ミサゴ

Pandion haliaëtus haliaëtus (Linnaeus)
OSPREY

—ミサゴ科—

形態 海岸や湖畔に棲む中形の鷹で下面白。嘴峰30~35%、翼長445~510%、尾長187~235%、跗蹠50~61%。頭上、後頸白色で黒色縦斑がある。背は黒褐色で白い小斑散在す。耳羽から頸側にかけ太い黒褐色線が走る。下面は白く上胸に褐色横帯あり。

生態 海岸、湖畔、河畔等に棲息し西日本には多い。魚類を主食とし水面上空を飛翔して魚を発見すると翼をすばめて急降下して鋭利な爪で之を捕らえる。附近の岩上や木の頂に止まって捕らえた魚を啄食する。海岸に棲むものはボラを捕らえる事が多い。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・種子島・奄美大島等に棲息する。種子島・奄美大島からはまだ繁殖の確証ないが、其他の地では繁殖する。



ミサゴ

[PLATE 29]

197. コウノトリ *Ciconia cinerea boyciniana* Swinhoe
JAPANESE STORK —コウノトリ科—

形態 純白。脚と頸長く、翼の大部分黒く脚暗赤色。嘴峰200~273%, 翼長580~670%, 尾長216~257%, 跗蹠242~280%, 眼の周囲は皮膚裸出して赤色、嘴は暗黒色。初列風切、三列風切、大雨覆は黒色、次列風切は緑だけが黒。

生態 往時は全国に普通に棲息していたらしいが、今日では兵庫県出石郡付近に少数のものが周年棲息し繁殖しているだけで特別天然記念物に指定されている。近年福井県下にも少数繁殖するようになった。朝鮮中部以北には今日でも稀でない。中国・アムール・ウスリーにも棲息する。

分布 兵庫県のほか北海道(函館)本州(秋田県・千葉県・東京都・神奈川県)四国(徳島県・高知県)対馬等に渡来した記録がある。

198. ナベコウ *Ciconia nigra* (Linnaeus)
BLACK STORK —コウノトリ科—

形態 コウノトリより小。嘴、脚は紅色。胸、腹は白色。その他は黒色にて金属性の緑、紫等の光沢がある。嘴峰160~195%, 翼長492~600%, 尾長190~250%, 跗蹠178~200%, 眼の周囲の皮膚は裸出して赤色。

生態 本種は広く欧州・シベリア・小アジア・ペルシア・蒙古・満州・朝鮮等に分布し、我国には冬期極めて少数のものが九州南部に渡来するに過ぎない。

分布 北海道(函館)本州(千葉県・東京都・神奈川県・京都府)八丈島・四国(徳島県・高知県—1952年10月—)九州(佐賀県・有明海・熊本県)等に渡来した記録がある。

199. ヘラサギ *Platalea leucorodia major* Temminck & Schlegel
JAPANESE SPOONBILL —ヘラサギ科—

形態 大形の白鷺に似るが脚短い。嘴扁平にして先端まるく杓子状。嘴峰180~238%, 翼長350~410%, 尾長110~132%, 跗蹠130~165%。夏羽は後頭部に羽冠あり、頭の下部に黄褐色帯があるが冬羽は之を欠く。嘴は黒色に黄褐色を混じり先端黄色。脚は黒。

生態 シベリア東南部・満州・蒙古・中国北部等で繁殖し、冬期は中央アジア・ペルシア・印度・エジプト等に渡来する。我国には往時は全国に冬期稀ならず渡来したらしいが、今日では少数のものが九州南部に渡来する以外は極めて稀である。

分布 冬期北海道(函館)本州(青森県・新潟県・千葉県・東京都・神奈川県・京都府・大阪府・兵庫県)四国(徳島県)九州(佐賀県・熊本県・鹿児島県)等に渡来した記録がある。

200. クロツラヘラサギ *Platalea minor* Temminck & Schlegel
BLACK-FACED SPOONBILL —ヘラサギ科—

形態 ヘラサギに似るが稍小形にて嘴黒色。嘴峰145~193%, 翼長338~371%, 尾長100~117%, 跗蹠119~134%。額、眼先、腮の裸出部は黒色。夏羽の羽冠前種より短い。

生態 我国には冬期極めて稀に渡来するに過ぎない。台湾・中国南部・満州・朝鮮等に棲息し、その他フィリピン・印度支那等で採集されたことがある。朝鮮南部の西海岸の島嶼には集団繁殖地がある。

分布 本州(千葉県)九州(佐賀・福岡・熊本・長崎・鹿児島)五島列島で稀に採集されたことがある。

201. ト キ *Nipponia nippon* (Temminck)
JAPANESE CRESTED IBIS —ヘラサギ科—

形態 白鷺に似るが脚短く嘴は円筒形で下方に彎曲す。嘴峰155~203%, 翼長375~432%, 尾長150~184%, 跗蹠70~90%, 風切羽, 翼の裏面, 尾はばら色。嘴は黒く先端赤。脚は暗赤色。頭部前半は裸出して赤色。本種の灰色形のは上面及び胸は灰鼠色。

生態 往時は日本各地に多数棲息, 繁殖もしていたが今日では能登半島と佐渡に極く少数のものが繁殖するに過ぎない。特別天然記念物に指定されている。朝鮮にも現在あまり多数棲息せず, また満州・中国・ウスリーにも分布す。

分布 北海道・本州・佐渡・四国・隠岐・九州等で採集された事がある。

202. クロトキ *Threskiornis melanocephala* (Latham)
WHITE IBIS —ヘラサギ科—

形態 前種に似るが頭部には羽毛なく裸出部黒色。嘴峰135~175%, 翼長343~370%, 尾長120~145%, 跗蹠95~116%, 夏羽は前頭羽毛と三列風切と肩羽とは長く延びて総状となり飾羽を形成する。嘴と脚とは黒。

生態 印度・印度支那半島・中国南部等に分布する。我国でも往時は埼玉県鷺山には多数繁殖したが, 今日では全く後を絶ち秋期東京湾沿岸等に少数渡来するのみ。

分布 北海道(函館・網走)本州(埼玉県・東京都・千葉県・神奈川県)

203. アオサギ *Ardea cinerea jouyi* Clark
EASTERN GREY HERON —サギ科—

形態 巨大な鷺で背面灰色, 翼青黒色。嘴峰107~130%, 翼長417~475%, 尾長157~188%, 跗蹠137~172%, 後頭に青黒色の長い飾羽あり, 頭には青黒色の縦斑がある。

生態 全国に分布し稀ならず。水田, 沼沢地, 池畔等に棲息し, 主として魚類, 蟹等を捕食する。飛翔は緩慢で時々グワー, グワーとなく。集団して樹上に営巣する。

分布 北海道・本州・四国で繁殖し, 本州中部以南には冬期も滞留するが一部は温暖地に渡去する。冬期は伊豆七島・九州・対馬・奄美大島等にも渡る。

204. ムラサキサギ *Ardea purpurea manilensis* Meyen
EASTERN PURPLE HERON —サギ科—

形態 前種と略同大であるが頭は青黒色と黄褐色との縦縞となり美麗。嘴峰121~141%, 翼長358~372%, 尾長122~132%, 跗蹠129~146%, 成鳥は頭上, 羽冠及び後頭上部は青黒色, 以下の上面は灰青色。肩羽は総状に延び灰青色と黄褐色とで美しい。頭は黄褐色で頭側に青黒色1縦線走る。下面上胸は濃栗色, 以下青黒色。胸の上部に褐色と灰色とより成る美しい寝毛がある。♀は背は赤褐色と灰色との斑, その他は大体暗赤褐色である。幼鳥は♀に類似する。

生態 印度・印度支那半島, 馬來諸島・台湾・満州・中国等に分布し, 我国には主に秋期各地に少数のものが渡来する。四国(高知県)には少数ながら毎年渡来する。野外ではアオサギより著しく嘴長く且脚が短く見える。飛翔中グワー, グワーとなく。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州等に渡来する。

198. ナベコウ

199. ヘラサギ

197.
コウノトリ

200.
クロツラヘラサギ

201.
ト キ

202. クロトキ

成鳥

204.
ムラサキサギ

♂

♀

幼鳥

203. アオサギ





205. チュウダイサギ

Egretta alba modesta (Gray)

EASTERN GREAT WHITE EGRET

—サギ科—

形態 我国の白鷺中最大。嘴峰100~117%, 翼長337~394%, 尾長127~163%, 跗蹠136~165%。

生態 夏鳥として我国に渡来し近畿地方の御陵の森にはチュウサギ、コサギ、ゴイサギ、アマサギ、アオサギ等に混じって集団営巣するものが多い。営巣地から4軒以上もはなれた海岸の干潟や広い田圃等にも採餌する。飛翔の翼動は緩慢である。本種は広く中国南部・馬來諸島・印度支那半島・印度・濠洲等に分布し我國で繁殖したものは冬期は之等の地方に渡去するが少数のものは冬期も我国に残留する。

分布 本州・九州で繁殖し北海道・伊豆七島・四国・奄美大島等にも渡来する。

亜種 ダイサギ *Egretta alba alba* (Linnaeus) は一層大形(嘴峰109~138%, 翼長400~465%, 尾長140~185%, 跗蹠148~215%)であり、我国には冬鳥として少数渡来するに過ぎない。

206. チュウサギ

Egretta intermedia intermedia (Wagler)

FLUMED EGRET

—サギ科—

形態 前種より小。嘴峰68~80%, 翼長283~317%, 尾長110~132%, 跗蹠100~121%。

生態 春期我国に渡来し、前種同様松林、雑木林、竹藪等に多数集団して営巣する。

白鷺類の野外識別

種名 羽衣	チュウダイサギ		チュウサギ		コサギ		アマサギ	
	夏羽	冬羽	夏羽	冬羽	夏羽	冬羽	夏羽	冬羽
各部								
嘴	黒色。基部黄緑色	黄 色	黒。基部僅かに黄	鮮黄色。先端黒	黒 色	黒色。下嘴基部黄色	鮮黄色	白黄色
眼先の裸出部	鉛青色	黄緑色	鮮黄色	黄 色	黄緑色	白黄色	黄 色	白黄色
脚	黒 色	黒 色	黒 色	黒 色	黒 色	黒 色	帯褐色	帯褐色
趾	黒 色	黒 色	黒 色	黒 色	緑黄色	緑黄色	黒 色	黒 色
羽 冠	なし	なし	なし	なし	2, 3本あり	なし	橙黄色	なし
胸の飾羽	なし	なし	縹状顯著	なし	飾羽あり	飾羽あり	橙黄色	なし
背の飾羽	縹状にて長い	なし	縹状にて長い	なし	縹状飾羽は夏羽程巻き上る	縹状飾羽は夏羽程長くない	橙黄色にて縹状	なし
体の色	純 白	純 白	純 白	純 白	純 白	純 白	頭頸部と背の飾羽	殆ど白色なるも頭部僅かに橙黄色のものあり
大 き さ	大		中		小		コサギより小	
本州出現	夏鳥。少数越冬		夏鳥。少数越冬		一部越冬		夏 鳥	

白鷺の中で数が最も多い。飛翔時の翼動は前種より稍早い。越冬地は前種と略同様であるが、西日本には少数越冬するものもある。

分布 本州・四国で繁殖し、北海道・伊豆七島・九州・対馬等にも渡来する。

207. コ サ ギ *Egretta garzetta garzetta* (Linnaeus)
LITTLE EGRET 一サギ科一

形態 白鷺中最小。嘴峰75~92%, 翼長240~283%, 尾長82~110%, 跗蹠87~110%。

生態 本州には周年棲息するものもあるが、冬期は多くは南方の温暖地に漂行する。本州中部以西で繁殖しその数は多い。飛翔時の翼動は前二種に比べて速い。

分布 本州・四国にて多数繁殖するほか北海道・伊豆七島・九州等にも分布する。

208. カラシラサギ *Egretta eulophotes* (Swinhoe)
CHINESE EGRET 一サギ科一

形態 夏羽は羽冠顕著。嘴峰71~85%, 翼長235~282%, 尾長79~92%, 跗蹠78~96%。胸と背ともに飾羽あり、脚比較短かい。嘴鮮黄色。脚は褐色、趾は黄緑色で基部上面褐色。

生態 本種は中国・朝鮮・台湾等で繁殖し冬期は馬來諸島・印度支那半島等に渡る他ウスリー地方・満州からも記録されている。我国では対馬からの記録があるが之は誤りであり、1956年大阪湾で初めて2羽採集された。

分布 本州（大阪湾、1956年5月13日1羽、1956年8月29日1羽）

209. クロサギ *Demigretta sacra ringeri* Stejneger
EASTERN REEF-HERON 一サギ科一

形態 全体黒色の鷺。嘴峰80~93%, 翼長274~315%, 尾長93~121%, 跗蹠74~96%。羽冠あり。胸及び背にも飾羽がある。腿に白色斑のある個体もある。嘴は黄色で先端褐色。脚暗緑色。本種には全体殆ど白色の白色形と白黒中間形とがあるが白色形のものは南方に多いらしく日本産のものは殆ど黒色形で稀に中間形のものがあ

生態 海岸の岩礁に棲息し岩棚上に営巣する。房総半島・伊豆半島・伊豆七島・紀伊半島・本州西部の日本海沿岸等主として本州中部以南の温暖地に多い。飛翔は緩慢で海上や岩礁上を低く飛ぶ。本州には周年棲息繁殖するが冬期一部は温暖地に漂行するらしく冬期は数を減ず。

分布 本州・伊豆七島・九州で繁殖するほか四国・対馬・種子島・奄美大島・沖縄良部島・与論島等にも分布する。

210. アカガシラサギ *Ardeola bacchus* (Bonaparte)
CHINESE POND-HERON 一サギ科一

形態 頭頸部は栗色、背石板色の鷺。嘴峰54~69%, 翼長194~238%, 尾長72~98%, 跗蹠57~64%。羽冠と胸の飾羽とは栗色。背の飾羽石板色。嘴は黄色で先端黒、基部青灰色。脚は暗緑色。冬羽は羽冠と飾羽とを欠き、頭頸部淡黄褐色で褐色の縦斑あり。

生態 印度支那半島・馬來諸島・中国・満州・ウスリー地方・台湾等に棲息し、我国には迷鳥として稀に渡来するに過ぎない。

分布 北海道（函館）本州（山形県・宮城県・長野県・茨城県・兵庫県等）伊豆七島（八丈島）九州等で秋期に採集された事がある。

211. アマサギ

Bubulcus ibis coromandus (Boddaert)

INDIAN CATTLE EGRET

—サギ科—

形態 コサギ大。夏羽は頭頸部と背の橙黄色顯著。冬羽は殆ど白くコサギに類似するが嘴黄(コサギは嘴黒)。嘴峰50~66%, 翼長226~265%, 尾長81~96%, 跗蹠82~96%。

生態 我国には夏鳥として渡来し、本州中部以南には普通に、殊に近畿地方と瀬戸内海沿岸とでは各地で繁殖する。その数はコサギよりは少ない。冬期は台湾・中国南部・馬來諸島・印度支那半島・印度・セイロン等に渡来するが、九州南部・種子島・屋久島には少数越冬するものがある。

分布 本州・四国・九州で繁殖するほか伊豆七島・対馬・屋久島にも分布する。

[PLATE 31]

212. ササゴイ

Butorides striatus amurensis (Schrenck)

AMUR GREEN HERON

—サギ科—

形態 ゴイサギに似るが遙かに小さい。嘴峰63~70%, 翼長194~214%, 尾長75~79%, 跗蹠50~56%。頭上、後頭は藍黒色で長い羽冠がある。頭は灰青色、背には暗緑青色の髪毛がある。風切羽は藍色で羽縁の白色顯著。下面は淡灰色で腿と喉とは白色。

生態 我国には夏鳥として渡来し本州中部以西には各地に稀でない。山麓や海岸の松林や市街地の神社境内の大神等に集団して営巣する。ゴイサギと異なり昼間も盛んに活動し、水辺や田圃に下りて小魚、蛙、アメリカザリガニ等を捕食する。飛翔時キウと一声ずつ特異の声でなく。冬期は琉球列島・台湾・馬來諸島・ミクロネシア群島等に渡去する。

分布 本州・四国・九州で繁殖。その他北海道・対馬にも分布し、また八丈島・種子島・屋久島・奄美大島等には越冬するものもある。

213. ゴイサギ

Nycticorax nycticorax nycticorax (Linnaeus)

NIGHT-HERON

—サギ科—

形態 上面光沢ある緑黒色で後頭にある2、3本の白色の長い飾羽顯著。嘴峰62~80%, 翼長261~310%, 尾長94~117%, 跗蹠64~80%。翼は灰色。顔、頭側、下面は白。幼鳥は上面褐色で淡黄褐色の斑紋散布し、下面は汚白色で褐色の縦斑散布して別種の様に見える。

生態 各地に普通。昼間は薄暗い森林中の梢に身を潜めているが夕方から夜にかけて大群をなして飛出し水辺に出て魚類を捕食す。養魚池等到大害を与える事がある。欧亚大陸及びアフリカに広く分布す。本州以南では留鳥であるが一部は冬期南方に渡行する。

分布 本州・伊豆七島・四国・九州で繁殖。北海道・奄美大島等にも分布する。

214. ミゾゴイ

Gorsakius goisagi (Temminck)

JAPANESE NIGHT-HERON

—サギ科—

形態 ゴイサギより嘴短かく頭上、後頭は濃栗色、背は一層暗色。嘴峰36~41%。翼長248~288%。尾長92~116%。跗蹠64~73%。下面黄褐色で黒褐色や白色の粗大縦斑散布。

生態 群棲せず単独にて生活する。薄暗い密林中に棲み溪流で蟹、ミミズ等を捕食する。本州中部以南の各地では繁殖するものがあるがその数は多くない。冬期は台湾・

中国南部・フィリピン等に渡るが少数は我国の温暖地で越冬する。

分布 本州・伊豆七島で繁殖するほか、北海道・四国・九州・対馬・種子島・屋久島・奄美大島・喜界島等に分布。

215. ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis* (Gmelin)

CHINESE LITTLE BITTERN

—サギ科—

形態 黄褐色の小形の鶯で水辺の葦原に棲息する。嘴峰46~54%, 翼長126~146%, 尾長39~49%, 跗蹠40~51%, 頭上黒色。初列風切, 次列風切黒く三列風切黄褐色であり飛翔時顕著。下面は淡黄褐色で胸側に褐色斑がある。♀は下面には黄褐色の縦斑がある。幼鳥は全体黄褐色で褐色縦斑散布。

生態 水辺の葦原に多数繁殖する。人が接近すると嘴と頸とを長く上方に延ばして静止し正面を向くので枯葦の様に見える, 付近の葦と識別困難である。飛翔は遅く葦の上をすれすれに低く飛ぶ。冬期は台湾・フィリピン等に渡来する。

分布 北海道・本州・四国・九州等で繁殖し, その他伊豆七島・奄美大島・沖永良部島・与論島等にも分布。本州中部以南では少数越冬するものもあるらしい。

216. オオヨシゴイ *Ixobrychus eurhythmus* (Swinhoe)

SCHRENCK'S LITTLE BITTERN

—サギ科—

形態 ヨシゴイより著しく濃色。嘴峰41~53%, 翼長137~163%, 尾長34~47%, 跗蹠45~52%, ♀は頭上暗黒色, 背は濃栗色, 翼は灰色。下面は灰白色で肥の中央から胸にかけ褐色の1縦線走る。♀は背に顕著な白斑散在し下面淡黄褐色で濃栗色の縦斑顕著。

生態 我国には夏鳥として渡来して繁殖するが, その数は一般にヨシゴイ程多くない。習性はヨシゴイに類似するが乾燥した草原等に棲息する事もある。ヨシゴイと異なり地上に営巣する事が多い。冬期は中国南部・馬來諸島・印度支那半島に渡る。

分布 北海道・本州・佐渡で繁殖し, 四国・九州・八丈島・対馬にも分布する。

217. リュウキュウヨシゴイ *Ixobrychus cinnamomeus* (Gmelin)

CINNAMON BITTERN

—サギ科—

形態 ヨシゴイと略同大で上面赤栗色。嘴峰46~54%, 翼長139~147%, 尾長41~48%, 跗蹠46~52%, 下面は黄褐色で喉に1条の褐色縦斑がある。♀は上面一層暗色にて兩腹に黄褐色斑がある。下面には数条の顕著な黒褐色の縦斑がある。

生態 奄美大島以南に周年棲息し, その数は多い。習性はヨシゴイに酷似。台湾・満州・中国・馬來諸島・印度支那半島・印度・セイロン島等にも分布する。

分布 奄美大島・沖永良部島・与論島

218. サンカノゴイ *Botaurus stellaris stellaris* (Linnaeus)

BITTERN

—サギ科—

形態 淡黄褐色と黒との斑の中形の鶯。嘴峰65~75%, 翼長290~350%, 尾長95~121%, 跗蹠86~106%, 頭上黒。背は淡黄褐色にて黒色の不規則な縦斑と横斑とが散在す。下面も淡黄褐色で喉から胸にかけ褐色の粗大な縦斑がある。胸の羽毛は飾羽状。

生態 我国には旅鳥または冬鳥として渡来するが, 比較的に少ない鳥である。本種の分布は広く欧州・北アフリカ・小アジア・中央アジア・シベリア南部・アムール地方・満州・中国北部等に及んでいる。広大な沼沢地の葦原に棲息する。

分布 北海道には稍多くその他本州・伊豆七島・四国九州・岩手・奄美大島に分布。

213. ゴイサギ



212. ササゴイ



215. ヨシゴイ



成鳥

幼鳥

幼鳥

♀

♂

214. ミソゴイ



217. リュウキュウヨシゴイ

♀

♂

218. サンカノゴイ



216. オオヨシゴイ

♀

♂

幼鳥

219. オオハクチョウ

成鳥

220. ハクチョウ

221. コブハクチョウ

幼鳥

成鳥

222.
サカツラガン

223. ハイイロガン



219. オオハクチョウ *Cygnus cygnus* (Linnaeus)
WHOOPEE SWAN

—ガンカモ科—

形態 全体純白色にて頸長く巨大。嘴峰 101~112%, 翼長 562~628%, 尾長 161~180%, 跗蹠 112~120%, 眼先は鮮黄色の皮膚裸出し、嘴の基部の鮮黄色部に続き鼻孔の先に達している。嘴の他の部分は黒、脚も黒色。幼鳥のものは全体灰白色で嘴は先端と縁とが黒く他の部分は暗肉色、脚は肉灰色を帯びる。

生態 欧亜大陸の北部で繁殖し、我国には冬鳥として渡来する。旧日本領の南緯太でも少数繁殖する。冬期は浅瀬のある湾内や、広い湖沼等に群棲する事が多い。水底の水草の根や茎を餌としている。北海道では北見・根室・日高地方の海岸には冬期散えて稀でない。本州では青森県小湊の海岸に多数渡来、天然記念物に指定されているほか、青森県大湊・秋田県八郎潟・新潟県水原町の鰲湖等が渡来地として有名である。琵琶湖や穴道湖にも渡来する。また鹿児島県荒崎にも年々少数のものが渡来する。

分布 冬鳥として北海道・本州・八丈島・四国・九州・対馬等に渡来。

220. ハクチョウ *Cygnus columbianus jankowskii* Alpheraky
EASTERN BEWICK'S SWAN

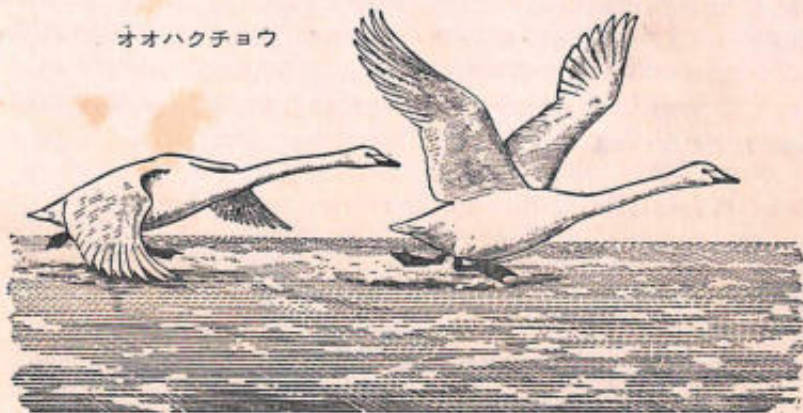
—ガンカモ科—

形態 オオハクチョウに似るが稍小。嘴基部の黄色部少ない。嘴峰 93~100%, 翼長 496~550%, 尾長 149~162%, 跗蹠 99~117%, 嘴基部の黄色部は鼻孔にまで達しない。脚は黒。幼鳥はオオハクチョウの幼鳥に類似する。

生態 本種はシベリアの東北部で繁殖し、我国にはオオハクチョウの群に混じって冬期渡来する事があるが比較的少ない。習性はオオハクチョウに類似している。

分布 北海道・本州・九州

オオハクチョウ





221. コブハクチョウ *Cygnus olor* (Gmelin)

MUTE SWAN

—ガンカモ科—

形態 上嘴基部に瘤状の突起がある。嘴峰(突起から)70~85%, 翼長535~622%, 尾長189~198%, 跗蹠98~120%。眼先の裸出部, 嘴基部の瘤状突起, 上嘴基部, 鼻孔, 上嘴先端と嘴縁及び下嘴全部は黒く, 嘴の他の部分は赤橙黄色。脚は黒。♀は♂より稍小さく瘤状突起も小さい。

生態 広く欧州・シベリアに分布し欧州にては各地の湖沼, 公園等に半野生の状態で多数放飼されている。我国では1933年11月に八丈島で1羽採集されたただけである。近年皇居の御蔭その他に放飼されたのは本種である。

分布 八丈島

222. サカツラガン *Anser cygnoid* (Linnaeus)

CHINESE GOOSE

—ガンカモ科—

形態 頭上, 頭側, 後頭 暗赤褐色, 喉, 頸側, 前頭 淡褐色と縦に染め分けられているのが顕著である。嘴峰87~94%, 翼長423~460%, 尾長128~145%, 跗蹠74~85%。背は灰褐色で褐黄色の横斑がある。下面胸は淡黄褐色で下部に移るに従い淡く腹は汚白色。

生態 シベリア東部・満州・蒙古・カムチャッカ等で蕃殖し我国には冬期渡来する。渡来数はあまり多くないが千葉県 新浜海岸の干潟には毎年数10羽の群が見られる。家禽として飼育されているシナガチョウは本種を原種として中国で作られたものである。

分布 北海道・本州

223. ハイイロガン *Anser anser rubrirostris* Swinhoe

EASTERN GREY-LEG GOOSE

—ガンカモ科—

形態 灰褐色の雁。嘴峰53~76%, 翼長398~482%, 尾長130~160%, 跗蹠66~87%。嘴の基部に白色帯がある。下面灰色で胸と腹とに不規則な黒斑がある。嘴, 脚は肉色。

生態 欧州北部・シベリア東部に亘って蕃殖し冬期はアフリカ北部・印度西北部・中国等に渡来し, 我国には極めて稀に渡来するに過ぎない。ガチョウは欧州に於いて本種を原種として作られたものである。

分布 本州(迷鳥として千葉県及び埼玉県で採集された事がある。)

[PLATE 33]

224. マ ガ ン

Anser albifrons frontalis Baird

WHITE-FRONTED GOOSE

—ガンカモ科—

〔形態〕 ヒシクイと共に普通の雁でヒシクイより小形。嘴峰 40～55%、翼長 369～450%、尾長 114～132%、跗蹠 55～80%。前額に顕著な白色帯あり。頭頸部及び上面暗褐色にて背の羽縁は黄褐色。上尾筒側部と先端との白色は飛翔時も顕著。下面腕以下白色にて黒色の不規則な横斑があるが之は老鳥程多い。脇は暗褐色である。嘴は橙黄色で先端白。胸は橙黄色。幼鳥は前額の白色帯殆どなく且下面の黒斑も殆どない。嘴は褐色に近い。

〔生態〕 欧亜大陸及び北米の北部にて繁殖し、我國には冬期渡来する。居間は海上や広大な干潟等に休み、夕方から農耕地や池沼に飛来して啄食する。編隊にて八形に飛翔し、飛翔中大声でグワン、グワンとなき合っている。警戒心強く中々人を近付けない。

〔分布〕 北海道・本州・八丈島・四国・九州等に渡来する。

225. カリガネ

Anser erythropus Linnaeus

LESSER WHITE-FRONTED GOOSE

—ガンカモ科—

〔形態〕 マガンに類似するが小形。前額の白色帯幅広く上部は頭上に迄及んでいる。嘴峰 30～45%、翼長 340～390%、尾長 95～109%、跗蹠 58～62%。

〔生態〕 欧亜大陸の北部で繁殖し、我國には冬期マガンの群に混じって渡来するが其数は少なく稀種である。習性はマガンに類似する。

〔分布〕 北海道・本州・八丈島・四国・九州等で採集された事がある。

226. ヒ シ ク イ

Anser fabalis serrirostris Swinhoe

EASTERN BEAN-GOOSE

—ガンカモ科—

〔形態〕 大形の雁で我國に渡来する雁の中で最も数が多い。嘴峰 60～75%、翼長 440～520%、尾長 125～170%、跗蹠 64～99%。頭頸部 黄褐色、背は黒褐色で羽縁は黄白色。上尾筒の側部と先端とは白。尾は黒褐色で先端白。胸 以下の下面は白く、脇は 暗褐色であるが羽縁黄白色。嘴は黒色で先端に近く橙黄色帯がある。脚は橙黄色。幼鳥は背の羽縁黄褐色にて幅広く、下面は淡灰色である。

〔生態〕 シベリア東北部にて繁殖し、我國には冬期渡来する。渡来する主な経路は(1)樺太・北海道を経由するもの(2)シベリア大陸より日本海を越えて北陸地方に渡来するもの(3)朝鮮から九州に渡来するものの三つである。マガンより遙かに数が多い。居間は海上や広大な干潟等に休み夜間 農耕地や池沼に飛来して水草の茎や根、穀類等を食す。霧の深い日や雨天には居間でも農耕地で啄食する。八形 編隊で飛翔しグワン、グワンとなく。

〔分布〕 北海道・本州・八丈島・四国・九州等に渡来する。

〔備考〕 オオヒシクイ *Anser fabalis middendorffi* Severtzow はヒシクイに混って冬期我國に渡来するが、その数はヒシクイに比し少ない。体はヒシクイより稍大。

227. ハクガン

Anser caerulescens caerulescens (Linnaeus)

SNOW-GOOSE

—ガンカモ科—

形態 全体純白にて、頸はあまり長くない。嘴峰50~61%、翼長380~460%、尾長115~140%、跗蹠78~91%。初列風切は黒色で極めて顕著。嘴は暗赤色にて先端角状乳白色。脚は暗赤色である。

生態 シベリア東北部、北米大陸の北極部にて繁殖し、冬期アメリカ合衆国では稀でない。我国に渡来するものは極めて少なく、稀にヒシクイの群等に混じって1, 2羽位見られるだけである。往時は我国にも冬期多数渡来したらしい。

分布 北海道(函館)本州(千葉県・東京都・埼玉県・神奈川県・静岡県・愛知県)九州(長崎県)等から採集または観察の記録がある。

228. コクガン

Branta bernicla orientalis Tougarev

BLACK BRENT

—ガンカモ科—

形態 黒色小形の雁。嘴峰31~37%、翼長325~352%、尾長96~101%、跗蹠53~66%。頭頸部、胸は黒く白色の頸輪顕著。頸輪は前頸に於いて特に幅広く頸側に於いては黒条を混じえる。背は暗褐色で羽縁黄褐色。胸以下の下面暗褐色で下腹部と下尾筒とは白。嘴と脚とは黒色である。

生態 シベリアの北極海沿岸・北米大陸の北極海諸島等で繁殖し、我国には冬渡来するがその数は少ない。冬期は数羽から数十羽の群をなして波の不高くない内海や広い湾内に生活する事が多く、他の雁の様に警戒厳重でないので比較的接近する事ができる。

分布 北海道・本州・四国・九州等に渡来する。

229. シジュウカラガン

Branta canadensis leucopareia (Brandt)

LESSER CANADA GOOSE

—ガンカモ科—

形態 暗黒色の雁。喉から耳羽、眼の後方にかけての三角形の白斑顕著。嘴峰32~43%、翼長390~429%、尾長132~147%、跗蹠69~80%。頭頸部は三角形白斑を除いた部分は黒色。頸の下部には白色頸輪ある。背は灰褐色。腰と尾とは黒く上尾筒の側部と先端とは下尾筒と共に白。胸以下の下面は淡灰褐色で腹部は白。嘴と脚とは黒。

生態 シベリア東北部沿岸・コマンドル諸島・アリューシャン諸島・北千島・中部千島等で繁殖し冬期我国に渡来する。海岸の干潟、湖沼等に群棲する。千葉県の東京湾岸の干潟や浅瀬は本種の渡来地として有名であったが近年は急激に数を減じ稀となった。近畿地方には極めて稀であるが1950年11月中旬伊丹に渡来した事がある。

分布 北海道(函館・厚岸)本州(青森県・岩手県・千葉県・埼玉県・東京都・兵庫県)等から採集や観察の記録がある。

亜種 ヒメシジュウカラガン *Branta canadensis minima* Ridgway は北米

のアラスカからカリフォルニアにかけて分布する亜種であるが、横浜にて1点採集された事がある。



マガン



224. マガン



225. カリガネ



226. ヒシクイ



227. ハクガン



228. コクガン



229. シジュウカラガン





230.
アカツクシガモ

♂



♂

♀

231.
カンムリツクシガモ



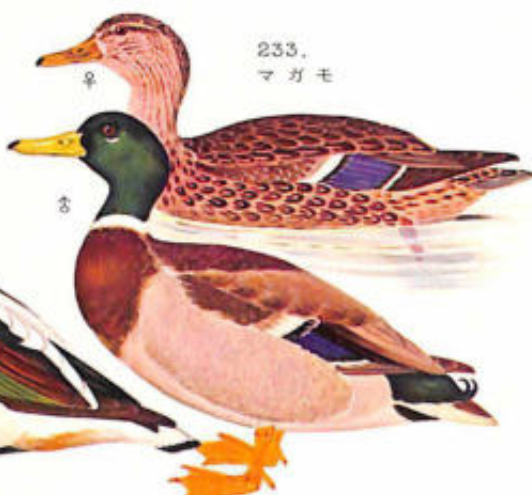
♀

♂

♂

♀

232.
ツクシガモ



♀

♂

233.
マガモ



♂

234.
カルガモ



♀



♀

♂

235.
オカヨシガモ

230. アカツクシガモ *Tadorna ferruginea* (Pallas)

RUDDY SHELDRAKE

—ガンカモ科—

形態 全体美しい狐色の大型の鴨。嘴峰36~50%, 翼長307~399%, 尾長104~144%, 跗蹠54~66%。♂の頭部は淡黄褐色, 頸, 背は狐色にて頸の中央に黒色の顕著な頸輪がある。背には虫喰状の黒褐色斑がある。腰と尾とは黒。下面狐色。初列風切は黒く, 翼鏡は光沢ある緑色。兩翼と三列風切の内弁とは白色である。嘴と脚とは黒。♀は全体色稍淡く頸輪を欠く。

生態 欧州東南部・アフリカ北部・小アジア・中央アジア・チベット・中国北部・満州・蒙古等で繁殖し, 冬期朝鮮には稀ならず渡来するが我国には極く稀に渡来するに過ぎない。水上を游泳する姿勢は鴨類よりもむしろ雁類に似ている。

分布 冬期本州(山形県・宮城県・千葉県・茨城県・東京都・兵庫県)九州(熊本県・長崎県・鹿児島県)五島列島で採集された事がある。

231. カンムリツクシガモ *Tadorna cristata* (Kuroda)

CRESTED SHELDRAKE

—ガンカモ科—

形態 現在世界中の標本の3点しかない最珍貴の種類である。嘴峰42~45%, 翼長310~320%, 尾長115~117%, 跗蹠47~50%。♂は頭上に帯緑黒色の長い羽冠がある。顔, 頭側, 前頸は煙灰色, 腿に緑黒色の大斑がある。胸は緑黒色, 背は暗灰色で灰白色の小形波状斑がある。肩羽と三列風切の外弁とは栗色, 胸以下の下面は暗褐色で淡色の小波状斑密布する。♀は胸の緑黒色を欠き且腿の周囲黄白色。

生態 本種の現存する標本は朝鮮釜山付近に於いて1913年12月3日に採集された♀1羽, 中村再造氏が朝鮮全羅北道にて1913年頃採集された♂1羽(以上黒田長礼博士御所蔵)及びF. Irminger氏がウラジオストックで1877年4月に採集された♀1羽(コペンハーゲン博物館蔵)の3点だけである。往時は我国にも渡来したらしく徳川時代(1822年10月)に函館で採集された記録もありその他鳥の古画にて本種と確認されるものもあるが近年では全く見られない種類である。

分布 前記諸例に依り北海道・朝鮮・ウラジオストックが産地として知られている。

232. ツクシガモ *Tadorna tadorna* (Linnaeus)

SHELDRAKE

—ガンカモ科—

形態 大型の鴨。♂の上嘴基部に瘤状突起あり。嘴端は稍上方に反り上がり赤色。嘴峰53~60%, 翼長290~350%, 尾長100~123%, 跗蹠50~57%。頭頸部漆黒色。以下白色であるが極めて幅広い濃栗色帯が背から胸を取巻く。肩羽と風切羽とは黒く翼鏡は金属緑色にて内翼羽の外弁は栗色。尾羽は白く先端黒。胸と腹の中央には幅広い黒色帯縦走し, 下尾筒は淡栗色。脚は紅肉色。♀は上嘴基部の瘤状突起を欠く。

生態 欧州・中央アジア・シベリア南西部・中国北部・蒙古・満州等で繁殖し, 冬期朝鮮には稍多数渡来するが我国では稀である。著者は1952年11月3日大阪湾にて♂1羽を採集したが近畿地方からは初めての記録である。水上を游泳する姿は雁類に似る。

分布 冬期北海道・本州・八丈島・四国・九州等に渡来するがその数は少ない。

233. マガモ *Anas platyrhynchos platyrhynchos* Linnaeus
MALLARD —ガンカモ科—

形態 ♂は頭頸部金属緑色にて白色の頸輪がある。嘴峰50~56%, 翼長240~280%, 尾長82~95%, 跗蹠40~44%, 胸は紫栗色, 背は淡黒褐色, 上尾筒は黒色で先端巻き上る。翼鏡金属緑黒色で前後に白縁がある。♀は全体黄褐色で黒褐色斑があり過眼線黒。

生態 アヒルは本種を原種として作り出されたものである。冬期は各地の湖沼, 沼沢地, 海洋上に多数群棲するが, 夏間は主として海洋上に生活し夜間陸地に飛来するものが多い。狩猟鳥として有名である。広く欧亜大陸及び北米に分布繁殖し, 我国でも一部繁殖するものもあるが大部分は冬鳥としてシベリア大陸より渡来する。

分布 北海道・本州の高山湖・黒毛島等から繁殖の記録がある。冬期は北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・種子島・奄美大島に分布する。

234. カルガモ *Anas poecilorhyncha zonorhyncha* Swinhoe
SPOT-BILLED DUCK —ガンカモ科—

形態 ♂♀類似。マガモの♀に似る。嘴峰45~59%, 翼長245~292%, 尾長79~102%, 跗蹠41~51%, 頭上, 背, 腰, 尾は黒褐色で眉斑黄白色, 過眼線は黒褐色である。腿, 喉は黄白色, 胸は黄褐色と黒褐色との斑で下方に移るに従い黒褐色となる。翼鏡金属藍黒色, 三列風切の外弁白。嘴の先端と脚とは橙黄色。

生態 蒙古・満州・ウスリー地方・朝鮮・樺太・日本等東亜に限られ分布する種類であり, 我国では各地で繁殖する。水辺, 沼沢地の葦原等に営巣し雛を連れだした親鳥は人に会おうと擬傷(翼をばたいた羽搏いて恰も負傷して飛び立てない様な動作)をして人の注意を引き, 雛を安全な叢等に待避させる習性がある。この習性はマガモにもある。冬期は昼間は大群にて海洋上に休む事が多い。

分布 北海道・本州・四国・九州・喜界島で繁殖し, 本州中部以南には冬期も多数滞留し, また伊豆七島・対馬・種子島等にも分布する。

235. オカヨシガモ *Anas strepera strepera* Linnaeus
GADWALL —ガンカモ科—

形態 中形の鴨にて♂は頭上, 後頭暗赤褐色, 翼の雨覆の栗茶色が顕著である。嘴峰38~47%, 翼長238~282%, 尾長76~93%, 跗蹠35~40%, 背, 胸, 脇は黒褐色で黄白色の虫喰状斑がある。腰は黒。顔, 頭, 喉は黄白色の地色に黒褐色の小斑散布。次列風切羽外弁は白。♀は上面黒褐色, 胸は黄褐色で黒斑あり腹は白く少量の斑点がある。

生態 広く欧亜大陸・北米・北アフリカに亘り分布する。我国には冬期渡来するが, その数は少ない。北海道では少数繁殖するものがあるらしい。近畿地方では冬期所々の池で年々少数を見る事ができる。

分布 北海道・本州・四国・九州

[PLATE 35]

236. コガモ

Anas crecca crecca Linnaeus
TEAL

—ガンカモ科—

形態 最小形の鴨。嘴峰21~41%。翼長160~194%。尾長62~72%。跗蹠27~30%。
♂は頭頸部栗茶色で眼の周囲から後頭部に金属光沢ある暗緑色の幅の広い線がある。背と脇とは一面に白と黒との密な虫喰状斑がある。胸は黄褐色で多数の黒色丸形斑がある。翼鏡は金属緑色。♀は上面黒褐色で黄褐色斑あり下面は白地に黒褐色斑がある。
生態 欧州及びアジアの中北部で繁殖し、冬期はアフリカ・印度・セイロン島等に渡来する。我国では北海道と青森県と日本アルプス（上高地）とで少数のものが繁殖する事が知られているが、冬期渡来するものの多くはシベリア大陸より来る。冬期は、湖沼、沼沢地、海上等に大群をなして棲息し狩猟のよい対象となる。

分布 北海道・本州で少数繁殖するほか冬期本州・八丈島・四国・九州・対馬・種子島・奄美大島・徳之島等に渡来する。

亜種 アメリカコガモ *Anas crecca carolinensis* Gmelin は北米産の亜種である。♂の胸側に白色大形の三日月形紋がある。我国には迷鳥として稀に渡来する。

237. トモエガモ

Anas formosa Georgi
BAIKAL TEAL

—ガンカモ科—

形態 ♂は頭上、喉は黒。顔は黒、淡黄褐色、金緑色で美しい模様をなす。嘴峰35~39%。翼長190~220%。尾長76~98%。跗蹠32~38%。背は灰青色で下方は黒褐色。肩羽長く伸び白、黒、黄褐色の縦縞となる。胸は淡褐色にて黒色丸形斑散在。胸側には顕著な白色の一横斑がある。♀はコガモの♀に似ているが稍大形で嘴の基部に円形の白色斑があるので容易に識別できる。

生態 シベリア東部で繁殖し、冬期は中国南部にまで渡る。我国には秋期多数渡来し本州中部以西に多い。近畿地方では厳冬には一時数を減じ春期再び数を増す。淡水に棲息し昼間でも海洋上にはあまり出ない。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州・対馬等に渡来する。

238. ヨシガモ

Anas falcata Georgi
FALCATED TEAL

—ガンカモ科—

形態 ♂の頭上は紫栗色で後頭の羽毛長く羽冠となる。三列風切細長く延びて彎曲し鍔毛状となる。嘴峰37~49%。翼長216~255%。尾長65~84%。跗蹠33~43%。顔は金緑色と光沢ある紫黒色とよりなり額と眼の下とに小白斑が一個宛ある。喉、頭は白く幅の広い緑黒色の頸輪がある。背、脇は白と黒との虫喰状斑にて胸の斑紋は粗で半月形斑である。翼鏡は藍黒色。嘴と胸とは黒。♀は上面黒褐色と黄褐色との斑。下面胸は褐色で黒褐色の半月形斑があるが腹は淡色。

生態 シベリアの北部及び東部・カムチャッカ・濱州・樺太・千島・北海道等で繁殖し冬期は中国南部・印度支那・印度にまで渡る。我国では冬期各地に普通でありその数は多い。昼間は海上、広い湖沼の中央部等に群集して生活し、夜間水田、沼沢地等に飛来して啄食する。

分布 北海道で少数繁殖。冬期北海道南部・本州・伊豆七島・四国・九州等に渡来。

239. ヒドリガモ

Anas penelope Linnaeus

WIGEON

—ガンカモ科—

形態 ♂は前額から頭尖迄黄白色。喉は黒、その他の頭頸部は栗色。嘴峰29~38%、翼長220~272%、尾長98~120%、跗蹠35~40%。背と脇とは白と黒との虫喰状斑。胸はぶどう色、腹は白、下尾筒黒。翼の雨覆白く飛翔時顕著である。嘴は青灰色で先端黒。♀は上面黒褐色で羽縁黄褐色。下面認、喉、胸、脇は赤褐色で腹は白。

生態 広く欧亜大陸の北部で繁殖し、我国には秋期多数渡来する。屋間は主として海上、湾内、広い湖沼の中央部等で生活し、夜間水田や沼沢地に飛来する。ビィュー、ビィューとなき合い、飛翔中も盛んになく。

分布 冬鳥として北海道・本州・八丈島・四国・九州・種子島等に渡来する。

240. アメリカヒドリ

Anas americana Gmelin

AMERICAN WIGEON

—ガンカモ科—

形態 我国では極めて稀。♂の頭上は白。嘴峰33~39%、翼長235~266%、尾長86~120%、跗蹠36~42%。翼の周囲から後頸にかけての金緑色の幅の広い一帯は後頸にて連結する。其他の頭頸部は白色で密に小黑斑がある。背、胸、脇はぶどう色にて背には密に黒色虫喰状斑がある。腹は白、下尾筒は黒。三列風切はかなり長く後方に延びる。雨覆は白。嘴は青灰色で先端黒。♀はヒドリガモの♀に似ている。

生態 本種は北米の中部及び西部で繁殖し、冬期はその南部に渡り米国では極めて普通の鴨であるが我国には冬期迷鳥として稀に渡来するに過ぎない。

分布 本州（宮城県・東京都・千葉県で10回程採集された事がある。）

241. オナガガモ

Anas acuta acuta Linnaeus

PINTAIL

—ガンカモ科—

形態 ♂は頭頸部暗褐色で黒色の長く尖った尾羽が顕著。嘴峰44~57%、翼長230~282%、尾長177~210%、♀92~121%、跗蹠37~47%。背は灰色で白色の小さな虫喰斑密に散在す。肩羽は長く後方に延びて黒色にて白い縁がある。翼鏡は緑黒色にてその上縁は赤褐色、下縁は白。下面は白色にて頭側では白色部上行している。♀は上面黒褐色で黄白色の羽縁がある。下面は白で褐色斑がある。尾羽は♂より著しく短い。

生態 欧亜大陸の中部以北で繁殖し、我国には秋期多数渡来する。北海道では旅鳥として春秋渡りの際にのみ出現し冬期は本州中部以南に多い。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州・対馬・種子島等に渡来。



オナガガモ

236.
コガモ



236.a
アメリカコガモ



237.
トモエガモ



238. ヨシガモ



239.
ヒドリガモ



ヨシガモ



240. アメリカヒドリ

241. オナガガモ

♀ 幼鳥

242. シマアジ

♂



♀

243. ハシビロガモ



♀

244. オシドリ



♀

245. ホシハジロ



♂

246. オオホシハジロ



♂

247. アカハジロ



242. シマアジ

Anas querquedula Linnaeus

GARGANEY

—ガンカモ科—

【形態】 コガモと略同大で翼の雨覆羽灰青色。♂には極めて顕著な白色眉斑がある。嘴峰37~40%。翼長175~198%。尾長62~70%。跗趾26~30%。♂には幅の広い黒色頭中央線がある。顔と頸とは栗色で小さい白線密に散在する。背は黒褐色で黄白色斑があり、肩羽は細長く延びて白と黒との縦縞となる。胸は黄褐色と黒褐色との横縞で腹は白。♀はコガモの♀に似るが雨覆羽青灰色なる事により区別出来る。幼鳥は♀に似る。

【生態】 欧州・シベリア・蒙古・満州・アフリカ北部等で蕃殖し、冬期はアフリカ・馬來諸島・印度等に渡来し我国では春秋の渡りの際に見られるが数はあまり多くない。冬期稀に滞留するものもある。数羽から10数羽の小群で水辺植物の繁った池畔に棲息しあまり人を恐れない。近畿地方では、秋は9月下旬から10月下旬頃、春は4月下旬頃に多いが冬期には観察されていない。

【分布】 北海道・本州・八丈島・四国・九州等に渡来する。

243. ハシビロガモ

Anas clypeata Linnaeus

SHOVELLER

—ガンカモ科—

【形態】 嘴極めて大で扁平へら状である。嘴峰59~69%。翼長217~252%。尾長73~85%。跗趾32~37%。♂は頭頸部は黒緑色。胸から背にかけては白く、背の中央部黒。白色肩羽は長く延び先端では空色と黒と白との縦縞となる。腹以下は濃栗色。雨覆は空色で翼鏡は金緑色。♀は上面黒褐色下面は黄褐色と黒褐色との斑で喉は黄褐色無斑。

【生態】 欧亜大陸の中北部・北米の中北部にて蕃殖し冬期はアフリカ・中国南部・南米等に渡る。我国では少数のものは北海道北部で蕃殖するが大部分のものは秋期シベリア大陸より渡来す。冬期各地の湖沼、沼沢地、海上に普通である。海上では数百の大群をなし岸に近い浅瀬に生活する事が多い。

【分布】 北海道で少数蕃殖する他冬鳥として北海道・本州・八丈島・四国・九州・種子島等に渡来する。

244. オシドリ

Aix galericulata Linnaeus

MANDARIN DUCK

—ガンカモ科—

【形態】 ♂の冬羽は極めて美麗。三列風切内側の一枚は栗色に大きく拡がり所謂銀杏羽となる。嘴峰27~32%。翼長214~250%。尾長90~109%。跗趾33~40%。♂は頭上金緑色にて後頭の羽毛は長く延び白色と赤栗色とを混じえている。背は暗褐色で肩羽には藍黒色と白色とを混じえる。眼先は淡褐黄色、頸側には栗色の細長い羽毛がある。胸は紫黒色で胸側には2条の白帯がある。腹は白。嘴は暗紅色。♀は上面暗褐色にて眼の周囲から後頸にかけ白い線が延びている。胸は黒褐色で白斑があり、上嘴基部両側と喉と腹とは白色。脇は黒褐色と黄褐色との斑。♂の夏羽は銀杏羽を欠き全体♀に似る。

【生態】 シベリア東南部・満州・蒙古・中国・朝鮮・日本等に分布蕃殖する。水上に生活すると共に高く高い樹枝上にも止まる。好んで椎の実を食す。山地の水辺に近い

葦木の天然樹洞に営巣する事が多いが、皇居の外濠付近や明治神宮等で蕃殖するものもある。冬期は群集して山間部の密林に囲まれた池や溪流に棲息するものが多い。

分布 北海道・本州・九州で蕃殖し冬期は本州中部以南・八丈島・四国・九州・対馬・種子島・奄美大島等に分布する。

245. ホシハジロ *Aythya ferina* (Linnaeus)

POCHARD

—ガンカモ科—

形態 頭の頭部濃栗色。嘴峰43~49%。翼長201~220%。尾長50~55%。跗蹠35~38%。背には白地に微小な黒色虫喰状斑が密に散在。胸は黒色、腹は汚白色。♀は頭部、上背、上胸は赤褐色で頭上僅かに黒色、喉淡色。以下の上面は♂に似るが暗色。腹は汚白色で下腹部淡黒色。嘴は黒色にて先端近くに灰青色帯がある。

生態 欧州及びアジアの中部にて蕃殖し、我国には冬期渡来する。海上よりも好んで淡水の湖沼に棲息し夜間は水田等にも飛来する。

分布 北海道・本州・四国・九州等に渡来する。

246. オオホシハジロ *Aythya valisineria* (Wilson)

CANVAS-BACK

—ガンカモ科—

形態 ♂♀共ホシハジロに類似するが大形にて♂の頭上、顔の前部、腮は暗黒色。嘴峰54~66%。翼長216~242%。尾長50~61%。跗蹠41~48%。♂の背はホシハジロよりも淡色で嘴は黒色。

生態 北米中部に分布する種類であり我国では迷鳥として2回採集された。

分布 北海道(厚岸にて1931年1月14日♂1羽採集)本州(千葉県手賀沼にて1931年1月28日♂1羽採集)

247. アカハジロ *Aythya baeri* (Radde)

SIBERIAN WHITE-EYED DUCK

—ガンカモ科—

形態 頭部光沢ある緑黒色。胸淡栗色で白色の腹部とくっきり区分されている。嘴峰42~49%。翼長198~223%。尾長60~63%。跗蹠35~37%。腮に菱形の顕著な白斑がある。背以下の上面は煙黒色。腹は赤褐色。翼鏡白。♀は♂に似るが胸の栗色稍淡く、且上嘴基部に褐色斑がある。腹部も褐色を帯びる。

生態 東亜特産の種類でありシベリア東部からカムチャッカに亘り蕃殖し、冬期は満州・朝鮮・日本・中国・印度等に渡来する。満州東部及び北部には稀でないが我国では稀種に属す。密林で囲まれた山間の池に棲息する事が多くあまり人を恐れない。

分布 冬期北海道・本州に稀に渡来する。



[PLATE 37]

248. キンクロハジロ *Aythya fuligula* (Linnaeus)

TUFTED DUCK

—ガンカモ科—

形態 中形の鴨にて腹、脇及び翼鏡白く其他は黒。嘴峰 38~42%、翼長 189~208%、尾長 49~57%、跗蹠 30~35%。♂の頭頸部は紫黒色で後頭の羽毛長く羽冠をなす。♀は頭頸部黒褐色、背、胸は褐色を帯びる。嘴は青灰色。飛翔時翼鏡の白色特に顯著。

生態 欧州及びアジアでは大体北緯40度以北で繁殖し、我国でも北海道には繁殖するものがある。冬期はアフリカ・フィリピン・印度に渡来するが我国では冬期も各地に見られる。湖沼、河口、入江等の比較的浅い所に群棲し、巧みに潜水して水底の貝類を食す。本州中部以北には夏期も少数残留するものがある。

分布 北海道(繁殖)本州・伊豆七島・四国・九州・屋久島

249. スズガモ *Aythya marila mariloides* (Vigors)

EASTERN SCAUP-DUCK

—ガンカモ科—

形態 キンクロハジロに似るが♂は背白く黒色虫喰状斑密。嘴峰 39~46%、翼長 201~220%、尾長 50~60%、跗蹠 38~44%。♂は頭頸部紫黒色。首と胸とは黒。背と肩羽とは白地に黒色虫喰状斑が密に散在。腹は白く翼鏡も白い。♀は嘴の基部に幅の広い顯著な白色帯があり、上面と胸と脇とは黒褐色で腹は白。

生態 シベリア東部・カムチャッカ・樺太・千島等にて繁殖し冬期は中国南部・印度支那等に渡来する。我国には冬鳥として渡来し海岸の浅瀬、河口部、入江、広い淡水湖等に多数棲息する。巧みに潜水して水底の貝類、蟹等を食す。千葉県東京湾沿岸の浅瀬には毎年数千羽から時には数万羽の群が飛来して放養した椎貝を食し害を与えている。

分布 冬鳥として北海道・本州・八丈島・四国・九州・種子島に渡来。

250. ホオジロガモ *Bucephala clangula clangula* (Linnaeus)

GOLDEN-EYE

—ガンカモ科—

形態 ♂は頭部と頸部の前半紫黒色で顔に大形の円い一白紋がある。嘴峰 28~36%、翼長 197~227%、尾長 77~90%、跗蹠 34~38%。背、腰、尾、肩羽、小羽、初列風切は黒色で其他は上下面共白色で配色美しい。♀は頭部と頸部の前半とは褐色で顔には白紋を欠く。上面は灰褐色、下面は白。

生態 欧州及びアジアの中部以北で繁殖し、冬期はアフリカ北部・印度北部・中国南部等に渡来する。我国には冬期稀ならず渡来するが本州中部以南では数はスズガモやキンクロハジロ程多くない。河口部、入江等の比較的浅い所に小群で生活し巧みに潜水する。北海道では厳冬期大きな川の結氷しない所には数10羽が群棲する事も稀でない。

分布 冬鳥として北海道・本州・八丈島・四国・九州・対馬に渡来する。

251. ヒメハジロ *Bucephala albeola* (Linnaeus)

BUFFLE-HEAD

—ガンカモ科—

形態 小形。♂は白と黒との配色美麗。嘴峰 23~29%、翼長 163~180%、♀ 150~163%、尾長 70~76%、跗蹠 30~33%。♂は頭頸部紫黒色で目の後方から後頭を巡る幅広い白色帯がある。背、肩羽、風切羽が黒く尾は灰色である他は総べて白色である。翼鏡

は白。♀は♂より著しく小さい。頭頸部及び上面は黒褐色で眼の下から耳羽にかけ大きな白斑がある。脇は暗褐色、腹は白。

生態 北米では普通の鴨であるが我国には迷鳥として稀に渡来するに過ぎない。

分布 本州（岩手県宮古湾にて1924年1羽、新潟県信濃川にて1956年1羽）から2回採集の記録があるに過ぎない。

252. コオリガモ *Clangula hyemalis* (Linnaeus)

LONG-TAILED DUCK

—ガンカモ科—

形態 白と褐色との配色の小形の鴨で♂には黒色の長い尾羽がある。嘴峰23~29%、翼長202~236%、尾長♂199~246%、♀57~76%、跗蹠32~35%。冬羽♂は頭頸部白く頸側に褐色の幅広い縦帯がある。背と翼とは黒褐色であるが肩羽は白く細長く後方に延びている。下面胸と上腹とは褐色で以下は白。嘴は黒く先端に近く橙黄色帯がある。♀は頭上褐色、頬の後方にも褐色斑がある。背は褐色。肩羽も褐色で♂の様に長くない。下面は胸が僅かに淡褐色で以下白。夏羽♂は頭頸部黒褐色になり眼先灰褐色。背も暗褐色にて肩羽は赤褐色と黒褐色との縦縞となる。♀も頭頸部褐色となる。

生態 広く北極の周囲部にて繁殖し、冬期はその南方に渡来す。我国でも冬期は北海道には多産し本州の北部にも渡来する。北海道では冬期結氷しない港湾内や河口等に極めて普通である。10数羽位の群を作りアオーナ、アオーナと聞える特異の声で盛んになく。あまり人を恐れず水上を低く飛んですぐに着水する。

分布 北海道・本州北部。青森県以南では稀。採集地の南限は千葉県手賀沼。

253. ヒロードキンクロ *Melanitta fusca stejnegeri* (Ridgway)

EASTERN VELVET SCOTER

—ガンカモ科—

形態 大形。全体黒色にて飛翔時には翼鏡の白顯著。嘴峰41~51%、翼長248~280%、尾長77~90%、跗蹠44~50%。♂には嘴の基部に瘤状突起あり又眼の後方に白斑がある。嘴は扁平にて、瘤状突起と中央とは黒く先端朱色両側は黄赤色。脚は暗紅色。♀は嘴の突起を欠き全体♂よりも褐色を帯び、眼の後方の白斑を欠く。嘴の基部に不明瞭な淡色斑がある。

生態 東部シベリア・カムチャッカ・北千島・コマンドル諸島等で繁殖し我国には冬期大群が渡来する。湾内・内海等の比較的波静かな海面に棲息しあまり岸近くには接近しない。水深30~40米位の所に多く集まり巧みに潜水して水底の貝を好んで食す。瀬戸内海では冬期3千から5千位の群も稀でない。海面を低く飛翔してすぐに着水する。

分布 冬鳥として北海道・本州・八丈島・四国・九州に渡来。

254. クロガモ *Melanitta nigra americana* (Swainson)

AMERICAN BLACK SCOTER

—ガンカモ科—

形態 前種より稍小。♂は全体黒く上嘴の基部隆起して橙黄色。嘴峰40~43%、翼長207~215%、尾長75~96%、跗蹠42~45%。隆起部以外の嘴と脚とは黒。♀は頭上及び背は暗褐色、顔、喉、頸側、腹は淡褐色と汚白色との斑にて胸、脇、下腹部は淡褐色。

生態 シベリア東北部・カムチャッカ・北千島・アリューシャン列島・北米北部・アラスカ西部等で繁殖する他北海道でも少数繁殖するものがある。冬期は我国に多数渡来する。湾内、内海等に前種と共に群棲するが瀬戸内海では前種程数は多くない。着水したり、海面低く直線に飛翔する習性は前種とよく似ているが翼鏡白くないので前種と容易に区別する事が出来る。

分布 北海道（少数繁殖）本州・八丈島・四国・九州

248. キンクロハジロ



キンクロハジロ



249. スズガモ



250. ホオジロガモ

251. ヒメハジロ



252. コオリガモ



253. ビロードキンクロ



254. クロガモ



は白。♀は♂より著しく小さい。頭頸部及び上面は黒褐色で眼の下から耳羽にかけ大きな白斑がある。脇は暗褐色、腹は白。

〔生態〕 北米では普通の鴨であるが我国には迷鳥として稀に渡来するに過ぎない。

〔分布〕 本州（岩手県宮古湾にて1924年1羽、新潟県信濃川にて1956年1羽）から2回採集の記録があるに過ぎない。

252. コオリガモ

Clangula hyemalis (Linnaeus)

LONG-TAILED DUCK

—ガンカモ科—

〔形態〕 白と褐色との配色の小形の鴨で♂には黒色の長い尾羽がある。嘴峰23~29%。翼長202~236%。尾長♂199~246%。♀57~76%。跗蹠32~35%。冬羽♂は頭頸部白く頸側に褐色の幅広い縦帯がある。背と翼とは黒褐色であるが肩羽は白く細長く後方に延びている。下面胸と上腹とは褐色で以下は白。嘴は黒く先端に近く橙黄色帯がある。♀は頭上褐色、頬の後方にも褐色斑がある。背は褐色。肩羽も褐色で♂の様に長くない。下面は胸が僅かに淡褐色で以下白。夏羽♂は頭頸部黒褐色になり眼先灰褐色。背も暗褐色にて肩羽は赤褐色と黒褐色との縦縞となる。♀も頭頸部褐色となる。

〔生態〕 広く北極の周囲部にて繁殖し、冬期はその南方に渡来す。我国でも冬期は北海道には多産し本州の北部にも渡来する。北海道では冬期結氷しない港湾内や河口等に極めて普通である。10数羽位の群を作りアオーナ、アオーナと聞える特異の声で盛んになく。あまり人を恐れず水上を低く飛んですぐに着水する。

〔分布〕 北海道・本州北部。青森県以南では稀。採集地の南限は千葉県手賀沼。

253. ビロードキンクロ

Melanitta fusca stejnegeri (Ridgway)

EASTERN VELVET SCOTER

—ガンカモ科—

〔形態〕 大形。全体黒色にて飛翔時には翼鏡の白頭著。嘴峰41~51%。翼長248~280%。尾長77~90%。跗蹠44~50%。♂には嘴の基部に瘤状突起あり又眼の後方に白斑がある。嘴は扁平にて、瘤状突起と中央とは黒く先端朱色両側は黄赤色。脚は暗紅色。♀は嘴の突起を欠き全体♂よりも褐色を帯び、眼の後方の白斑を欠く。嘴の基部に不明瞭な淡色斑がある。

〔生態〕 東部シベリア・カムチャッカ・北千島・コマンドル諸島等で繁殖し我国には冬期大群が渡来する。湾内・内海等の比較的波静かな海面に棲息しあまり岸近くには接近しない。水深30~40米位の所に多く集まり巧みに潜水して水底の貝を好んで食す。瀬戸内海では冬期3千から5千位の群も稀でない。海面を低く飛翔してすぐに着水する。

〔分布〕 冬鳥として北海道・本州・八丈島・四国・九州に渡来。

254. クロガモ

Melanitta nigra americana (Swainson)

AMERICAN BLACK SCOTER

—ガンカモ科—

〔形態〕 前種より稍小。♂は全体黒く上嘴の基部隆起して橙黄色。嘴峰40~43%。翼長207~215%。尾長75~96%。跗蹠42~45%。隆起部以外の嘴と脚とは黒。♀は頭上及び背は暗褐色、顔、喉、頸側、腹は淡褐色と汚白色との斑にて胸、脇、下腹部は淡褐色。

〔生態〕 シベリア東北部・カムチャッカ・北千島・アリューシャン列島・北米北部・アラスカ西部等で繁殖する他北海道でも小群繁殖するものがある。冬期は我国に多数渡来する。湾内、内海等に前種と共に群棲するが瀬戸内海では前種程度は多くない。潜水したり、海面低く直線に飛翔する習性は前種とよく似ているが翼鏡白くないので前種と容易に区別する事が出来る。

〔分布〕 北海道（少数繁殖）本州・八丈島・四国・九州



248. キンクロハジロ

♂



キンクロハジロ

♀



249. スズガモ

♂



♀



♂

250. ホオジロガモ

♀



251. ヒメハジロ

♂



♀



冬羽 ♂

252. コオリガモ



冬羽 ♀



253. ビロードキンクロ

♂



♀



♂

254. クロガモ

♀

255.
シノリガモ



♀



♀



256.
コケフタガモ



♂

257.
ミコアイサ



♂



♀

258 ウミアイサ



♂



259.
カワアイサ



♂



♀

261
フミウ



生後羽

成鳥

幼鳥

幼鳥

260.
カワウ
生後羽



263.
チシマ
ウガラス



262.
ヒメウ



235. シノリガモ

Histrionicus histrionicus pacificus Brooks
PACIFIC HARLEQUIN DUCK

—ガンカモ科—

形態 頭は下腹暗茶色其他は藍黒色で顔や胸に顕著な白色帯がある。嘴峰26~30%。翼長177~205%。尾長86~107%。跗蹠34~39%。眼先の大きい円い白紋は頭側から後頸に走る白線に連結し後端は黒色となる。眼の下部後方に白斑があり、頸側にも1条の白帯走る。頸の下部に白色頸輪がある。胸側にも細長い白帯がある。翼は黒く三列風切と肩羽とには白色縦斑がある。大雨覆の先端と下尾筒の両側も白。♀は暗褐色で下面は暗褐色と汚白色との斑、眼の先方と後方とに汚白色斑がある。幼鳥は♀に似る。

生態 シベリア東部・カムチャッカ・千島・樺太・北米西部の中北部にて繁殖し我国には冬期渡来するが数はあまり多くない。冬期北海道では荒蕪の岩礁の間や防波堤、岩壁等の近くに見られるが大群をなさず2,3羽から5,6羽位の群である事が普通である。本州中部以北の太平洋岸にも渡来するが数は多くない。宮城県・岩手県の海岸には夏期も少数残留するものがある。又冬期朝鮮半島を南下して北九州に渡来するものもある。あまり人を恐れず、接近しても盛んに潜水して岩礁に居る貝類等を啄食す。

分布 北海道・本州・伊豆七島・九州

256. コケワタガモ

Somateria stelleri (Pallas)

STELLER'S EIDER

—ガンカモ科—

形態 頭は殆ど白色にて背、腰黒く、太い黒色頸輪は喉の黒色帯に連結する。嘴峰36~40%。翼長209~217%。尾長80~90%。跗蹠34~37%。頭頸部は白く眼先から額にかけてと後頭部とには暗緑色帯がある。眼の周囲は黒。肩羽と三列風切とは延びて白と黒との縦縞となる。風切羽は黒く雨覆は白。下面は赤褐色で下方程黒く下腹部は煙黒色。胸側に1個の黒斑がある。♀は♂より小。上面黒褐色と赤褐色との斑にて胸は赤褐色にて黒斑があり、腹部は黒褐色。

生態 シベリアの極北部、アラスカ等で繁殖し、千島には冬期稀でないが我国には冬期北海道に極めて稀に渡来するに過ぎない。好んで岩礁の多い荒蕪に棲息する。

分布 北海道(根室付近で1894年3月9日と1894年5月3日とに採集された。)

257. ミコアイサ

Mergus albellus (Linnaeus)

SMEW

—ガンカモ科—

形態 小形のアイサにて頭は殆ど白く背と腰と風切羽とが黒い。嘴峰25~30%。翼長178~205%。尾長71~76%。跗蹠30~32%。嘴の基部から眼の下方向にかけ眼を取巻いて顕著な黒色大形斑がある。後頭部の羽毛は長く延びて羽冠状をなしその側部は黒色。胸側には顕著な黒色2条帯があつて背の黒に連なる。肩羽は白。♀は頭上、後頭赤褐色、体の上面は石板色にて眼先から眼の下方黒色。下面は白く胸のみ灰色。嘴は鉛色。

生態 欧亜大陸の中北部にて繁殖し、我国には主として冬期渡来するが其数は多くない。大群をなさず3,4羽の事が多い。岸近くの浅瀬を好み雁々砂浜に上つて休む。

分布 北海道(天塩郡豊富村)で少数繁殖する他、冬鳥として北海道・本州・四国・九州等に渡来する。

258. ウミアイサ

Mergus serrator serrator Linnaeus

RED-BREASTED MERGANSER

—ガンカモ科—

形態 ♂は頭部と上頸部金属緑黒色にて黒色の長い羽冠がある。胸は黄褐色にて黒色縦斑がある。嘴峰48~62%, 翼長217~259%, 尾長79~88%, 跗趾40~45%, 下頸部純白。背は黒く腹は白と黒との虫喰状斑密。腹は白。初列風切は黒く雨覆と次列風切とは白く翼には2条の黒帯横切る。嘴は赤色で上縁と先端暗褐色, 脚は朱赤色。♀は頭上灰褐色で羽冠はる程長くない。顔と上頸部とは淡赤褐色で後頸, 背, 腹, 肩羽は暗灰色。胸, 腹は白い。次列風切は先端が白い。

生息地 欧亜大陸の中北部及び北米の中部以北で繁殖し, 冬期はアフリカ北部・中国南部・印度・カリフォルニア等に南下する。北千島でも繁殖するものがある。又清根幸保氏は1935年7月北海道阿寒湖にて本種が繁殖している事を確認された。冬期は内海や湾内には大群を見る事が出来る。比較的岸近くの浅所に群集し, 砂浜に上がって休憩する事もある。冬期瀬戸内海では♀と幼鳥のみの群が多くさは比較的少ない。

分布 冬鳥として北海道(少数繁殖)・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬に渡来する。

259. カワアイサ

Mergus merganser orientalis Gould

ORIENTAL GOOSANDER

—ガンカモ科—

形態 ウミアイサに似るが稍大で♂の(1)後頭部の羽毛は稍長い羽冠をなさず。(2)胸は純白。(3)肩羽のみ黒で背は灰色。嘴峰40~57%, 翼長243~280%, 尾長81~105%, 跗趾46~53%, ♂の頭部と上頸部とは金属緑黒色。下頸部, 胸, 腹純白。初列風切と初列雨覆黒褐色で翼の他の部分は概ね白い。嘴は暗赤色, 脚は朱。♀もウミアイサの♀に酷似するが, 稍大で体の背面はウミアイサより淡く灰色で褐色味を欠く。

生息地 アフガニスタン・ヒマラヤ・チベット・トルキスタン・アルタイ地方で繁殖する他, 樺太・千島にも繁殖する事が知られている。我国には冬期渡来するがその数はウミアイサに比し遙かに少ない。ウミアイサの様に大群をなさず単独か2,3羽の事が多く湖沼, 河川, 河口等に棲息する。河川に沿って低く直線的に飛翔する。

分布 冬鳥として北海道(少数繁殖)・本州・四国・九州等に渡来す。

分類 オオカワアイサ *Mergus merganser merganser* Linnaeus はカワアイサと共に冬期稀に我国に渡来する。学名に於てはオオカワアイサをカワアイサ, カワアイサをコカワアイサとする者もある。



カワアイサ



ウミアイサ



ミコアイサ



260. カ ワ ウ

Phalacrocorax carbo hanedae Kuroda

JAPANESE CORMORANT

—ウミウ科—

形態 我国では最も普通のウ。嘴峰56~69%, 翼長311~348%, 尾長151~161%, 跗蹠57~60%。全体金属光沢のある藍黑色。眼の周囲から嘴の周囲にかけ羽毛を欠き皮膚裸出し黄色を呈す。裸出部の周囲には幅の広い白帯がある。上背と肩羽とは暗赤褐色で各羽の羽縁は黒色である。生殖羽のものは腰の両側に各1個の大きな白色三角形斑を有し且つ頭及び上頸に白色糸状羽毛を多数生ず。この羽毛は老鳥程多く中には頭頸部の著しく白く見えるものもある。幼鳥は上面暗褐色、下面は汚白色で褐色縦斑がある。

生態 我国には周年棲息し各地に集団営巣地がある。中でも愛知県知多郡鶴の山と青森県南津軽郡蟹賀神社の集団営巣地とは著名であり天然記念物に指定されている。粗林の高い樹枝上に毎年多数のものが営巣するのでその糞の為に往々樹木を枯死させる事があるが、又その糞はよい肥料となるので付近の農夫は集団営巣林の地面に糞を敷き糞の沢山かけられた糞を肥料として利用している。営巣地付近の潮沼、海面にて採餌するがその行動半径は10軒にも及ぶ事もある。繁殖期は11月頃から6月頃迄に及ぶ。秋期には大群にてねぐらと採餌地との間を雁行飛翔するのがよく見られる。

分布 本州各地で繁殖する他北海道・伊豆七島・四国・九州・対馬にも分布。

261. ウ ミ ウ

Phalacrocorax capillatus (Temminck & Schlegel)

TEMMINCK'S CORMORANT

—ウミウ科—

形態 カワウより大。嘴峰63~73%, 翼長312~350%, 尾長140~150%, 跗蹠60~68%。カワウに類似するが嘴、眼の周囲の裸出部を取巻く白色帯には緑黒色の斑点がある事、肩羽と兩覆羽とは緑青銅色で羽縁暗緑色である事、体の下面はカワウより緑色を帯びた光沢がある事等により区別する事ができる。

生態 シベリア東部沿岸・朝鮮・北海道・本州北部等で繁殖し、本州中部以南には冬鳥として渡来する。樹上に営巣せず、海洋に面した岩壁の岩棚上に集団して営巣する。冬期本州では局地的に多数棲息する。長良川の鶴飼に用いられるのは本種である。

分布 北海道(礼文島・大黒島・ユルリ島・モユルリ島等)・本州(青森県・岩手県)で繁殖する事が知られているほか冬期本州・伊豆七島・九州・対馬・種子島・屋久島・奄美大島等に渡来する。



262. ヒメウ

Phalacrocorax pelagicus Pallas

PELAGIC SHAG

—ウ 科—

形態 カワウより小。嘴峰47～55%。翼長248～271%。尾長140～161%。跗蹠47～54%。全体金属光沢ある藍黑色。生殖羽のものは頭に羽冠あり、頭に白色糸状羽毛を生じ且腰に顕著な白色三角形斑を生ず。幼鳥は全体褐色を帯び光沢を欠く。

生態 カムチャッカ・コマンドル諸島・アリューシャン諸島・アラスカのほか樺太・千島・北海道・本州北部等で繁殖し、本州以南には冬鳥として渡来する。冬期瀬戸内海には多産するがカワウの様に大群をなさず単独から5、6羽の群が普通である。島嶼の岩壁に集団して休憩する事がある。カワウよりも沖合に棲息する事が普通である。

分布 北海道・本州・伊豆七島・九州に分布する。

263. チシマウガラス *Phalacrocorax urile* (Gmelin)

BARE-FACED SHAG

—ウ 科—

形態 ヒメウに酷似するが前額も羽毛を欠き皮膚裸出。嘴峰52～54%。翼長270～290%。尾長160～173%。跗蹠54～55%。裸出部は橙黄色。生殖羽は頭上に前後二つの羽冠を生じ、頭頸部には白色糸状羽毛、腰に白色三角形斑を生ず。

生態 カムチャッカ・コマンドル諸島・ベーリング海諸島・アリューシャン諸島等で繁殖し、冬期千島・樺太等に渡来する。少数のものが北海道（ユルリ島・モユルリ島）で繁殖している事が近年明らかになった。

分布 少数北海道で繁殖するほか冬期本州に稀に渡来。

[PLATE 39]

264. グンカンドリ

Fregata ariel ariel (G.R.Gray)

LESSER FREGATE BIRD

—グンカンドリ科—

形態 全体黒。赤色の咽喉囊顕著。嘴峰88～99%。翼長487～558%。尾長338～381%。跗蹠15～20%。上面は青緑色光沢あり。喙の羽毛は槍鋒状。下面は暗褐色を帯び、腹の両側には白色の大形斑紋がある。嘴灰色、脚赤褐色。♀は背面光沢少なく褐色を帯びる。後頭には褐色帯がある。胸は錆色を帯びたクリーム色。

生態 濠洲北岸・ニューカレドニア・南太平洋諸島で繁殖し、中国沿岸・フィリピン諸島等に渡来、我国には迷鳥として稀に飛来する。嘴長く先端鉤状に曲がり、翼長く翼角目立ち且長い燕尾状の尾により識別容易。海上の高空を翱翔しカツオドリ、カモメ等を襲って魚を吐き出させてこれを空中で巧みに捉えて食す習性がある。

分布 北海道（函館・釧路）伊豆七島（新島）本州（栃木県・静岡県・兵庫県）佐渡等に稀に渡来。



グンカンドリ

265. ガランチョウ *Pelecanus roseus crispus* Delacour & Mayer
DALMATIAN PELICAN ーガランチョウ科ー

形態 白色の肥大した大形水禽にて下嘴の義顕著。嘴峰560~450%。翼長655~800%。尾長185~230%。跗趾110~122%。初列風切と初列覆羽とは黒褐色。次列風切は黒褐色で白縁がある。嘴は灰色で下嘴嚢は黄色。銀の周囲は黄色の皮膚裸出する。

生態 欧州東南部から中国・蒙古に達する地域に分布し、冬期はエジプト・印度北部・中国南部等に渡り我国には迷鳥として稀に渡来するに過ぎない。下嘴嚢により水中にて巧みに魚を捕らえる事は動物園にても見られる通りである。

分布 迷鳥として九州(福岡県及び鹿児島県)にて2回採集された事がある。

266. カツオドリ *Sula leucogaster plotus* (Forster)
NEW CALEDONIAN BROWN GANNET ーカツオドリ科ー

形態 暗褐色、腹白、嘴の巨大な海洋鳥。嘴峰93~106%。翼長381~430%。尾長165~223%。跗趾43~52%。

嘴は淡緑黄色で眼の周囲の緑黄色の皮膚裸出部に続く。

生態 太平洋の熱帯、亜熱帯諸島、濠洲の東北部に分布する。日本近海では小笠原諸島・硫黄列島・小紅頭嶼等にも繁殖するものがある。海洋上を飛翔し魚を見付けると上空より海中に突入して之を捕らえる。

分布 伊豆七島の南部では繁殖するものがある。稀に本州(宮城県・千葉県・静岡県・兵庫県)四国(高知県)九州(長崎県・熊本県・宮崎県・鹿児島県)にも飛来する。



カツオドリ

267. アカオネツタイチョウ *Phaethon rubricauda rothschildi* (Mathews)
LAYSAN RED-TAILED TROPIC BIRD ーネツタイチョウ科ー

形態 全体光沢ある白色にて嘴は朱色の海洋鳥。中央尾羽著しく細長く延び赤色。嘴峰59~63%。翼長317~327%。尾長401~472%。跗趾27~28%。眼先から眼の後方にかけて黒色斑がある。三列風切と下尾筒の両側に僅かに黒斑がある。尾は中央のもの以外は白。

生態 硫黄列島・ハワイ諸島等で繁殖し、稀に本州にも飛来するものがある。海洋上を直線に飛び魚類、イカ類を見付けると海中に突入して之を捉える。船からの放棄物を求めて船のあとを何処迄もついて来る事がある。

分布 本州(岩手県・山梨県・長野県・埼玉県・東京都・岐阜県等で採集された。)

268. シラオネツタイチョウ *Phaethon lepturus dorotheae* Mathews

AUSTRALIAN WHITE-TAILED TROPIC BIRD ーネツタイチョウ科ー

形態 前種に類似するが稍小。嘴峰45~50%。翼長254~272%。尾長376~392%。跗趾19~21%。前種との区別点は次の通り。(1)長く延びた中央の尾羽は白。(2)嘴黄色。(3)肩羽先端には黒斑がある。(4)初列風切先端に黒斑がある。(5)三列風切は黒く先端僅かに白。(6)中、小雨覆黒。

生態 南西太平洋諸島で繁殖し、ミクロネシア諸島・小笠原諸島・硫黄列島・南鳥島・琉球・台湾等にも渡来する。我国には迷鳥として稀に飛来す。習性は前種に酷似。

分布 本州(山梨県及び石川県にて採集された事がある)

264.
グンカンドリ



266.
カツオドリ



265.
ガラチョウ



268.
シラオネツタイチョウ



267.
アカオネツタイチョウ



269. アシナガコシジロウミツバメ



270. コシジロウミツバメ



272. ヒメクロウミツバメ



271. クロコシジロウミツバメ



273. オーストシウミツバメ



274. クロウミツバメ



275. ハイイロウミツバメ



269. アシナガコシジロウミツバメ *Oceanites oceanicus* (Kuhl)
WILSON'S STORM-PETREL —ウミツバメ科—

形態 全体煙黒色の小形海洋鳥。他のウミツバメ類に比し跗蹠著しく長い。嘴峰11~14%。翼長141~163%。尾長61~73%。跗蹠32~37%。上尾筒と下尾筒との両側白色。嘴は小さく、尾の分岐は浅い。

生態 南極圏にて繁殖し、南半球の冬期には濠洲・印度洋・大西洋の北部等に飛来する。我國では迷鳥として1回採集されたことがあるに過ぎない。

分布 本州(1932年4月6日千葉県犬吠岬にて1羽が採集された。)

270. コシジロウミツバメ *Oceanodroma leucorhoa leucorhoa* (Vieillot)
LEACH'S FORK-TAILED PETREL —ウミツバメ科—

形態 前種より稍大。全体煙黒色にて上尾筒の先端と下尾筒の側白色。嘴峰15~18%。翼長144~164%。尾長76~90%。跗蹠23~26%。頭部は稍灰黒色。尾は深く分岐する。ウミツバメ類は一般に嘴は左右に扁平にて上嘴の基部に顕著な鼻管がある。

生態 太平洋及び大西洋の北部沿岸及び島嶼にて繁殖し、冬期は南半球にまで渡る。千島・北海道(大黒島)では多数繁殖するものがある。海面上を低く蝶の様に飛び廻り小魚類を捕食する。海に面した傾斜地に穿った穴の奥に産卵し、抱卵中の親鳥は容易に飛び立たず、手をふれると汚緑色の生臭い液体を口から吐き出して威嚇する。

分布 北海道(大黒島)で繁殖し、本州・伊豆七島等に渡来する。

271. クロコシジロウミツバメ *Oceanodroma castro* (Harcourt)
MADEIRAN FORK-TAILED PETREL —ウミツバメ科—

形態 前種に酷似するが稍小。尾は前種程深く分岐しない。上尾筒は白いが先端黒。下尾筒側部の白色部は前種より多い。嘴峰13~17%。翼長143~163%。尾長64~78%。跗蹠19~24%。以上の諸点に依ってコシジロウミツバメと区別することができる。

生態 太平洋(ハワイ諸島・ガラパゴス島等)及び大西洋(マデイラ諸島・アゾレス諸島・セントヘレナ諸島等)で繁殖する。我國では岩手県の日出島及び三貫島が繁殖地として知られて居り天然記念物に指定されている。習性は前種に酷似する。

分布 岩手県で繁殖するほか、本州中部以北の太平洋沿岸にも飛来する。また嵐の為に迷行して千葉県・神奈川県・奈良県・栃木県で採集された事がある。

272. ヒメクロウミツバメ *Oceanodroma monorhis monorhis* (Swinhoe)
SWINHOE'S FORK-TAILED PETREL —ウミツバメ科—

形態 クロコシジロウミツバメと略同大。全体煙黒色であり、上尾筒の白色部を全く欠く。嘴峰13~15%。翼長141~165%。尾長74~84%。跗蹠21~24%。

生態 青森県尻屋崎、岩手県三貫島、福岡県沖の島のほか朝鮮全羅南道の七発島、黄海道の西島で繁殖することが知られて居り、石垣島・済州島・ウラジオストック・中国南部沿岸・シンガポール等にも渡来する。

分布 本州(三貫島・尻屋崎)・九州(沖の島)で繁殖するほか本州太平洋岸各地、八丈島等に飛来する。

273. オーストンウミツバメ *Oceanodroma tristrami* Salvin

STEJNEGER'S FORK-TAILED PETREL —ウミツバメ科—

形態 前種より大にて尾の分岐著しい。上面暗灰色を帯び三列風切と大、中雨覆は灰褐色。嘴峰17~20%。翼長168~189%。尾長93~119%。跗蹠25~30%。

生態 小笠原列島の北硫黄島及び伊豆七島の鳥島で繁殖する事が知られている。繁殖期は12月から3月に亘り、繁殖期後北上して本州太平洋沿岸に4月上旬頃飛来するが、遙か相模湾沖合に棲息し岸に接近する事は稀である。4月下旬から5月上旬にかけ相模湾沖合には多い。大吠呼、御前崎燈台には衝突するもの種でない。日本海側には稀であるが島根県、地蔵崎燈台に飛来した記録がある。

分布 伊豆七島の鳥島及び神津島で繁殖し、本州太平洋沿岸各地（青森県—静岡県）に飛来。

274. クロウミツバメ *Oceanodroma matsudariae* Kuroda

MATSUDAIRA'S FORK-TAILED PETREL —ウミツバメ科—

形態 前種に酷似し全体黒色であるが上面は前種の様に灰色を帯びていない。又初列風切の羽軸の基部部位が白色を帯びている点が異なる。嘴峰17~19%。翼長180~189%。尾長96~100%。跗蹠26~28%。野外に於いては前種との区別殆ど困難。

生態 冬期硫黄列島で繁殖し5月頃相模湾に飛来する事のある分布の狭い鳥である。

分布 本州（相模湾）

275. ハイイロウミツバメ *Oceanodroma furcata furcata* (Gmelin)

GREY FORK-TAILED PETREL —ウミツバメ科—

形態 他のウミツバメ類と異なり全体青灰色。嘴峰14~15%。翼長153~167%。尾長87~97%。跗蹠24~27%。前額褐色を帯び、眼の前後から下方に及ぶ黒斑がある。小雨覆、初列雨覆、小翼羽及初列風切は黒褐色。

生態 北太平洋（コマンドル諸島・アリューシャン諸島・千島・南アラスカからカリフォルニア北部に亘る沿岸）で繁殖し我国には春秋又は冬期飛来する事がある。沖合の海洋上に棲息するので観察の機会少なく従来採集された数は少ない。

分布 北海道（網走）本州（青森県・神奈川県・静岡県等の太平洋沿岸及び新潟県・神戸等からの記録がある。）



ウミツバメ類



ミズナギドリ類

[PLATE 41

276. オオミズナギドリ *Calonectris leucomelas* (Temminck)

STREAKED SHEARWATER — ミズナギドリ科—

形態 ミズナギドリ中最大。頭と顔とは白地に黒褐色斑散在。嘴峰49~62%, 翼長293~337%, 尾長135~152%, 跗蹠48~54%。頭以下の背面は褐色で各羽縁灰白色。尾、風切羽黒褐色。下面は全部白。嘴は肉色、脚は淡桃色。

生態 大洋上に生活し日本近海には多産す。海面上を低く体を左右に傾け、振った翼で水を掻く様にして飛び回り、魚の群れる海面に群集して捕食するので漁師の魚群発見の目標になる。住民の少ない島嶼に集団して繁殖し、傾斜地に穴を穿ちその奥に産卵するが居間は抱卵する鳥以外は全部島を去る。地上から直接飛び立たず傾斜した樹幹に翼や脚や嘴の力で攀じ登ってから滑翔したり、崖の縁まで這って行き滑翔する。繁殖地の中北海道松前郡大島・岩手県三賀島・京都府冠島・島根県星の神島は天然記念物として指定されている。冬期は中国南部・馬來諸島・漳州北岸に渡来する。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州の沿海諸島で繁殖し、その他対馬・種子島・屋久島・馬毛島・奄美大島・沖永良部島等にも飛来する。

277. アカアシミズナギドリ *Puffinus carneipes* Gould

PINK-FOOTED SHEARWATER — ミズナギドリ科—

形態 前種より稍小。全体黒褐色で下面は稍淡い。嘴峰38~45%, 翼長309~330%, 尾長109~115%, 跗蹠50~56%。嘴は肉色で先端と嘴峰黒。脚は肉色。

生態 漳州・ニュージーランドで繁殖し、5月頃日本やカリフォルニア沿岸にまで北上して夏を過ごす。魚群を求めて大群にて大洋上に生活し岸には接近しない。

分布 北海道(函館・厚岸)本州太平洋沿岸沖合(青森県・静岡県)に渡来する。

278. オナガミズナギドリ *Puffinus pacificus chlororhynchus* Lesson

WEDGE-TAILED SHEARWATER — ミズナギドリ科—

形態 前種より稍小。上面黒褐色、下面白。尾は黒色、顕著な楔形で長い。嘴峰38~40%, 翼長285~302%, 尾長129~146%, 跗蹠46~49%。頭と頸側稍灰色を帯びる。嘴は灰色で先端黒。脚は肉色。稀に腹部全体淡褐色を呈する暗色形がある。

生態 クルセンスターン島(マーシャル群島)・レイサン島・ハワイ諸島・小笠原諸島・硫黄列島等で繁殖し、冬期北上して伊豆七島・本州中部の太平洋沖合に飛来する。

分布 本州(相模湾)・伊豆七島

279. ミズナギドリ *Puffinus nativitatis* Streets

CHRISTMAS ISLAND SHEARWATER — ミズナギドリ科—

形態 小形にて全体黒褐色。嘴、脚共に黒。嘴峰30~32%, 翼長239~250%, 尾長84~89%, 跗蹠42~45%。

生態 太平洋の熱帯地域・レイサン島・クリスマス島・ハワイ諸島等で繁殖し、フニックス・マルキーズ・ワアモア諸島・ウェーキ島・小笠原諸島・南鳥島等に分布。

分布 本州(宮城県・神奈川県 相模湾)で稀に採集されたに過ぎない。

280. ハイロミズナギドリ *Puffinus griseus* (Gmelin)
SOOTY SHEARWATER —ミズナギドリ科—

形態 前種より大。全体煙黒色。顔、喉、下面は硝灰色を帯びる。嘴は黒く上嘴基部に白色の細い線がある。脚は褐色にて内側はライラック色。嘴峰42~48%, 翼長280~301%, 尾長87~93%, 跗蹠52~58%。

生態 太平洋及び大西洋の南部即ちニュージーランド・オークランド・フォークランド・マジェラン等の諸島で繁殖し、南半球の冬期にはカムチャッカ・千島・アラスカ・欧州沿岸・グリーンランド等北半球の北部にまで渡来する。我国には本州太平洋沿岸沖合に4, 5月頃飛来するものが多い。

分布 北海道・本州・九州

281. ハシボソミズナギドリ *Puffinus tenuirostris* (Temminck)
SLENDER-BILLED SHEARWATER —ミズナギドリ科—

形態 ミズナギドリに似るが淡色。嘴峰32~35%, 翼長253~270%, 尾長80~88%, 跗蹠48~51%, 上面煙黒色, 下面灰褐色。腮, 喉は灰白色で個体によっては白色に近い。嘴は黒褐色, 脚は灰色にて外側は黒褐色を帯びる。

生態 濠洲東南部沿岸・タスマニア等にて繁殖, 夏期ベーリング海・オホーツク海沿岸諸地方・千島・樺太等に渡来し本州近海には5, 6月頃出現するものが多い。繁殖地では島嶼の斜面に穴を穿ちて営巣し, 多数の巣が密集しているので, 土地の者は脂肪の充分蓄積された多くの雛を採取してその脂肪を精製して優良なビタミンA剤 *Mutton Bird Oil* を作っている。

分布 北海道・本州・四国・九州等の沿岸に渡来。

282. シロハラミズナギドリ *Pterodroma leucoptera hypoleuca* (Salvin)
BONIN GADFLY FULMAR —ミズナギドリ科—

形態 小形のミズナギドリで上面暗灰鼠色, 下面白。嘴峰24~26%, 翼長215~240%, 尾長100~113%, 跗蹠27~29%, 頭上灰色, 額と顔の前半は白。背は暗灰鼠色で羽縁灰白色。上尾筒は灰色で肩羽長く先端は黒い。尾は灰褐色で先端黒。体下面は白。嘴は黒色, 脚は肉色である。

生態 小笠原諸島・硫黄列島には10月頃渡来して繁殖し, 6月頃島を去り日本・琉球列島・台湾・マージナル諸島等に渡来する。西部ハワイ諸島でも繁殖する。

分布 本州・四国・伊豆七島・九州・屋久島等から採集記録がある。

亜種 ヒメシロハラミズナギドリ *Pterodroma leucoptera longirostris* (Stejneger) は極めて稀な種類であり青森県陸奥湾で初めて4羽採集された標本に基き Stejneger 氏に依って命名され, その後北太平洋からも採集されているが, その繁殖地や分布に関する詳細はまだ知られていない。本亜種を別種とする学者もある。



276. オオミズナギドリ

277. アカアシミズナギドリ



278.
オナガミズナギドリ



279. ミズナギドリ



280.
ハイイロ
ミズナギドリ



281. ハシボソミズナギドリ

282. シロハラミズナギドリ





283. アナドリ



284. フルマカモメ



成鳥

285. アホウドリ

幼鳥



286. コアホウドリ

287. クロアシアホウドリ

283. アナドリ *Eulweria bulwerii* (Jardine & Selby)
BULWER'S PETREL —ミズナギドリ科—

形態 全体黒褐色。形小さくウミツバメに似ているが尾は分岐せず楔状である。嘴峰26~27%。翼長196~200%。尾長108~111%。跗蹠25~29%。

生態 小笠原諸島・硫黄列島で多数繁殖する他西部ハワイ諸島・レイサン島・マルキーズ島及び中国南部沿岸又太平洋ではカナリー諸島・マデラ諸島・ケープヴァード諸島・アゾレス諸島等で繁殖する。我国では伊豆七島及び稀に本州にも渡来する。

分布 伊豆七島・本州（日光・長野県・大阪湾から記録されている。）

284. フルマカモメ *Fulmarus glacialis rodgersii* Cassin
PACIFIC FULMAR —ミズナギドリ科—

形態 全体暗灰色にて嘴は太短かく数片の嘴鞘から成る。嘴峰36~40%。翼長291~317%。尾長110~126%。跗蹠46~50%。嘴暗黄色、脚は白黄色。稀に全体淡灰色個体あり。

生態 シベリア東北部沿岸諸島・カムチャッカ沿岸・千島・樺太等で繁殖し、冬期北海道や本州太平洋岸の沖合には多数渡来するが、陸地近くに接近しない為目にふれる機会は少ない。暴風雨等の為に稀に陸地に飛来する事もある。

分布 北海道・本州太平洋岸沖合・伊豆七島等に飛来する。

285. アホウドリ *Diomedea albatrus* Pallas
STELLER'S ALBATROSS —アホウドリ科—

形態 白色肥大の海洋鳥。嘴峰131~143%。翼長503~580%。尾長143~190%。跗蹠92~107%。頭上、後頭、側頭は淡黄色。肩羽と翼の大部分と尾羽（基部は白）とは石板黒色。嘴淡赤紫色、脚は褐色。幼鳥は全体黒褐色である。

生態 本種の繁殖地は伊豆七島の鳥島・小笠原諸島・琉球の尖閣列島・澎湖島等主として我国近海の島嶼に限られていたが、嘗て羽毛採集の為繁殖地に於いて多数のものが殺された為著しくその数を減じた。更に太平洋戦争の影響を受け一時は絶滅したとさえ伝えられていたが近年に至り少数のものが鳥島に於いて繁殖している事が確認され天然記念物に指定された。大洋に生活し長い翼を張って海面上を低く帆翔する。繁殖地に於いては人を恐れず、その為に羽毛採集者に依って一挙に多数が捕獲された事がある。

分布 少数鳥島で繁殖し、北海道・本州（千葉県・東京湾・相模湾）九州（長崎県・鹿児島県）対馬・朝鮮海峡等に渡来。

286. コアホウドリ *Diomedea immutabilis* Rothschild
LAYSAN ALBATROSS —アホウドリ科—

形態 アホウドリより小形にて背と翼と尾端黒褐色。嘴峰99~112%。翼長463~500%。尾長130~151%。跗蹠82~93%。頭頸部と上尾筒と体下面とは白く眼先に小黑斑がある。嘴は灰色で先端黒。脚肉色。幼鳥も成鳥に似ている。

生態 クロアシアホウドリ程数は多くはないが早春から晩秋迄本州・北海道の太平

洋岸の沖合海面に普通に見られる。通常クロアシアホウドリよりも遙かに沖合に棲息す。繁殖期は他のアホウドリ類と同様11月から4月までであり伊豆七島の鳥島のほか、南鳥島・レイサン島・ミッドウェー島や北米カリフォルニア半島・サンゲロニモ島・グアダループ諸島等にも繁殖する。ウエーク島にて繁殖した事もある。

分布 嘗て鳥島で繁殖。夏期北海道・本州の太平洋岸沖合に飛来。

287. クロアシアホウドリ *Diomedea nigripes* Audubon

BLACK-FOOTED ALBATROSS —アホウドリ科—

形態 全体暗褐色でアホウドリの幼鳥に似るが脚黒色。嘴峰96~110%。翼長464~510%。尾長133~150%。跗蹠84~89%。額、嘴基部に白色帯あり、眼の下方にまで及んでいる。上下尾筒と外側尾羽の基部とは白。嘴は灰鉛色。

生態 北太平洋産三種のアホウドリの中で数最も多く分布も広い。伊豆七島の鳥島のほか小笠原列島・硫黄列島・ハワイ西北部諸島等で繁殖する。前種同様繁殖期は11月から4月までであり春から秋にかけ津軽海峡から朝鮮海峡の間の太平洋沖合海面には多数棲息するが陸地には近寄らないので目にふれる機会は少ない。

分布 鳥島で少数繁殖するほか夏期北海道及び本州の太平洋岸沖合に棲息。稀に暴風雨等の為陸地に飛来する事もある。

[PLATE 43]

288. カンムリカイツブリ *Podiceps cristata cristata* (Linnaeus)

GREAT CRESTED GREBE —カイツブリ科—

形態 大形のカイツブリで夏羽では羽冠と頸周囲の襟巻状飾羽顕著。嘴峰40~55%。翼長175~195%。跗蹠62~68%。頭上、羽冠は黒。頸の飾羽は栗色であるが後頸では黒色となる。顔、喉は白。上面及び翼は灰褐色で翼には白斑あり。頸以下の下面は白く脇栗色。嘴赤褐色。冬羽は頸の飾羽を欠き前頸、頸側は汚白色である。

生態 欧州よりシベリア東部に亘り広く分布し我国には冬期渡来するがその数は多くない。冬期は内海、湾内等に1, 2羽で生活し、体を深く水面に沈め頸を長く直立させている。船が近づくと巧みに潜水して逃がれる。

分布 北海道・本州・四国・対馬等。

289. アカエリカイツブリ *Podiceps griseigena holböllii* Reinhardt

EASTERN RED-NECKED GREBE —カイツブリ科—

形態 夏羽は前種程羽冠顕著でなく頸に襟巻状の飾羽はない。嘴峰45~58%。翼長177~190%。尾長30~42%。跗蹠56~67%。頭上、後頸黒、顔、喉は灰色。前頸と頸側とは栗色。上面黒褐色、翼に白斑がある。下面は胸稍栗色を帯び以下白。脇は暗褐色。嘴は黒。冬羽は上面灰褐色、喉白く前頸と頸側とは灰褐色で以下の下面は白。

生態 アジアの北東部及び北米の中部以北で繁殖。北海道では、各地の池沼に多数繁殖している。冬期は本州以南に渡来する。冬期は1, 2羽にて河口、内海、湾内等の比較的岸近くに棲息し東京湾、大阪湾、瀬戸内海等には数は多くないが普通に見られる。

分布 北海道で繁殖し冬期本州・四国・九州・対馬等に渡来す。

290. ミミカイツブリ *Podiceps auritus* (Linnaeus)

SLAVONIAN GREBE

—カイツブリ科—

形態 前種より遙かに小。夏羽は眼先から後頭にかけて広がる金栗色の飾羽が顕著。嘴峰20~27%, 翼長129~150%, 尾長31~37%, 跗蹠44~49%, その他の頭部は黒く、嘴の基部から眼までは赤色の皮膚裸出する。前頭と頭側とは栗色で後頭は暗色。背は黒褐色。胸以下の下面は白、頬は栗色。翼の白帯は飛翔時顕著である。冬羽は上面黒褐色、下面白く前頭は灰色。ハジロカイツブリの冬羽に似ているが頭上黒色部の下端は目の線で止まり以下の白色部との境界明瞭である事と嘴が上方に反り上がっていない事により識別される。

生態 欧亜大陸及び北米の中部以北で繁殖し、我国には冬期渡来するがその数はあまり多くない。冬期東京湾や瀬戸内海等の比較的岸近くに見る事ができる。

分布 北海道・本州・九州・対馬等に渡来する。

291. ハジロカイツブリ *Podiceps caspicus caspicus* Hablizl

BLACK-NECKED GREBE

—カイツブリ科—

形態 前種に似るが夏羽は前頭と頭側黒く眼の後方から耳羽にかけ広がる金栗色の扇状飾羽がある。嘴稍上方に反り上がる。嘴峰20~25%, 翼長124~136%, 尾長21~37%, 跗蹠41~46%, 頭上、後頭、背は石板黒色、胸以下の下面は白。脚は外側黒く内側鉛色。次列風切白く飛翔時顕著。冬羽はミミカイツブリの冬羽と似ているが背面稍青味を帯び且頭上黒色部下端は眼及び耳羽以下に及び顔の白色との境界が明瞭でない。

生態 広く欧州及びアジアに繁殖し、我国には冬期渡来する。冬期は前種同様内海、河口等の岸近くに棲息しその数は前者より多い。春の渡去期間には数羽の群をなし船が近づいてもあまり恐れる事が無い。巧みに潜水するが飛翔は拙劣で水面上を低く飛ぶ。

分布 冬鳥として北海道・本州・八丈島・四国・九州等に渡来。

292. カイツブリ *Podiceps ruficollis poggei* Reichenow

CHINESE LITTLE GREBE

—カイツブリ科—

形態 カイツブリ類中最も普通の種類。嘴峰19~23%, 翼長94~108%, 尾長30~35%, 跗蹠34~38%。夏羽は上面黒褐色、前頭、頭側、頬、栗色。胸は淡褐色で以下の下面汚白色。冬羽は上面灰褐色。前頭、頭側、頬、胸は淡褐色にて喉と胸以下の下面白。

生態 全国各地の湖沼、河川等に極めて普通。池や沼で繁殖し、水草や藻を積み上げて浮巢を作り、抱卵中の親鳥は巢から離れる時には水草で卵を蔽う習性がある。巧みに潜水する。北海道及び本州北部では夏鳥であるが本州中部以南には周年棲息する。

分布 北海道・本州・四国・九州で繁殖するほか奄美大島にも分布する。

293. ハシジロアビ *Gavia adamsii* (G.R. Gray)

WHITE-BILLED DIVER

—アビ科—

形態 我国産アビ類中最大。嘴象牙色で嘴端稍反り上がっている。嘴峰75~95%, 翼

長360~395%, 尾長56~67%, 跗蹠89~96%。頭頸部は金銀黒色。背は光沢ある黒色にて顕著な白斑縦列する。前頸には2条の白色横帯あり各帯に黒い縦線走る。胸、腹は白。胸側は黒く白色の縦斑がある。冬羽は頭上、後頸は暗褐色、背は黒色で灰色の羽縁あり。下面は喉、前頸、胸、腹縁べて白色である。

生態 東部シベリア及び北米大陸の北極海沿岸で繁殖す。我国には冬期渡来しその数は他のアビ類に比して少ないが、本州北部の太平洋岸や朝鮮沿岸には取って替わらない。

分布 北海道・本州・九州等に冬期渡来。

294. オオハム *Gavia arctica viridigularis* (Dwight)

SIBERIAN BLACK-THROATED DIVER —アビ科—

形態 前種に似るが稍小さく且嘴はまっすぐで黒色。嘴峰67~71%, 翼長297~326%, 尾長52~58%, 跗蹠77~85%。夏羽は顔、頭上、顔は暗灰色、後頸灰色、喉、前頸は黒色にて下喉には白色縦斑から成る白帯あり。頸側は黒く数列の白色縦斑走る。背以下の上面と翼とは黒く背の両側と肩羽とは顕著な白色の角形斑走り、雨覆羽には白色斑散在す。胸以下の下面は白く胸側に、黒色線状斑あり脇は黒。冬羽は頭上、後頸暗褐色、背以下の上面は黒色で喉と前頸、胸以下の下面は白色。

生態 シベリア東北部及びアラスカ等で繁殖し我国には冬期渡来する。北海道では旅鳥として春秋に通過するが、本州以南に於いては冬期各地の沿岸や内海に稀でない。殊に瀬戸内海には多く、広島県下に古くから伝わる「鳥持網代」はこの鳥を利用して魚群を網に追い込む漁法として知られている。

分布 北海道・本州・四国・九州・対馬

亜種 シロエリオオハム *Gavia arctica pacifica* (Lawrence) はオオハムと共に冬期我国に渡来す。オオハムより小形なる事、夏羽では喉紫黒色なる事、後頸淡色なる事等により区別されているが学者に依っては両者の区別を認めない者もある。

295. アビ *Gavia stellata* (Pontoppidan)

RED-THROATED DIVER —アビ科—

形態 我国産アビ類中最小。夏羽は前頸中央に三角形の栗色斑あり。嘴峰50~56%。翼長257~310%, 尾長42~55%, 跗蹠67~78%。夏羽は頭と後頸黒色で小白斑密布する。顔、頸側は青灰色。背は暗黒色で小白斑散在す。胸、腹は純白にて上胸側には数条の黒色の縦線が走る。冬羽は頭、後頸灰黒色、以下の背は煙黒色にて一面に小白斑が散布して居る。顔、頸側及び下面は白色である。

生態 北極周辺即ち広く欧亜大陸及び北米の北部、我国周辺では樺太・千島にて繁殖し、我国には冬期渡来するが其数はオオハムに比し少ない。オオハムよりも岸近くに棲息し沖合よりも河口部や湾内に見られる事が多い。

分布 北海道・本州北部には旅鳥として、本州中部以南・伊豆諸島・四国・九州・対馬等には冬鳥として渡来する。



288. カンムリカイツブリ

夏羽



冬羽



夏羽

289. アカエリカイツブリ



冬羽



夏羽

290.
ミミカイツブリ



冬羽



夏羽



冬羽

291.
ハジロカイツブリ



冬羽

293.
ハシジロアビ



夏羽

292.
カイツブリ



冬羽



冬羽

294. オオハム



冬羽

295. アビ



夏羽



冬羽



296. カラスバト



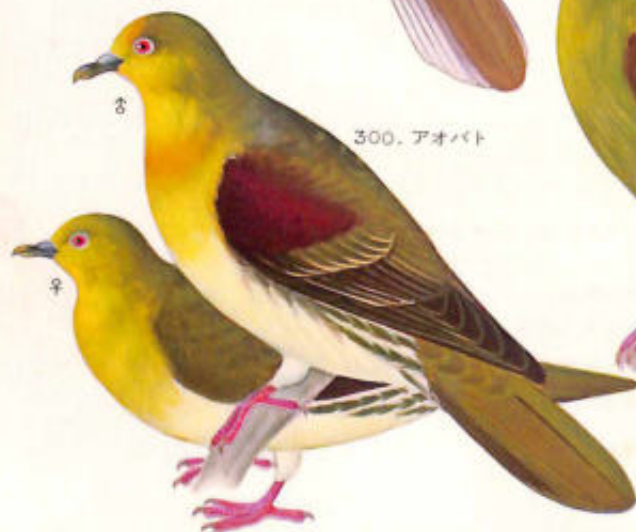
297. キジバト



298.
シラコバト



299. ベニバト



300. アオバト



301.
リュウキュウ
ズアカアオバト

296. カラスバト

Columba janthina janthina Temminck

JAPANESE WOOD PIGEON

—ハト科—

形態 我国産ハト類中最大にて全体石板黒色。頭頸部、背、胸は紫、緑等の金属光沢あり、特に頭上の金属紫色顕著。嘴峰18~21%。翼長213~242%。尾長153~177%。跗蹠30~35%。

生態 本州中部以西の主として太平洋に面した温暖地や島嶼等に棲息するが、人口の少ない島嶼以外では近年著くしその数を減じている。密林中に棲息し性遲鈍で人を恐れない。日本海沿岸では佐渡・隠岐にも棲息し、五島列島・九州沿岸諸島には稍多産する。

分布 本州・伊豆七島・四国・佐渡・隠岐・九州・対馬・種子島・屋久島・奄美大島等に周年棲息し、隠岐・伊豆七島・九州・対馬・奄美大島からは繁殖の記録もある。

297. キジバト

Streptopelia orientalis orientalis (Latham)

EASTERN TURTLE-DOVE

—ハト科—

形態 我国産ハト類中最も多い。上面灰褐色で頭側に灰青色と黒色とより成る斑あり。嘴峰15~19%。翼長178~197%。尾長119~146%。跗蹠25~28%。尾端灰青色。兩翼の羽縁栗茶色。下面はぶどう色にて脇と上下尾筒灰色。幼鳥は頭側の斑を欠く。

生態 全国に分布繁殖するが北海道・本州北部や山地のものは冬期は積雪のない温暖地に移行する。冬期西日本では耕地、畑地等に多い。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州で繁殖し冬期は対馬・種子島・屋久島・奄美大島・喜界島・沖永良部島・与論島等にも渡る。

亜種 リュウキュウキジバト *Streptopelia orientalis stimpsoni* (Stejneger) は奄美大島・琉球諸島で繁殖する亜種である。

298. シラコバト

Streptopelia decaocto stoliczkae (Hume)

EASTERN RING-DOVE

—ハト科—

形態 全体淡灰褐色で後頭から頭側にかけ黒色頸輪顕著。嘴峰15~17%。翼長159~180%。尾長124~146%。跗蹠21~25%。尾は中央の1対は淡灰褐色で他は白く基部黒。

生態 満州・蒙古・中国からパレスティナ・バルカン南部にかけ分布する種類にて我国では関東平野の一部にのみ棲息する。人家付近の粗林や竹叢等に営巣し人を恐れない。近年急激に数を減じ絶滅の一步手前にある。近年天然記念物に指定された。

分布 本州(埼玉県越谷を中心として関東平野の一部にのみ棲息)

299. ベニバト

Streptopelia tranquebarica humilis (Temminck)

BURMESE RED TURTLE-DOVE

—ハト科—

形態 前種に似るが小。黒色の頸輪あり。おは背と肩羽と兩翼とはぶどう赤色。嘴峰14~16%。翼長130~138%。尾長84~87%。跗蹠17~20%。頭上と顔とは灰色。下面は淡ぶどう色で腹と腹とは白。尾は中央の1対灰褐色其他は石板黒色で外弁と先端灰白色。♀は背、肩羽褐色、下面は淡灰色である。

生態 台湾・中国・満州・フィリピン・印度支那半島・ビルマ等に分布し我国には迷鳥として稀に渡来するに過ぎない。戦前には飼鳥として多数輸入されていた。

分布 埼玉県・横浜・福岡県・長崎で採集された事がある。

300. アオバト *Sphenurus sieboldii sieboldii* (Temminck)
JAPANESE GREEN PIGEON 一ハト科一

形態 キジバトより大きく緑色で美麗。嘴峰17~20%, 翼長181~188%, 尾長103~130%, 跗趾24~28%。♂は額緑黄色 其他の上面は暗緑色。中、小雨覆は紫赤色。腮、前頸、胸は緑黄色で腹は白。脇は暗緑色。尾は暗緑色で外側のものは先端に黒帯がある。♀は額、前頸、胸も緑色にて中、小雨覆は紫赤色でなく暗緑色である。

生態 我国特有の種類であり北海道・本州北、中部・四国等で繁殖する事が知られている他全国に分布するが数はあまり多くない。北海道・本州の北部や山地のものは冬期は積雪のない温暖地に漂行し冬期は近畿・四国・九州の闊葉樹林には稀でない。アォー、アォーと長く続く薄気味悪い声でなく。

分布 北海道・本州・四国・伊豆七島・九州・対馬・種子島・屋久島

301. リュウキュウズアカアオバト *Sphenurus formosae permagnus*
(Stejneger)
RIU KIU GREEN PIGEON 一ハト科一

形態 アオバトより大きく暗緑色。嘴峰19~22%, 翼長199~206%, 尾長142~148%, 跗趾25~28%。背一層暗色。小、中雨量も暗緑色で赤味なし。下面は腹迄濃緑色でアオバトに見る黄色味を欠く。外側尾羽の先端に黒帯なし。

生態 屋久島・奄美大島・沖永良部島・沖縄にのみ留鳥として分布する。常緑闊葉樹の密林に棲息し性遅鈍で人を恐れない。尺八に似た声でなく。

分布 屋久島・奄美大島・徳之島・沖永良部島

[PLATE 45]

302. ハイイロヒレアシシギ *Phalaropus fulicarius* (Linnaeus)
GREY PHALAROPE 一シギ科一

形態 小形のシギ。夏冬異色にて♀が♂より美麗。嘴峰20~25%, 翼長126~141%, 尾長56~61%, 跗趾20~22%。夏羽♂は眼先、頭上、後頸は黒く背は黒色で淡黄褐色の縦斑がある。顔は白。下面全体と頸側とは濃栗色。翼は石板色で顕著な白帯あり。嘴は稍扁平橙黄色で先端黒。趾には弁膜あり。♀は一段と濃色。冬羽は頭上白、後頸黒く以下の背面は青灰色。眼の前方から下、耳羽に至る黒斑がある。体下面と頸側とは白。嘴は煙黒色。春秋の渡りに我国を通過するものは夏羽と冬羽との中間のものが多い。

生態 欧亜大陸及び北米の極北部で繁殖し、冬期は南半球に渡る。我国では春秋渡りの際に通過するものがある。海洋上に群棲し内陸に来る事は稀であるが沖合を通過するものは稀でない。本種は繁殖期抱卵、育雛は♂が之にあたる習性がある。

分布 北海道・本州・伊豆七島等より採集の記録がある。



アカエリヒレアシシギ



クサシギ



タカブシギ



キアシシギ



アカアシシギ



ツルシギ

303. アカエリヒレアシシギ

Lobipes lobatus (Linnaeus)

RED-NECKED PHALAROPE — シギ科 —

形態 夏冬異色にて♀は♂より濃色。嘴峰20~25%, 翼長106~118%, 尾長43~47%, 跗趾19~21%。夏羽は頭上, 顔, 背は石板灰色で背には栗色の縦線がある。頸側から上胸にかけ幅広い栗色帯あり, 胸側は石板灰色で他の下面は白。翼に白帯あり飛翔時特に顕著。嘴は黒色で極めて細い。前種同様趾に弁膜あり。冬羽は頭上, 背は暗灰色, 顔と下面とは純白であるが眼から耳羽にかけ顕著な黒線がある。

生態 欧亜大陸の北部・北米北部で繁殖し, 冬期は中国南部・印度・馬來半島・ニューギニア・南欧州・アフリカ北部・中米・ハワイ等に渡る。我国には春は4月上旬から6月中旬迄, 秋は7月下旬より10月上旬迄の渡りの際に多数渡来する。主として海洋上に群棲して小浮游生物を捕食するが時には内陸の湖沼や水田等に来る事もある。性遲鈍にして人を恐れず一旦飛び立っても付近を低く旋回して元の所に下りる習性がある。飛翔中ビリーッとなく。前種同様抱卵, 育雛は♂が之にあたる。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・喜界島等に渡来する。

304. クサシギ

Tringa ochrophus Linnaeus

GREEN SANDPIPER

— シギ科 —

形態 ♂♀同色, 夏冬類似。中形のシギで上面暗灰褐色。飛翔時上尾筒と尾との白色目立つ。嘴峰33~36%, 翼長136~153%, 尾長52~61%, 跗趾32~34%。背には灰白色の斑点散在す。白色眉斑顕著。尾羽は白色で先端に数条の黒色帯がある。下面は白色で胸から胸側にかけ暗灰褐色, 脇は黒褐色である。

生態 欧亜大陸の北部で繁殖す。我國には秋期渡来し、冬期積雪のない地方には越冬するもの稀でない。近畿地方には8月上旬に渡来し越冬して翌年5月上旬迄見る事が出来る。常に単独又は2、3羽で沼沢地、池畔等に棲息し海岸に出る事は稀である。警戒心の強い鳥で人を近寄せない。舞い上がる時甲高い声でピッチューイ、ピッチューイとなき雷光形に飛翔する。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・種子島

305. タカブシギ *Tringa glareola* Linnaeus WOOD SANDPIPER

—シギ科—

形態 前種に似て稍小形。飛翔時上尾筒の白顯著。嘴峰25~31%、翼長120~130%、尾長44~52%、跗蹠34~38%。冬羽は頭上、背は黒褐色で淡黄褐色の小斑散布す。肩斑灰白色。尾は灰白色で数条の黒褐色の横帯がある。夏羽は肩斑一層明瞭且背には一面に灰白色斑散布する。嘴は石板黒色、脚は暗緑色。野外に於いてはクサシギに類似するが(1)小形である事(2)飛翔時腹の白色部少ない事(3)なき声(4)胸のオリーブ色がクサシギより淡い事により区別する事が出来る。

生態 欧亜大陸の北部で繁殖し、冬期はアフリカ・中国南部・印度・濠洲に渡来する。我國周辺では北千島でも繁殖する。我國では秋期は8月上旬から11月中旬迄年々多く見られるが春期の渡りは極めて少なく稀に4・5月に採集されるに過ぎない。沼沢地、池畔、水田等に2、3羽から20羽位の群で棲息し海岸の干潟に出る事は稀である。湿地の藁に居る事多く遠方に人影を見るとビュイ、ビュイと鋭い声でなき乍ら飛び立ち上空を旋回する。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州・対馬・屋久島等に渡来する。

306. キアシシギ *Tringa incana brevipes* (Vieillot) ASIATIC WANDERING TATTLER

—シギ科—

形態 ♂♀同色、夏冬異色。頭上、背、尾灰鼠色の中形のシギ。嘴峰35~42%、翼長156~172%、尾長63~73%、跗蹠30~35%。夏羽は顔、前頸、頸側等に灰褐色の縦斑があり胸、胸側、腹の両側にも同色の波状斑があるが冬羽は之等の斑紋を欠き腕及び胸側が上面同様灰鼠色であり、他の下面は白。白色肩斑と眼先の黒帯とは夏冬共あり。嘴は黒。脚は濃い黄色。腋羽の灰黒色である事が飛翔時特に目立つ。

生態 シベリア東北部で繁殖するが本種の巢や卵に就いてはまだ知られていない。冬期は馬來諸島・ニューギニア・濠洲に渡来し春秋の渡りの際には日本列島にも多数渡来し、シギ科の中で最も普通のものである。近畿地方に於ける春の渡りは4月下旬から6月迄、秋期は8月上旬から10月中旬迄であるが、幼齢非繁殖の個体は夏期を通じ日本各地に止まるもの少なくない。海岸の干潟や岩礁上、水田、池畔、河原等に棲息し数百羽の大群も稀でない。飛翔時ピーウィー、ピーウィーと澄んだ声でなく。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・奄美大島・喜界島・徳之島

異種 メリケンキアシシギ *Tringa incana incana* (Gmelin)は北米産の亜種であり我國には迷鳥として本州・伊豆七島・四国等に稀に渡来した事がある。夏羽体下面の波状斑の幅広く且量も多く密である。



302. ハイイロヒレアシシギ

冬羽



303. アカエリヒレアシシギ

冬羽



夏冬中間羽



幼鳥

夏羽♀



夏羽♀



304.
フサシギ

305.
タカブシギ



冬羽

夏羽



冬羽

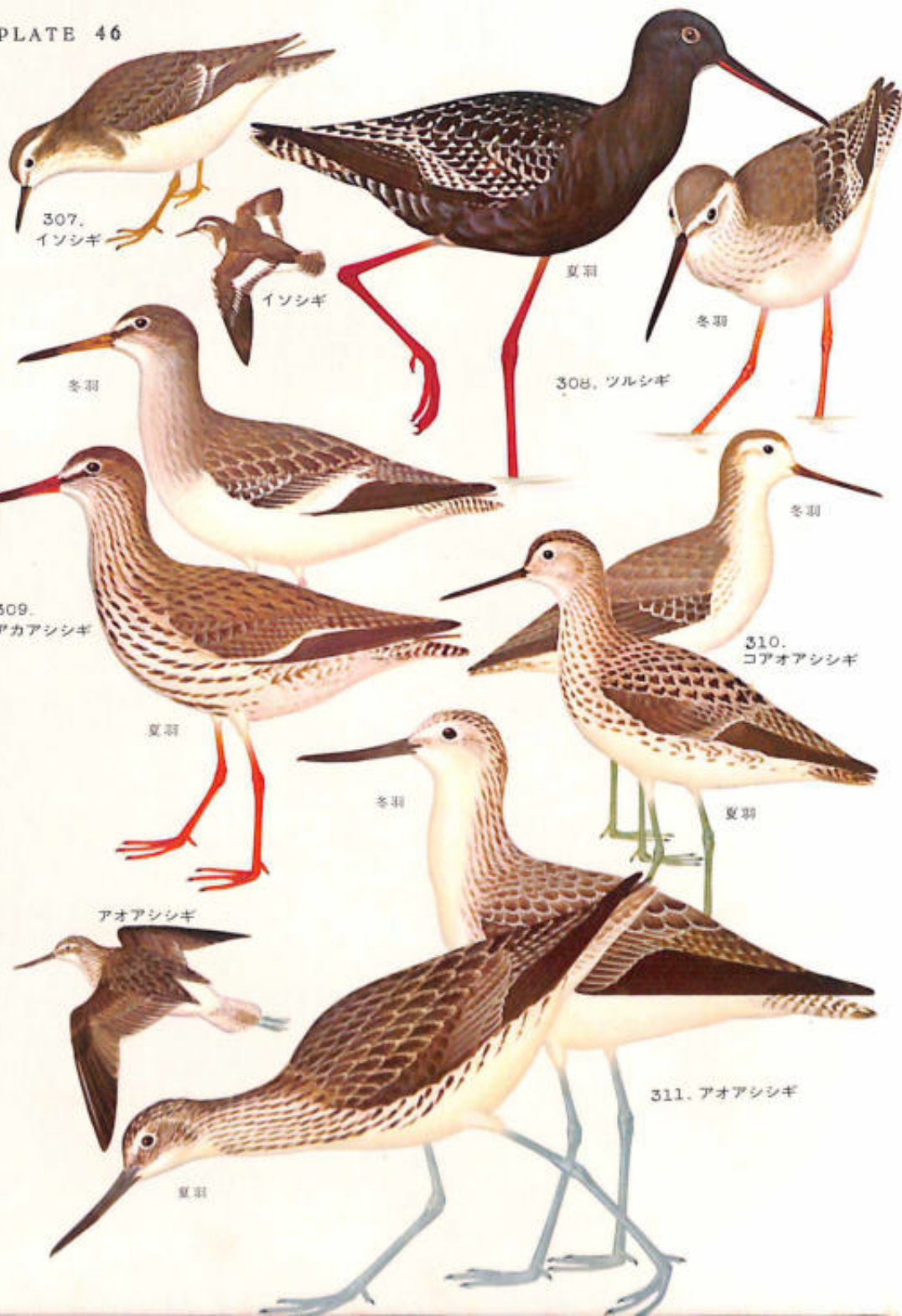
306.
キアシシギ

夏羽



夏羽

306. a
メリケン
キアシシギ



307. イソシギ

Tringa hypoleucos Linnaeus
COMMON SANDPIPER

—シギ科—

形態 クサシギに似るが遙かに小。上尾筒は頭上、背と同様暗緑褐色にて白色でない。飛翔時翼の白帯顕著。嘴峰23~26%。翼長106~119%。尾長50~59%。跗蹠22~24%。白色眉斑あり。背には不明瞭な黒褐色斑がある。体下面は白で胸側灰褐色。尾は中央のものは暗緑褐色、外側のものは白色で黒褐色の横帯あり。嘴暗褐色、脚黄褐色。

生態 広く欧州・アフリカ北部・アジアに分布繁殖し、我国にても北海道及び本州中部以北で繁殖す。冬期は中国南部・フィリピン・南洋諸島・印度・アフリカ北部・濠洲に迄渡去するものがある。水辺の砂原や草原に棲息するが非繁殖期には海岸の干潟や岩礁上にも来る。フィー、フィーとなき乍ら翼を小刻みに羽搏いて水面低くを飛翔す。単独の事多いが渡りの時には30羽位群棲する事がある。西日本には冬期にも滞留するもの稀でない。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・奄岐・対馬・種子島・屋久島・奄美大島・喜界島・徳之島等に分布。

308. ツルシギ

Tringa erythropus (Pallas)
DUSKY REDSHANK

—シギ科—

形態 稍大形にて胸長い。夏冬異色。夏羽は石板黒色で暗赤色の脚目立つ。嘴峰53~64%。翼長158~177%。尾長60~68%。跗蹠53~59%。夏羽は上面石板黒色にて背には白色小斑散在す。腰白、尾は黒く幅狭い白色横縞多数あり。体下面も煙黒色。冬羽は上面灰褐色で腰白く白色の眉斑と灰褐色の過眼線あり。脚は冬羽及び幼鳥では橙朱色。嘴は黒褐色で下嘴基部暗赤色。飛翔時腰の白色部三角状に見えて顕著である。

生態 欧亜大陸の北部で繁殖し、冬期はアフリカ・印度・印度支那・中国南部等に渡る。我国には春期は2月下旬には早くも渡来し5月下旬迄見られ、時には数百羽の群をなす事もある。秋期の渡りは著しく数少なく且つ不規則であり9月から10月上旬にかけて渡来する。海岸の干潟や沼地、水田等に棲息し、飛翔中岸に近い水中に舞い降り泳いで岸に達したり又浅瀬で啄食中のものが深い所へ泳ぎ出る事もある。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州・対馬

309. アカアシシギ

Tringa totanus eurhinus (Oberholser)
EASTERN REDSHANK

—シギ科—

形態 夏冬異色。冬羽はツルシギの冬羽に似るが稍小。嘴峰42~49%。翼長143~163%。尾長56~67%。跗蹠42~49%。夏羽は頭上、背暗褐色で背には黄褐色斑散布す。腰は白。尾は白く黒褐色の横帯多数あり。下面は白く多数の黒褐色の縦斑が走る。飛翔時翼の幅広い白帯顕著。嘴は黒く下嘴基部朱色。脚は鮮朱色。冬羽は背の黄褐色斑殆ど消失し下面は白く僅かに前頸、胸側、上胸に淡黒褐色縦斑を認めるのみ。脚橙朱色。

生態 シベリア・中央アジア等で繁殖し、冬期は中国南部・馬來諸島・印度支那半島

等に渡る。我国には秋期は7月下旬から10月上旬頃迄の間数は少ないが定期的に渡来するが春期は極めて稀に4月下旬から5月上旬頃見られるに過ぎない。通常1, 2羽, 群棲する場合でも4, 5羽位。キアシシギ・ソリハシシギ・ツルシギ等の群に混じって干潟, 沼沢地, 岩礁上等に生活する。飛翔時ビューイ, ビューイと澄んだ声でなく, **分布** 本州(東京湾・小田原・大阪湾・伊丹等から記録がある)伊豆七島(大島)

310. コアアシシギ *Tringa stagnatilis* (Bechstein)
MARSH-SANDPIPER

—シギ科—

形態 夏冬異色。冬羽はアオアシシギに似るがそれより著しく小。嘴峰37~45%, 翼長132~143%, 尾長53~58%, 跗蹠47~52%, 夏羽は頭上, 背は橙赤灰褐色で黒褐色の斑点散在し特に背に顕著。下背, 腹, 上尾筒は白く飛翔時目立つ。尾は白く少量の黒色斑あり。下面は白く前頸, 頸側, 上胸, 脇に黒褐色斑あり。嘴は細く煙黒色。脚灰緑青色。冬羽は顔白く頭上, 背は灰褐色。下面は総べて白色で斑点を欠く。

生態 欧州東南部・ソ連南部・中央アジア・シベリア等で繁殖し, 冬期はアフリカ・印度・印度支那半島・モルッカ諸島・濠洲等に渡来するが一般にその数は少ない。我国では極めて稀種に属し約70年程前に横浜付近で採集された記録が残っているのみであったが著者は1953年9月大阪湾, 住ノ江付近海岸にて3羽採集し又同年10月には森岡弘之氏が千葉県浦安海岸にて約20羽の1群を観察された。その後少数ずつ年々記録されている。著者の採集したものは干潟や淡水池でアオアシシギと共に行動していたものであり習性は前者に酷似, 之を一廻り小形に仕ただけである。

分布 本州(千葉県・神奈川県・大阪府・兵庫県)

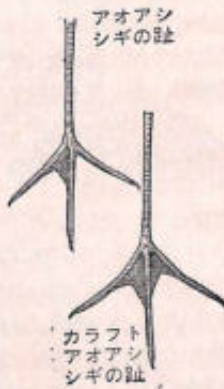
311. アオアシシギ *Tringa nebularia* (Gunnerus)
GREENSHANK

—シギ科—

形態 夏冬異色。ツルシギより稍大にて嘴僅かに反り上がる。飛翔時下背, 腹, 上尾筒の白色部顕著。嘴峰50~59%, 翼長184~200%, 尾長68~80%, 跗蹠55~61%, 夏羽は上面灰鼠色で黒色縦斑がある。上背以下は白。尾も白く少量の黒褐色の横縞がある。下面は白く前頸, 上胸に黒褐色の点列がある。嘴石板色, 脚は灰青色。冬羽は上面灰褐色にて羽縁灰白色, 羽軸黒褐色。下面の斑点は極めて不鮮明か殆どないかである。

生態 広く欧亜大陸の北部で繁殖し, 冬期はアフリカ・印度・濠洲・ニュージーランド等に渡る。本州中部には春期は3月下旬から6月中旬頃迄, 秋期は7月下旬から11月中旬迄多数渡来するが, 秋期の渡りは春期より顯著で時には数10羽の群を見る事もある。海岸の干潟や淡水池に棲息し飛翔時澄んだ甲高い声でビューー, ビューー, ビューーとなく。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州・屋久島



[PLATE 47]

312. カラフトアオアシシギ *Tringa guttifer* (Nordmann)
NORDMANN'S GREENSHANK —シギ科—

形態 アオアシシギに酷似するが野外に於いての次の諸点で区別する事ができる。
(1)全体一層白色に見える。(2)脚著しく短い。(3)動作はむしろキアシシギに似る。(4)飛翔時後方に延ばした脚は尾を僅かに越えるのみ。(アオアシシギでは脚は尾よりも長く延びている) 嘴峰47~57%, 翼長156~181%, 尾長54~70%, 跗趾40~48%, 標本による区別点は(1)嘴は基部著しく太く暗緑色を呈し中央より先は石板色。且先端アオアシシギ程反り上がっていない。(2)脚は黄緑色(キアシシギより緑味を帯びる)。(3)跗趾アオアシシギに比し著しく短い。(4)内趾と外趾とは基部が膜にて中趾と連結されている。(アオアシシギは外趾のみ中趾に連結する。)

生態 本種はシギ科中世界的稀種である。確実な繁殖地として知られているのは旧南樺太の留多賀町付近だけであり、冬期は中国南部・馬來・印度等に渡るが従来各地で採集された標本の数は少ない。我国にも極めて稀に渡来するもので以下の記録があるにすぎない。(1)室蘭・1893年9月(札幌博物館蔵)(2)神奈川県大郷川口・1915年9月23日(黒田長礼博士採集)(3)三重県宮川河口・1953年9月8日(橋本太郎氏採集)(4)大阪市住ノ江・1954年5月30日(著者採集)(5)同上・1954年9月30日(著者採集)(6)薩摩・1918年9月15日(7)佐賀県、有明湾・1925年10月5日(故川口孫次郎氏採集)

分布 北海道・本州・九州に極めて稀に渡来。

313. ソリハシシギ *Xenus cinereus* (Güldenstädt)
TEREK SANDPIPER —シギ科—

形態 夏冬異色。小形のシギにて嘴長く著しく上方に彎曲する。嘴峰43~52%, 翼長126~141%, 尾長47~56%, 跗趾25~28%。夏羽は上面灰色にて黒色縦斑がある。肩羽と小雨覆とは殆ど黒く背側に黒縦帯をなす。下面は白く頸、上胸には灰色縦斑がある。嘴石板色にて下嘴基部黄緑色。脚橙黄色。冬羽は背の黒色縦帯を欠く。

生態 欧州北東部・シベリア北部で繁殖し、冬期はアフリカ・印度・濠洲に渡来する。我国には春秋の渡りに出現するが本州中部に於いては春は4月下旬から6月中旬迄秋期は7月下旬から10月中旬迄の間に多数渡来する。一般に秋期は一層数多く時には数10羽群棲する事もある。キアシシギの群に混じる事が多い。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州・喜界島等に渡来する。

314. オオハシシギ *Limnodromus scolopaceus* (Say)
LONG-BILLED DOWITCHER —シギ科—

形態 中形のシギ。嘴長く先端稍大にて扁平。夏冬異色。♀は♂より嘴長い。嘴峰♂69~71%, ♀73~77%, 翼長134~151%, 尾長55~66%, 跗趾37~43%。夏羽は頭上、上背は黒褐色にて赤褐色斑あり。下背、腰は白く上尾筒は白黒の横縞。尾は中央のものは赤褐色と黒との横縞にて外側のものは白と黒との横縞。翼に白帯あり。顔、頭側、下

面は緑べて赤褐色にて眼先黒褐色。前頸、頸側、脇、下尾筒には黒褐色の小波状斑あり、趾縁黒色。冬羽は赤褐色を全く欠き、頭上、上背は灰褐色。眉斑白。下面白く前頸、頸側、胸淡灰褐色。

生息地 シベリア北東部。アラスカの北西部海岸等で繁殖し、冬期は北米南部・南米に渡来す。我国では迷鳥として1874年に2回採集されたのみでこの標本は現在大英博物館に保存されている。当時 *Limnodromus semipalmatus* (Blyth) と誤って同定されたまま今日に至ったが最近同博物館にて右標本を調査の結果本種の誤りである事が分かった。

分布 北海道 (1874年3月13日) 本州 (横浜・1874年10月13日)

315. オグロシギ

Limosa limosa melanuroides Gould

EASTERN BLACK-TAILED GODWIT

—シギ科—

形態 オオソリハシシギより稍小。嘴は真すぐで反り上がっていない。飛翔時尾端の幅広い黒帯顕著。夏冬異色。嘴峰74~91%、翼長181~205%、尾長67~78%、跗趾56~68%。夏羽は頭上、後頸赤褐色で黒色縦斑あり、背は黒褐色で赤褐色斑散在。上尾純白。尾は白く先端に極めて幅広い黒帯あり。下面肥は白く前頸、頸側、胸部は赤褐色で以下白く胸、腹には、黒褐色の横斑散在す。飛翔時は翼の白帯も顕著。冬羽は上面淡黒褐色で羽縁灰白色、下面は汚白色で前頸と胸僅かに淡褐色を呈す。♀は♂より大。

生息地 シベリア東部・カムチャッカ・蒙古等にて繁殖し、冬期はフィリピン・印度・漳州北部に渡来。我国には春秋の渡りに出現し、近畿地方では秋期は8月上旬から10月上旬に見られるが其数は多くない。春期の渡りは顕著でないが5月中旬少数渡来する。干潟、池畔、沼沢地等に棲息する。飛翔中キュツ、キュツ又はケツ、ケツとなく。

分布 北海道・本州・九州

316. オオソリハシシギ

Limosa lapponica baueri Naumann

EASTERN BAR-TAILED GODWIT

—シギ科—

形態 稍大形のシギにて嘴上方に彎曲す。♀は♂より大。夏冬異色。嘴峰♂70~89%、♀88~121%、翼長♂206~230%、♀224~249%、尾長64~84%、跗趾48~60%。夏羽は上面は赤褐色と黒褐色との斑。体下面濃い赤褐色にて斑点を欠く。尾は赤褐色、白、黒褐色の横斑となる。冬羽は夏羽の赤褐色の部分汚白色となり前頸、胸、脇淡褐色である。幼鳥は夏羽でも赤褐色を帯び老齢になるに従い夏羽の赤褐色顕著となる。

生息地 シベリア東部・カムチャッカ・アラスカで繁殖し、冬期は馬來諸島・印度支那半島・ニューギニア・漳州・ニューグランド又はハワイ・フィジー諸島等に渡来。我国には春秋の渡りに多数渡来す。本州中部では春は3月下旬から6月上旬迄秋は8月上旬から10月中旬迄の間海岸の干潟等に見られる。飛翔中ケツ、ケツとなく。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州等に渡来。

備考 コシジロオオソリハシシギ *Limosa lapponica menzbieri* Portenko は嘗て神奈川県六箇川口に於いて1回採集された事があるが、本亜種は特徴顕著ならずオオソリハシシギのシノニムであるとする学者もある。



312.
カラフトアオアシシギ



313. ソリハシシギ

冬羽

夏羽



冬羽

314.
オオハシシギ

夏羽



夏羽

316.
オオソリハシシギ

冬羽

夏羽



315.
オクロシギ

冬羽





317. ダイシャクシギ

319. シロハラチュウシャクシギ

322. コシャクシギ

320. チュウシャクシギ

成鳥

318. ホウロクシギ

幼鳥

321.
ハリモモ
チュウシャク

317. ダイシャクシギ

Numenius arquata orientalis Brehm
INDIAN CURLEW

—シギ科—

形態 最大形のシギにて極めて長い嘴下方に彎曲する。飛翔時頸の白色顯著。♀は♂より一層大。嘴峰♂128~150%, ♀140~185%, 翼長♂280~312%, ♀294~318%, 尾長113~129%, 跗蹠70~87%, 上面黒褐色にて羽縁淡褐色。下背、腰は白。尾は白色で黒褐色の横斑がある。下面は白色で前頸、胸に顯著な黒褐色縦斑がある。脚は青灰色。冬羽は上面淡色にて下面の縦斑幅狭く且褐色である。幼鳥は嘴一段と短い。

生態 シベリア西部・バイカル地方等で繁殖し、冬期は東アフリカ・マダガスカル・印度・印度支那半島・フィリピン諸島等に渡る。我國には秋は8月上旬に渡来し11月上旬位迄規則的に見られるが、本州中部以西には冬期も滞留するものがある。春期は4、5月に多く6月中旬頃迄見られる。一般にホウロクシギより数は遙かに少ない。飛翔中ホウロクシギと似た澄んだ声でホーイーン、ホーイーンとなくが幼鳥は成鳥の様に声が澄んでいない。見通しのきく広大な干潟や防波堤上、草原等に棲息する。

分布 北海道・本州・四国・九州等に渡来する。

318. ホウロクシギ

Numenius madagascariensis (Linnaeus)
AUSTRALIAN CURLEW

—シギ科—

形態 大きさ形共ダイシャクシギに似るが腰白くない。嘴峰103~200%, 翼長280~330%, 尾長104~129%, 跗蹠81~96%, 上面淡赤褐色と暗褐色との斑にて腰も同じ。尾は淡黄褐色で黒褐色の横斑がある。下面は淡黄褐色で黒褐色縦斑がある。脚は青灰色。冬羽も夏羽と大差ない。♀は♂より著しく大きく幼鳥は成鳥に比し嘴が著しく短い。

生態 東部シベリア・カムチャッカ等にて繁殖し冬期は馬來諸島・印度支那半島・濠洲・ニュージーランド等に渡る。我國には春秋の渡りに渡来しその数は前種より遙かに多い。本州中部には春期は3月中旬から6月上旬迄、秋期は7月中旬より10月中旬頃の間に出現する。ダイシャクシギ、チュウシャクシギと混群の事が多い。ホーイーン、ホーイーンと澄んだ声で飛翔中よくなくが幼鳥は声が稍濁っている。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州・対馬等に渡来する。

319. シロハラチュウシャクシギ

Numenius tenuirostris Vieillot
SLENDER-BILLED CURLEW

—シギ科—

形態 チュウシャクシギに類似するが稍大で頭上、背は黄褐色を帯びる。尾は白く黒褐色の斑点がある。下面胸以下にハート形斑散在。嘴峰67~94%, 翼長245~264%, 尾長91~96%, 跗蹠57~65%, チュウシャクシギに見る汚白色の頭尖線を欠き頭上、背は黒褐色と黄褐色との斑。下背と上尾筒は白く上尾筒には黒色斑あり。体下面は白く前頸と胸とは黒褐色縦斑があり、下胸部と腹側の斑点はハート形である。

生態 シベリア西南部で繁殖し冬期は地中海沿岸・北アフリカ等に渡る。我國には迷鳥として極めて稀に渡来し嘗て本州にて2羽採集された事があるのみ。

分布 本州

320. チュウシャクシギ *Numenius phaeopus variegatus* (Scopoli)
EASTERN WHIMBREL 一シギ科一

形態 嘴下方に彎曲するもホウロクシギより遙かに小。汚白色頭尖線あり、飛翔時腿の白色目立つ。嘴峰65~91%、翼長211~249%、尾長89~102%、跗蹠55~66%、上面黒褐色にて羽縁淡し。下背、腿、上尾筒は白く上尾筒には黒褐色の横縞がある。尾は淡黒褐色で黒褐色の数条の横帯がある。下面は白く顔、頸、腹に淡褐色の縦斑あり、脇にも褐色の横縞がある。脚は青灰色。♀は♂より稍大。夏羽冬羽類似。

生態 シベリア東部で繁殖し、冬期は印度支那半島・馬來諸島・ニューギニア・濠洲・ニュージラランド等に渡る。我国には春秋の渡りに各地に極めて多数渡来する。本州中部にては春は4月中旬から6月下旬、秋は7月下旬から11月上旬迄各地の干潟、池畔、沼沢池等に数多く見られる。幼鳥非繁殖のものは夏期も我国に留滞するもの少なくない。春期の渡りは秋期の渡りに比し著しく数が多く数百羽の群も稀でない。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州・対馬・徳之島・馬毛島

321. ハリモモチュウシャク *Numenius tahitiensis* (Gmelin)
BRISTLE-THIGHED WHIMBREL 一シギ科一

形態 チュウシャクシギに似るも背淡色にて淡赤褐色斑あり。腿は白くない。嘴峰88~93%、翼長208~266%、尾長95~102%、跗蹠55~68%、灰白色頭尖線あり。上尾筒淡赤褐色、尾も同色で黒褐色の数条の横帯がある。下面はクリーム色にて腹部稍赤味を帯び、胸に淡褐色の斑点と縦斑とがある。腿羽の羽軸50%、位針状に延び生糸の様に銀白色に光っている。

生態 アラスカ東部にて繁殖する事が近年はじめて明らかになった。冬期はハワイ群島・ミクロネシア諸島等に渡来するが我国では迷鳥として1909年7月に京都府で1羽、1958年山形県で1羽捕獲されたことがあるのみ。

分布 本州

322. コシャクシギ *Numenius minutus* Gould
LEAST WHIMBREL 一シギ科一

形態 チュウシャクシギより著しく小。嘴は僅かに下方に彎曲する。嘴峰42~50%、翼長180~187%、尾長68~75%、跗蹠45~55%、頭尖線淡黄褐色にて背にも顕著な黄褐色の小斑散在する。尾は灰褐色で暗褐色の横帯がある。下面汚白色、前頸、胸、胸側は淡褐色で黒褐色の縦斑がある。脚は青灰色。

生態 シベリア東北部で繁殖し、冬期フィリピン・濠洲等に渡る。中国沿岸を南下するものが多い様であり我国を通過するものは極めて稀である。冬期濠洲北部の草原には数百羽の大群も稀でないということである。

分布 本州(千葉県・東京都・長野県・広島県・山口県)九州(福岡県)

[PLATE 49]

323. コオバシギ

Calidris canutus canutus (Linnaeus)

EASTERN KNOT

—シギ科—

形態 中形のシギで嘴比較的短く夏羽では下面濃赤褐色顯著。嘴峰31~32%, 翼長150~175%, 尾長54~58%, 跗趾29~31%, 夏羽は顔と頸側濃赤褐色で頭上、後頭、眼先には白黒の縦線がある。背は黒褐色で羽縁は灰白色。所々に赤褐色を混じえている。上尾筒は白く黒色の横線がある。冬羽は夏羽に見る赤褐色を全く欠き上面は灰褐色、頭上は稍黒色を混じえる。下面は白く頸部と胸部とに灰褐色の縦斑がある。

生態 繁殖地は不詳であるがシベリア東北部と推定されている。冬期は釧路・ニューギランドにまで渡るが中国沿岸を経由するもの多く我國には稀な旅鳥として渡来す。

分布 北海道(函館)本州(茨城県・千葉県・東京都・神奈川県・三重県・大阪府・兵庫県)九州(福岡県・佐賀県)

324. オバシギ

Calidris tenuirostris (Horsfield)

GREAT KNOT

—シギ科—

形態 前種より稍大。夏羽でも前種の様に赤褐色でない。嘴峰39~48%, 翼長168~190%, 尾長60~71%, 跗趾34~38%, 夏羽頭頸部は白地に黒色縦斑密在し、背は黒色で灰白色の羽縁がある。肩羽には顕著な栗色斑あり。上尾筒は白く黒斑散在。下面は白く胸に黒色斑密布し腹側に黒斑あり。胸の黒色斑と上尾筒の白とは飛翔時顕著。嘴黒。脚暗緑色。冬羽は肩羽の栗色斑を欠き胸と腹側との斑点は色淡く且量も少ない。

生態 巣と卵とは未発見。多分シベリア東北部で繁殖し冬期はフィリピン・印度支那半島・印度・濠洲等に渡来。本州中部には春は4月上旬から5月下旬迄秋は8月上旬から10月上旬迄の間多数出現する。秋期の渡りは春期に比し一層数が多い。

分布 北海道・本州・九州

325. サルハマシギ

Calidris ferruginea (Pontoppidan)

CURLEW-SANDPIPER

—シギ科—

形態 冬羽はハマシギの冬羽に似るが嘴細く稍下方に彎曲す。夏羽は顔と下面とは濃赤褐色。嘴峰31~42%, 翼長122~137%, 尾長41~49%, 跗趾27~31%, 夏羽上面は赤褐色と黒と灰白色との斑にて上尾筒は白く少量の黒斑がある。嘴の基部周囲と眼の周囲とは白。下面腹部は稍色淡く胸と腹とには不規則な黒と白との横斑がある。嘴と脚とは黒。冬羽は上面灰褐色で羽縁白。白色眉斑顯著。下面は白で頸側灰褐色。

生態 シベリア北部で繁殖し、冬期はアフリカ・マダガスカル・印度・印度支那半島・濠洲に渡来。欧州各地には渡りの際多数出現するが我國にはハマシギの群に混じって稀に渡来するに過ぎない。

分布 本州(宮城県・千葉県・東京都・神奈川県・大阪府)九州(福岡県)八丈島で採集された。

326. ハマシギ

Calidris alpina sakhalina (Vieillot)

EASTERN DUNLIN

—シギ科—

形態 シギ類中最も数多く各地に普通。夏羽は背赤褐色、腹の中央黒。嘴峰32~42%, 翼長113~128%, 尾長51~60%, 跗趾24~29%, 夏羽は頭上黒と赤褐色との縦斑、背は赤褐色で黒斑がある。下面は地色白く頭頸部に黒色縦斑あり腹部中央の大部分は黒。

飛翔時翼の白帯目立つ。冬羽は上面灰褐色、下面は白く胸に幅広い灰色帯がある。

生態 アジア州の北東部及び北米の北西部で繁殖し、冬期日本・中国東部・カリフォルニア・テキサス等に渡る。繁殖地から南下したものは7月上旬には早くも本州中部に達し徐々に数を増す。一部のものは数百の群をなして越冬し翌年5月上旬頃再び北上を始め5月下旬には殆ど姿を消す。我国に最も近い所では北千島でも繁殖している。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州

327. トウネン *Calidris ruficollis ruficollis* (Pallas)

EASTERN LITTLE STINT

—シギ科—

形態 最小形のシギで極めて普通種。夏羽は顔、頸、胸 濃赤褐色。嘴峰 17~21%。翼長 94~102%。尾長 40~48%。跗蹠 17~20%。夏羽上面は栗褐色と濃赤褐色との縦斑。額、前頭に稍白色を混ず。胸に黒褐色の小斑散在し以下の下面は白。嘴、脚は黒。冬羽は上面灰褐色で不鮮明な黒色縦斑あり。上胸に灰褐色帯ありその他の下面は白。

生態 シベリア北東部及びアラスカ西部で繁殖し、冬期はフィリピン諸島・印度支那半島・印度・ミクロネシア諸島・ニコバル諸島・濠洲等に渡る。我国には春秋の渡りに多数渡来す。近畿地方にては春期は4月上旬から6月上旬迄、秋期は7月下旬から11月中旬迄の間数羽の群を見る事も稀でない。飛翔中チリッ、チリッとなく。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州

328. ヒバリシギ *Calidris minutilla subminuta* (Middendorff)

LONG-TOED STINT

—シギ科—

形態 トウネンの冬羽に類似するが、灰白色の眉斑、暗緑色の脚は野外に於ける明らかな識別点となる。嘴峰 17~20%。翼長 85~92%。尾長 35~40%。跗蹠 21~22%。上面黄褐色と赤褐色との縦斑、下面は汚白色で胸と脇に淡褐色の縦斑がある。各趾の長さトウネンより遙かに長い。冬羽は上面灰褐色と黒褐色との斑となる。

生態 シベリア東部・カムチャッカ・北千島・コマンドル諸島等で繁殖し、冬期フィリピン・印度支那半島・印度・濠洲等に渡る。我国では比較的数の少ない旅鳥である。トウネンの様に干潟に居る事は少なく、単独又は数羽で主として沼沢地や池畔に棲息し、人が近づくと驚かくれる習性がある。本州中部では春は5月頃秋は8月下旬から10月下旬迄年々少数渡来するが春期は極めて稀である。

分布 北海道・本州・八丈島・九州

329. オジロトウネン *Calidris temminckii* (Leisler)

TEMMINCK'S STINT

—シギ科—

形態 トウネンの冬羽に似るが上面灰褐色で白色眉斑あり。嘴峰 16~17%。翼長 92~94%。尾長 44~47%。跗蹠 18~19%。上面には不鮮明な黒色と黄褐色との斑がある。尾は中央の1対黒褐色で他は殆ど白。下面は白く喉、前頭、頸側、胸には暗褐色の縦斑がある。嘴黒。脚緑黄色。冬羽は上面灰褐色。下面は前頭、頸側、胸灰褐色で其他は白。

生態 欧亜大陸の北部で繁殖し冬期は中国南部・印度支那半島・印度・フィリピン・ベルシア・地中海沿岸・アフリカ北部等に渡る。我国にて従来採集された数は極めて少なく稀な旅鳥とされているが長門地方には毎年9月下旬頃少数渡来し一部は越冬して翌年3月位迄留る。沼沢地・池畔・川原に棲息し海岸にはあまり出ない。

分布 本州(東京都・千葉県・神奈川県・兵庫県・山口県)・八丈島

冬羽

323. コオバシギ

夏羽

324.
オバシギ

冬羽

夏羽

325. サルハマシギ

冬羽

冬羽

夏羽

326.
ハマシギ

夏羽

327. トウネン

冬羽

328. ヒバリシギ

冬羽

329. オジロトウネン

夏羽

夏羽



PLATE 50

330.
ウズラシギ

冬羽

夏羽

331.
アメリカウズラシギ

333.
キリアイ

332.
エリマキシギ

冬羽

♀

エリマキシギ

夏羽



330. ウズラシギ

Calidris acuminata (Horsfield)

SIBERIAN PECTORAL SANDPIPER

—シギ科—

形態 ハマシギより大で嘴比較的短い。頭上赤褐色で黒色縦斑あり。嘴峰23~29%。翼長124~138%。尾長45~58%。跗趾27~30%。夏羽の背は赤褐色で黒色縦斑がある。尾は黒褐色で先端尖り中央の1対は稍長く羽縁赤褐色。其他の尾は羽縁は白。顔は淡黄褐色で黒色縦斑と不鮮明な白色眉斑とがある。下面下喉、胸、脇は淡赤褐色で其他は白く、臍、喉、胸、腹側には褐色の円形小斑あり。冬羽は頭上の黒色縦斑を増し背も夏羽に比し著しく黒くなる。下面の円形小斑を全く欠き下喉に褐色の細い縦斑がある。

生態 シベリア北東部で繁殖し、冬期は馬來諸島・漳州・ニュージーランド等に渡る。我国では春秋の渡りに通過するもの種でない。近畿地方では春は4月上旬から6月中旬迄、秋は7月下旬から11月上旬迄沼沢地、池畔、干潟等に見られるが大群をなさず単独又は数羽の群の事が多い。飛び立つ時ピリピッッと細い声でなく。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州・奄美大島・徳之島

331. アメリカウズラシギ

Calidris melanotos (Vieillot)

PECTORAL SANDPIPER

—シギ科—

形態 ウズラシギに類似するが頭上赤褐色でない。上面は黄褐色と黒褐色との斑。下面に円形斑を欠き喉と胸とは淡褐色で顕著な黒褐色縦斑がある。嘴峰26~30%。翼長127~146%。尾長50~62%。跗趾27~30%。冬羽は背は殆ど黒褐色で羽縁僅かに淡黄褐色。下面の縦斑著しく微小である。

生態 シベリア東北部及び北米極北部で繁殖し、冬期は北米大陸を経て南米に渡る。我国には稀な旅鳥として渡来するに過ぎない。習性はウズラシギに類似する。

分布 北海道・本州（神奈川県・兵庫県）で数回採集された事がある。

332. エリマキシギ

Philomachus pugnax (Linnaeus)

RUFF (♂) REEVE (♀)

—シギ科—

形態 ♂夏羽は頸の周囲の羽毛長く襟巻状の飾羽をなす。嘴峰♂34~38%、♀29~33%。翼長♂186~198%、♀149~163%。尾長61~68%。跗趾45~52%。♂夏羽の羽衣は個体により極めて変化に富む。頸周囲の飾羽藍黒色のもの、藍黒色と淡褐色との斑のもの、赤褐色のもの、赤褐色と黒褐色との横縞をなすもの、殆ど白色に近いもの、白と赤褐色との斑のもの、又之等各形の間中間形等がある。背も藍黒色のもの、褐色のもの、赤褐色と黒褐色との斑のものなどがある。腹部は何れも白。♀は♂に比し著しく小。上面黄褐色と黒褐色との斑にて下面喉、胸、脇は淡褐色にて其他は白。♂の冬羽は夏羽に見る飾羽を全く欠き上面灰褐色にて各羽中央黒褐色、下面は白く喉、胸、脇淡褐色。

生態 欧州北部・シベリア西部で繁殖し、冬期アフリカ・印度・中国等に渡る。我国には秋期稀に幼鳥が渡来し、北海道や本州で之迄に10数点採集されているが夏羽のものはまだ採集された事がない。繁殖期には2羽の♂が相対峙して、頸の飾羽を逆立

て争う習性があり、欧州では動物園の禽舎の中でもよく見る事ができる。

分布 北海道・本州（宮城県・福島県・埼玉県・東京都・千葉県・神奈川県・愛知県・大阪府）

333. キリアイ *Limicola falcinellus sibirica* Dresser
EASTERN BROAD-BILLED SANDPIPER —シギ科—

形態 トウネンより大。白色眉斑と頭側の白線野外に於いて顕著。嘴峰30~35%、翼長101~112%、尾長38~42%、跗趾22~24%。頭側の白線に挟まれた頭上は黒と赤褐色との斑。背は黒と赤褐色との斑。下面は灰白色で下喉と胸とは淡褐色で暗褐色の不鮮明な縦斑がある。冬羽は上面灰褐色と黒褐色との斑。下喉、胸は淡灰褐色で縦斑不鮮明。

生態 シベリア東北部で繁殖し、中国南部・フィリピン・印度・婆州に渡る。我国には秋期は8月中旬から10月中旬迄の間定期的に渡来するがその数はあまり多くない。春期には未だ我国で採集された記録なく春の渡りは別の経路をとるものと思われる。2,3羽の時にはトウネンの群に混じる事が多いが、10数羽位の群の時は他種と混群せぬ事が多い。干潟の水辺を好む。飛翔時ビィリッとなぐ。

分布 北海道・本州・九州

[PLATE 51]

334. ヘラシギ *Eurynorhynchus pygmeus* (Linnaeus)
SPOON-BILLED SANDPIPER —シギ科—

形態 夏羽、冬羽共トウネンに似るが嘴扁平で先端へら状。嘴峰20~21%、翼長98~103%、尾長34~39%、跗趾20~21%。夏羽は頭頸部赤褐色で頭上、頸側、前頸、上胸、胸側には黒色縦斑がある。背は黒褐色、赤褐色、灰色の斑。下面胸以下白。冬羽は赤褐色を全く欠き、上面は黒褐色と灰褐色との斑にて下面は白く斑点なし。

生態 シベリア東北部及びアラスカにて繁殖し、冬期は中国南部・馬來半島・印度等に渡来する。シギ類中比較的数の少ない鳥で我国には秋期にのみ少数渡来し春期採集された記録は未だない。トウネン、ハマシギ、キリアイ等の群に混じて居る事が多い。神奈川県 浦賀では1月に採集された事もあるので少数は越冬するらしい。

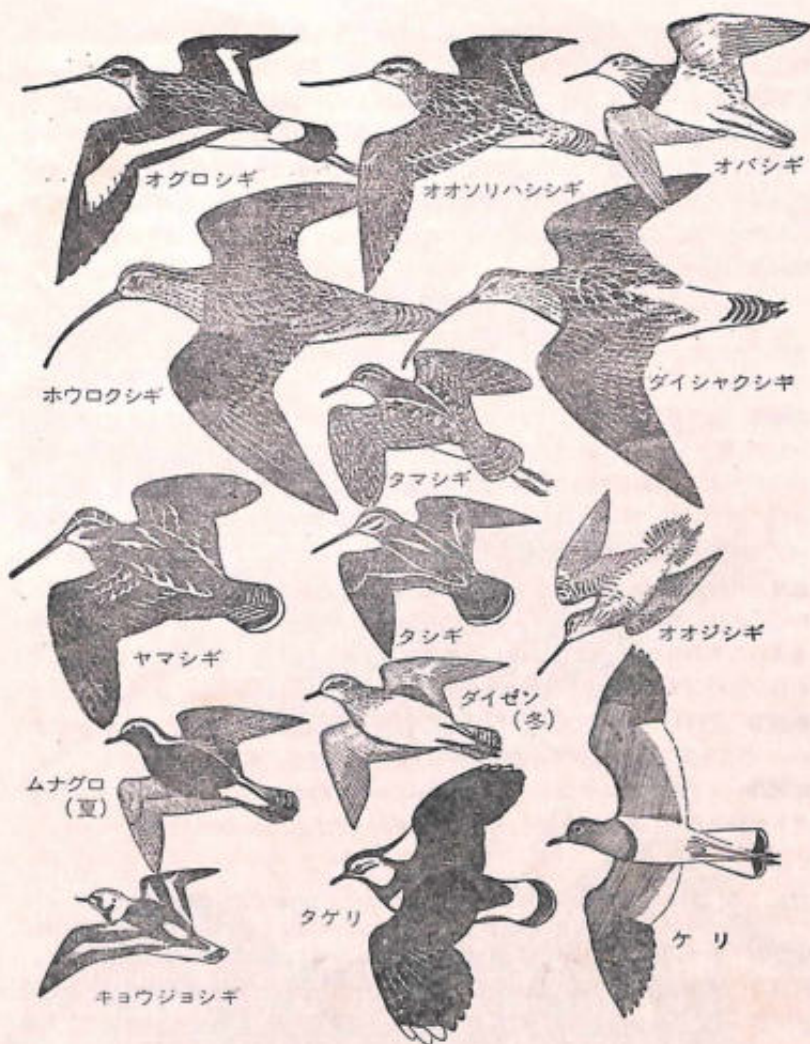
分布 北海道（函館・石狩）本州（千葉県・東京都・神奈川県・愛知県・長野県・大阪府）九州（福岡県）から記録されている。

335. コモンシギ *Tryngites subruficollis* (Vieillot)
BUFF-BREASTED SANDPIPER —シギ科—

形態 ウズラシギより稍大。全体地色は土黄色にて頭上、背、尾、翼は黒褐色との斑。胸側に黒褐色の小斑がある。嘴峰18~22%、翼長124~138%、尾長54~60%、跗趾29~32%。翼羽の裏面には黒色小斑散在して顕著である。冬羽、夏羽大差ない。幼鳥は背の羽縁白く且胸側の斑点明瞭でない。

生態 北米の極北部で繁殖し冬期は南米に渡る。我国には迷鳥として渡来し嘗て東京都と愛知県とで採集された記録があるに過ぎない。

分布 本州（東京都・愛知県）



336. ミコビシギ

Crocethia alba (Pallas)
SANDERLING

—シギ科—

形態 冬羽は野外ではハマシギの冬羽に似るが嘴短かく且全体著しく白く見える。夏羽は野外では胸と上面著しく赤褐色に見える。嘴峰23~28%。翼長117~130%。尾長46~55%。跗蹠22~26%。趾は3本で後趾を欠く。冬羽は上面淡灰色で羽軸黒褐色。翼

は黒褐色で白帯がある。下面は純白。夏羽は頭上背は黒と赤褐色との斑。顔、前頭、頸側、上胸、胸側は赤褐色で、黒色小斑密在し胸以下の下面は白。

生 地 シベリアの極北部・北米の北極海沿岸・グリーンランド等で繁殖し冬期は地中海沿岸・アフリカ・マダガスカル・南米・南太平洋の諸島・中国南部・印度支那半島・フィリピン・漳州等に越冬する。我国には春秋の渡りに渡来するが一般にその数は多くない。近畿地方では春は4月上旬から5月上旬、秋は9月上旬から10月中旬にかけ渡来する。干潟よりも砂浜を好む。千葉県では2月に採集された事がある。

分 布 北海道・本州・九州

337. ヤマシギ *Scolopax rusticola rusticola* Linnaeus

WOODCOCK

—シギ科—

形 態 よく肥えた大形のシギで脚比較的短い。黒と赤褐色と灰色との斑。嘴峰67～80%、翼長191～208%、尾長71～82%、跗蹠34～38%。額から頭上迄は灰褐色で黄褐色斑がある。後頭、後頸には3条の太い黒色帯あり、背は灰色と黒と赤褐色との斑。尾は黒く尾端灰色。嘴の基部から眼迄黒線走る。下面鰐は白く以下淡黄褐色で一面に黒褐色の横縞が散布している。風切羽は暗黒色で外弁には赤褐色の三角形斑並ぶ。

生 地 広く欧亜大陸の中北部で繁殖する。我国でも北海道・本州中部以北の山地、四国、伊豆七島には繁殖するものがある。森林中の湿地に棲息し飛翔も早く且肉の味もよいので狩猟鳥として喜ばれる。夜間水田や湿地に出て長い嘴を地中にさし込んでみみずを捕食するので棲息地付近の湿地には嘴をさし込んだ跡が沢山ある。

分 布 北海道（繁殖）本州（中部以北の山地で繁殖、冬期は積雪の少ない地方に多い。）伊豆七島（繁殖）四国（繁殖）九州・対馬・種子島・屋久島・奄美大島

亜 種 アミヤマシギ *Scolopax rusticola mira* Hartert は奄美大島にだけに棲息する亜種である。測定上稍大且全体著しく褐色を帯びる。顔、前頭は褐色。

338. アオシギ *Gallinago solitaria japonica* (Bonaparte)

EASTERN SOLITARY SNIPE

—シギ科—

形 態 ヤマシギより小。上面黒褐色にて白色と赤褐色との小斑不規則に散在する。嘴峰71～75%、翼長149～156%、尾長63～68%、跗蹠31～35%。不鮮明な白色頭尖線と眉斑とがある。過眼線は褐色で顯著。腿は白色。前頭、頸側、胸、胸側は淡黒褐色で以下の下面は白く胸と腹側とには黒褐色の横縞がある。尾は中央のものは黒く先端に幅広い栗色帯あり最先端に細い黒色帯と白色帯とがある。外側尾羽は著しく幅狭く白地に淡黒色の数条の横縞がある。

生 地 シベリア東部・蒙古からヒマラヤに亘り繁殖し、我国には冬鳥として渡来する。山間の溪流等に単独又は2、3羽にて棲息しタシギの様に電光形に飛び立たず溪流に沿ってまっすぐに飛翔する。飛翔中ジュツ、ジュツとなく。各地に稀でないが数は多くない。

分 布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬に冬鳥として渡来。

334.
ヘラシギ

夏羽

冬羽

335. コモンシギ

冬羽

336.
ミユビシギ

夏羽

幼鳥

338. アオシギ

337. a
アマミヤマシギ

337. ヤマシギ



339. タシギ



タシギの尾



340.
オオジシギ



オオジシギの尾



コシギの尾



343. コシギ



341.
チュウジシギ



チュウジシギの尾



342. ハリオシギ



幼鳥



ハリオシギの尾



344. タマシギ



♀

♂

339. タシギ *Gallinago gallinago* (Linnaeus)

COMMON SNIPE

—シギ科—

〔形態〕 黒褐色と黄土色との斑のシギ。秋期各地に極く普通。嘴峰60~70%、翼長128~140%、尾長53~61%、跗趾29~33%。頭上黒く黄土色の頭中央線と眉斑とがある。背は黒褐色にて黄土色の縦斑あり、腰と上尾筒とは淡褐黄色で数条の黒帯がある。尾は黒く先端に近く幅の広い栗色帯があり更に最先端に近く狭い黒色帯がある。尾羽は普通14枚。下面前頸、頸側、胸、胸側は淡褐色と淡褐黄色との斑。腹側に黒褐色の横縞あり其他は白。夏羽は頭中央線、眉斑、背の縦斑、頸部等著しく赤味を帯びた褐黄色となる。

〔生態〕 欧亜大陸の中北部で繁殖し、中国南部・印度支那半島・印度・フィリピン諸島・アフリカ等に越冬する。我国には秋期多数渡来し本州中部以南には越冬するものも多い。近畿地方には8月下旬頃より渡来し越冬して5月下旬迄残留するものもある。9, 10月頃と3, 4月頃とは渡りの最盛期で大群をなす事もある。沼沢地、水田等に棲息し人が近づくとジュッとなき電光形に飛び立ち飛翔が早いので狩猟の対象として極めて面白い鳥である。

〔分布〕 北海道・本州・八丈島・四国・九州・対馬・種子島・奄美大島

340. オオジシギ *Gallinago hardwickii* (Gray)

LATHAM'S SNIPE

—シギ科—

〔形態〕 タシギに類似して稍大。嘴峰64~80%、翼長141~167%、尾長52~67%、跗趾34~38%。上面の黄土色の縦斑、斑点タシギより多く色彩は一般に淡い感がある。頭部、胸部もタシギより稍黄色を帯びる。尾羽もタシギに酷似するが18枚又は16枚にて外側の3対は他のものより著しく幅が狭い。

〔生態〕 我国にのみ繁殖する事が知られ、冬期は濠州・タスマニア・ニュージーランド等に渡る。我国には4月中旬頃渡来し4月下旬頃迄は平地の畑、水田、湿地等に稀でない。本州中部以北の高原、北海道の平原等で繁殖するが本州中部(例えば富士山麓)では5月上旬には既に産卵するものがある。繁殖地は水辺から遠い乾燥した草原である事が多い。繁殖期にはジョブ、ジョブと鋭い声でなき乍ら上空を旋回し、尾を拡き翼を半開きにして急降下してガッ、ガッ、ガッと羽音を立てる習性がある。7月下旬頃より渡去を初め10月に入ると全く見られなくなる。野外ではタシギに酷似するが、(1) 飛び立つ時グニッと2・3声なく事(タシギはジュッとなく)(2) タシギの様に電光形に飛翔せず且飛翔低い事(3) 一気に長距離飛ばない事(4) 体重く飛翔遅い事等により識別する事が出来る。

〔分布〕 北海道・本州・八丈島・四国・九州

341. チュウジシギ *Gallinago megala* Swinhoe

SWINHOE'S SNIPE

—シギ科—

〔形態〕 オオジシギに酷似して稍小。野外に於いてオオジシギとの識別は極めて困難。嘴峰58~72%、翼長128~143%、尾長52~60%、跗趾31~38%。尾羽20枚(稀に22枚)なる事によりオオジシギと区別する事が出来る。外側尾羽はオオジシギより一層幅狭い。

	チュウジシギ					オオジシギ			
外側尾羽(外側より)	1	2	3	4		1	2	3	4
尾羽の最大幅(%)	4	5	5	6		5	7	8	10

生態 シベリア東部・蒙古・チベット北部等にて繁殖し、冬期は印度支那半島・馬來諸島・ニューギニア・濠洲に渡る。我国には4月中旬頃渡来し下旬位迄の間オオジシギと共に水田、耕地、湿地等に見られ両者の生態は酷似するが(1)飛び立つ時体軽く飛翔稍早い事(2)直線に長距離飛翔して後空高く舞い上がる事(3)体の幾分小さい事等により識別する事が出来る。然し余程熟練せぬ限り野外に於ける両者の識別は困難である。北海道で繁殖するものもある様報ぜられているが繁殖期に北海道各地で採集された標本は何れもオオジシギであり本種の繁殖の確証はない。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州・対馬・奄美大島

342. ハリオシギ *Gallinago stenura* (Bonaparte) —シギ科—
PINTAIL SNIPE

形態 大きき色彩共タシギに酷似するが尾羽の数が26枚(稀に28枚)にて外側の尾羽が針の様に細い事により識別される。嘴峰58~61%、翼長123~129%、尾長43~48%、跗蹠31~33%。

生態 東部シベリアにて繁殖し冬期は中国南部・印度支那半島・馬來諸島・印度・セイロン等に渡る。我国にはタシギの群に混じって渡来するが極めて稀である。

分布 北海道・本州・八丈島・奄美大島で採集された事がある。

343. コシギ *Lymnocyrtes minima* (Brünnich) —シギ科—
JACK SNIPE

形態 タシギに似るが著しく小。嘴峰39~43%、翼長107~117%、尾長46~51%、跗蹠23~25%、頭上黒く淡褐色の頭側線あり眉斑は細く黒褐色。後頸褐色、背は金属光沢ある藍黒色で背の両側には顕著な淡黄土色の線走る。顔はクリーム色で眼先と頬線淡褐色。前頸、頸側、胸は褐色で以下の下面は白。尾は中央の1対稍長く突出する。

生態 欧亜大陸の北部で繁殖し、冬期はアフリカ北部・印度・セイロン・フィリピン・ビルマ・中国南部等に渡る。我国にはタシギの群に混じって稀に渡来するものがある。生態はタシギに似るが飛翔はそれ程早くない。飛翔時タシギより翼の見える背面の金属光沢は野外でも極めて顕著である。

分布 北海道・本州で秋期、冬期に稀に採集される。

344. タマシギ *Rostratula benghalensis benghalensis* (Linnaeus) —シギ科—
PAINTED SNIPE

形態 タシギより稍大。♀は♂より美しい。嘴峰44~50%、翼長123~138%、尾長36~47%、跗蹠38~43%。♀は頭上緑褐色で暗黄色の頭頂線がある。後頸は栗褐色、背は暗緑褐色で両側に黄土色の線走り、肩に白帯あり。眼の後方に白色斑がある。頸側、前頸は栗褐色にて胸には幅広い黒帯がある。以下の下面は白く胸側は黒色。翼と上尾筒とには黄土色の円形斑多数散在。尾には黄土色の散帯がある。♂は翼の黄土色円形斑一層顕著にて眼の後方にはクリーム色斑がある。前頸、頸側には淡褐色の縦線走り胸

には同色の横帯がある。以下の下面は白く胸側に緑褐色部がある。繁殖期には嘴の先端は極めて美しい暗紅色となる。脚は暗灰青緑色。幼鳥は成鳥に似る。

生息地 分布の広い鳥であり我国の他台湾・中国・馬來諸島・印度支那半島・印度・小アジア・アフリカ・マダガスカル等に分布する。本州中部以南では留鳥として水田、池畔に稀ならず棲息繁殖する。一妻多夫の鳥で♀は卵を産み終ると別の♂を求め、抱卵、育雛は♂が当る。繁殖期には夜間コーッ、コーッと盛んになる。冬期は数羽で群棲をなす事がある。人を恐れず飛翔は緩慢で一氣に長距離飛ぶ事はない。

分布 本州中部以南・四国・九州では留鳥として繁殖する他北海道・種子島に分布。

[PLATE 53]

345. ダイゼン *Squatarola squatarola* (Linnaeus)

GREY PLOVER

—チドリ科—

形態 大形のチドリにて夏冬異色。夏羽は顔と下面黒。嘴峰27~32%、翼長182~213%、尾長69~83%、跗趾43~50%。夏羽は上面黒色の地に灰白色の小斑密に散在する。白色の額と眉斑とは頸側から胸側にかけての白色部に連結する。上尾筒と尾とは白く黒色の数条の横線がある。下腹部は白。冬羽は顔及び体下面の黒色を欠き殆ど白く背面は灰褐色である。夏羽冬羽共飛翔時腋羽黒色にて目立つ。

生息地 広く北極圏周囲で繁殖し、冬期は欧州を経てアフリカ・マダガスカルに、アジア中部を経て印度・印度支那半島・馬來諸島・漳州・タスマニアに又北米中部を経てアメリカ南部・南米等に越冬する。我国には7月中旬には早くも渡来し徐々に数を増し本州中部以南では冬期も残留するもの稀でない。翌年の6月上旬頃迄には繁殖地に北上する。海岸の干潟、池畔、沼沢地等に棲息する。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州・奄美大島・徳之島

346. ムナグロ *Charadrius dominicus fulvus* Gmelin

EASTERN GOLDEN PLOVER

—チドリ科—

形態 夏羽冬羽共ダイゼンに似て稍小形。上面の小斑は黄金色。腋羽は灰褐色にて黒色でない。嘴峰21~27%、翼長156~175%、尾長53~66%、跗趾38~48%。夏羽の顔と下面とは黒。冬羽は顔、前頸、頸側、胸は淡褐色で上胸には淡褐色の縦斑がある。以下の下面はクリーム色。ダイゼンと共に夏羽と冬羽の中間の羽衣のものも多い。幼鳥は冬羽に似るが頸部、胸部暗褐色を帯びる。

生息地 シベリア北東部・アラスカ西部にて繁殖し、冬期は中国南部・印度支那半島・印度・馬來諸島・漳州・ニュージーランド等に渡る。我国には春期は3月中旬頃より渡来し4、5月には数を増すが6月下旬には渡去する。秋期は8月上旬には渡来し11月上旬頃迄見られるが春期に比し著しく数が多い。西日本では少数は越冬するものもある。海岸の干潟、水辺、乾燥した地等に棲息し一般にダイゼンより数が多い。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・喜界島・沖永良部島

347. コバシチドリ *Charadrius morinellus* Linnaeus

DOTTEREL

—チドリ科—

形態 ムナグロより稍小。夏羽は上胸に白色帯あり以下栗色にて腹中央の黒色顕著、嘴峰14~18%、翼長143~161%、尾長62~68%、跗蹠34~37%、頭上黒。白色の幅広い眉斑は後頭部にて連結する。背は灰褐色、腰は白。冬羽は頭上淡黒褐色で淡褐黄色の小斑がある。眉斑は後頭部ではクリーム色になる。背は夏羽より淡い灰褐色。下面は夏羽の美しい色彩を全く欠き胸と腹側淡黄土色にて腹は白。

生態 欧亜大陸の北部で繁殖し、冬期は地中海沿岸・アラビア・ペルシア等に移る。我国には迷鳥として稀に渡来し北海道で1回、本州で5回採集された記録がある。

分布 北海道(函館)本州(東京都・神奈川県・静岡県)

348. オオメダイチドリ *Charadrius leschenaultii leschenaultii* Lesson

GEOFFROY'S SAND PLOVER

—チドリ科—

形態 夏冬羽共メダイチドリに酷似し稍大。夏羽上胸部の赤錆色帯はメダイチドリより幅狭く且淡色。嘴峰22~27%、翼長132~144%、尾長48~57%、跗蹠34~39%、額白。前頭部に黒帯あり、嘴の基部より走る黒色過眼線顕著。上胸の赤錆色帯は頸側から後頭部に連なり、其他の下面は白。頭上、背は灰褐色にて上尾筒白。♂は胸の赤錆色帯の幅♀より広い。冬羽は赤錆色を全く欠き下面白で胸側僅かに淡褐色。顔と上面は灰褐色。冬羽はメダイチドリの冬羽に酷似するので野外での識別は大きさによる他かなり困難である。

生態 アラビア北部・中央アジアから蒙古にかけて繁殖し、冬期はトルキスタン南部・アフリカ・印度・馬來諸島・濠洲等に渡来す。我国には春期は4月下旬から6月上旬頃迄、秋期は8、9月頃に少数渡来するものがある。

分布 本州・八丈島・九州

349. メダイチドリ *Charadrius mongolus stegmanni* Stresemann

STEGMANN'S MONGOLIAN PLOVER

—チドリ科—

形態 前種に酷似し稍小。夏羽は上胸の赤錆色帯一層濃く且幅広い。嘴峰15~18%、翼長124~135%、尾長47~55%、跗蹠29~33%。前頭の黒帯と黒色過眼線一層顕著。胸の赤錆色帯と喉との境に細い黒帯がある。♀は♂よりも胸の赤錆色帯の幅が狭く且色淡い。冬羽は夏羽の赤錆色部を全く欠き下面は白く胸に灰褐色帯がある。野外では前種の冬羽に酷似し僅かに嘴の短かい事と体の小なる事以外に識別する方法がない。幼鳥は成鳥冬羽に似るが背の羽縁僅かにクリーム色にて下面胸から腹にかけクリーム色である事に依り識別出来る。

生態 シベリア東北部にて繁殖し冬期は馬來諸島・印度支那半島・ニューギニア・濠洲等に渡る。我国には春秋の渡りの際多数通過するものがある。近畿地方では春は4月上旬から6月上旬迄、秋は7月下旬から11月上旬の間に見られ秋期は春期に比し著しく数が多い。主として海岸の干潟や砂礫地に棲息する。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・喜界島・沖永良部島

345. ダイセン

冬羽

346. ムナグロ

冬羽

夏羽

夏羽

夏羽 ♀

347. コバシチドリ

夏羽 ♀

冬羽 ♀

348.
オオメダイチドリ

夏羽 ♀

夏羽 ♀

冬羽

夏羽 ♀

349. メダイチドリ



350.
シロチドリ

夏羽

冬羽

352. コチドリ

幼鳥

成鳥

354.
オオチドリ

351.
ハジロ
コチドリ

353. イカルチドリ

冬羽

幼鳥

成鳥

夏羽

夏羽

冬羽

355.
タゲリ

356.
ケリ

冬羽



Corvus monedula dauricus Pallas

生態 ウスリー・満州・朝鮮・中国北部等で繁殖し、冬期は中国南部・馬來・印度・モルッカ諸島等に渡る。樹枝上又は地上にて尾を左右に振って回転させる習性は他のセキレイ類と異なる。地上では盛んに地蜂を捕食する。

分布 従来迷鳥として本州(静岡県)九州(佐賀県)八丈島で採集された記録があるに過ぎないが、鳥取県の伯耆大山山麓には少数乍ら5月上中旬に渡来するものがある。

普通の鴨であるが我国には冬期迷鳥として稀に渡来するに過ぎない。

分布 本州(宮城県・東京都・千葉県で10回採集された事がある。)

覆の羽縁栗茶色。下面はぶどう色にて脇と上下尾筒灰色。幼鳥は頸側の斑を欠く。

生態 全国に分布繁殖するが北海道・本州北部や山地のものは冬期は積雪のない温暖地に漂行する。冬期西日本では耕地、畑地等に多い。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州で繁殖し冬期は対馬・種子島・屋久島・奄美大島・喜界島・沖永良部島・与論島等にも渡る。

亜種 リュウキュウキジバト *Streptopelia orientalis simpsoni* (Stejneger) は屋久島・奄美大島・喜界島・琉球諸島で繁殖する亜種である。

298. シラコバト *Streptopelia bicaocto stoliczkae* (Hume)
EASTERN RING-DOVE 一ハト科一

以下の上面は灰褐色。白色の頸輪喉に続く。黒色胸帯以下の下面は白。♂♀夏冬類似。

習性 欧亜大陸の北部で繁殖し欧州・アジア西部を経て冬期は地中海東部・アフリカ全土などに越冬する。我国には迷鳥として極めて稀に渡来するのみ。

分布 本州(神奈川県茅ヶ崎, 1920年9月17日, 千葉県浦安, 1956年10月30日。)

352. コチドリ *Charadrius dubius curonicus* Gmelin
LITTLE RINGED PLOVER 一チドリ科一

形態 我国産チドリ類中最小。眼輪黄色。嘴峰12~14%。翼長111~120%。尾長50~60%。跗蹠22~25%。頭の前半白くその中央に黒色帯あり太い黒色過眼線に連なる。後頭と背とは灰褐色で後頭に白色頸輪あり、その下方に黒色帯がある。下面白く上胸に幅広い黒色帯がある。♂♀夏冬類似。幼鳥は頭上の黒色帯を欠き過眼線は灰褐色である。

生態 我国には主として夏鳥として渡来し、北海道・本州では繁殖するもの稀でない。河原の疎原、池畔、海岸の砂浜等に営巣する。繁殖期には巧みに擬傷(カルガモの項参照)を行う習性がある。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州

亜種 ミナミコチドリ *Charadrius dubius dubius* Scopoli は中国・フィリピン等で繁殖する亜種であり、我国では迷鳥として本州・八丈島で採集された事がある。

353. イカルチドリ *Charadrius placidus japonicus* Mishima
LONG-BILLED RINGED PLOVER —チドリ科—

【形態】 コチドリに似て稍大形。嘴峰19~23%、翼長130~152%、尾長68~78%、跗蹠30~33%。前頭の黒色部コチドリより大。過眼線はコチドリ程鮮明ならず暗灰褐色。白色及び黒色の頸輪は後頸部に於いてコチドリより鮮明。

【生態】 本州・四国で繁殖し、本州中部以南には越冬するもの稀でない。主として河川の中流以上の河原、池畔等に営巣し、河口付近や海岸に来る事は稀である。西日本では冬期は積雪のない河原や水田などに集まって棲息する事が多い。

【分布】 北海道・本州・八丈島・四国・九州・奄美大島

354. オオチドリ *Eupoda asiatica veredus* (Gould)
EASTERN DOTTEREL —チドリ科—

【形態】 イカルチドリより大にて夏羽は上胸に幅の広い栗色帯がある。嘴峰22~25%、翼長157~162%、尾長58~62%、跗蹠44~46%。顔はクリーム色で眉斑に連なる。頭上、背は淡褐色。眼の後方から耳羽にかけ淡褐色線あり、胸の栗色帯の下端には細い黒色帯があり其他の下面は白。♀は栗色が淡い。冬羽は上胸の栗色帯を欠く。

【生態】 蒙古・中国北部・チベット等で繁殖し、冬期は馬來諸島・印度支那半島・豪州・ニュージーランド等に渡る。我国には極めて稀な迷鳥として渡来する。

【分布】 本州（神奈川県産の標本が1点ニューヨークの自然科学博物館にある。）

355. タゲリ *Vanellus vanellus* (Linnaeus)
LAPWING —チドリ科—

【形態】 チドリ科の鳥の中では極めて大きく後頭部に長い冠毛がある。飛翔時翼の幅広く先端四角く且先端の白斑明瞭。嘴峰24~27%、翼長216~234%、尾長91~108%、跗蹠44~49%。冬羽は頭上と羽冠とは金属黒色、背は金属緑黒色。上下尾筒栗色。尾は基半部白く後半は黒、翼は金属藍黒色で風切の先端白。顔は白く眼の前方と下方とに黒斑がある。下面は白く上胸には幅の広い金属藍黒色帯がある。♀は冠毛より短かく背、翼の金属光沢より少ない。上胸の黒色帯も光沢が少ない。夏羽は顔、眼先、腮、喉、黒く上胸の黒色帯に連続し眼の下から後方に走る黒帯がある。

【生態】 広く欧亚大陸に分布し我国には冬鳥として渡来する。近畿地方には10月下旬頃渡来し3月上中旬頃迄の間水田、沼澤地、池畔等に見る事が出来る。数羽から数10羽の群棲をする事が多く見通しのきく広い水田等に居り接近する事は困難である。飛翔時翼動は緩慢で飛翔中ミュー、ミューとなき着陸の際にはキューイとなく。

【分布】 冬鳥として北海道・本州・八丈島・四国・九州に渡来。

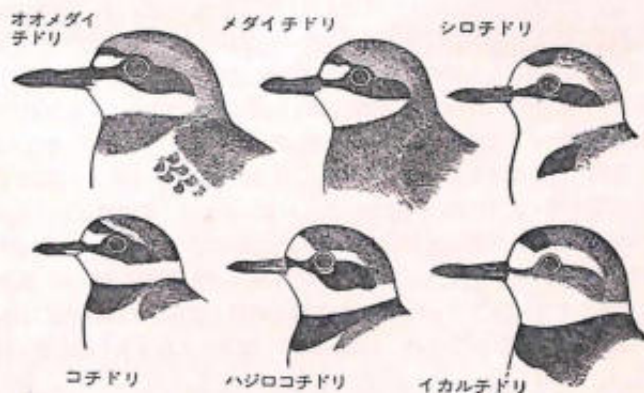
356. ケリ *Microsarcops cinerea* (Blyth)
GREY-HEADED LAPWING —チドリ科—

【形態】 タゲリより稍大で脚が長い。飛翔時は翼白色で先端三角形に黒色であるのが目立つ。嘴峰34~39%、翼長225~248%、尾長100~117%、跗蹠72~79%。頭部灰色、背

は灰褐色、上尾筒白。尾は白く先端近くに幅広い黒色帯ありその両端に褐色帯がある。初列風切黒、次列風切、大雨覆は白。下面鰐、喉は灰色、胸は灰褐色。胸と腹との境に顕著な黒帯あり腹は白。眼瞼と眼先の皮膚裸出部とは鮮黄色。嘴は橙黄色で先端黒。脚は黄色である。♂の翼角の勾状突起は顕著。幼鳥は頭灰色、鰐は汚白色にて胸の黒色帯を欠く。

生態 局地的の鳥であり棲息地局限されているが本州では青森県・秋田県・福島県・栃木県・三重県・京都府等で繁殖する事が知られている。冬期積雪多い地方では暖地に遷行するが近畿地方では留鳥である。国外では蒙古・中国・満州でも繁殖し冬期は印度支那半島・フィリピン・印度等に渡る。果に接近すると低く旋回し下らキッ、キッ、キッと烈しくなきてる。又巧みに振傷（カルガモの項参照）をする。冬期は数羽から10数羽の群をなして湿田や池畔等に棲息するが警戒厳で中々人を近寄せない。飛翔は緩慢で帆翔を続け飛翔中時々キリッ、キリッと鋭い声でなく。

分布 本州で繁殖する他北海道・八丈島・四国・九州にも渡来す。



[PLATE 55]

357. ミヤコドリ *Haematopus ostralegus osculans* Swinhoe
EASTERN OYSTERCATCHER

—チドリ科—

形態 中形鴨位の大きさで上面黒く腹白。朱色の嘴と紅色の脚目立つ。嘴峰88~96%、翼長254~279%、尾長106~114%、跗跖48~55%。頭頸部、胸、背は黒。下背、腰、上尾筒、腹は白。眼の下に小白斑あり。翼黒く飛翔時幅広い白帯顕著。尾は白く先端約1/3は黒。冬羽には喉を横切る白帯あり。幼鳥は嘴暗褐色で基部朱、喉に白色斑がある。

生態 東部シベリア・カムチャッカ・中国北部・朝鮮で繁殖、冬期は中国南部・ビルマ・印度等に渡来する。我国にも往時は旅鳥又は冬鳥として多数渡来したらしいが近年では極めて稀に渡来するに過ぎない。海岸の干潟、砂浜に数羽の群で棲息する事が多い。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州・対馬等に稀に渡来。

358. セイタカシギ *Himantopus himantopus himantopus* (Linnaeus)
BLACK-WINGED STILT —チドリ科—

【形態】 脚桃色で著しく長い。嘴峰57~68%, 翼長222~251%, 尾長80~90%, 跗蹠119~137%。嘴は石板色で極めて細い。♂の頭頸部は白色であるが夏羽では頭上、後頸黒色となる。背と翼とは金属藍黒色。下背、腹、上尾筒及び下面は極めて白。尾は淡灰色。♀は夏羽、冬羽共頭頸部白く背と三列風切とは暗灰褐色。幼鳥は頭上後頭、後頸灰鼠色で背は暗灰褐色で金属光沢を欠く。

【生息】 地中海沿岸・ソ連南部・アラビア・印度・印度支那半島・中国・蒙古・満州等に広く分布し我国には迷鳥として極めて稀に渡来する。水田、沼沢地などに棲息し海岸の干潟に出る事は稀である。飛翔時ビューー、ビューーとなく。

【分布】 北海道(札幌・日高支庁)本州(新潟県・茨城県・愛知県・大阪府・兵庫県)

359. キョウジョシギ *Arenaria interpres interpres* (Linnaeus)
TURNSTONE —チドリ科—

【形態】 中形のチドリで夏羽は背の栗色と黒との斑顯著。脚は短かく橙黄色で美しい。嘴峰20~25%, 翼長146~162%, 尾長57~69%, 跗蹠23~26%。額から眼に至る黒線は眼の下を通り頸線と連なり更に下に喉、胸の黒色帯に連結する。頭上は白と黒との縦斑。下背、腹、喉、胸以下の下面は白。上尾筒は黒く先端は白。尾は基半と先端白く其他は黒。♀は背の黒色より少ない。冬羽は上面、顔、胸、黒褐色で背の栗色を欠く。

【生息】 欧亜大陸と北米との極北部で繁殖し、冬期は南欧・アフリカ・印度・馬來諸島・印度支那半島・太平洋諸島・満州・ニュージーランド・南米等に広く渡来する。我国にも春秋の渡りには極めて多数出現する。近畿地方では春は4月中旬から6月下旬迄は7月上旬から11月上旬迄の間海岸の干潟、水田、沼沢地、河畔等に極めて普通である。飛翔中キリッ、キリッ、キリッとなき翼の白帯と橙黄色の脚とが目立つ。

【分布】 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・種子島・喜界島・徳之島・沖永良部島等に渡来。

360. ツバメチドリ *Glareola pratincola maldivarum* Forster
LARGE INDIAN PRATINCOLE —ツバメチドリ科—

【形態】 翼長く飛翔アジサシ類に似る。飛翔時又状の尾、上尾筒と尾の基部との白、尾先端の黒帯顯著。嘴峰16~17%, 翼長177~186%, 尾長71~80%, 跗蹠29~34%。上面帯緑灰褐色。腮、喉は白色で顯著な黒線に依り灰褐色の頸側や胸と区切られている。下胸部淡灰色で腹は白。腋羽は濃栗色。嘴は黒く基部扁平。脚は短かくて黒。幼鳥は上面暗褐色にて喉の黒帯なく黒色縦斑をなす。胸、頸側も暗褐色。

【生息】 シベリア東南部・蒙古北東部・満州・印度支那半島・印度・フィリピン・台湾等で繁殖し冬期は満州に渡来するものもある。我国への渡来は不規則であるが大坂湾付近には7月下旬から9月下旬にかけ少数渡来し、之等は幼鳥の群である事が多い。従来迷鳥とされていたが繁殖期後幼鳥が何かの都合で北上してくるものらしい。数羽から10数羽の群をなし水田上や海岸に近い草原等を低く旋回しキーリッ、キーリッとなす。

【分布】 本州・八丈島・四国・九州

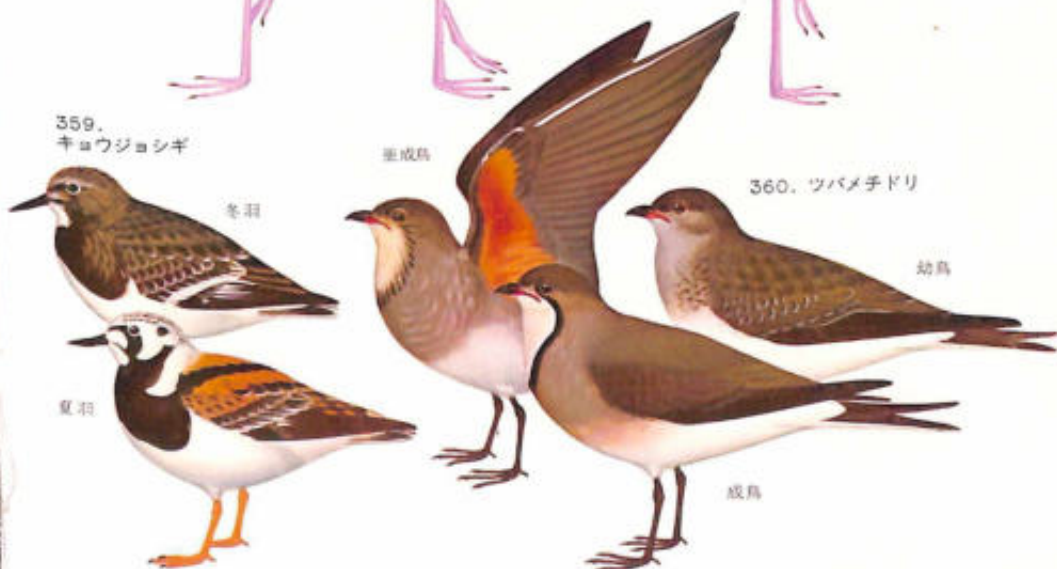
357. ミヤコドリ



358. セイタカシギ



359. キョウジョシギ



360. ツバメチドリ

成鳥

冬羽

夏羽

361. ハジロクロハラアジサシ

冬羽

362. クロハラアジサシ

夏羽



冬羽

364. アジサシ

夏羽



幼鳥

夏羽

365. ベニアジサシ

366. コシジロアジサシ



361. ハジロクロハラアジサシ *Chlidonias leucoptera* (Temminck)
WHITE-WINGED BLACK TERN—カモメ科—

形態 コアジサシと略同大。夏羽は頭頸部、背、下面黒く翼角と尾白。嘴峰23~24%。翼長192~218%。尾長67~75%。附跖19~22%。上下尾筒白。嘴と脚暗赤色。尾の分岐他のアジサシ類に比し浅い。冬羽は頭上は白と灰黒色との縦斑、後頭白。背、翼、尾は石板灰色。前頭、顔、下面は白で一見別種の様に見える。

生態 中央アジア・シベリア南部・蒙古・満州北部・中国北部・欧州東南部で繁殖し冬期は中国南部・印度支那半島・印度・馬來群島・濠洲・アフリカなどに渡来す。我國には迷鳥としてアジサシ、コアジサシの群に混って稀に渡来し、数回の採集記録がある。

分布 本州・八丈島・四国

362. クロハラアジサシ *Chlidonias hybrida swinhoei* (Mathews)
CHINESE WHISKERED TERN —カモメ科—

形態 夏羽は頭上と胸、腹黒く、顔と頸側白。嘴峰29~36%。翼長216~212%。尾長75~81%。附跖20~22%。背、上尾筒、尾、翼は青灰色。嘴と脚とは暗赤色。尾の分岐は極めて浅い。冬羽は前頭部白く頭上から後頭にかけ黒色縦斑あり且黒色の過眼線がある。下面は胸、腹共白色となる。

生態 中国南部・印度支那で繁殖する。我國には極めて稀に迷鳥として渡来するに過ぎない。繁殖期には沼沢地、水田、池沼等を群飛して飛翔中ギョッ、ギョッとなく。

分布 本州から3回採集や観察の記録がある。(宮城県1935年10月25日、神奈川県大郷河口1934年9月28日、兵庫県伊丹1956年11月4日)

363. オオアジサシ *Thalasseus bergii cristatus* (Stephens)
EASTERN CRESTED TERN —カモメ科—

形態 極めて大形のアジサシにて嘴強大。夏羽は後頭部の黒色羽毛長く延び羽冠をなす。嘴峰56~65%。翼長322~338%。尾長162~189%。附跖27~30%。頭上及び後頭部黒。背、腰、尾は灰鼠色。顔、頸、体下面は総べて白。尾の分岐は深い。嘴は黄色にて基部緑黒色、脚は黒。冬羽は頭上白と黒との斑にて後頭部は黒色。

生態 中国南東部・台湾・琉球諸島・小笠原・印度支那半島・馬來諸島・濠洲・タスマニア等で繁殖する。我國では徳之島に繁殖する他本州で2回採集された事がある。ウミネコ、ユリカモメの群に混じって海上に棲息するが尾が叉状である事と海中の獲物を目掛けて上空から直角に水面に突入する事とにより容易に区別する事が出来る。

分布 本州(東京1947年8月31日、兵庫県明石1950年10月29日)・徳之島(繁殖)

364. アジサシ *Sterna hirundo longipennis* Nordmann
NORDMANN'S TERN —カモメ科—

形態 中形のアジサシにて極めて普通種。夏羽は頭上黒色。嘴峰32~40%。翼長260~297%。尾長142~169%。附跖19~22%。背と腰と翼とは灰鼠色にて、上下尾筒白。尾は白く外側尾羽の外弁灰色。顔、肥、喉は白く胸以下の下面は淡灰鼠色、嘴は黒く、脚は

暗赤褐色。冬羽は頭上白と黒との斑にて後頭部は黒く体下面は白。幼鳥は成鳥冬羽に似るが、尾の叉状浅く且背には淡褐色の横縞がある。

生息地 シベリア東北部・カムチャッカ・満州・樺太・北千島などで繁殖し冬期は印度支那半島・ニューギニア・濠洲に渡来する。我国には春秋の渡りに各地の海岸に多数渡来する。近畿地方では春期は4月下旬から6月中旬迄、秋期は7月下旬から10月中旬頃迄の間数百の大群を見る事も稀でない。夏期も少数残留するものがある。河口部、遼浅の海岸、干潟等に好んで棲息する。飛翔中 ギューイツ、ギューイツとなく。少数の時はコアジサシの群に混じる事が多い。

分布 北海道・本州・八丈島・四国等に渡来する。

亜種 アカアシアジサシ *Sterna hirundo minussensis* Sushkin は嘴暗赤色、脚赤色である。我国には迷鳥として極めて稀に渡来する。

365. ペニアジサシ *Sterna dougallii bangsi* Mathews

CHINESE ROSEATE TERN

—カモメ科—

形態 アジサシに似るが稍小。夏羽は体下面白く頬ばら色を帯び嘴基部 暗赤色、脚は黄朱色、尾は長く分枝は深い。嘴峰35~40%、翼長211~226%、尾長144~190%、跗蹠19~21%、頭上、後頭黒。背、腰、尾、翼は淡青灰色。下面胸以下は極めて淡いばら色を帯びた白。冬羽は額白く頭上は白と黒との斑、下面のばら色を欠く。

生息地 南部中国沿岸・琉球諸島・フィリピン・ソロモン諸島・ニューギニア等で繁殖する。我国では奄美大島・徳之島には繁殖するものがある。繁殖期には海岸の岩礁上に集団して営巣する。

分布 奄美大島・徳之島・与論島

366. コシジロアジサシ *Sterna aleutica* Baird

ALEUTIAN TERN

—カモメ科—

形態 大きき羽衣共アジサシに類似するが額から顔の上にかけて白色である事、顔の白い事によって区別される。嘴峰32~33%、翼長256~275%、尾長161~190%、跗蹠17~19%、背の色はアジサシより稍濃く石板灰色である。

生息地 シベリア沿岸・カムチャッカ・樺太・アラスカ等で繁殖し、冬期にも他のアジサシ類の様に南方に渡らず北太平洋に棲息する。我国には迷鳥として極めて稀に渡来するに過ぎない。習性はアジサシに類似する。

分布 本州（宮城県・千葉県 銚子・相模湾で採集された事がある。）

【PLATE 57】

367. マミジロアジサシ *Sterna anaethetus anaethetus* Scopoli

BROWN-WINGED TERN

—カモメ科—

形態 アジサシと略同大。額に白帯あり後方に延び肩斑をなす。背、翼、尾共アジサシより色濃く暗褐色。嘴峰39~44%、翼長243~275%、尾長124~190%、跗蹠17~22%、頭上、後頭黒。顕著な黒色 過眼線あり後頭の黒色部に連なる。下面は総べて白。嘴と脚とは黒色である。

生息地 中国南部沿岸・フィリピン・印度支那半島・スンダ列島・ニューギニア・

濠洲等で蕃殖し硫黄列島・台湾・ミクロネシア諸島等にも渡来する。我国には迷鳥として極めて稀に渡来し嘗て北海道にて1回、本州にて2回採集された事がある。

分布 北海道(函館)本州(横浜・静岡県)

368. セグロアジサシ *Sterna fuscata nubilosa* Sparrman

INDIAN SOOTY TERN

—カモメ科—

形態 前種に類似するが稍大。背面前種より濃く暗褐色。嘴峰39~43%。翼長277~305%。尾長184~196%。跗蹠22~25%。額の白帯延びて眼斑をなすが略眼の上で止まる。眼先、頭上、後頭黒。下面は総べて白。尾は深く分岐し外側尾羽の外弁は白い。嘴は黒、脚は暗褐色。冬羽は頭上各羽に灰色の縁あり幼鳥は背面黒褐色にて各羽羽縁灰白色。下面は褐色で腹以下は淡色である。

生息地 印度洋諸島・フィリピン諸島・琉球諸島・小笠原諸島等で蕃殖し台湾やミクロネシア諸島にも飛来する。我国には本州に渡来する事は稀であるが、徳之島や伊豆七島(青ガ島)には稀らなず飛来する。

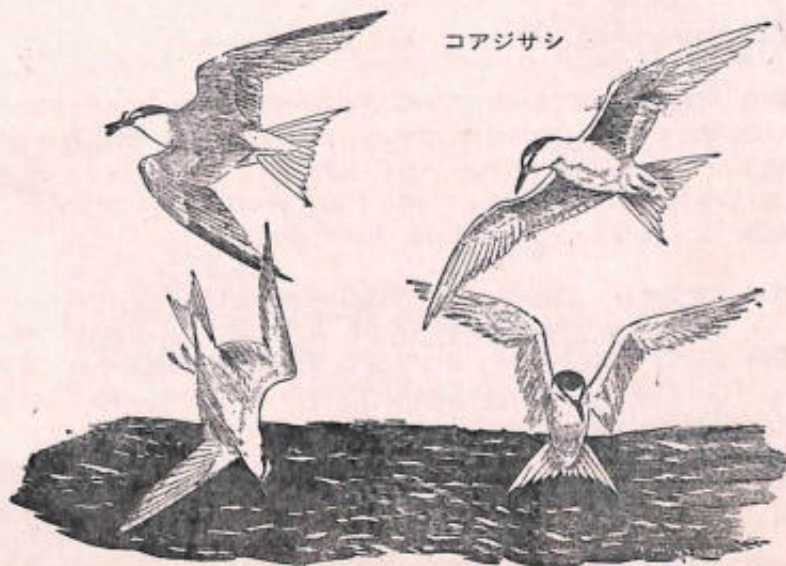
分布 本州(神奈川県・静岡県・滋賀県・京都府・兵庫県)・九州(福岡県・長崎県)・伊豆七島(青ガ島)・四国(愛媛県)・徳之島

369. コアジサシ *Sterna albifrons sinensis* Gmelin

ASIATIC LITTLE TERN

—カモメ科—

形態 我国産アジサシ類中最小にて極普通。嘴峰28~32%。翼長167~193%。尾長65~114%。跗蹠16~18%。夏羽は額白、頭上と後頭、眼先黒。背と翼淡灰色。尾と下面とは白。嘴は黄色で先端黒。脚橙黄色。冬羽は頭頂白く頭側と後頭部の黒色帯とに取り



コアジサシ

巻かれている。尾の分岐夏羽より浅い。嘴、脚は暗緑褐色。幼鳥は冬羽に似るが背は淡灰色の地に淡褐色の斑点散在す。尾の分岐一層浅く尾端には淡褐色斑がある。

生態 本州以南に夏鳥として渡来しその数は多い。アジサシ類中本州で繁殖する唯一の種類である。近畿地方には4月上旬頃に渡来し、海岸、河畔、池畔等の砂礫地に営巣するものが多い。巣に接近すると付近の鳥が一勢に舞い上がりキリッ、キリッなき乍ら上空を旋回して頭上目がけて急降下して威嚇する習性がある。渡去期は9月上旬でありその頃海岸の干潟や岩礁上に幼鳥を混じえた1,000羽以上の群を見る事も稀でない。冬期は馬來諸島・ニューギニア・濠洲等に渡って越冬する。

分布 本州（繁殖）四国（繁殖）・九州・与論島

370. エリグロアジサシ *Sterna sumatrana sumatrana* Raffles
BLACK-NAPED TERN

—カモメ科—

形態 ベニアジサシと略同大。頭上白く黒色過眼線後方に延び後頭部にて左右合す。尾長く分岐は深い。嘴峰31~40%、翼長211~226%、尾長131~151%、跗蹠18~20%。背、翼は淡い青灰色。尾、頬、下面は白く胸と腹極めて僅かにばら色を帯びる。嘴は黒色、脚は暗褐色である。

生態 琉球列島・中国南部・台湾・馬來諸島・印度支那半島・ミクロネシア諸島・濠洲等に分布し、我国にても薩南諸島の馬毛島・奄美大島・徳之島・与論島には夏鳥として渡来し多数繁殖する。海岸の岩礁上に集団して営巣する。

分布 馬毛島・奄美大島・徳之島・与論島

371. クロアジサシ *Anous stolidus pileatus* (Scopoli)
PHILIPPINE NODDY

—カモメ科—

形態 頭上灰鼠色で他は全体殆ど暗褐色。嘴峰37~41%、翼長260~283%、尾長145~165%、跗蹠22~25%。額は灰白色にて眼先黒。翼と尾とは殆ど黒。嘴黒。胸黒褐色。

生態 フィリピン・印度支那半島・ハワイ・琉球列島・小笠原諸島・ミクロネシア諸島・印度洋諸島・南太平洋諸島・濠洲等で繁殖し我国には極めて稀に渡来す。

分布 本州（宮城県・東京湾）・八丈島・九州（佐賀県）

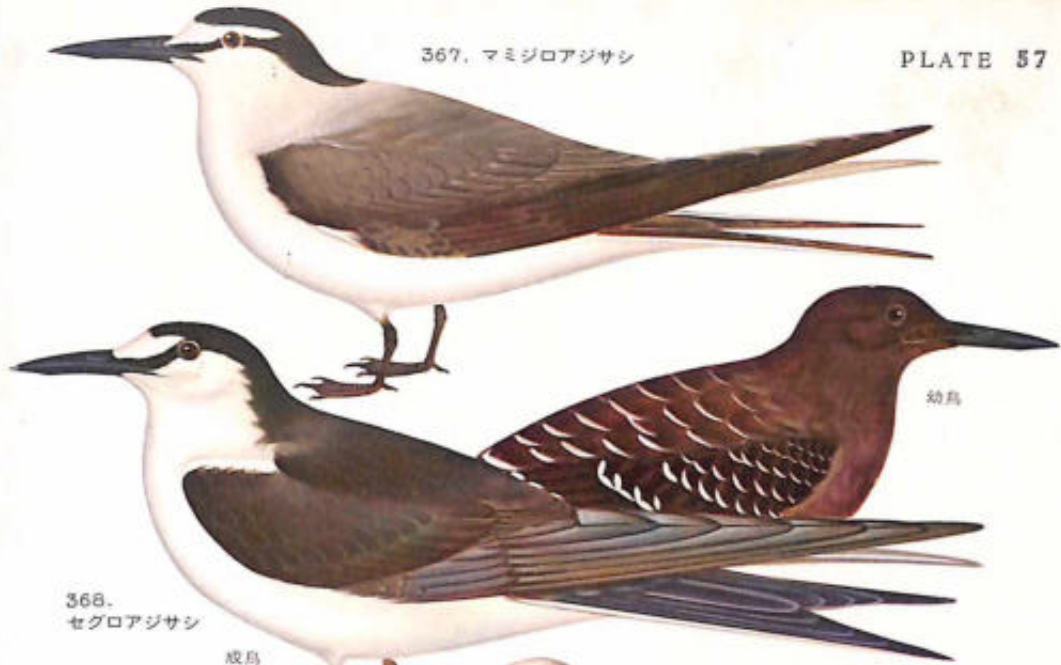
372. シロアジサシ *Gygis alba candida* (Gmelin)
MICRONESIAN WHITE TERN

—カモメ科—

形態 全体純白色で光沢がある。嘴峰33~41%、翼長221~247%、尾長97~117%、跗蹠11~19%。眼黒。嘴は黒、脚は淡青色で趾膜黄白色。尾の分岐は深い。幼鳥は眼の下部に黒色小斑あり、上面の各羽には淡褐色の羽縁がある。

生態 ミクロネシア諸島・南島島・馬來諸島等で繁殖す。我国には極めて稀に渡来するに過ぎない。繁殖地に於いては砂地、岩棚上にも営巣するが水平に延びた太い樹枝上の窪みや倒木上に営巣する事が多い。

分布 北海道・本州（埼玉県・愛知県・滋賀県・大阪府）・四国・九州



368.
セグロアジサシ

成鳥

幼鳥



夏羽

冬羽

369. コアジサシ

幼鳥



370. エリグロアジサシ

372. シロアジサシ

371. クロアジサシ

夏羽

冬羽

冬羽

夏羽

373.

クビワカモメ

374. ミツユビカモメ

375.

セグロカモメ

成鳥 冬羽

376.

オオセグロカモメ

幼鳥

成鳥 夏羽

377.

カモメ

幼鳥

378. ウミネコ

成鳥 夏羽

成鳥 夏羽

幼鳥

379.

ワシカモメ

成鳥 夏羽

380. シロカモメ

成鳥 夏羽

373. クビワカモメ *Xema sabini tschuktschorum* Portenko

EASTERN SABINE'S GULL

—カモメ科—

形態 夏羽頭部、上顎石板黒色にて下顎白色部との境に黒色頸輪あり。尾は白く叉状。嘴峰22~29%。翼長258~295%。尾長117~130%。跗趾30~35%。眼縁赤。背、腰石板色。外側初列風切は黒く先端に白斑あり。内側初列風切と次列風切とは白。嘴黒先端黄。胸灰黒色。冬羽は頸輪より上部淡色となり前頭、頭頂白、頭上には灰黒色小斑がある。

生態 東部シベリアの極北部・アラスカ北部に分布し我国では迷鳥としてただ1回採集された事があるのみ。

分布 本州（宮城県気仙沼湾で1909年11月に1羽が採集された）

374. ミツユビカモメ *Rissa tridactyla pollicaris* Ridgway

PACIFIC KITTIWAKE

—カモメ科—

形態 カモメに似るが飛翔時翼先端の黒色三角形顕著。脚黒褐色。嘴峰32~42%。翼長307~335%。尾長123~143%。跗趾32~37%。頭頸部、尾、下面縹べて白。眼縁黄赤色。背、腰、翼淡青灰色。嘴黄色。後趾殆どなし。冬羽は頭上、頭側に灰色縦斑あり、後頸も淡青灰色。幼鳥は後頸に多くの新月形黒灰色斑あり尾端黒。

生態 北太平洋で繁殖す。我国周辺では樺太・千島でも繁殖。冬期北海道・本州中部以北の太平洋岸に多数渡来するが本州中部以南には多くない。海上沖合に棲息し岸近くに来る事は少ない。

分布 北海道・本州・四国・九州

375. セグロカモメ *Larus argentatus vegae* Palmén

VEGA HERRING GULL

—カモメ科—

形態 羽衣カモメに似るが遙かに大。嘴峰50~62%。翼長400~465%。尾長152~188%。跗趾63~71%。頭頸部、下面、腰、尾は純白。背、翼は淡青灰色で初列風切は先端黒く白斑がある。眼縁赤。嘴は黄色で下嘴先端近くに赤色斑あり。脚淡肉色。冬羽は頭上と後頸とに淡褐色縦斑あり。幼鳥は背の淡青色を欠き全体に淡褐色斑散布し尾は黒。

生態 オホーツク海・ベーリング海沿岸等で繁殖し、我国には冬期多数渡来す。各地の海岸、湾内、海洋に稀でない。ウミネコやカモメの群に混っている事もある。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・種子島

376. オオセグロカモメ *Larus schistisagus* Stejneger

SLATY-BACKED GULL

—カモメ科—

形態 大きさ羽衣共セグロカモメに類似するが背面の色濃く石板青灰色。嘴峰53~59%。翼長415~450%。尾長160~193%。跗趾62~73%。

生態 オホーツク海・ベーリング海沿岸にて繁殖するが繁殖地は前種よりも南方に及び樺太・千島・北海道の沿岸にも多数繁殖する。冬期は北海道・本州中部以北の太平洋沿岸には稀でないが本州中部以南では前種に比しその数は著しく少ない。北海道では冬期漁場や湾内には多数群れ集まって生活する。

分布 北海道（知床岬・大黒島・ユリ島・モユリ島等で繁殖）・本州・伊豆七島・対馬・四国

377. カモメ

Larus canus kamtschatschensis (Bonaparte)

ASIATIC COMMON GULL

—カモメ科—

形態 冬期極めて普通の鵞。嘴は鮮黄色で基部青緑色。脚は淡青緑色。嘴峰35~42%。翼長340~383%。尾長140~150%。跗蹠48~61%。頭頸部、下頰、上尾筒、下面全体的白。背と翼とは淡青灰色で初列風切の先端は黒く白斑がある。眼瞼紅色。冬羽は頭上、後頸に淡褐色縦斑がある。幼鳥はウミネコの幼鳥に似て上面暗褐色を帯びるが尾白く先端に幅広い黒褐色帯がある。嘴は肉色で先端黒。脚肉色。眼瞼褐色。

生態 シベリア東部・カムチャッカ・千島等で繁殖し冬期日本各地に渡来しその数は多い。内海、湾内、海岸等にウミネコ、ユリカモメ等と混群する事が多い。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬

378. ウミネコ

Larus crassirostris Vieillot

BLACK-TAILED GULL

—カモメ科—

形態 カモメに類似するが尾に顕著な黒帯ある事、背が濃色で石板青灰色である事により区別される。嘴峰44~56%。翼長340~390%。尾長129~155%。跗蹠50~61%。頭頸部、上尾筒、下面純て白。初列風切は黒く先端に白斑あり。眼瞼赤。嘴は黄色で先端に黒色帯あり最先端に赤色斑あり。脚淡黄色。冬羽は後頸、後頭、後頸に淡褐色縦斑あり。幼鳥は全体黒褐色を帯び嘴は肉色で先端黒。脚肉色、眼瞼黒。尾は黒褐色。

生態 主として日本近海で繁殖しカモメ類中最も普通。沿岸の島嶼の岩礁、草原等に集団して繁殖する。青森県燕島、岩手県三貫島・椿島、山形県飛鳥・御積島、宮城県江島の島、島根県経島は集団営巣地として有名であり天然記念物に指定されている。国外では樺太・千島・朝鮮でも繁殖し冬期は台湾・中国南部にも渡る。

分布 北海道・本州・伊豆七島（八丈島付近）で繁殖するほか冬期は四国・九州・対馬にも渡る。

379. ワシカモメ

Larus glaucescens Naumann

GLAUCCOUS-WINGED GULL

—カモメ科—

形態 大きき羽衣共セグロカモメに類似するが背は一層淡色。初列風切は黒色でなく淡灰色で先端に白斑がある。嘴峰52~61%。翼長411~453%。尾長153~186%。跗蹠53~71%。嘴は黄色で下嘴先端近くに赤色斑あり、脚淡肉色。幼鳥はセグロカモメの幼鳥に類似するが翼先端は翼の他の部分よりも淡色である。（セグロカモメの幼鳥は翼の先端濃褐色）。

生態 オホーツク海・ベーリング海諸島及び沿岸・北米北部で繁殖し、冬期は北日本・中国沿岸・ハワイ・カリフォルニア南部に渡来するものがあるが概してあまり南下しない。我国では従来北海道から2点の標本が採集されたに過ぎない。

分布 北海道（函館）

380. シロカモメ

Larus hyperboreus pallidissimus Portenko

EASTERN GLAUCCOUS GULL

—カモメ科—

形態 大形のカモメ。成鳥は背面極めて淡い青灰色、風切先端僅かに灰色である他は殆ど白色。嘴峰54~64%。翼長410~487%。尾長160~200%。跗蹠66~75%。眼瞼橙黄色。嘴黄色で下嘴先端に赤色斑がある。脚淡肉色。冬羽は頭上後頸に淡褐色斑あり。幼鳥は他のカモメ類の幼鳥の様に頭上、背、下面に褐色、灰褐色の斑紋があり、幼鳥から成鳥に至る迄の中間段階の羽衣のものが色々ある。

生態 シベリアの極北部・カナダの東北部で繁殖し、冬期は中国沿岸や北米南部に渡来するものもある。我国では冬期北海道には多数渡来するが本州北部以南には少ない。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国

[PLATE 59]

381. ユリカモメ

Larus ridibundus sibiricus Buturlin

KAMCHATKAN BLACK-HEADED GULL 一カモメ科一

形態 ウミネコより遙かに小。嘴、脚暗紅色で夏羽は頭部黒褐色。嘴峰34~42%。翼長283~325%。尾長112~129%。跗蹠41~51%。眼瞼赤、眼の周囲に白色輪あり。背淡青灰色。初列風切には黒縁がある。頭以下の下面、上尾筒、尾は白。冬羽は頭部も白く耳羽、後頸に淡褐色の新月形斑がある。幼鳥は上面に黒褐色斑散在し尾端に黒帯がある。嘴は肉色で先端近くに黒帯あり。脚は肉色。

生態 シベリア東北部・カムチャッカ等で繁殖、我国には冬期多数渡来し各地の海岸、河口、湖上等にウミネコと共に数多く見られる。渡去期直前の4月中旬以降には頭部黒褐色の夏羽の個体をも多数見る事が出来る。所謂“潮田川の都鳥”は本種である。

分布 冬鳥としては北海道・本州・伊豆七島（大島）・四国・九州等に渡来す。

382. ズグロカモメ

Larus saundersi (Swinhoe)

SAUNDER'S GULL

一カモメ科一

形態 ユリカモメに類似するが稍小さく嘴黒色で短かい。嘴峰23~29%。翼長271~298%。尾長99~117%。跗蹠37~43%。夏羽の頭部は黒色（ユリカモメは褐色味強い）で且上頸に迄及ぶ。眼の周囲に白色輪あり。脚赤。風切羽は大部分白く初列風切外弁に細い黒縁あり。冬羽は頭部、上頸白色にて眼から耳羽に至る黒色縦斑あり。脚黒。

生態 蒙古・中国北部の湖畔で繁殖し冬期中国沿岸・台湾・朝鮮・樺太等に渡来。我国には稀に渡来するのみ。海岸・河口でユリカモメの群に混じっている事がある。飛翔はカモメ類よりもアジサシ類に似ている。干潟上を低く飛翔し掬いとる様にしてカニ類を捕食する。

分布 北海道・本州（大阪湾）・九州（佐賀県・長崎県・鹿児島県）

383. ソウゲカモメ

Pagophila eburnea (Phipps)

IVORY GULL

一カモメ科一

形態 カモメより稍小で全体純白。脚赤。嘴は黄色で基部石板青色。先端黄赤色。脚黒。嘴峰32~38%。翼長332~350%。尾長135~153%。跗蹠38~42%。幼鳥は全体白色であるが眼先と肩羽、小雨覆、風切羽、尾などの先端及び腰に黒色斑がある。

生態 北極周囲に棲息し冬期は欧州北部・北米等に飛来するが稀種である。我国では迷鳥として北海道で採集された事がある。

分布 北海道（1934年2月26日根室にて1♂1♀が採集された）

384. オトウゾクカモメ

Catharacta skua maccormicki (Saunders)

MACCORMICKI'S GREAT SKUA 一カモメ科一

形態 セグロカモメ大で体軀一層頑丈。嘴太短かく先端勾状。カモメ類の幼鳥の様に全体暗褐色であるが翼の白斑顕著。嘴峰45~53%。翼長355~420%。尾長138~158%。跗蹠56~65%。頭部及び下面灰褐色。背、翼、尾は黒褐色。脚黒。

生態 南極周囲部に於て繁殖し5、6月頃日本近海に渡来する。常に大洋上に生活し海岸に接近せぬ為観察される機会は少ないが北海道・本州中部以北の太平洋岸沖合には敢えて稀でない。主として単独で生活しミズナギドリ類を襲いその捕獲した魚類を吐き出させて横取りする習性がある。

分布 北海道・本州の太平洋沖合

385. トウゾクカモメ

Stercorarius pomarinus (Temminck)

POMATORHINE SKUA

—トウゾクカモメ科—

形態 前種より小さく中央の尾羽長く突出し先端稍丸くて誤れている。淡色形と暗色形とがある。嘴峰35~40%, 翼長340~375%, 尾長190~225%, 跗蹠48~56%。淡色形は頭上と顔上半黒褐色、後頭から頸側にかけ黄色帯がある。背、腹、尾、翼黒褐色。下面は白く胸に褐色帯あり。脇、下腹に灰色斑あり。暗色形は全体黒褐色で後頭及び頸側黄褐色を帯びる。嘴淡鉛色、先端黒。脚黒。

生態 欧亜大陸及び北米の極北部にて繁殖し冬期は地中海沿岸、北米南部沿岸から印度洋・濠洲にも渡来す。我国には4,5月頃北海道・本州北部の太平洋沖合には稀でないが陸地に接近する事は少ない。颶風の直後には大阪湾沿岸等に飛来する事もある。習性前種に似てミズナギドリ類の群を襲う事が多い。

分布 北海道・本州の太平洋沖

386. クロトウゾクカモメ

Stercorarius parasiticus (Linnaeus)

ARCTIC SKUA

—トウゾクカモメ科—

形態 前種に似て稍小。尾は中央の1対長く先端細く尖る。淡色形と暗色形とがある。嘴峰27~32%, 翼長305~328%, 尾長170~205%, 跗蹠42~45%。頭部と顔上半黒褐色。後頭、頸側白黄色。背面、翼、尾は黒褐色。下面は白く上胸側に褐色斑あり。暗色形は全体黒褐色でトウゾクカモメの暗色形に似るが尾により区別出来る。

生態 欧亜大陸及び北米の極北部で繁殖し、冬期は地中海沿岸・アフリカ・濠洲・ニューグランド・南米等に渡来す。我国には5,6月頃本州太平洋岸の沖合に渡来するが前種より遙かに稀である。習性は前種に類似する。

分布 本州(青森県・駿河湾)

387. シロハラトウゾクカモメ

Stercorarius longicaudus Vieillot

LONG-TAILED SKUA —トウゾクカモメ科—

形態 前種より稍小。羽衣は前種に似るが尾羽中央の1対極めて細長く後方に突出す。嘴峰26~30%, 翼長300~320%, 尾長275~355%, 跗蹠35~44%。頭上・顔上半黒褐色。後頭、頸側白黄色。背、腹灰褐色。尾と翼黒褐色。下面白く脇、下尾筒灰白色。

生態 欧亜大陸及び北米の極北部で繁殖し冬期は地中海・アフリカ・北米南部等に渡来す。我国には4,5月頃北海道や本州北部の太平洋岸沖合に稀ならず渡来する。又迷鳥として長野県の山中で採集された記録もある。

分布 北海道・本州



シロハラトウゾクカモメ

クロトウゾクカモメ

トウゾクカモメ

381. ユリカモメ



382. ズグロカモメ



384. オオトウゾクカモメ



383. ソウゲカモメ

385. トウゾクカモメ

386. クロトウゾクカモメ



387. シロハラトウゾクカモメ



388. ウミガラス

389. ハシブトウミガラス



夏羽

冬羽



夏羽

冬羽



夏羽



冬羽



夏羽



冬羽

390. ウミバト

391. ケイマフリ



夏羽



冬羽

392. マダラウミスズメ

394. カンムリウミスズメ



夏羽



冬羽



393. ウミスズメ

388. ウミガラス *Uria aalge inornata* Salomonsen

BERING ISLAND GUILLEMOT

—ウミスズメ科—

形態 ウミスズメ科 中大型の種。夏羽は頭頸部、背、翼、尾は 灰黒色で胸以下の下面白。嘴峰41~46%, 翼長200~221%, 尾長44~57%, 跗蹠35~40%。次列風切先端白く翼を畳んだ時白線をなす。嘴黒。胸は 黒褐色で前面 褐黄色。冬羽は頭側、喉、頬、前頸白く眼より後方に 1 灰黒線走る。

生態 ベーリング海沿岸・樺太・千島・アラスカ・北米西海岸北部等にて繁殖す。北海道でも天売島・福山沖の小島・焼尻島・根室付近には繁殖するものがある。岩礁や岩棚上に集団して営巣する。冬期は北海道近海に多数棲息するが一部は南下して本州北部（新潟県・福島県以北）の沖合には稀でない。

分布 北海道・本州

389. ハシブトウミガラス *Uria lomvia arra* (Pallas)

PALLAS'S GUILLEMOT

—ウミスズメ科—

形態 ウミガラスに酷似するが背面一層濃く黒色。夏羽は頭側、腮、喉、前頸 暗褐色。嘴峰40~49%, 翼長214~232%, 尾長44~62%, 跗蹠35~40%。嘴は黒色。冬羽は腮、喉白色で黒褐色小斑あり、ウミガラスの冬羽に見る眼の後方の白色部を欠く。頭側には黒褐色帯あり。

生態 ベーリング海沿岸・カムチャッカ・千島・樺太 等で繁殖し、冬期北海道や本州北部の沿岸に渡来する。前種と混群する事があるが前種より数は少ない。

分布 北海道・本州北部

390. ウミバト *Cephus columba columba* (Pallas)

PIGEON GUILLEMOT

—ウミスズメ科—

形態 ウミガラスより小。夏羽は全体灰黒色で翼の中央に大きな白紋がある。嘴峰32~36%, 翼長171~187%, 尾長45~51%, 跗蹠31~35%。嘴黒。脚黄赤色。冬羽は上面灰褐色、下面は白く淡褐色の小斑散在す。斑点は頭側、胸、胸側に特に密集する。翼の白紋は褐色との斑となり夏羽程顕著でない。

生態 カムチャッカ・ベーリング沿岸・アラスカ・カナダ及び米国北部の太平洋岸等で繁殖し、我国には冬期北海道沿岸に渡来するがその数は多くない。

分布 北海道（根室）

生態 チシマウミバト *Cephus columba snowi* (Stejneger) は千島にのみ分布する亜種で冬期稀に北海道に渡来する。夏羽の翼には大白斑を欠き2、3条の白色帯があるかまた時には全くこれを欠くものもある。

391. ケイマフリ *Cephus carbo* (Pallas)

SOOTY GUILLEMOT

—ウミスズメ科—

形態 前種に似るが稍大。夏羽は全体灰黒色で眼の周囲に顕著な白色輪斑がある。嘴峰39~42%, 翼長181~202%, 尾長44~57%, 跗蹠34~39%。嘴黒。脚赤色にて飛翔時顕著。冬羽は上面、翼、尾灰褐色で下面は白く淡褐色の小斑散在す。夏羽冬羽共翼に

白斑を欠く。

生息 北海道沿岸・本州北部の青森県・岩手県・宮城県等の沿岸の島嶼、岩礁等で繁殖し、冬期は本州中部沿岸に南下する。稀に志摩半島付近にも来るが、本州西部や九州には出現しない。対馬で採集された事があるが之は恐らく朝鮮から南下したものである。国外ではオホーツク海沿岸・カムチャッカ・千島・樺太・朝鮮等でも繁殖す。

分布 北海道・本州・伊豆七島

392. マダラウミスズメ *Brachyramphus marmoratus perdix* (Pallas)

PARTRIDGE AUK

—ウミスズメ科—

形態 小形の海鳥で頸短かく体は丸味を帯びる。夏羽は上面褐色で淡黄褐色の横斑がある。嘴峰17~22%、翼長125~143%、尾長30~38%、跗蹠16~20%、下面鰓と喉とは白くそれ以下は白地に黒褐色の斑点密に散在す。冬羽は上面石板灰色で黒褐色の横斑がある。肩羽は大部分白く顕著。下面は白く喉、胸側、腹側に淡褐色の小斑がある。

生息 カムチャッカで繁殖する事が知られているが夏期北海道東部の海上には稀でないからその付近又は千島等でも繁殖するものがあるかも知れない。冬期は本州にも渡来し本州中部以北では稀でなく少数は瀬戸内海や九州北部にも出現する。大群をなさず2,3羽の事が多く背面の斑により容易にウミスズメと区別する事が出来る。

分布 北海道・本州・九州・奄美大島

393. ウミスズメ *Synthliboramphus antiquus* (Gmelin)

ANCIENT AUK

—ウミスズメ科—

形態 前種と略同大。頭上黒く背以下の上面石板灰色で斑点はない。頸側白。嘴峰13~16%、翼長130~143%、尾長32~40%、跗蹠26~28%。夏羽は頭側に白色糸状羽を混じ、眼の上方から後頭側に白線走る。顔、喉、頸、胸側、腹側黒く其他の下面は白。胸側には白色縦斑あり、嘴は淡黄色で桃色を帯び嘴峰線は黒。冬羽は後頭側の白線を欠き下面は暗べて白色。僅かに鰓灰色を帯ぶ。嘴は暗色になる。

生息 ウミスズメ類中最も多い。冬期各地の海上に小群を見るが海岸に接近する事は稀。人を恐れず船に接近するとチッ、チッ、チッと警戒の声を発して潜水して逃げ去る。飛翔は遅く水面すれすれに直線に飛ぶ。北海道天売島では少数繁殖しているほか我國付近では千島や朝鮮で繁殖する。

分布 北海道(繁殖)・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・奄美大島

394. カンムリウミスズメ *Synthliboramphus wumizusume* (Temminck)

JAPANESE AUK

—ウミスズメ科—

形態 ウミスズメに類似するが夏羽は頭上に顕著な黒色羽冠あり、その両側は白く後頭部で結合す。嘴峰16~19%、翼長120~130%、尾長32~37%、跗蹠24~27%。顔から頸側にかけ幅広い黒色帯走り後頭、上胸側の黒色帯に連結する。後頭には細い白色の羽毛あり。背以下の上面は石板灰色。下面鰓、下喉黒くその他は白。腹側黒。冬羽は前頭の羽毛短かく羽冠をなさず。頭上、後頭の白色を欠き石板黒色。

生態 我国特産種でありその数は多くなく近年減少の傾向がある。蕃殖地としては伊豆半島沿岸の種子元島、伊豆七島及び朝鮮海峡にある小島嶼が知られている。蕃殖地付近には周年棲息するが冬期一部は北海道近海・岩手県沖合・神奈川県沖合・瀬戸内海・九州北部沿岸等にも渡来するが日本海沿岸からの記録はまだない。

分布 北海道・本州・伊豆七島・九州・対馬

[PLATE 61]

395. エトロフウミスズメ *Aethia cristatella* (Pallas)

CRESTED AUK

—ウミスズメ科—

形態 全体灰黒色で額には長い飾羽叢生し前方に巻いている。嘴は縦に扁平で蕃殖期には朱赤色、先端角色にて基部に角質物付着す。嘴峰12~14%、翼長133~151%、尾長33~38%、跗蹠27~29%。眼の後方には白色絹糸状飾羽あり。秋期には嘴の朱赤色の外皮と角質付着物脱落し嘴は暗朱色となり嘴峰11~13%になる。額の飾羽も短い。

生態 主としてベーリング海沿岸にて蕃殖するが千島でも営巣する。我国には冬期北海道・本州北部の太平洋沿岸に渡来するが、稀に青森県・新潟県・長野県等でも採集される。

分布 北海道・本州

396. シラヒゲウミスズメ *Aethia pygmaea* (Gmelin)

WHISKERED AUK

—ウミスズメ科—

形態 前種に似るも小形。額から叢生する飾羽は細く且長い。眼先に顕著な白斑あり、後端から白色糸状の長い飾羽が延び、飾羽は頭上に向かって延びるものと額に沿って走るものとがある。嘴峰10~11%、翼長109~115%、尾長30~35%、跗蹠21~23%。上面灰黒色で下面稍淡く腹部は殆ど白。嘴は深紅色で先端角色。冬羽は嘴暗赤色となる。

生態 カムチャッカ・アリューシャン群島・アラスカ・千島等で蕃殖し蕃殖地付近に周年滞留するものが多いが冬期稀に本州・四国等に渡来する。

分布 本州（宮城県・1957年）

397. コウミスズメ *Aethia pusilla* (Pallas)

LEAST AUK

—ウミスズメ科—

形態 ウミスズメ類中最小。嘴峰8~9%、翼長91~99%、尾長25~29%、跗蹠17~20%。上面は黒く額と眼先と眼の下方には白色絹糸状飾羽がある。肩羽には白斑あり。下面は暗黒く頸側灰色・腹部には僅かに淡褐小斑あり。嘴は暗赤色にて蕃殖期には基部に突起あり。冬羽は頭部の白色飾羽を欠き嘴は黒褐色。

生態 ベーリング海諸島・アラスカ・アリューシャン群島等で蕃殖し、冬期は北海道近海に多数南下す。本州中部以北の太平洋・日本海沿岸に冬期稀でないが、本州中部以西には稀に渡来するに過ぎない。

分布 北海道・本州・九州（福岡県・鹿児島県）・種子島

398. ウミオウム *Aethia psittaculus* (Pallas)

PAROQUET AUK

—ウミスズメ科—

形態 略ウミスズメ大。頭頸部、背面、翼、尾灰黒色で、眼の後方から耳羽にかけ白色糸状飾羽あり。嘴は朱赤色で縦に扁平、会合線彎曲す。嘴峰13~16%、翼長146~155

%, 尾長40~47%, 跗蹠28~31%, 胸以下の下面は白。冬羽は下面全部白色。

生態 コマンドル諸島・アリューシャン群島・アラスカ北西部 沿岸で繁殖し、冬期樺太・千島・カリフォルニア沿岸迄南下する。我国では北海道からは採集された事はないが新潟県下の日本海沿岸にて冬期数回採集された事がある。

分布 本州（新潟県）

399. ウ ト ウ *Cerorhinca monocerata* (Pallas)

HORNBILLED PUFFIN

—ウミスズメ科—

形態 中形の海鳥でウミスズメ類より遙かに大。嘴橙黄色で嘴峰線黒く繁殖期には上嘴基部に三角形の突起物がある。嘴峰32~38%, 翼長172~182%, 尾長45~62%, 跗蹠28~32%, 上面, 翼, 尾は灰黒色。顔, 頰, 喉, 頸, 胸は灰褐色で顔には2条の白色糸状飾羽がある。腹は白く腹側灰褐色。冬羽は嘴の突起物を欠き顔の白色飾羽極めて小さい。

生態 北海道の天売島, 大黒島, 小島, 根室付近の岩礁や宮城県 棒島, 江の島列島では集団して多数繁殖する。冬期は本州中部の房総半島・駿河湾あたり迄南下する。冬期九州・対馬に渡来するものは朝鮮から南下したものと思われる。

分布 北海道・本州・伊豆大島・九州・対馬

400. エトビリカ *Lunda cirrhata* (Pallas)

TUFTED PUFFIN

—ウミスズメ科—

形態 略前種大。夏羽は眼の上から後方にかけて黄白色の房状長毛叢生ず。嘴極めて大, 縦に扁平で朱赤色。嘴峰52~63%, 翼長189~198%, 尾長54~66%, 跗蹠31~33%。顔前半, 頰, 喉は白く其他は全体煙黒色で上面は稍光沢を帯びる。脚は朱色。嘴基部には暗黄緑色の角質板付着し冬期は脱落する。冬羽は顔の飾羽なく顔, 頰, 喉極めて黒色。

生態 樺太・千島には多数繁殖するが北海道では知床岬, 大黒島, 根室付近で繁殖する事が知られている。冬期北海道沿岸地方には稀ならず。本州には冬期太平洋側では宮城県, 日本海側では新潟県辺り迄南下するが稀に駿河湾や鳥取県で採集される。

分布 北海道・本州

401. ツノメドリ *Fratercula corniculata* (Naumann)

HORNED PUFFIN

—ウミスズメ科—

形態 大きき羽衣共前種に似るが夏羽は顔と胸以下の下面白く顔に飾羽がない。嘴峰46~47%, 翼長179~192%, 尾長61~66%, 跗蹠28~34%, 嘴は大で縦に扁平で前半朱赤色, 基部暗黄色。口角にも橙黄色の角質付属物あり。眼の上下には褐色角質付属物あり。眼縁橙黄色。眼の後方から灰黒色の1条線走る。頭上, 背, 翼, 尾は黒。喉, 頸側の黒帯は後頸に連る。脚朱赤色。冬羽は顔と下面全部灰褐色。眼の上下の角質付属物を欠く。嘴基部の角質板を欠き, 嘴は基部灰褐色, 先端暗赤色になる。

生態 主としてベーリング海沿岸地方で繁殖するが北千島に繁殖するものもある。我国には冬期極めて稀に渡来し北海道・本州で数回採集されたに過ぎない。

分布 北海道（釧路）本州（岩手県・千葉県・神奈川県）

395.
エトロフウミスズメ



冬羽

夏羽



夏羽

幼鳥

397. コウミスズメ



398.
ウミオウム



冬羽

399.
ウトウ



夏羽

400.
エトペリカ



夏羽

冬羽



夏羽

冬羽

401. ツノメドリ



402. ノ ガ ン

Otis tarda dybowskii Taczanowski

SIBERIAN BUSTARD

—ノ ガ シ 科—

形態 体ヒシタイより大でよく肥え頭、脚長い。嘴峰38~50%。翼長560~645%。尾長250~270%。跗蹠140~158%。頭頸部灰色。背は暗黄色で黒褐色の波状斑密に散布す。翼の初列風切は黒、次列風切は白、雨覆灰色。尾は赤褐色で黒色横帯あり先端白。胸は褐黄色、腹は白。♂は咽の両側に頸の様な剛毛があるが♀は之を欠き且体著しく小。

生態 シベリア東部・蒙古・満州北部等で繁殖し、冬期朝鮮には多数渡来するが我國には迷鳥として稀に渡来するに過ぎない。冬期は数10羽の群をなして広大な平原や見通しのきく畑地に生活し、警戒厳にして中々人を近付けない。

分布 北海道・本州・九州で採集された事がある。

403. ヒメノガン

Otis tetrax orientalis Hartert

EASTERN LITTLE BUSTARD

—ノ ガ ン 科—

形態 前種より遙かに小。嘴峰24~30%。翼長242~280%。尾長107~115%。跗蹠64~70%。夏羽♂頭上は褐黄色で黒色斑あり。顔青灰色。頭は黒色で下部に白色頸輪あり。頸側を縦に白線走り前頸にて連結する。背は褐黄色で黒色波状斑散在。尾は外側のもの白、中央のもの淡褐黄色でそれぞれ黒色斑がある。胸以下の下面は白。初列風切黒、次列風切白、初列雨覆は黒く基部と先端白。♀は顔、頭、胸も褐黄色で黒色波状斑がある。且体は♂に比し小。冬羽♂は♀の夏羽に類似する。

生態 欧州東部・シベリア西部・中央アジア等で繁殖し、冬期は小アジア・シリア・印度西北部等に渡る。我國には迷鳥として渡来し幼鳥が1羽採集された事がある。

分布 九州（福岡県有明海沿岸に於いて1940年1月4日）

404. クロヅル

Grus grus lilfordi Sharpe

EASTERN COMMON CRANE

—ツ ル 科—

形態 体淡灰鼠色。次列風切と三列風切長く延び尾を蔽う。眼の後方から後頸側、頸側を走る白帯あり。嘴峰94~120%。翼長514~557%。尾長188~203%。跗蹠210~240%。眼先、頭頂は皮膚裸出し黒色剛毛密生し後頭赤色。後頸、眼先、喉、前頸黒。尾は灰色にて先端黒。嘴は灰緑色で先端角色。脚は灰黒色。

生態 シベリア東部・蒙古・満州北部で繁殖し冬期中国・朝鮮・印度支那等に渡る。我國には冬期鹿児島県鹿嶋にマナヅルの群に混じって2、3羽渡来する。1959年冬には山口県八代村にも1羽渡来したといわれている。

分布 本州（茨城県にて1羽採集・山口県）九州（1927年、1936~1939年の冬期渡来）

405. タンチョウ

Grus japonensis (P.L.S.Müller)

JAPANESE CRANE

—ツ ル 科—

形態 体白色。頭上皮膚裸出し赤色。嘴峰160~170%。翼長625~664%。尾長210~275%。跗蹠266~314%。眼先、喉、前頸から頸部にかけ黒色。翼の次列及び三列風切羽は黒色で長く尾を蔽う。尾は白。嘴緑褐色。脚黒。

生態 天然記念物に指定されている北海道釧路付近の繁殖地と最近発見された根室

付近の西別原野とは世界で知られた唯一の本種の繁殖地であり周年その付近に棲息する。その他シベリア東南部・北満等で繁殖し冬期は中国北部・南満州・朝鮮等に渡る。冬期朝鮮には稀でないが、鹿児島県荒崎には1羽位渡来するに過ぎない。往時は日本各地に多数渡来した。

分布 北海道で繁殖する他稀に本州（宮城県）九州（長崎県・鹿児島県）に渡来。

406. ナベツル *Grus monacha* Temminck
HOODED CRANE

一ツル科一

形態 前種より小形。体石板灰色にて頭頸部白。嘴峰93~107%。翼長470~530%。尾長160~190%。跗蹠200~230%。頭上には赤色皮膚裸出し額、眼先は黒色剛毛密生す。

生態 シベリア東部・蒙古・ウスリー・北満等で繁殖し冬期南満・朝鮮には多数渡来するが我国には鹿児島県荒崎に3,000羽位と山口県八代村に200羽位渡来（共に天然記念物）する他は極めて稀である。往時は日本各地に多数渡来した。

分布 前記のほか北海道・本州（東京・横浜・石川県）九州（長崎県）に渡来した事が記録されている。

407. マナヅル *Grus vipio* Pallas
WHITE-NAPED CRANE

一ツル科一

形態 タンチョウより稍小。後頭、頭白く背青灰色、下面石板灰色、脚は赤。嘴峰115~160%。翼長530~610%。尾長164~232%。跗蹠230~305%。初列風切黒、次列風切は黒く基部白。三列風切は白く長く後方に延びて尾を蔽う。大雨覆白。嘴黄緑色。

生態 シベリア東南部・満州北部・蒙古東北部等で繁殖し、冬期中国東部・朝鮮・日本等に渡来す。冬期鹿児島県荒崎には2,000羽位渡来する他山口県八代村にも2,3羽渡来する事がある。其他の地方には極めて稀であり下記の記録があるに過ぎない。

分布 北海道（千歳）本州（東京・鳥取県）九州（福岡県・長崎・鹿児島県）

408. ソデグロツル *Grus leucogeranus* Pallas
SIBERIAN WHITE CRANE

一ツル科一

形態 全体白色にて初列風切と初列雨覆黒。頭上と顔の前半は赤色皮膚裸出す。嘴峰117~190%。翼長595~632%。尾長205~243%。跗蹠255~287%。嘴、脚暗赤色。

生態 シベリア・蒙古・中国北部で繁殖、冬期中国南部・印度・小アジア等に渡る。

分布 我国には極めて稀に渡来し、日本産の標本はオランダのライデン博物館に3点とアメリカのニューヨーク自然科学博物館に1点保存されているに過ぎない。1959年12月から1960年2月にかけて幼鳥1羽が鹿児島県荒崎に渡来した。また1961年4月石川県羽咋市飯山川河口に1羽渡来し1ヶ月以上滞留した。

409. アネハヅル *Anthropoides virgo* (Linnaeus)
DEMOISELLE CRANE

一ツル科一

形態 淡青灰色小形のツル。眼の後方に白色房状の飾羽あり。嘴峰60~72%。翼長445~525%。尾長152~185%。跗蹠173~220%。顔、喉、頸側、前頭黒く下頸の羽毛長く伸び上胸を蔽う。初列風切と次列風切端黒。嘴暗緑色で先端橙黄赤色。脚黒。

生態 シベリア南部・アジア中西部・欧州東南部等で繁殖し、冬期中国・印度・アフリカ等に渡来する。我国には稀に迷鳥として渡来するに過ぎない。

分布 北海道（石狩）本州（宮城県・伊豆半島）八丈島

[PLATE 63]

410. クイナ

Rallus aquaticus indicus Blyth

EASTERN WATER-RAIL

—クイナ科—

形態 クイナ類中大形。嘴峰34~43%、翼長120~136%、尾長49~62%、跗蹠36~43%。頭上、背、頸側は茶褐色で黒色の縦斑がある。腮、喉灰白色。顔と前頸とは青灰色で顔には褐色過眼線がある。胸以下は稍褐色を帯び腹側には白黒の横縞あり。上嘴は褐色で下嘴基部は黄赤色。

生態 東部シベリア・蒙古・満州・中国北部等で繁殖し、冬期中国南部・印度等に渡る。我国では北海道で繁殖し本州以南では冬鳥である。本州北部には夏期にも棲息するというのが繁殖の確証はない。水辺の葦中を潜行し中々姿を現わさない。

分布 北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬

411. ヒメクイナ

Porzana pusilla pusilla (Pallas)

EASTERN BAILLON'S CRAKE

—クイナ科—

形態 羽衣クイナに似るが体差に小。嘴峰15~17%、翼長81~92%、尾長40~47%、跗蹠25~30%。上面は茶褐色で黒色の縦斑があり且不規則な白色斑を混じえている。腮、喉灰白色。顔と前頸以下の下面は青灰色で顔には褐色の過眼線がある。腹と下尾筒とは黒と白との横縞である。幼鳥は成鳥の青灰色部を欠き顔淡黄褐色、下面白く稍褐色を帯びる。

生態 クイナより数は少ない。東部シベリア・蒙古・満州・日本等に分布し冬期中国・印度支那半島・フィリピン等に渡る。我国では北海道と本州中部以北とで繁殖す。近畿地方では春秋の渡りに渡来するのみで夏期は見られない。習性クイナに類似。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州・奄美大島

412. シマクイナ

Porzana noveboracensis exquisita Swinhoe

SWINHOE'S CRAKE

—クイナ科—

形態 クイナ類中最小。上面茶褐色で黒色縦斑があり更に顕著な白色横縞がある。嘴峰11~13%、翼長74~83%、尾長32~36%、跗蹠21~23%。翼の次列風切は白く飛翔時顕著。下面喉と腹白く頸、胸、胸側は茶褐色で白色の横縞がある。

生態 シベリア東南部・満州等で繁殖し冬期は中国・琉球等に渡る。我国には冬鳥として渡来するが比較的稀。冬期千葉県東京湾沿岸の沼沢地にはやや多数棲息する。

分布 北海道・本州・四国・九州に分布するが四国では繁殖するものもあるらしい。

413. ヒクイナ

Porzana fusca erythrothorax (Temminck & Schlegel)

JAPANESE RUDDY CRAKE

—クイナ科—

形態 クイナとヒメクイナとの中間大で脚は赤色。嘴峰18~23%、翼長105~118%、尾長45~57%、跗蹠34~39%。額、前頸、頸側、胸、上腹はぶどう酒色。頭尖、後頭、背、尾、翼、脇は暗緑褐色で無斑。下尾筒には白色の横縞がある。腮、喉白。嘴黒。

生態 我国には夏鳥として渡来し沼沢地や水辺の葦で繁殖するもの種でないが葦間を潜行するので目に止まる機会は比較的少ない。夜間キョウ、キョウとなき古来「門敵くクイナの声」として知られている。冬期は中国・印度支那等に渡る。

分布 北海道・本州・四国・九州で繁殖する他伊豆七島・対馬・種子島・屋久島にも分布する。

形態 リュウキュウヒクイナ *Porzana fusca phaeopygia* Stejneger は屋久島・奄美大島・喜界島・沖永良部島・与論島その他琉球列島に分布する亜種である。

414. シロハラクイナ *Amaurornis phoenicurus chinensis* (Boddaert)
CHINESE WHITE-BREASTED WATER-HEN—クイナ科—

形態 クイナより大。額、顔、頸側、下面白色。嘴峰 34~41%。翼長 152~174%。尾長 63~77%。跗蹠 51~60%。頭頂以下の背面、尾、翼、脚は石板黒色にて下尾筒栗色。嘴は緑黄色で基部鮮紅色。胸緑黄色。

生態 元来中国南部・台湾等に分布するが我国では 2 回採集された事がある。

分布 九州（福岡県にて 1931 年 11 月 20 日と 1932 年 1 月とに各 1 羽宛採集された。）

415. パン *Gallinula chloropus indica* Blyth
INDIAN WATER-HEN —クイナ科—

形態 クイナより大で全体灰黒色。上嘴に続く前額の鮮紅色額板顕著。嘴峰 32~44%。翼長 154~176%。尾長 64~74%。跗蹠 44~54%。下背以下の上面と翼とは暗緑褐色。顔には白色縦斑がある。下尾筒は白く中央黒。嘴は鮮紅色で先端黄色。脚は暗緑黄色。冬羽は嘴と額板との赤色を欠く。幼鳥は上面褐色にて顔と下面淡褐色、額板小さく緑褐色を呈す。

生態 我国には夏鳥として渡来し各地の沼沢地、水辺にて繁殖するもの多い。冬期大部分のものは台湾・中国南部・印度支那半島・印度東部等に渡るが少数のものは九州・薩南諸島等の温暖地で越冬する。

分布 北海道・本州・四国・九州・奄美大島等で繁殖するほか、伊豆七島・対馬・種子島・与論島にも分布する。

416. ツルクイナ *Gallinula cinerea* (Gmelin)
WATER-CHICK —クイナ科—

形態 パンより大で脚長い。夏羽は鮮紅色の額板頭上に迄及ぶ。嘴峰♂（額板有）67~70%。♀ 32~34%。翼長 161~227%。尾長 66~88%。跗蹠 60~81%。頭頸部、胸、上腹灰黒色。背は黒褐色で羽縁灰色、腰、上尾筒、翼、尾は褐色下腹以下灰黒色。嘴は鮮紅色で先端黄。脚灰緑色。♀は額板を欠き頭上灰褐色、背と翼とは灰褐色と黄褐色との斑。

生態 中国・朝鮮・台湾・印度支那半島・馬來諸島等に分布する種類であり我国には主として秋冬期稀に渡来するものとされていたが 1950 年 8 月 2 日佐賀県に於いて初めて 1 巣 4 卵が採集され繁殖が確認された。沼沢地、水田、水辺の藪等に棲息する。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州

417. オオバン *Fulica atra atra* Linnaeus
COOT —クイナ科—

形態 パンに似て大。額板白色。嘴峰 40~52%。翼長 194~220%。尾長 52~62%。跗蹠 52~63%。頭頸部黒。背以下の上面、翼、尾は石板黒色で次列風切の先端に白色斑あり。下面灰黒色。嘴白色。脚暗青緑色。幼鳥は上面褐色を帯び下面は淡色。

生態 広く欧亜大陸及び北アフリカに分布する。我国では北海道・本州中部以北（南限千葉県）で繁殖し冬期多くは中国南部・フィリピン等に渡るが本州中部以南には冬期も少数留滞する。習性パンに似るが広い湖沼に棲息し游泳は一層巧みである。

分布 北海道・本州・八丈島・四国・九州・奄美大島

410.
クイナ



成鳥

幼鳥

411.
ヒメクイナ



幼鳥

413. ヒクイナ



ヒクイナ雛

412. シマクイナ



幼鳥

414.
シロハラクイナ



415. バン



成鳥

オオバン雛



合

♀

417. オオバン



416.
ツルクイナ



418.
ミフウズラ



419. ライチョウ 冬羽



420.
エンライチョウ



ライチョウ 夏羽



421.
ウズラ 冬羽



夏羽 ♂



422. コジユケイ



424. キジ

423.
コウライキジ



425.
ヤマドリ ♂



425. a コシジロヤマドリ

425. b ウスアカヤマドリ

418. ミフウズラ

Turnix suscitator okinavensis A.R. Phillips

CHINESE BUTTON-QUAIL

—ミフウズラ科—

形態 体ウズラより小。♂は♀より著しく小さく且♀の方が美麗である。嘴峰11~14%。翼長♂71~81%。♀75~83%。尾長23~35%。跗趾22~25%。♀は頭上黒く白色小斑が散布する。後頭、背、腰、尾は灰褐色で黒褐色と赤褐色との虫喰状不規則斑がある。翼の風切羽は黒褐色、覆翼はクリーム色で顕著な黒斑がある。顔は白と黒との小斑より成る。下顎、喉、上胸中央黒色。以下の下面はクリーム色で下胸及び胸側には黒色横斑がある。♂は腿、喉、前頭白く、脇と胸側には黒色横斑がある。

生態 薩南諸島と琉球列島とに分布する。草原や畑地に棲息し、その数は多い。♀は卵を生むだけで抱卵、育雛は♂が之に当る習性がある。

分布 奄美大島・徳之島・喜界島・沖永良部島に留鳥として繁殖する。

419. ライチョウ

Lagopus mutus japonicus Clark

JAPANESE PTARMIGAN

—キジ科—

形態 本州中部山岳の高山帯にのみ棲息し冬羽は純白である。嘴峰14~20%。翼長175~190%。尾長99~113%。跗趾34~36%。夏羽♂は上面、胸、脇は黒褐色で黄褐色と白色との虫喰状横斑がある。腿、喉には白斑多い。眼の上の赤色の肉冠顕著。腹は白く翼の風切羽は純白。尾は中央のもの白く外側のものは黒褐色。脚は趾端白羽で蔽われる。♀は♂よりも黄褐色を帯び顔の肉冠は♂より小さい。頭部と下面とは暗黄色で一面に黒褐色の横紋があり、腹部中央のみ白色である。冬羽は♂♀共純白で外側尾羽と♂の眼先のみ黒色である。

生態 日本アルプス・白山等の標高2,400米以上の高山帯にのみ周年棲息し天然記念物に指定されている。富士山には棲息しなかったが近年少数のものを日本アルプスから移した。昼間は主としてハイマツ林に潜み朝夕、又は荒天や霧の深い時に草原に出る事が多い。性遅鈍にて人を恐れず。冬期も雪中にてダケカンバやミヤマハシノキの花穂を啄んで生活する。山岳の開発にともない近年漸減の傾向にある。

分布 本州中部山岳の高山帯にのみ棲息する。

420. エゾライチョウ *Tetrastes bonasia vicinitas* Riley

JAPANESE HAZEL GROUSE

—キジ科—

形態 略ライチョウ大にて冬期白変しない。嘴峰10~14%。翼長155~173%。尾長106~129%。跗趾34~37%。♂は頭上灰褐色、背以下の上面は灰色で黒褐色と赤褐色との斑がある。肩羽先端には白紋がある。顔から眼先、眼の下を通り喉下方に連なる白帯がありこの白帯で区切られた腿と喉とは黒色である。上胸側にも1白帯あり、胸以下の下面は白地に黒と赤褐色との粗斑がある。♀は上面♂に比し赤褐色を帯びる。腿、喉は淡褐色で小黑斑があり顔には♂に見る白帯を欠き僅かに下喉に不鮮明な白帯を見る。

生態 北海道・樺太に周年棲息す。山地の密林中に棲むが大雪山の山頂部近くにも見る事が出来る。主として地上で生活し、性遅鈍にて人が接近すると舞い上がって近くの樹枝上に止まる。冬期は多数集団して雪深い針葉樹の森林中で生活する。

分布 北海道に周年棲息繁殖。

421. ウズラ *Coturnix coturnix japonica* Temminck & Schlegel
JAPANESE QUAIL 一キジ科一

形態 キジ科中最小で体は円く尾は短い。嘴峰10~15%, 翼長92~103%, 尾長30~42%, 跗蹠25~30%。夏羽♂は頭上黒く黄白色頭尖線がある。背以下の上面は黒色で赤褐色の虫喰状斑散在し黄白色の縦斑が顕著である。顔には黄白色の眉斑がある。顔、腮、喉は赤褐色。個体に依り喉に三角形黒斑を有するものがある。胸と脇とは赤褐色で白色縦斑がある。腹は白黄色。♀は腮、喉汚白色である。冬羽は一般に褐黄色に富み胸、脇は淡褐黄色で♂は喉に黒色小斑があるが♀はこれを欠く。

生態 シベリア南部・中国・蒙古・満州・朝鮮・日本で蕃殖し冬期は台湾・中国南部・印度支那半島等にまで渡る。我国では北海道と本州中部以北とでは夏鳥として蕃殖し東京付近や近畿地方では留鳥として少数蕃殖する。往時は東京付近に於いても多数蕃殖したが今日では稀である。対馬でも蕃殖するものがある。冬期は本州中部以南の積雪のない地方には極めて普通であり狩猟鳥として珍重されている。農耕地や草原に棲息している。

分布 北海道・本州・対馬で蕃殖し、冬期は伊豆七島・四国・九州・種子島・屋久島・馬毛島・奄美大島にも渡来する。

422. コジケイ *Bambusicola thoracica thoracica* (Temminck)
CHINESE BAMBOO PHEASANT 一キジ科一

形態 ウズラより大。背の大きな濃栗色斑と顔から腮、喉、頸側に続く栗色帯極めて顕著。嘴峰124~19%, 翼長14~137%, 尾長80~104%, 跗蹠37~44%。♂♀同色であるが♂には距がある。頭上、腰、上尾筒は緑褐色。灰色の眉斑の後方に延び後頸側にまで及ぶ。前頸幅広く灰色であり下方に栗色帯がある。以下の下面は暗黄色で脇には黒褐色斑がある。尾は赤褐色で中央の1対には褐色の虫喰状斑がある。

生態 中国南部を原産とする鳥であるが1919年から1923年頃の間には東京と横浜とで放鳥したものが漸次数を増した。その後各地に放たれ今日では北海道以外の各地に蕃殖し、狩猟鳥として喜ばれている。都市の公園や庭園にも棲息する。

分布 本州・伊豆七島(大島・三宅島)・四国・九州

亜種 テッケイ *Bombusiola thoracica sonorivox* (Gould) は台湾原産の亜種であるが、1931年頃神戸市の真山に約120羽放鳥したものが今では付近一帯に数多くふえている。

423. コウライキジ *Phasianus colchicus karpowi* Buturlin
KOREAN RING-NECKED PHEASANT 一キジ科一

形態 略キジと同大であり♂には白色頸輪がある。嘴峰27~35%, 翼長195~244%, 尾長♂325~565%, ♀260~310%, 跗蹠54~74%。♂は頭上黄褐色にて後頭の両側に金属緑黒色の飾羽がある。白色眉斑顕著。眼の周囲は広く赤色皮膚裸出する。頸は金属緑黒色である。背は橙色で黒斑散在し肩羽は褐黄色で黒斑がある。腰と上尾筒とは緑青灰色、胸と腹とは銅赤色で腹の中央は黒色。脇は橙黄色で黒斑がある。尾は暗緑褐色で黒色の横斑があり羽縁は細く分かれ紫褐色である。♀はキジの♀に似るが稍紫色の金属光沢がある。

生態 元来朝鮮産の鳥であるが対馬には1750年頃朝鮮から輸入されて現在では留鳥

として数多く棲息する。1920年頃から本州・九州にも放鳥されたが土着のキジと容易に雑交し一時雑種もできたが雑種は繁殖力弱く現在では殆どその跡を絶ってしまった。北海道にはキジが棲息しないので放鳥されたものはよく繁殖して日高地方では耕地に棲息し増加の傾向にある。習性はキジに類似する。

分布 北海道・本州・九州・対馬

424. キ ジ *Phasianus versicolor tokkaidi* Momiyama
GREEN PHEASANT —キジ科—

形態 我国特産の鳥で尾長く♂は頸側、胸側、下面全体金属緑黒色で美麗。♂は♀より著しく大。嘴峰♂29~36%、♀25~31%。翼長♂215~245%、♀195~207%。尾長♂270~425%、♀202~275%。跗蹠♂64~73%、♀55~64%。♂は眼の周囲の皮膚裸出して赤色。後頭の両側には金属緑黒色の飾羽がある。背には栗色、黄色等の複雑な模様があり、兩翼、腰、上尾筒は灰青色で上尾筒の羽毛は分岐して房状をなす。尾は暗緑色で黒色帯状の斑点があり羽縁は細く分岐して紫褐色である。♀は全体黄褐色で一面に黒褐色斑あり。

生態 キジ（下記の4亜種に分かたれている）は我国特産種で本州・四国・九州及びその属島に限り棲息し昔からよく人の知る鳥である。平地や山地の草原、農耕地雑木林に棲息し、我国狩猟鳥中の第一位を占める鳥である。日本の鳥として代表的のものであるので1947年「国鳥」として指定された。

分布 本州中西部及び四国。

亜種 4亜種に分かたれて居りその分布は次の通りである。

- | | |
|---------|---|
| キ タ キ ジ | <i>Phasianus versicolor robustipes</i> Kuroda |
| | 本州北部（新潟県・福島県以北）及び佐渡 |
| キ ジ | <i>Phasianus versicolor tokkaidi</i> Momiyama |
| | 本州中西部及び四国 |
| キウシュウキジ | <i>Phasianus versicolor versicolor</i> Vieillot |
| | 九州並びに本州及び四国の瀬戸内海沿岸 |
| シ マ キ ジ | <i>Phasianus versicolor tanensis</i> Kuroda |
| | 本州南部（三浦半島・伊豆半島・紀伊半島）伊豆七島
（大島・新島）種子島・屋久島 |

425. ヤマドリ *Phasianus soemmerringii scintillans* Gould
HONDO COPPER PHEASANT —キジ科—

生態 キジより大で尾は一段と長い。全体銅褐色。♂は♀より遙かに大。嘴峰♂23~31%、♀22~26%。翼長♂205~230%、♀192~219%。尾長♂415~952%、♀164~205%。跗蹠♂57~69%、♀53~60%。♂の肩羽と背以下の上面には美しい白斑が散在する。下面は上面より色濃く光沢を欠き黒斑散在する。眼の周囲は美しい赤色の皮膚裸出し眼の下には小白斑がある。尾には栗色と黒と白とから成る節状斑がある。♀は全体灰褐色、赤褐色、黒色等の斑にて下面は一段と色淡い。尾は赤褐色で♂に比し著しく短かい。♂の尾に見る美麗な節状斑を欠き尾端には白帯がある。

【生 態】 キジと共に我国特産種で下記の5亜種に分かたれ本州・四国・九州に限り棲息する。主として山地の森林中に棲息し飛翔は早くキジと共に狩猟鳥として珍重されている。

【分 布】 本州（北緯約35°10'以北）

【種 別】 5亜種に分かたれ、その分布は以下の通りである。

ヤマドリ	<i>Phasianus soemmerringii scintillans</i> Gould 島根県・兵庫県北部以北の本州
シコクヤマドリ	<i>Phasianus soemmerringii intermedius</i> Kuroda 本州西部（中国地方）及び四国
ウスアカヤマドリ	<i>Phasianus soemmerringii subrufus</i> Kuroda 本州南部（房総半島・伊豆半島・紀伊半島・山口県西部） 及び四国西南部
アカヤマドリ	<i>Phasianus soemmerringii soemmerringii</i> Temminck 九州中北部（熊本県・宮崎県以北）
コシジロヤマドリ	<i>Phasianus soemmerringii ifimae</i> Dresser 九州南部（熊本県南部・宮崎県南部・鹿児島県）

＜装 幀 図 版 の 説 明＞

箱 ば り	{ 表	トラツグミの育雛	富士山麓にて
	{ 裏	ウミネコの抱卵	島根県経島にて
カ パ ー		モズの育雛	兵庫県武庫川にて
表 紙		夏のライチョウ	白馬岳にて
見 返 し	{ 表	ウミネコ	島根県経島にて
	{ 裏	コルリの育雛	富士山麓にて
扉		コウノトリ	兵庫県出石町にて（この写真は1950年ロンドンに於いて開催された第2回国際生態写真展にて名誉賞を受けたものである）

何れも著者撮影

日本にて蕃殖する 鳥類の巢と卵 一 覧 表

◇本表には従来我國領土内に於いて巢や卵、又巢立した雛等が採集され蕃殖の確証のあるもの總べてを収録した。

◇番号は本文中の種名に付した番号と一致させてある。

◇卵は亜種を異にしても殆ど区別のつかない事が多いので、各種毎に1亜種についてのみ記述し他の近似亜種については省略してある。
例えばコゲラに就いてはエゾコゲラ、ミヤケコゲラ、シロコゲラ、キウシュウコゲラ、ワシマコゲラ、アマミコゲラは省略してある。

番号	種 名	養 殖 地	卵 期	営 巢 環 境
1.	ワタリス ガラ	利尻島及び礼文島 (北海道)	3月～4月	海岸や山岳の断崖。
2.	ハシブト ガラ	北海道・本州・伊豆七 島・四国・九州・種子 島・屋久島・馬毛島	3月下旬 ～5月下旬	平地、低山帯の松や杉の 高い樹枝上。
3.	ハシボソ ガラ	北海道・本州・四国・ 九州・徳島・対馬	3月～5月	前種に酷似。
6.	カササギ	北九州	2月～4月	人家付近の喬木や電柱。
7.	オナガ	本州・北九州・四国	5月～8月	低山帯や平地の森林、人 家の近くの闊葉樹や針葉 樹の樹枝上。
8.	ホシガラス	北海道・本州・四国・ 九州	4月20日(乗 鞍岳)の1例 あり。	亜高山帯の針葉樹の樹枝 上。
9.	カケス	本州・四国・北九州	4月下旬 ～6月下旬	低山帯から亜高山帯下部 に至る森林中の樹枝上。
10.	ルリカケス	奄美大島・徳之島	2月下旬 ～4月上旬	常緑闊葉樹林中。樹洞に 営巣することが多い。
11.	ムクドリ	北海道・本州・伊豆七 島・四国・九州	3月下旬 ～7月	人家の屋根、人家付近の 樹洞等に集団して営巣す る。
12.	コムクドリ	北海道・本州中部以北	5月～7月	北海道では平地、本州で は低山帯。人家の屋根、 樹洞等に営巣。
15.	スズメ	本州 ～ 沖永良部島	3月～8月	人家の軒。樹枝上、樹洞に も営巣することがある。
16.	ニウナイス ズメ	北海道・本州中、北部	5月～7月	北海道では平地の森林、 本州では低山帯上部の森 林中の樹洞に営巣する。
17.	シメ	北海道・本州(福島県 で繁殖した例がある。)	5月～6月	北海道では平地、山麓の 森林中の樹枝上に営巣す る。
18.	イカル	北海道・本州	5月中旬 ～7月上旬	北海道にては平地、山麓、 本州にては低山帯に繁殖。 森林中の樹枝上に営 巣する。

巢	一腹の数 卵	卵の大きさ	卵の色彩
枯枝を積み重ねた上に草、羽毛、獣毛等を敷き粗雑である。	5~6	49×34%.位	地色緑青色で淡褐色、褐色の斑点散在する。
主として枯枝を使用し内部に枯葉、獣毛、紙屑等を敷く。	4~5	47×32%.位	緑青色の地色で濃淡の褐色斑点散在す。褐色の斑点重なり合い殆ど地色を蔽うものもある。
前種に酷似。	3~6	44×31%.位	前種に酷似し卵では区別困難。
枯枝を主材とし大形球形で側方に出入口がある。内部には羽毛、獣毛等を敷く。	5~8	36×24%.位	地色は淡青緑色で淡褐色、灰青色の小斑点が散布している。
細い枯枝や藓苔類を主材とし内部には細根や獣毛を敷く。	7~8	27×20%.位	地色は淡緑色や淡灰褐色等で暗緑褐色、淡褐色の小斑点が散布する。
外部には小枝を使用し内部にサルオガセ其他の地衣類を敷く。	3卵	35×22%.位	地色淡青緑色で淡緑褐色と淡灰褐色との小斑散布する。
小枝、藓苔類、樹皮等を主材として内部に細根を敷く。	5~6, 稀に 4, 8の事あり	31×23%.位	地色灰緑色で灰褐色の微小斑点散布。少量の細い条斑のあるものもある。
樹洞の中に枯葉、樹皮を敷く。枯枝を使用することもある。	普通 4	33×24%.位	淡青色の地色に淡褐色の少量の微小斑がある。無斑のものもある。
産座には枯草、枯葉、樹皮、羽毛等を敷く。	4~9 普通 5~6	29×21%.位	光沢ある緑青色で無斑。
産座に枯草、枯葉、樹皮、紙屑、羽毛等を敷く。	4~6	25×19%.位	緑青色無斑であるが前種程光沢がない。
枯草、樹皮、紙屑、枯草、羽毛等を大量使用。	4~8 普通 5~6	20×15%.位	地色灰白色、淡青色等で灰青色灰褐色等の微小斑全面に散布す。
産座に枯草、羽毛、馬毛等を敷く。	5~7	19×15%.位	地色灰白色、淡青色等で灰褐色、灰青色、淡黒褐色等の微小斑全面に散布す。
枯葉、枯枝、枯葉に腐糸を混じえ、内部に細根、馬毛等を敷く。	4~6	24×17%.位	地色淡青緑色で灰青色、濃淡の褐色等の斑点や条斑が全面に散布する。
枯枝、枯葉、樹皮、苔等を使用し、内部に細根を敷く。	3~4	26×19%.位	地色淡青緑色、暗緑色等で褐色、黒褐色の斑点や条斑散在し、特に鈍端付近に環状に集まるものが多い。

番号	種 名	蕃 殖 地	卵 期	営 巢 環 境
20.	コカワラ ヒ	本州・伊豆七島・四国 九州・対馬	3月下旬 ～7月上旬	平地、低山帯の人家付近 の樹枝上に営巣する。
21.	マヒワ	北海道・本州北部	4月～8月	少数のものが平地から亜 高山帯に亘る森林で蕃 殖。樹枝上の枝端近くに 営巣。
23.	ベニマシコ	北海道・本州北部（少 数）	5月下旬 ～7月下旬	平地の灌木叢林、人家の 生垣等に営巣す。
24.	ウソ	北海道・本州	5月～7月	亜高山帯の森林の樹枝上 に営巣。
27.	ギンザン マシコ	大雪山（北海道）	不 明	高山帯のハイマツ林の樹 枝上。
28.	イスカ	北海道・本州	2月～8月 年に依り大 差あり。	低山帯の松林の樹枝上。
39.	シマアオジ	北海道	5月中旬 ～7月中旬	平地の原野。
41.	アオジ	北海道・本州中部以北	5月上旬 ～8月上旬	北海道では平地又は低山 帯の草原、灌木叢林、森 林中。本州では低山帯の 草原、灌木叢林。地上や 樹枝上に営巣。
42.	ノジコ	本州	5月中旬 ～7月上旬	低山帯の灌木林、林縁の 低い樹枝上。
43.	ホオジロ	北海道・本州・伊豆七 島・四国・九州・種子 島・屋久島	4月中旬 ～7月下旬	北海道では平地の草原、 灌木林。本州では平地、 低山帯の草原、灌木林。 地上又は低い樹枝上に営 巣。
44.	ホオアカ	北海道・本州	5月～7月	北海道では平地の草原。 本州では低山帯の草原や 灌木林。地上又は低い灌 木枝上に営巣する。

巢	一腹の 卵の数	卵の大きさ	卵の色彩
細根、樹皮、紙屑、落綿、猯毛等を使用し内部に羽毛、猯毛、細根等を敷く。	3~5	19×14%.位	地色灰白色で稍淡緑青色を帯びる。灰青色、紫褐色、紫黑色等の小斑類に散布する。斑点は特に鈍端付近に多い。
枯枝、サルオガセを用い内部に藁屑、猯毛、羽毛を敷く。	4~5 稀に6	16.5×12.5%.位	地色淡青色、青白色で淡赤褐色の斑点や条斑がある。
細い枯枝、枯葉、樹皮等を材料として内部に馬毛、羽毛等を敷く。	3~4	19×14%.位	コバルト青色で少量の褐色の小斑点が鈍端付近に散在す。
枯枝、枯葉、藁屑等を用い内部に細根、猯毛、羽毛等を敷く。	4~6	20×16%.位	コバルト青色で少量の紫黑色小斑点が主として鈍端付近に散在す。
枯枝、苔、枯葉、枯草等を使用。	不明 3~5と推定	不明	我国では未発見。歐州産近似亜種に依れば地色青色で紫褐色の斑点あり。
細い松の枯枝、細根、苔類、杉の樹皮、枯草等を使用。内部苔、枯草。	普通 3	23×15%.位	地色灰白色又は灰青色にて少量の紫褐色の小斑と条斑とが鈍端付近に散在。
枯草、細根を使用。内部に馬毛、細い枯草。	4~5	21×15%.位	地色灰緑青色、淡緑青色等で灰褐色、黒褐色の小斑や条斑が散在する。
枯草、細根、枯葉、枯葉等を使用し、内部に馬毛、細い枯葉、ツノモルファー等を敷く。	3~7 普通 4~5	20.5×15.5%.位	地色灰白色、淡青色等で赤褐色、紫黑色、灰褐色等の小斑や雲状斑が散在する。
枯草、細根、枯葉等を使用し内部に馬毛、細い枯葉等を敷く。	3~5	18×14%.位	地色灰白色で灰紫色、黒褐色等の小斑、条斑が散在する。
枯草、細根等を主材とし内部には細根、馬毛等を敷く。	3~5	21×16%.位	地色灰青色、灰白色、淡赤褐色等で黒褐色、紫黑色、赤褐色等の条斑や少量の小斑が散在す。条斑は鈍端付近に環状に集結するものが多い。稀に無斑のものもある。
枯草、細根、細い枯葉等を使用し内部に馬毛、細い枯葉等を敷く。	3~6 (4~6の 事が多い)	20×16%.位	地色淡青色、灰白色等で赤褐色の微小斑全面に密に散布するものと赤褐色や黒褐色の小斑点と少量の条斑とが粗に散布するものとの2形ある。

番号	種 名	蕃 殖 地	卵 期	営 巢 環 境
47.	ク ロ ジ	北海道・本州(中部以北)	不 明	低山帯上部の灌木叢林中と推定されるが我が国からは巣と卵とは未発見。
49.	コジュリン	本州(中部以北)	6月中旬 ～7月上旬 頃と推定	本州中部低山帯, 本州北部平地の草原地上。
50.	オ ジュ リン	北海道	5月下旬 ～7月下旬	平地の草原。地上に営巣。
55.	ヒ バ リ	北海道・本州・四国・九州	3月下旬 ～7月下旬	平地, 低山帯の草原, 農耕地。地上に営巣。
58.	ピンズイ	北海道・本州	5月中旬 ～8月	北海道では平地から高山帯迄, 本州では低山帯から高山帯迄。草原や林縁の地上に営巣。
62.	ハ セ キ レ イ	北海道・本州北部	4月～7月	人家付近, 水辺。人家の屋根, 石垣の間隙, 草木の根元等。
63.	セ グ ロ セ キ レ イ	北海道(少数)・本州・四国・九州	3月下旬 ～7月	村落付近, 水辺。屋根や石垣の間隙, 草木の根元等。
64.	キセキレイ	北海道・本州・四国・九州	4月～7月	低山帯や平地の石垣, 土手の間隙や屋根, 又稀に樹枝上に営巣する事もある。
67.	メ ジ ロ	北海道(南部)・本州・四国・九州	4月～6月	低山帯, 平地の森林, 灌木林, 竹藪等の樹枝上。
68.	キバシリ	本州	3月～5月	低山帯, 亜高山帯の森林中。喬木の天然樹洞や裂目に営巣。
69.	ゴジュウカ	本州	4月～6月	低山帯上部, 亜高山帯の森林中。ケヤ類の古巣又は天然樹洞。
70.	シジュウカ	北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・愛媛・対馬	4月～7月	低山帯の森林中で蕃殖する事が多いが, 平地, 亜高山帯にも営巣する。樹洞, 石垣や人家の間隙等に営巣。

巢	一腹の 卵の数	卵の大きさ	卵の色彩
枯草, 細い枯枝, 細根, 樹皮等を使用し内部に多量のリゾモルファーを敷く。(千鳥産)	千鳥産の1例に依れば5卵	千鳥産の1巢分5卵に依れば21.5×16%.位	地色灰白色で黒褐色, 灰青色の斑点散在す。(千鳥産に依る。)
イネ科植物の枯葉と茎とを使用し内部には細根, 馬毛等を敷く。	3~5	19.5×15.5%.位	地色汚白色で灰鼠色の小斑点が散在する。(宮城果産の1卵に依る。)
枯草, 枯茎等を使用し内部に馬毛, 細い枯茎等を敷く。	3~6	20.5×15.5%.位	地色灰褐色で黒褐色の少量の斑点と太い条斑とが散在す。
枯草, 細根を使用し内部に細根や細い枯草を敷く。巢は粗雑である。	3~5 4卵の事が多い	22×16.5%.位	地色灰白色で暗褐色の微小斑密に全面に散布し, 特に鈍端付近には環状に集結する。
枯草, 細根, 枯松葉, 苔類等を使用し内部に馬毛, 細根, 細い枯茎, リゾモルファー等を敷く。	4~5	20.5×15.5%.位	地色灰白色で微小斑密に全面に散布する。斑点は巢に依り異り, 褐色のもの, 赤褐色のもの, 紫褐色のもの等がある。
枯草, 細根, 紙屑等を使用し内部に細根, 羽毛, 獣毛等を敷く。	5~6	21.5×16%.位	地色灰白色にて灰青色, 紫黒色, 暗褐色等の微小斑全面に散布する。
藁, 枯草, 細根, 樹皮, ボロ切等を使用し内部に羽毛, 獣毛, 馬毛等を敷く。	4~6	20.5×16.5%.位	地色汚白色で暗褐色, 紫黒色, 灰青色等の微小斑全面に散布。ハクセキレイの卵に酷似し区別困難。
藁, 枯草, 細根, 樹皮等を使用し内部に獣毛, 細根等を敷く。	4~6	18.5×14.5%.位	地色灰白色で淡褐色, 淡紫褐色, 淡褐黄色等の不明瞭な微小斑が全面に散布。
水平に延びた細い枝の二又になった所に蜘蛛の糸で巢をつり下げる。巢には藓苔類, 枯草, 獣毛等を使用し内部に枯草, 細い茎, 馬毛等を敷く。	3~5	17×13%.位	巢に依り純白色のものと淡青緑色のものと2形ある。斑点はない。
朽木の小木片, 樹皮, 獣毛等を多量に敷く。	3~5	16×12%.位	地色汚白色で淡紫褐色や淡褐色の少量の小斑が散在する。
巢孔大き過ぎる時は泥土で適度に塞ぐ。巢の底に落葉, 樹皮等を多量に敷く。	5~8	19.5×14.5%.位	地色白色で淡紫色, 赤褐色の小斑が散在する。斑点は鈍端付近に多い。
多量の藓苔類を使用し内部に獣毛, 羽毛, 藓類の胡屑等を敷く。	4~13 普通 7~10	17×13.5%.位	地色白く灰青色の微小斑と赤褐色の斑点とが散在す。斑点は鈍端付近に環状に集結するものもある。

果	一腹の 卵の数	卵の大きさ	卵の色彩
多量の苔藓類を使用し 内部に羽毛、獸毛等を 敷く。	5~8	19×14.5%.位	地色白く灰青色、淡褐色の小斑 散在す。斑点はシジュウカラの 卵より淡色にて且量も少ない。
樹皮、落葉、苔類等を 使用する他内部に多量 の獸毛を敷く。	5~8	17×12.5%.位	地色白く、淡紫色、淡褐色の小 斑散在す。斑点は多くない。
苔の上に多量の獸毛を 敷く。	5~8	15.5×12.5%.位	地色白く淡赤褐色の小斑散在 す。
苔を多量に使用し内部 に獸毛を敷く。	5~8	15.5×11.5%.位	白地に赤褐色、淡紫色の微小斑 散在する。
12~19cm.×7~10cm. 位の長楕円形で上方に 直徑3cm.位の入口あ り、外部は苔類を主材 として外側一面にウメ ノキゴケを蜘蛛の糸で 取付ける。内部には多 量の羽毛を敷く。	7~12	14.5×11%.位	地色汚白色で淡紫色と淡赤褐色 との微小斑が主として鈍端付近 に環状に散布している。
苔類を主材とし枯葉、 細根、樹皮を使用し内 部に獸毛、羽毛を敷く。	5~8	14×10.5%.位	地色淡灰黄色で不鮮明な淡黄褐 色の微小斑が主として鈍端付近 に環状に集結す。
枯葉、枯枝、樹皮、屑 糸、羽毛、獸毛、紙屑 等を主材とし内部に細 葉、枯草、羽毛、獸毛 細根等を敷く。	3~6 稀に7	23×17.5%.位	地色灰白色にて稍淡褐色を帯び るものもある。淡灰青色、淡褐 色、淡灰褐色等の小斑が散在す る。斑点は鈍端付近に集結する ものが多い。
細根、樹皮、小枝、枯 葉等を主材とし内部に 枯草、細根等を敷く。	3~6	23.5×17%.位	地色淡青緑色で淡褐色、暗緑褐 色、灰青色の小斑散在するもの と地色灰白色又は極めて淡い赤 褐色で赤褐色、褐色、灰青色等 の小斑のあるものとの2形がある。 斑点は主として鈍端付近に 環状に集まっているものが多い。
枯草、枯葉、小枝、樹 皮等を主材として内部 に細根、馬毛、枯草等 を敷く。	4~6	22.5×17%.位	地色灰白色で灰褐色、淡褐色、 青灰色の小斑あるものと地色淡 赤褐色で淡褐色、灰褐色、青灰 色等の小斑散在するものとの2 形ある。斑点は鈍端付近に多い。
枯枝、樹皮、枯松葉、枯 草、落葉等を主材とし 内部に細根、細葉、松 葉等を敷く。	4~5	29.5×20.5%.位	地色紺赤灰白色で褐赤色、紫黒 色、紫灰色等の斑点散在す。斑 点の量は果により多いものと少 ないものがある。

番号	種 名	著 殖 地	卵 期	営 巢 環 境
71.	ヤマガラ	北海道・本州・伊豆七島・四国	4月～7月	北海道では平地、本州では平地、低山帯の森林中。樹洞、建物の間隙等に営巢。
72.	コガラ	北海道（少数）・本州・四国	5月～7月	低山帯、亜高山帯の森林中。間ちた樹幹に自ら巢孔を穿つ事と天然樹洞を利用する事とがある。
73.	ヘンソンハシブトガラ	北海道	4月～5月	山地の森林、天然樹洞、ケラ類の古巣等に営巢。
74.	ヒガラ	北海道・本州・四国・九州・屋久島	5月～6月	低山帯、亜高山帯の森林中。天然樹洞や樹幹の裂目に営巢。
75.	エナガ	本州	2月下旬 ～6月上旬	主として低山帯の森林、灌木林なるも、亜高山帯、平地でも繁殖する。長楕円形の巣を蜘蛛の糸で樹幹に縦にとりつける。
77.	キイタダキ	北海道・本州	6月～7月	亜高山帯の針葉樹林中。樹枝上枝先近くに巣を蜘蛛の糸で取り付ける。
81.	モズ	北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・室戸岬・対馬	3月上旬 ～8月	北海道では平地、本州では低山帯、平地の林縁、灌木林、市街地の庭園、公園等の樹枝上に営巢する。
82.	チゴモズ	本州（中部及び北部）	6月上旬 ～7月下旬	低山帯、平地の林縁、灌木林等の樹枝上。
83.	アカモズ	北海道・本州（中部及び北部）	5月下旬 ～7月	北海道では平地、本州では平地や低山帯で繁殖。灌木林、林縁等の樹枝上に営巢。
86.	ヒヨドリ	本州・伊豆七島・四国・九州・対馬・室戸岬	5月～7月	低山帯、平地の深い森林中の樹枝上に営巢する。市街地の公園、庭園等でも繁殖する。

番号	種 名	蕃 殖 地	卵 期	営 巢 環 境
87.	サンショウ ク	本州	5月～7月	低山帯の森林の高い樹枝上に営巢する事が多いが平地でも蕃殖する。
88.	サンコウ チ ヨ ウ	本州・四国・九州	5月下旬 ～7月下旬	低山帯の深い森林中の樹枝上に営巢する事が多いが平地の森林で蕃殖するものもある。
89.	コ サ メ ビ タ キ	北海道・本州・四国・九州	5月上旬 ～6月下旬	低山帯、平地の林縁や人家付近の樹木の水平に延びた横枝に営巢する。
91.	サメビタキ	北海道・本州	6月～8月	北海道では平地にも少数蕃殖する他大雪山の針葉樹林帯に営巢。本州では亜高山帯の森林中で蕃殖
93.	キビタキ	北海道・本州・四国(?)	5月～7月	北海道では平地、低山帯、本州・四国では低山帯、亜高山帯の森林中で蕃殖する。樹洞、繁茂した樹枝の間等に営巢。
94.	オオルリ	北海道・本州・四国・九州	5月～7月	主として低山帯に蕃殖するが亜高山帯に及ぶものもある。崖、人家の軒、浅い樹洞等に営巢する。
95.	エ ヌ ム シ ク イ	北海道・本州・四国	5月～7月	亜高山帯の崖の浅い窪みに営巢する。
96.	メ ボ ソ ム シ ク イ	本州・四国	6月～8月	亜高山帯の森林中の地上、土手の窪み等に営巢。
97.	センダイ ム シ ク イ	北海道・本州・四国	5月～6月	低山帯の森林、灌木林中の地上、土手の窪み等に営巢。
98.	ウグイス	北海道・本州・四国・九州・老枝・対馬	4月～8月	主として低山帯、亜高山帯の灌木叢林、笹原、草原等で蕃殖する。

巢	一 腹 卵 の 数	卵 の 大 き さ	卵 の 色 彩
樹皮、枯葉、細枝等を 主材とし外部には蜘蛛 の糸でウメノキゴケを 取付ける。内部には細 根、リゾモルファー、 細茎等を敷く。	4~5	21×16%.位	地色 帯青灰白色で淡褐色、褐 色、青灰色等の小斑が主として 鈍端付近に散在する。
細い樹枝上二又又は三 又部に倒円錐形の巢を 作る。樹皮、羽毛、藓 類等を主材とし外部に ウメノキゴケを付着す る。内部細根、馬毛等。	3~5 4卵の事 が多い	21×15%.位	地色は白色又は帯赤白黄色で赤 褐色、淡灰青色の小斑散在。一 般に斑点の量は少ない。
藓類、樹皮、羽毛を主 材とし外部にウメノキ ゴケを付着した浅い巢 で一見木の瘤の様に見 える。	4~5	16.5×13%.位	緑青色を帯びた淡灰色又は淡褐 色で殆ど無斑であるが時には不 明瞭な斑点のあるものもある。
水平に延びた高い樹枝 上に浅い巢を作る。サ ルオガセを主材とし内 部に少量のシラビソの 枯葉を敷く。	3~5	17×13%.位	灰白色、淡青緑色等で淡紫褐色 の不明瞭な小斑が散在する。
枯葉、枯茎、藓類等を使用 して粗雑。内部に細 根、馬毛、藓類、リゾ モルファー等を敷く。	4~6	18×14%.位	巢に依り変化多い。白地に赤褐 色小斑散布するもの、淡青緑色 の地色に淡褐色斑あるもの、黄 白色の地色に暗緑褐色斑あるも の等がある。
多量の藓類を主材とし 樹根、落葉を混す。内 部には藓類等の胡柄、 リゾモルファー等を敷 く。	3~5 普通 5	20.5×15.5%.位	地色黄白色、汚白色等で淡黄褐 色の不鮮明な斑点が鈍端付近に 環状に散布する。
藓類、落葉、細根等を 多量に使用する。	4~6	15.5×12%.位	純白無斑。
藓類、枯草、樹根等を 主材とし球形大形の巢 を作り内部に細根、リ ゾモルファー、馬毛等 を敷く。出入口は側面。	4~5	18×14%.位	地色白色で赤褐色、青灰色の小 斑散在するが斑点の量は多くな い。
枯草、落葉、藓類 等で 球形大形の巢を作り入 口は側面をむく。	5~6	16×12.5%.位	純白無斑。
枯草、笹の枯葉等横 向壺形の巢を作る。内 部に落葉、細根、馬毛、 羽毛等を敷く。	4~6	18×14%.位	光沢ある濃暗赤色で無斑。

番号	種 名	蕃 殖 地	卵 期	営 巢 環 境
99.	ヤブサメ	北海道・本州・四国・九州	5月～7月	北海道では平地にも蕃殖するか、本州以南では主として低山帯の森林や灌木林の地上に営巣する。
100.	オオセッカ	本州（宮城県から知らただけである。）	7月下旬 ～8月上旬	海岸に近い低地の湿潤な草原の草間に営巣。
101.	エゾ センニュウ	北海道	6月～7月	河川流域、河口付近の下草の生い繁った灌木林や灌木叢林中の倒木上や低い樹枝上。
102.	シマ センニュウ	北海道（厚岸沿海の大黒島。）	6月下旬 ～7月上旬	草原の草や灌木の間。
103.	シベリア センニュウ	北海道（利尻島・礼文島）中村幸雄氏に依る。	6月頃？	我国では未発見。草原の草の間に営巣。
104.	マキノ センニュウ	北海道・本州中部	6月～8月	北海道では海岸に近い草原、本州では低山帯、亜高山帯の草原に蕃殖するが局地的。巣は地上草の根元等に営む。
106.	オオ ヨシキリ	北海道・本州・四国・九州	5月～8月	低山帯、平地の水辺の草原中。数本の葎の茎の間に巣を取付ける。稀に灌木樹枝上に巣を作る事もある。
107.	コヨシキリ	北海道・本州（中部以北）	6月～8月 月上旬	北海道では平地、本州では低山帯及平地に蕃殖。草原、高原の草の間に巣を取付ける。灌木樹枝上にも営巣する。
108.	セツカ	本州・奄美大島・喜界島・沖永良部島	本州では 5月～8月 薩南諸島では 4月から産卵	低山帯及平地の草原、農耕地の草間。
109.	トラツグミ	北海道・本州・四国・九州・八丈島・屋久島	4月上旬 ～7月	亜高山帯、低山帯の密林中。北海道では平地にも蕃殖する。叉状の樹枝上に営巣する。

巢	一腹の 卵の数	卵の大きさ	卵の色彩
藁類、細根等を使用し内部には藁類の萌芽、獣毛、シダ類の細毛、リゾモルファー等を敷く。	5~7	16.5×13%.位	地色白色で褐赤色の斑点が重なり合っている。斑点は鈍端付近に特に多い。
草の葉や茎を折り曲げた上に枯草、枯茎等を主材として楕円形の巢を作り内部に細茎、枯葉、羽毛等を敷く。	5~6	18.5×14%.位	純白無斑。
巢は粗雑。枯草を主材とし内部に細い枯草、細根等を使用す。	3~5	22.5×16.5%.位	地色灰白色にて灰青色、暗紫色、紫褐色等の小斑が全面に散布している。鈍端付近には少量の糸状斑もある。
枯草、枯茎を主材とし内部に細茎、細い枯草、羽毛等を敷く。	普通 5	19.5×14.5%.位	淡青灰色の地色に青灰色、暗紫色、紫褐色等の小斑が密に散布する。
草と苔とを使用し、入口は側面にある。	普通 5	19×13.5%.位	我国では未発見。地色淡赤褐色にて赤褐色の斑点密に散布し殆ど地色を蔽う。(外国の例に依る。)
巢は粗雑。枯草、枯茎等を主材とし内部に細い茎や細い枯草を敷く。	3~5 普通 4	17.5×13.5%.位	地色灰白色で淡赤色、紫褐色、赤褐色、青灰色等の微小斑が全面に散布する。
枯草、細茎、穂、糸屑等でしっかりした深い巢を作り内部に細根、細茎、穂等を敷く。	3~6 普通 4~5	22×16%.位	地色淡青緑色で黒褐色、褐色、灰青色等の大小の斑点散在し、殆ど地色を蔽うものもある。
枯草、茎、枯穂等を主材とし内部に細根、細茎、馬毛等を敷く。巢は前種に似て小形。	4~6	17×13%.位	地色淡緑褐色で黄褐色の不規則な糸状斑密に在る。鈍端付近に少量の黒色糸状斑のあるものもある。
イネ科植物の葉をよせ集めて蜘蛛の糸で固定し、内部にチガヤの花穂を多量に敷く。巢は縦形で入口は上方にある。	3~7 普通 4~5	16.5×12%.位	地色純白のものと淡灰青色のものがある。灰青色、淡紫褐色の少量の小斑が全面に散布する。
藁類を主材とし枯枝、落葉を混す。内部に枯松葉、落葉、シダの枯葉、細根等を敷く。	3~5 普通 4~5	33.5×23.5%.位	地色は淡青緑色、淡赤褐色等で不明瞭な淡赤褐色の斑点散在するが最終に産卵されたものは著しく淡色なるか無斑である。之を「止め卵」といふ。

番号	種 名	蕃 殖 地	卵 期	営 巢 環 境
110.	マミジロ	本州中部以北。北海道でも少数蕃殖。	5月～7月	亜高山帯、低山帯の密林中。樹枝上、蔓の繁み等に営巢。
111.	クロツグミ	北海道・本州・四国	4月中旬 ～8月上旬	北海道では低山帯、平地の森林中、本州では低山帯で蕃殖。
115.	マミチャ ジ ナ イ	本州（富士山麓で少数蕃殖する事が知られている。）	6月～7月 頃	低山帯の密林中。樹枝上、蔓の繁み等に営巢。
116.	アカハラ	北海道・本州	5月上旬 ～8月上旬	北海道では平地から亜高山帯迄、本州では亜高山帯、低山帯の密林中に蕃殖。樹枝上、蔓の繁み等に営巢。
117.	アカコッコ	伊豆七島	4月上旬 ～6月下旬	森林、灌木林中の樹枝上。
119.	イ ソ ヒ ヨ ド リ	北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・豊後・対馬・種子島・屋久島・奄美大島・喜界島・徳之島	3月上旬 ～6月	海に近い岩壁の間隙、建築物の間隙等に営巢。
121.	ノビタキ	北海道・本州	5月～7月	北海道では平地の草原や高原、本州では低山帯の草原に蕃殖。地上草の根元に営巢。
122.	ルリビタキ	北海道・本州	6月～8月	亜高山帯の森林中。崖地の窪み、倒木の露等に営巢。
124.	ノゴマ	北海道	6月～8月	平地から高山帯迄の草原。草や灌木の根元近くの地上に営巢する。
125.	コマドリ	北海道・本州・四国	6月～7月	亜高山帯の森林中。崖地の浅い窪み、倒木の茎、樹洞等。
126.	アカヒゲ	種子島・トカラ列島・奄美大島・徳之島	4月下旬 ～6月	密林中の樹洞、崖地の浅い洞中、低い灌木樹枝上等に営巢。

果	一腹の 卵の数	卵の大きさ	卵の色彩
枯草、茎、枯枝、枯葉、樹皮、薔類等を主材とし内部に細根、リゾモルファー、細い枯草等を敷く。	3~4	29×20.5%.位	地色青緑色で青灰色と赤褐色との小斑散在するが斑点の量は多くない。
薔類、茎、樹根、樹皮、枯枝、枯葉等を泥土で詰め内部に細根、リゾモルファー、馬尾、枯葉等を敷く。	3~5	27×20%.位	地色緑青色、灰赤褐色等で淡紫色、赤褐色の大小の斑点全面に散布する。
アカハラの巣に酷似。	普通 4	21×19.5%.位	青緑色の地に灰青色と赤褐色との微小斑散在。(シベリア産の標本に依る。)
杞莖、小枝、細根、枯葉、薔類、落葉等を泥土で詰め内部に茎、落葉、リゾモルファー等を敷く。	3~5	27.5×20%.位	地色青緑色で淡紫色の小斑と赤褐色の稍大形の斑点とが全面に散布する。斑点の鈍端付近に集結するものもある。
アカハラの巣に酷似。	3~4	29×21.5%.位	地色青緑色、淡灰褐色等で淡紫色の微小斑と赤褐色の稍粗大斑点とが全面に散布する。斑点の量は前種より多い。
細根、枯草等を使用し粗雑な巣を作り内部に細根を敷く。	5~6	27×20%.位	淡緑青色無斑。中には極めて淡い紫褐色の微小斑が少量鈍端付近に散在するものもある。
枯草、枯葉、細根、薔類を主材とし内部に細根、獸毛、羽毛、鱗屑、薔類の萌柄等を敷く。	5~7	18×13.5%.位	地色淡緑青色。淡紫色と淡褐色との微小斑が主として鈍端付近に環状に散布する。
薔類、枯草、リゾモルファーの他多量の針葉樹の落葉を地上に敷き粗雑。	3~6 普通 4	18×14%.位	地色白色で淡紫色、淡赤褐色の少量の小斑が鈍端付近に散在。
枯草を主材として横向壺形の巣を作る。内部に細い枯草、細根を敷く。	3~5	21×16.5%.位	濃い緑青色で無斑。中には淡紫色の微小斑が鈍端付近に散在するものがある。
落葉樹の落葉、細根等を使用し粗雑でくずれ易い。	4~5	21×15.5%.位	淡緑青色無斑。コルリの卵に似るが遙かに淡色。
枯葉、落葉、薔類等を主材として粗雑。	3~5	22.5×17%.位	極めて淡い褐赤色の地色に淡赤褐色の不規則な小斑散在する。

番号	種 名	蕃 殖 地	卵 期	営 巢 環 境
129.	コ ル リ	北海道・本州	5月～7月	北海道では低山帯、本州では亜高山帯、低山帯の密林、灌木林で蕃殖。地上に営巢。
130.	イワヒバリ	本州（中部以北の高山）	6月～8月	高山帯の岩石の間隙に営巢。
132.	カヤクグリ	本州（中部以北の高山）	6月～8月	亜高山帯上部、高山帯の灌木林、ハイマツ林の樹枝上。
133.	ミソサザイ	北海道・本州・伊豆七島（大島）・四国	5月～8月	本州では低山帯にも蕃殖するが特に亜高山帯の森林中に多い。葦、喬木の根元、山小屋の軒、縁下等に営巢する。
134.	カワガラス	北海道・本州・四国・九州・屋久島	2月下旬～6月	溪流に沿い主として亜高山帯、低山帯に蕃殖するが平地でも溪流のある所には営巢する。岩壁、岩蔭、橋の下等に営巢する。
135.	ツ バ メ	北海道・本州・伊豆七島・四国・九州	4月～7月	建築物の外部壁や屋内。又橋桁にも営巢する。
136.	リュウキュウツバメ	奄美大島・徳之島・喜界島	4月～5月	ツバメと同様人家の軒に営巢するが時には天然洞穴の奥等にも営巢する。
137.	コシアカツバメ	本州（主として中部以西）四国・九州	5月～7月	ツバメと同様であるが、通常高層建築物を選ぶ。集団して営巢する事が多い。
138.	イワツバメ	北海道・本州・九州	4月中旬～8月	高山帯、亜高山帯の岩壁に蕃殖する他、地方的に市街地の人家の軒、海岸の岩壁や洞穴等に集団して営巢する。
139.	ショウドウツバメ	北海道・及本州北部	6月～7月	河川、湖沼に面する砂層の崖、農耕地の崖等に孔を穿ち集団して営巢する。
140.	ヤイロウチヨウ	四国・九州（?）	5月～7月中旬	密林中の叉状の樹幹、岩石上等。
141.	アマツバメ	本州・伊豆七島・四国・徳之島	6月～7月	高山帯、亜高山帯の岩壁に蕃殖する他、地方的に海岸の岩壁にも営巢する。

巢	一 腹 の 数	卵 の 大 き さ	卵 の 色 彩
落葉を主材とし細根、 蘚類の蔕柄、リゾモル ファー等を内部に敷く。	4~6 稀に 7	19×15%、位	緑青色無斑。
枯草、枯茎等を少量に 敷き極めて粗雑。	3~4 普通 3	22.5×16.5%、位	濃青色無斑。
蘚類、細い枝、細根、 枯茎等を使用し内部に リゾモルファー、羽毛、 落葉等を敷く。	3~4 普通 3	19.5×14.5%、位	濃青色無斑。
蘚類を主材とし小枝を 混えて大形球形の巢を 作り上側に出入口があ る。内部に羽毛、熊毛 リゾモルファーを敷く。	4~6	17.5×13%、位	純白無斑のものと少量の淡赤褐色、 淡紫色の微小斑のあるもの とがある。
蘚類を主材としてミソ サザイの巢に類似した 大形球形。内部に落葉 枯草、細根を敷く。	4~6	28×19.5%、位	純白無斑。
枯草を泥土で堅め内部 に枯草、羽毛を敷く。	3~7 普通 5	19×14%、位	地色白色で赤褐色、淡紫色の斑 点散在。
ツバメに類似して稍小。	不明（2 卵及3卵 の例があ る）	18.5×14%、位	地色灰白色で褐色、灰鼠色の微 小斑全面に散布する。斑点は前 種より小。
泥土で徳利形の巢を作 り内部に枯草、羽毛を 敷く。	4~6	19.5×14%、位	白色で無斑のものと淡褐色微小 斑の鈍端附近に散在するものと がある。
枯草を泥土で固めて碗 形の巢を作り内部に枯 草、羽毛等を敷く。	3~4	20×14%、位	純白無斑。
孔の深さは20~100cm 位で奥に枯草、羽毛等 を敷く。	3~5	17.5×12.5%、位	純白無斑。
枯枝、蘚類で楕円球形 の巢を作り側面に出入 口がある。内部に細根 松葉等を敷く。	4~6	26×21.5%、位	地色灰白色で灰鼠色と紫褐色と の微小斑が全面に散布する。
高山では枯草を唾液で 粘着して扁平な小形の 巢を岩壁に取付けるが 海岸では海藻を巢材と する。	2~3	27×17.5%、位	純白無斑。

番号	種 名	審 殖 地	卵 期	営 巢 環 境
142.	ハ リ オ アマツバメ	北海道・本州（高山）	6月～7月	絶壁の岩や喬木の樹洞中に営巢する。
143.	ヨ タ カ	北海道・本州・四国・九州	5月中旬 ～8月上旬	本州では低山帯の森林中の空地、灌木の粗な草原等で営巢するが北海道では平地でも山地でも繁殖する。
145.	ブ ッ ポ ウ ソ	北海道・本州・四国・九州	5月下旬 ～7月上旬	低山帯、平地の神社境内等巨木よりなる森林、山間の電柱、天然樹洞、キツギ類の古巢等に営巢する。
146.	ヤ マ セ ミ	本州・四国	4月下旬 ～7月	亜高山帯、低山帯、平地に亘り湖岸や溪流に沿って棲息す。崖に穴を穿って営巢する。
147.	カ ワ セ ミ	北海道・本州・四国・九州・奄美大島	3月～8月	低山帯、平地の池沼や川に近い崖に穴を穿って営巢する。
149.	アカショウ ビ	北海道・本州・四国	6月～7月	低山帯の密林中の樹洞、又朽木や崖に穴を穿って営巢する。
150.	ヤ マ ゲ ラ	北海道	5月～6月	平地から高山の森林限界線に亘る森林中。
151.	ア オ ゲ ラ	本州	5月～6月	低山帯、亜高山帯の森林中。
152.	ア カ ゲ ラ	本州・対馬	5月～7月 上旬	低山帯、亜高山帯の森林中。
153.	オ オ ア カ ゲ ラ	本州（中部以北）	4月～5月	低山帯、亜高山帯の森林中。
154.	コアカゲラ	北海道	6月（6例 に依る）	平地の森林中。
155.	コ ゲ ラ	本州（中部以北）	5月上旬 ～6月中旬	平地、低山帯、亜高山帯の森林中。
156.	エゾミユ ビ	北海道	不 明	山地の森林中。
157.	ク マ ゲ ラ	北海道	4月～6月	山地の森林中。

巢	一 腹 の 数	卵 の 大 き さ	卵 の 色 彩
飛翔中風で飛ぶ枯草を集めゼラチン状唾液で粘着して岩壁や樹洞内に巢を取付けるといわれている。	2~3	30×22%・位	純白無斑。
巢を作らず地上に直接に産卵する。	普通 2 稀に 3	32.5×23%・位	地色白色で灰褐色と灰紫色との粗大な斑点が散在する。
巢穴の底に少量の樹皮を敷くものと、巢材を使用しないものがある。	3~5	34×28.5%・位	純白無斑で光沢がある。
巢穴は1米位でその奥稍広く産座に柔らかな土を敷く。	5~7	40×31.5%・位	純白無斑で光沢がある。
巢穴はヤマセミより小で深さは約1米あり、その奥稍広い。産座には親鳥の吐き出した魚骨を敷く。	5~7	22×18%・位	純白無斑で光沢がある。
巢材は使用しない。	4~6 普通 5	31.5×29%・位	純白無斑で光沢がある。
喬木の幹に自分で孔を穿って巣とする。	5~7	30×21%・位	純白無斑。
喬木の幹に自ら孔を穿って営巣す。	7~8	29.5×15%・位	純白無斑。
喬木の樹幹、朽木等に自ら孔を穿って巣とす。	5~7 普通 6	25.7×19.5%・位	純白無斑。
喬木の樹幹に自ら孔を穿って営巣。	不 明	未 発 見	未発見であるが純白無斑と推定される。
喬木の樹幹に自ら孔を穿って営巣。	6 (6例に依る)	20×14.5%・位	純白無斑。
喬木の樹幹、朽木等に自ら孔を穿って巣とす	普通 5	19×14.5%・位	純白無斑。
未発見。	未発見	不 明	未発見であるが純白無斑と推定される。
喬木の樹幹に自ら孔を穿って営巣する。	3~6	34.5×25.5%・位	純白無斑。(歐州産の標本に依る。)

番号	種 名	著 殖 地	卵 期	営 巢 環 境
158.	キ タ タ キ	対馬	4 月頃	山地の密林中。
159.	ア リ ス イ	北海道	6 月上旬 ～7 月下旬	森林、村落付近の林縁。
160.	カ ッ コ ウ	北海道・本州・四国	5 月下旬 ～8 月上旬	北海道、本州北部では平地から高山帯。本州中部以南では主として低山帯、亜高山帯の草原、灌木林等。
161.	ツ ツ ド リ	北海道・本州・四国	5 月上旬 ～6 月中旬	北海道では平地から森林限界線に至る迄、本州・四国では低山帯、亜高山帯の森林中。
162.	ホ ト ト ギ ス	北海道・本州・伊豆七島・四国・九州	6 月上旬 ～8 月下旬	北海道では主として平地に棲息するが本州では低山帯、亜高山帯の灌木林や森林中。
163.	ジュウイチ	北海道・本州・四国	5 月中旬 ～7 月中旬	低山帯、亜高山帯の森林中。
165.	ワ シ ミ ミ ズ ク	北海道	3 月頃	密林中。
166.	シ マ フ ク ロ ウ	北海道	不明（6 月 10日に雛が 採集された 事がある）	森林中。
167.	オ オ コ ノ ハ ズ ク	北海道・本州・四国・九州	5 月～6 月	平地、低山帯の森林中。
168.	コ ノ ハ ズ ク	北海道・本州	5 月～6 月	低山帯、亜高山帯の密林中。
169.	ト ラ フ ズ ク	北海道・本州	5 月頃	低山帯の森林中。
171.	ア オ バ ズ ク	北海道・本州・伊豆七島・四国・九州	5 月～6 月	平地、低山帯の森林や人家付近。
173.	フ ク ロ ウ	本州	3 月～4 月	亜高山帯、低山帯、平地の森林や人家付近の薄暗い林。
174.	ハ ヤ ブ サ	北海道・本州・伊豆七島	3 月～5 月	海岸、河川等に面した岩壁の岩罅上や窪み。

巣	一 腹 の 数	卵 の 大 き さ	卵 の 色 彩
喬木の樹幹に自ら孔を穿って営巣する。	未 発 見	不 明	未発見であるが純白無斑と推定される。
天然樹洞、キツツキ類の古巣、巣箱等に営巣。巣材は使用しない。	6~9	20×15.5%.位	純白無斑。
自ら営巣せずホオジロ、モズ、オオコシキリ等（詳細本文参照）の巣に托卵する。	普通 1 巣に 1 卵宛托卵する	23×17.5%.位	極めて変化に富み仮親の卵に似るものが多い。地色灰白色、灰紫色等で赤褐色、褐色等の条斑、斑点の散在するものが多い。
自ら営巣せずセンダイムシクイ、ウグイス等（詳細本文参照）の巣に托卵する。	普通 1 巣に 1 卵宛托卵する	20×14.5%.位	地色白色又は極めて淡い褐色にて濃淡の褐色、淡紫色の小斑が特に鈍端付近に環状に散在している。
自ら営巣せず主してのウグイス、ミソサザイ等（詳細本文参照）の巣に托卵する。	普通 1 巣に 1 卵宛托卵する	22×16%.位	ウグイスの卵に類似して濃褐赤色であるがそれより光沢が少ない。
自ら営巣せずコルリ、ルリビタキ等（詳細本文参照）の巣に托卵。	普通 1 巣に 1 卵宛托卵する	28×20%.位	淡緑青色で淡褐色の微小斑が鈍端付近に環状に散在する。
我国では未発見。	2~3	61×48.5%.位	汚白色無斑。（朝鮮産の卵に依る。）
樹洞。	不 明	未 発 見	未発見であるが汚白色無斑と推定。
天然樹洞中又は高層建物の軒裏等に営巣し巣材は使用しない。	4~5	37.5×30%.位	白色無斑。
天然樹洞中。	4~5	31.5×27%.位	白色無斑。
天然樹洞中、又はタカ類の古巣等。	4~6	43×34%.位	白色無斑。
天然樹洞、純築物の隙間、縁下、庭石の間、木材を積み重ねた間等。	2~5	36.5×31.5%.位	白色無斑。
天然樹洞、タカ類の古巣、雀の穴、神社の縁下等。	2~3	50.5×41.5%.位	白色無斑。
巣材を使用せず地上に直接産卵。	3~4	52×41.5%.位	地色淡灰褐色で赤褐色の雲状斑と小斑とが全面に散布する。

番号	種 名	蕃 殖 地	卵 期	営 巢 環 境
176.	チゴ ハヤブサ	北海道・本州北部	5月下旬 ～6月下旬	北海道では平地、山地の森林中。本州では山地の森林中。
178.	チョウゲン ボウ	本州	4月上旬 ～5月中旬	低山帯の断崖の穴、ヤマセミの古巣等。集団して営巣する事もある。他種の大形の古巣を利用する事もある。
179.	イヌワシ	本州	3月中旬 ～4月上旬	低山帯上部、亜高山帯の岩壁の岩棚上。
182.	ノスリ	北海道・本州・伊豆七島・四国	5月上旬 ～6月中旬	北海道では平地でも蕃殖するが本州では主として低山帯の森林中。
184.	クマタカ	北海道・本州・九州	4月～5月	本州では低山帯上部、亜高山帯の森林の樹枝上。
187.	オオタカ	本州	5月上旬 ～6月	低山帯、亜高山帯の森林の樹枝上。
188.	ハイタカ	北海道・本州	5月上旬 ～6月中旬	本州では低山帯の森林中の樹枝上に営巣。
189.	ツミ	本州	5月～8月	低山帯の森林中。地上6、7米の樹枝上。
190.	トビ	北海道・本州・伊豆七島・四国・九州	3月下旬 ～5月	市街地、村落付近、山麓等の高い樹枝上。
191.	オジロワシ	北海道。本州北部でも蕃殖するものがあるらしいが確証はない。	4月頃	海岸の岩壁や樹上や巨大な樹木の叉状部に営巣。
193.	ハチクマ	北海道・本州	5月下旬 ～6月下旬	北海道では平地の森林中にも蕃殖するが、本州では低山帯の森林中。
194.	サシバ	本州・伊豆七島・四国・九州	5月～6月	平地の森林の樹枝上に営巣。
196.	ミサゴ	北海道・本州・伊豆七島・四国・九州・対馬	3月～6月	海洋、湖沼等に面した絶壁や海岸、水辺に近い森林中の高い樹枝上。

果	一腹の 卵の数	卵の大きさ	卵の色彩
樹枝上に枯枝を主材として営巣し内部に青葉のついた潤葉樹の小枝を多量に敷く。	普通 3	40×31.5%.位	地色淡灰黄色で濃赤褐色の小斑全面に散布し殆ど地色を蔽うものもある。
使用せず。	4~6 稀に7, 8	39×32%.位	前種に酷似。地色淡灰黄色、灰白色等で濃赤褐色の小斑が重なり合って全面に散布し、中には殆ど地色を蔽うものもある。
樹枝を積み重ね内部に枯草、茎、青葉のついた小枝等を敷く。	1~3 普通 2	70×57%.位	地色灰白色で濃淡の赤褐色の斑点散在す。斑点は大小区々であり中には殆ど無斑に近いものもある。
樹枝上又部に枯枝を積み重ね内部に青葉のついた小枝を敷く。	2~3	55.5×44%.位	地色淡青灰色で赤褐色、灰青色の小斑や雲状斑が散布する。
高い樹枝上に小枝を積み重ね巨大な巣を作る。	1~2	71×55.5%.位	灰白色で無斑。
高い樹枝上に小枝を積み重ねて営巣。	2~4	52×40.5%.位	淡青灰色で無斑。
樹枝上に小枝を積み重ねて営巣す。	4~5	40×34%.位	淡青灰色で赤褐色の粗大斑や小斑、淡紫色の小斑が散在する。
樹枝上に小枝を積み重ね座座に青葉のついた針葉樹の小枝を敷く。	3~4	38.5×31%.位	地色灰白色で極めて淡い褐色、黄褐色の斑点散在す。殆ど斑点のないものもある。
樹枝上に小枝を積み重ね内部に紙屑、ぼろ屑、縄、獣毛等を敷く。	2~4 2~3の例が多い	58×47%.位	地色灰白色で淡赤褐色、赤褐色等の小斑が散布する。少量の条斑を有するものもある。
樹枝を積み重ねて巨大。内部に藁、枯草、樹皮、苔類等を敷く。	普通 2	69.5×55%.位	灰白色で表面粗。無斑。
樹枝上に小枝を積み重ね内部に青葉のついた小枝を敷く。	1~3 普通 2	52×43%.位	地色淡灰黄色で濃赤褐色の大小の斑紋密に散布し、斑紋が重なり合って殆ど地色の蔽われたものもある。
樹枝上に小枝を積み重ね内部に青葉のついた小枝を敷く。	2~4	48×39%.位	淡青灰色にて斑点を欠く。
岩棚上や高い樹枝上に枯枝を積み重ね内部に枯草、羽毛、古縄等を敷く。	2~3 普通 2	63×47%.位	地色灰白色、濃赤褐色の大小の斑紋と灰青色の小斑とが散在する。

番号	種 名	蕃 殖 地	卵 期	営 巢 環 境
197.	コウノトリ	本州(兵庫県)	3月～5月	丘陵、山麓等の松林。高い松の樹枝上に営巣する。
201.	ト キ	佐渡・隠岐?	4月～5月	森林中の樹枝上。
203.	ア オ サ ギ	北海道・本州・四国	4月上旬 ～5月中旬	山麓、丘陵、村落付近の森林、御陵等の高い樹枝上に集団して営巣す。
205.	チュウダイ サ ギ	本州・九州	4月下旬 ～7月	丘陵、村落付近の森林や竹藪、御陵の森等の樹枝上に他のサギ類と共に集団営巣する。
206.	チュウサギ	本州・四国	4月下旬 ～8月	同上。
207.	コ サ ギ	本州・九州	4月下旬 ～8月	同上。
209.	クロサギ	本州(中部以南)・伊豆 七島・九州	4月下旬 ～7月上旬	海洋に而した岩壁の裂目や岩棚上。
211.	アマサギ	本州(中部以西)・四国 ・九州	5月中旬 ～7月	チュウサギ、コサギ等に混り集団営巣する。
212.	ササゴイ	本州・四国・九州	5月～6月	平地の水辺に近い粗林、市街地の神社境内や公園等の樹枝上、海岸の松林等。集団営巣する事もある。
213.	ゴイサギ	本州・伊豆七島・四国 ・九州	4月下旬 ～8月	チュウサギ、コサギ等に混じて集団営巣する事もあるが本種のみ集団営巣する事もある。
214.	ミゾゴイ	本州・伊豆七島	5月～7月	丘陵、山麓、村落付近等の薄暗い密林や竹藪等の樹枝上に営巣する。
215.	ヨシゴイ	北海道・本州・四国・ 九州	5月下旬 ～8月上旬	水辺の葦、マコモ等の草原中。時には竹藪、灌木樹枝上。
216.	オ オ ヨ シ ゴ イ	北海道・本州・四国	5月下旬 ～7月	草原の地上、又は葦、マコモ等の茎の間。
217.	リュウキュ ウヨシゴイ	奄美大島・沖永良部島 ・与論島	5月下旬 ～8月	ヨシゴイに類似。

果	一腹の 卵の数	卵の大きさ	卵の色彩
枯枝を積み重ねて巨大な巣を作り内部に枯草、藁等を敷く。	2~5	77×55%・位	汚白色無斑。
樹枝、枯葉等で扁平粗雑な巣を作る。	普通 3	65.5×46.5%・位	地色緑青色で褐色の小斑全面に散布する。斑点は鈍端付近に多い。
樹枝で扁平粗雑な巣を作る。松葉、笹の根、シダ類等を混ぜず。	3~6	61×43%・位	美しい緑青色で無斑。
枯枝に少量の松葉を混じて扁平粗雑。	2~4	53.5×40.5%・位	緑青色で無斑。
枯枝で扁平粗雑な巣を作る。	3~6	49.5×34.5%・位	緑青色無斑であるが前種の卵より色淡い。
前種に酷似。	4~6	45.5×33%・位	淡緑青色無斑で前種に酷似する。
アカザ、ヨモギ等の太い枯茎を多量に使用。	4~5	44×34%・位	淡青色無斑。
コサギの巣に酷似する。	4~5	44.5×33.5%・位	コサギの卵より遙かに淡い緑青色。
枯枝を主材とし内部に枯松葉を敷く。巣は扁平粗雑である。	3~6 普通 4~5	41.5×30.5%・位	美しい緑青色でコサギの卵より濃い。
チュウサギ、コサギの巣に酷似する。	3~6	48.5×34.5%・位	淡緑青色無斑でチュウサギの卵に酷似。
枯枝、樹根等を使用して扁平粗雑な巣を作る。	3~4	47×37%・位	汚白色無斑。
葦、マコモ等の茎を折り曲げて浅い巣を作る。	5~6	33×24.5%・位	淡灰青色無斑。
枯草、茎等を使用して粗雑な巣を作る。	5~6	33×26.5%・位	汚白色無斑。
ヨシゴイの巣に酷似。	5~6	33×26.5%・位	淡灰青色無斑。

番号	種 名	蕃 殖 地	卵 期	営 巢 環 境
233.	マ ガ モ	北海道・本州・馬毛島	4月下旬 ～7月上旬	北海道では平地の水辺で多数蕃殖するが本州では亜高山帯、低山帯の水辺に局地的に蕃殖。
234.	カルガモ	北海道・本州・四国・九州・喜界島	4月～ 7月上旬	水辺の叢、竹藪等。
235.	オ カ ヨ シ ガ モ	北海道? (清棲幸保氏によれば阿寒湖で少数蕃殖するらしい。)	不 明	水辺の叢中。
236.	コ ガ モ	北海道・本州	5月～7月	北海道では平地の水辺、本州では高山湖の水辺の叢中。
238.	ヨ シ ガ モ	北海道	6月～7月	水辺の叢中。
243.	ハ シ ビ ロ ガ モ	北海道 (下湧別にて雛を観察。)	6月頃	水辺の叢中。
244.	オ シ ド リ	北海道・本州・九州	5月～7月	低山帯や平地の水辺に近い喬木の樹洞中に営巣する。
248.	キンクロ ハ ジ ロ	北海道	6, 7月頃	水辺の叢中。
254.	クロガモ	北海道 (阿寒湖には少数蕃殖する。)	6月頃	水辺の叢中。
257.	ミコアイサ	北海道 (天塩郡にて雛)	6月頃	水辺の叢中 (我国では未発見)
258.	ウミアイサ	北海道 (少数)	清棲氏 7月 下旬雛を観察	湖水や河川の中の小島の叢林中。木の根元や叢林中にある窪地に営巣する。
259.	カワアイサ	北海道 (少数)	5月～6月	樹洞又は水辺の叢林中。
260.	カ ワ ウ	本州	12月～6月	御陵、禁猟区等の森林の樹枝上に集団蕃殖する。
261.	ウ ミ ウ	北海道・本州北部	5月～8月	海洋に面した岩壁の岩棚上に集団蕃殖。
262.	ヒ メ ウ	北海道・本州 (青森県)	6, 7月頃	海岸の岩壁、岩礁上に集団で蕃殖する。
263.	チシマウガラス	北海道 (ユルリ島・モユルリ島)	5月～7月	海岸の岩壁に集団で営巣
266.	カツオドリ	伊豆七島 (須美寿島・御蔵島・蘭舞波島)	5, 6月	海洋に面した岩壁の岩棚上、岩礁上、草の粗生する傾斜地に集団で蕃殖。
270.	コ シ ジ ロ ウ ミ ツ バ メ	北海道 (大黒島)	6月下旬 ～8月上旬	孤島の海洋に面した草や灌木の粗生する傾斜地に集団蕃殖し、地下に横穴を穿って巣とする。

巢	一腹の 卵数	卵の大きさ	卵の色彩
水辺の藁、笹原中に枯葉、細い枯枝等を主材として築巣し内部に自分の綿羽を厚く敷く。	6~12	57×41%.位	淡緑褐色で無斑。
草、笹の葉等を主材とし内部に自分の胸や腹の綿羽を厚く敷く事がある。	8~12	56×43%.位	淡黄白色、極めて淡い褐色、淡い暗緑色のもの等がある。無斑。
我国では巣と卵とはまだ発見された事はない。	8~12	54.5×39%.位	淡黄褐色無斑。(欧州産の標本に依る。)
藁中に笹葉、枯草、茎等を敷き内部には自分の胸、腹の綿羽を多量に敷く。	8~10	46×33.5%.位	淡灰黄色で無斑。
枯草や茎を主材として内部に綿羽を敷く。	6~10	56×39%.位	淡褐黄色無斑。
我国では巣と卵とは未発見。	8~12	52×37%.位	淡褐黄色、淡灰緑色で無斑。(欧州産標本に依る。)
樹洞の底に枯草と綿羽とを敷く。	7~12	52.5×37%.位	淡褐黄色無斑。
枯草や茎を主材とし内部に綿羽を敷く。	8~10	55.5×42%.位	淡灰緑色無斑。
我国では巣と卵とは未発見。	5~7	65.5×45%.位	クリーム色無斑。(欧州産標本に依る。)
我国では巣と卵とは未発見。	6~9	52.5×37.5%.位	クリーム色無斑(欧州産標本に依る。)
我国では巣と卵とはまだ発見されていない。	7~12	65.5×45%.位	淡い緑褐色。(欧州産標本に依る。)
我国では巣と卵とはまだ発見されていない。	7~13	66×46%.位(欧州産の近似亜種)	欧州産の近似亜種のものは淡灰黄色。
枯枝を主材とし内部に枯草を敷く。	3~6	62×40%.位	淡青色で表面の大部分は白色石灰質で被われる。
枯草、海草等を敷く。	4~5	63.5×40%.位	カワウの卵に類似。
枯草、海草等を使用し内部に羽毛等を敷く。	2~5 普通3	57.5×36.5%.位	カワウの卵に類似。
ヒメウの巣に似る。	3~4	58×37.5%.位	カワウの卵に類似。
海草、枯草等を巣材に使用する。	1	63×42%.位	淡緑青色無斑で表面の大部分は白色石灰質で被われている。
孔の奥に枯草、羽毛等を少量敷く。	1	33×24%.位	汚白色。極めて淡い紫褐色微小斑が鈍端付近に環状に散布するものもある。

番号	種 名	蕃 殖 地	卵 期	営 巢 環 境
271.	クロコシジロ ウミツバメ	本州北部	7月～8月	孤島の原生林中に集団蕃殖する。地下に横穴を穿って巣とする。
272.	ヒメクロ ウミツバメ	本州北部・九州北部	7月～8月	前種に類似。オオミズナギドリのお巣を利用する事もある。
273.	オーストン ウミツバメ	伊豆七島（鳥島、神津島）	12月下旬 ～2月	孤島の傾斜した草原の地下に孔を穿つ。
276.	オオミズナ ギドリ	北海道・本州・伊豆七島・四国・九州	6月～7月	集団して孤島で蕃殖する。草や灌木の密生地、原生林等の傾斜地の地下に横穴を穿って巣とする。
285.	アホウドリ	伊豆七島（鳥島）	11月～12月	島嶼の荒地に集団蕃殖する。
286.	コアホウド ドリ	伊豆七島（鳥島）	12月～2月	島嶼の地上に営巣する。
287.	クロアシ アホウドリ	伊豆七島（鳥島） （近年渡来せず）	11月～12月	島嶼の岩上、荒地に集団蕃殖する。
289.	アカエリ カイツブリ	北海道	6月 ～8月上旬	池辺、湖水等の周辺の水辺植物の密生地の中。
292.	カイツブリ	北海道・本州・四国・九州	3月～10月 （普通5月 ～7月）	池沼、河川等の水辺植物の密生地の中や広潤な池沼の中央部等に浮巣を作る。
296.	カラスバト	伊豆七島・隠岐・九州 ・対馬・奄美大島	2月～9月	密林中の樹枝上や樹洞中に営巣する。
297.	キジバト	北海道・本州・伊豆七島・四国・九州	4月～7月 稀に10月に 及ぶものあり。	北海道では平地の森林に多い。本州では低山帯の森林中で蕃殖するものが多いが亜高山帯、平地にも蕃殖する。
298.	シラコバト	本州（関東平野）	3月～7月	人家付近の松、杉、竹藪等の樹枝上。
300.	アオバト	北海道・本州・四国・九州	6月頃	北海道では平地、山地の森林中に棲息するが本州・四国では主として低山帯の密林中に営巣。

巢	一腹の 卵の数	卵の大きさ	卵の色彩
孔の奥に少量の枯草を敷く。	1	34×24% .位	前種に類似。
前種に類似。	1	32×24% .位	前種に類似。
前種に類似。	1	41×30% .位	汚白色で鈍端付近に淡赤褐色、淡紫褐色の微小斑散在。
孔の奥には枯草を敷いて産座とする。	1	68×45% .位	白色無斑。
地上の窪地に直接産卵し巢材は使用しない。	1	119×74.5% .位	地色汚白色、淡黄褐色を帯びた汚白色で暗褐色の大小の斑点が主として鈍端付近に散在す。
地上に枯草を積み上げて大きな巣を作る。	1	101×68% .位	地色淡黄褐色を帯びた汚白色で、褐色小斑鈍端付近に環状に集結している。
地上の窪地に直接産卵して巢材は使用しない。	1	107.5×70% .位	地色淡褐色を帯びた汚白色で、褐色の微小斑鈍端付近に密在する。アホウドリの卵より斑点粗大である。
水辺植物の葉や茎、藻類等を水面上に積み上げて浮巣を作る。	3~6	54×36% .位	新鮮なものは淡灰青色であるが水垢の為に表面赤褐色、汚褐色等になる。
水辺植物の葉や茎、藻類等を水面上に積み上げて浮巣を作る。	2~6	37×25% .位	新鮮なものは白色、淡黄褐色であるが水垢の為に褐色、赤褐色等になるものがある。
樹枝を組み合わせ扁平、粗雑な巣を作る。	1	42×30.5% .位	純白無斑。
樹枝上、竹藪等に枯枝で扁平、粗雑な巣を作る。	2	33×25.5% .位	純白無斑。
枯枝を組み合わせ扁平粗雑。	2	33×23.5% .位	純白無斑。
樹枝上に枯枝で扁平、粗雑な巣を作る。	2	32×24.5% .位	純白無斑。



番号	種 名	蕃 殖 地	卵 期	営 巢 環 境
301.	リュウキュウ ズ ア カ ア オ バト	屋久島・奄美大島・沖 永良部島・徳之島	5月頃	森林中の樹枝上に営巢。
307.	イ ソ シ ギ	北海道・本州	4月下旬 ～6月下旬	北海道、本州北部では平地。本州中部では低山地の河原や湖畔の砂礫地。水辺の草地等に営巢する
337.	ヤ マ シ ギ	北海道・本州・伊豆七 島・四国	4月上旬 ～6月下旬	北海道では平地から亜高山帯迄。本州では主として低山帯で蕃殖す。森林、灌木叢林の地上に営巢する。
340.	オ オ ジ シ ギ	北海道・本州（中部以 北）	4月下旬 ～6月中旬	北海道では平地の草原、本州中部では高原に蕃殖す。
344.	タ マ シ ギ	本州（中部以南）四国 ・九州	4月～7月 稀に10月に 及ぶ。	水田、沼沢地、池畔、運 沼等。
350.	シ ロ チ ド リ	北海道・本州・九州	3月下旬 ～7月下旬	海岸、河口の砂礫地、河 川の中流以下の河原や河 洲。
352.	コ チ ド リ	北海道・本州・四国	4月～7月	海岸、河口の砂礫地、水 田、池沼、河川、湖畔の 砂礫地や草の粗生地。
353.	イ カ ル リ	本州・四国	3月下旬 ～7月上旬	河川の中流以上の河原や 河洲の砂礫地や草の粗生 地。
366.	ケ リ	本州（局地的）	3月下旬 ～6月	広い河原の草地、山麓の 草原等の草間又は畑地に 営巢する。
363.	オ オ ア ジ サ シ	徳之島	5月～6月	海岸の砂地、岩礁上等に 集団して蕃殖する。
365.	ベ ニ ア ジ サ シ	奄美大島・徳之島・与 論島	6,7月頃	海岸に近い岩礁上に集団 して営巢す。
367.	コ ア ジ サ シ	本州・四国・九州	5月～7月	海岸、河畔、湖畔、池 畔、河洲等の砂礫地に集 団、又は単独にて営巢 す。
370.	エ リ ゲ ロ ア ジ サ シ	馬毛島・奄美大島・徳 之島	6月頃	海岸に近い岩礁上に集団 して営巢する。

巣	一腹の 卵の数	卵の大きさ	卵の彩色
キジバトの巣に類似。	2	31.5×24.5%.位	純白無斑。
灌木や草の根元の窪みに枯草、枯葉等を敷く。	3~4 普通 4	35×25.5%.位	地色淡褐黄色、乳白色等で暗褐色、紫褐色、灰褐色、灰紫色等の大小の斑点散在する。斑点は鈍端付近に多い。
灌木や喬木の根元の窪みに枯草、枯葉等を敷く。	3~4 普通 4	42×33.5%.位	地色帯褐灰白色、灰白色、帯黄乳白色等で淡褐色、灰色等の大小の斑点が全面に散布する。斑点は鈍端付近に多い。
灌木や草の根元の窪みに枯草、枯葉等を敷く。	3~4 普通 4	42×31.5%.位	地色灰褐色、褐黄色等で暗褐色、灰色、淡褐紫色等の斑点散在し、又暗褐色の条斑のあるものも稀でない。
水田中の小高い土の上、稲株の間、藁等の窪みに枯草を敷き粗雑。	3~5	40×25.5%.位	地色黄灰色で褐黒色の顯著な粗大斑と淡紫色の斑点とが全面に散布する。
僅かに窪みを作り貝殻の小破片、小木片、小石等を敷く。	普通 3 稀に 4	32.5×24%.位	地色淡褐黄色で暗褐色の小斑や条斑、灰色の小斑が散在する。
地上に僅かに窪地を作り果材を使用せぬものと僅かに枯草、小木片等を敷くものがある。	3~4 稀に 5	29.5×22%.位	地色淡黄褐色で褐色、黒褐色、灰色等の微小斑が全面に散布する。
地上に窪地を作り少量の小木片、枯草等を敷く。	3~4 普通 4	36×26%.位	地色は青味を帯びた淡褐黄色で淡褐色と灰青色との微小斑が全面に散布する。
地上に窪地を作り枯草、枯葉、藁類、小木片等を敷く。	3~4 普通 4	48×32.5%.位	地色灰褐色、灰緑色等で暗褐色、褐黒色、灰青色等の斑点が全面に散布する。
果材は使用しない。	1~2 普通 2	58.5×42%.位	地色淡黄褐色、灰白色、淡灰青色等で黒褐色、紫褐色、赤褐色、灰青色等の大小の斑点や斑紋が散在する。
果材は使用しない。	1~2	39×33%.位	地色灰黄色で暗褐色、青灰色、暗紫色等の斑点散在する。
地上に窪地を作り直接産卵し果材を用いず。	2~3	32.5×24.5%.位	地色青灰白色で紫褐色、暗褐色、暗紫色等の斑点散在する。
岩上の凹所に直接産卵し果材を使用しない。	1~3	39×28%.位	地色灰白色で暗紫色、暗褐色の斑点全面に散布する。

番号	種 名	蕃 殖 地	卵 期	営 巢 環 境
376.	オオセグロ カモメ	北海道	5月～7月	海に面した草原、絶壁の岩棚上や岩礁上に集団営巣する。
378.	ウミネコ	北海道・本州・伊豆七島（八丈島付近）	4月～6月	島嶼の草原、岩壁、岩礁上等に集団して営巣する。
388.	ウミガラス	北海道	6月～8月	島嶼や岩礁上。海に面した岩壁の岩棚上に大集団にて蕃殖する。
391.	ケイマフリ	北海道・本州北部	6月～7月	海に面した岩壁や岩礁の隙間に営巣する。
393.	ウミスズメ	北海道（天売島）	6月頃	海に面した岩壁の岩の間や地中の穴。
394.	カンムリ ウミスズメ	本州（伊豆半島の神子元島）伊豆七島	3月～5月	島嶼、海岸の岩礁に集団して蕃殖する。
399.	ウトウ	北海道・本州北部	4月上旬 ～6月	島嶼の台地や斜面の草地に孔を穿ってその奥に営巣する。集団して蕃殖。
400.	エトビリカ	北海道（大黒島、知床岬）	6月～7月	前種に類似。前種に混じって集団して蕃殖する事もある。
405.	タンチョウ	北海道	6月頃	広大な沼沢地の中。
410.	クイナ	北海道	6月～7月	水辺、沼沢地の叢中。
411.	ヒメクイナ	北海道・本州中北部	6月～8月	水辺、沼沢地の叢中。
413.	ヒクイナ	北海道・本州・四国・九州	5月上旬 ～9月	水田の稲株の間や水辺、沼沢地の叢中。水辺から遠い草原に営巣する事もある。
415.	バン	北海道・本州・四国・九州・奄美大島	5月中旬 ～8月	水辺、沼沢地の草、マコモの中や水田、藺の叢等。
416.	ツルクイナ	九州（佐賀県よりただ1例知られる。）	8月	水辺、沼沢地等の叢中、稲田等。

果	一 腹 の 数 卵 数	卵 の 大 き さ	卵 の 色 彩
枯草, 枯茎, 海藻, 羽毛等を積み扁平粗雑。	2~4 普通 3~4	63×53.5%.位	地色暗緑色, 灰褐色等で暗褐色, 濃淡の灰青色の斑点, 斑紋条斑散布す。
枯草, 枯茎, 海藻, 羽毛等を敷き扁平粗雑。	2~3 稀に 4	65.5×46%.位	地色暗緑色, 灰褐色等変化あり暗褐色や濃淡の灰青色の斑点, 斑紋, 条斑等散布す。稀に淡青色無斑のものあり。
岩上に直接産卵し巢材を使用しない。	1	82.5×52%.位	色彩著しく変化に富む。地色灰白色, 黄白色, 灰青色, 青色, 青緑色等で褐色, 黒褐色, 赤褐色, 黄褐色, 暗緑色等の大小の斑点や条斑が散在して美麗。
岩や小石の上に直接産卵し巢材を使用せず。	普通 2	64×43%.位	地色淡緑青色褐色で, 黒褐色, 灰青色の粗大斑や小斑が全面に散布。
少量の枯草を敷く。	2	59×38%.位	地色淡褐色, 灰白色等変化により, 褐色や灰紫色の小さい斑点が全面に散布している。
岩礁の間隙, 草地にある孔の奥等に枯草を敷いて産卵する。	1~2	54×35%.位	地色灰白色, 淡赤褐色, 灰青色淡褐色等で赤褐色, 黒褐色, 灰青色等の小斑点が全面に散る。
孔の奥に少量の枯葉, 枯茎等を敷く。	1	70×48%.位	地色汚白色で淡灰青色と淡褐色との少量の小斑と条斑とが散在す。なかには殆ど無斑のものもある。
前種に類似。	1	73×49%.位	地色汚白色。淡灰青色と淡褐色との少量の小斑と条斑とが散在する。
枯枝, 藎の茎, 葉等を多量に積み重ねて営巣する。	2	100×64%.位	地色汚白色, 淡黄褐色等で褐色, 灰青色等の斑点が散布する。
草の株を折り曲げその上に枯草の葉や茎を積み上げて産卵とする。	6~7	36.5×27%.位	地色淡黄褐色で褐色, 紫褐色, 灰青色等の小斑全面に散布する。
前種に類似。	6~8	29×21%.位	地色黄褐色乃至緑褐色で黒褐色の雲状斑が全面に散布する。
前種に類似。	5~9 普通 8	32×24%.位	地色灰白色, 淡黄褐色等で赤褐色, 淡紫褐色, 灰青色等の小斑が全面に散布。
浅い水中に枯茎, 枯葉等を積み重ねる。	普通 5~10 15の例もある	41×29.5%.位	地色淡黄褐色, 灰緑褐色等で濃淡の褐色, 暗紫色等の小斑が全面に散布す。
藎間に水辺植物の茎や葉を積み上げて産卵とする。	4	43.5×32.5%.位	地色帯褐灰白色で赤褐色の顕著な斑点全面に散布する他, 灰青色の少量の小斑がある。

番号	種 名	蕃 殖 地	卵 期	営 果 環 境
417.	オ オ バ ン	北海道・本州中部以北	5 月～7 月	水辺、沼沢地の藁やマコモの叢中。
418.	ミフウズラ	奄美大島・喜界島・沖永良部島・徳之島	5 月頃	草原、農耕地等。
419.	ライチョウ	本州中部の高山	5 月下旬 ～7 月上旬	標高2,400 米以上の高山帯のハイマツ林中。
420.	エ ゾ ライチョウ	北海道	5 月～6 月	森林中の喬木の根元や倒木の下等。
421.	ウ ズ ラ	北海道・本州・対馬	5 月～10 月	平地、低山帯の草原中の叢の根元。
422.	コジュケイ	本州・伊豆七島(大島、三宅島)・四国・九州	5 月～6 月	低山帯以下の草原、灌木林、市街地の公園や庭園等に営巣。
423.	コウ ラ イ キ ジ	北海道・本州・九州・対馬	5 月～6 月	キジに酷似。
424.	キ ジ	本州(中西部)・四国	4 月～7 月	低山帯以下の草原、灌木叢林、農耕地等。
425.	ヤマドリ	本州(北緯35°10'以北)	4 月～6 月	主として亜高山帯下部、低山帯の森林中で繁殖するが、それ以下に及ぶ事もある。

巢	一腹の 卵の数	卵の大きさ	卵の色彩
パンの巣に酷似。	6~12	51.5×33.5%.位	地色黄灰色で暗褐色、灰青色の微小斑全面に散布する。
地上に皿形の窪みを作り少量の枯草を敷く。	2~4 普通 3~4	25×20%.位	地色淡黄灰色であるが黄褐色の微小斑全面に密に散布して殆ど地色を蔽い、更に黒褐色の稍粗大斑が鈍端近くに散布する。
ハイマツの根元に窪みを作りハイマツの枯葉其他高山植物を敷く。	5~10	47×31.5%.位	地色淡黄灰色で黒褐色の斑点密に全面に散布する。
地上の窪みに枯葉、苔、羽毛等を敷く。	6~10	40×28.5%.位	地色稍褐色を帯びた橙黄色で、赤褐色の小斑点全面に散布する。
地上の窪みに小量の枯草を敷き粗雑。	普通 7~8	30×23.5%.位	地色淡灰黄色で濃褐色の斑点、小斑が全面に一樣に散布している。
地上に窪地を作り産座に枯草を敷く。	7~8	33×27%.位	淡黄褐色無斑。中に淡褐色微小斑のあるものもある。
キジに酷似。	6~10 普通 7~9	42×34%.位	褐色を帯びた緑灰色乃至淡緑褐色で無斑。
地上に窪地を作り産座に枯草、枯葉等を敷く。	6~12 普通 7~9	43×33.5%.位	褐色を帯びた緑灰色乃至淡緑褐色で無斑。
樹木の根元の窪地、土手の窪地等に落葉、枯草、羽毛等を敷いて産座とする。	7~10 普通 7, 8	47.5×35%.位	淡褐黄色無斑。

索

引

数字の太字は原色図版番号を示し、斜体数字は収録した種の一連番号を示す。
また、種名の細字は原色図のないもので、*印は解説記載の頁を示している。

ア

	(図版) (番号)
アオアシシギ	46—311
アオゲラ	21—151
アオサギ	29—203
アオジ	6—41
アオシギ	51—338
アオバズク	24—171
アオバト	44—300
アカアシアジサシ	*124
アカアシシギ	46—309
アカアシミズナギドリ	41—277
アカウソ	*7
アカエリカイツブリ	43—289
アカエリヒレアシシギ	45—303
アカオネツタイチョウ	39—267
アカガシラサギ	30—210
アカゲラ	21—152
アカコッコ	16—117
アカショウビン	20—149
アカツクシガモ	34—230
アカハジロ	36—247
アカハラ	16—116
アカハラツバメ	*42
アカヒゲ	17—126
アカマシコ	4—25
アカモズ	11—83
アカヤマドリ	*142
アジサシ	56—364
アシナガコシジロウミツバメ	40—269
アトリ	4—30

アナドリ	42—283
アネハヅル	62—409
アビ	43—295
アホウドリ	42—285
アマサギ	30—211
アマミコゲラ	*50
アマミシジュウカラ	*21
アマミヒヨドリ	*26
アマミヤマガラ	*22
アマミヤマシギ	51*114
アメリカウズラシギ	50—331
アメリカヒドリ	35—240
アリスイ	22—159

イ

イイジマウグイス	*30
イイジマムシクイ	13—*III*29
イイジマホオジロ	*12
イイジマメジロ	*20
イカル	3—18
イカルチドリ	54—353
イスカ	4—28
イソシギ	46—307
イソヒヨドリ	16—119
イナバヒタキ	17—120
イヌワシ	26—179
イワツバメ	18—138
イワヒバリ	18—130
イワミセキレイ	9—66

ウ

ウグイス	13—98
ウスアカヤマドリ	64—*142
ウズラ	64—421
ウズラシギ	50—330
ウソ	4—24
ウチャマシマセンニュウ	14—*31
ウトウ	61—399
ウミアイサイ	38—258
ウミウ	38—261
ウミオウム	61—398
ウミガラス	60—388
ウミスズメ	60—393
ウミネコ	58—378
ウミバト	60—390

エ

エゾアカゲラ	48—*48
エゾオオアカゲラ	49—*49
エゾカヤクグリ	40—*40
エゾコゲラ	49—*49
エゾセンニュウ	14—101
エゾビタキ	12—90
エゾヒヨドリ	26—*26
エゾフクロウ	57—*57
エゾミユビゲラ	21—156
エゾムシクイ	13—95
エゾメジロ	20—*20
エゾヤマセミ	46—*46
エゾライチョウ	64—420
エッサイ	27—189
エトビリカ	61—400
エトロフウミスズメ	61—395
エナガ	10—75
エリグロアジサシ	57—370
エリマキシギ	50—332

オ

オオアカゲラ	21—153
オオアカハラ	*35
オオアジサシ	56—363

オオカラモズ	11—80
オオカワアイサ	*86
オオカワラヒワ	*6
オオグンカンドリ	*Ⅲ
オオコノハズク	24—167
オオジシギ	52—340
オオジュリン	7—50
オオセグロカモメ	58—376
オオセッカ	13—100
オオソリハシシギ	47—316
オオタカ	27—187
オオチドリ	54—354
オオトウゾクカモメ	59—384
オオトラツグミ	*33
オオノゴマ	*38
オオノスリ	26—181
オオハクチョウ	32—219
オオハシシギ	47—314
オオハム	43—294
オオハヤブサ	*58
オオバン	63—417
オオヒシクイ	*75
オオヒバリ	*15
オオホシハジロ	36—246
オオマシコ	4—26
オオミズナギドリ	41—276
オオムシクイ	*29
オオメダイチドリ	53—348
オオモズ	11—79
オオヨシキリ	14—106
オオヨシゴイ	31—216
オオルリ	12—94
オオワシ	28—192
オカヨシガモ	34—235
オガワコマドリ	18—127
オガワミソサザイ	*41
オグロシギ	47—315

オシドリ	36—244
オジロトウネン	49—329
オジロワシ	28—191
オーストンミツバメ	40—273
オーストンオオカゲラ	21—*49
オーストンヤマガラ	10—*21
オナガ	1—7
オナガガモ	35—241
オナガミズナギドリ	41—278
オバシギ	49—324

カ

カイツブリ	43—292
カケス	2—9
カゴシマアオゲラ	* 48
カゴシマシジュウカラ	* 21
カゴシマヒバリ	* 15
カゴシマヤマガラ	* 22
カササギ	1—6
カシラダカ	7—45
カタジロワシ	26—180
カツオドリ	39—266
カッコウ	22—160
カモメ	58—377
カヤクグリ	18—132
カラアカハラ	15—113
カラシラサギ	30—208
カラスバト	44—296
カラフトアオアシシギ	47—312
カラフトウグイス	* 30
カラフトカワラヒワ	* 6
カラフトコガラ	* 22
カラフトコヒバリ	8—54
カラフトシメ	* 5
カラフトスズメ	* 5
カラフトチュウヒバリ	* 15
カラフトビンズイ	* 16
カラフトワシ	* III
カラムクドリ	2—13

ガランチョウ	39—265
カリガネ	33—225
カルガモ	34—234
カワアイサ	38—259
カワウ	38—260
カワガラス	18—134
カワセミ	20—147
カンムリウミスズメ	60—394
カンムリカイツブリ	43—288
カンムリツクシガモ	34—231

キ

キアオジ	5—35
キアシシギ	45—306
キガシラシトド	5—34
キクイタダキ	10—77
キジ	64—424
キジバト	44—297
キセキレイ	9—64
キタアマツバメ	* 44
キタキジ	* 141
キタキバシリ	* 20
キタシベリアジュリン	* III
キタタキ	22—158
キタトラツグミ	* 33
キバシリ	9—68
キビタキ	12—93
キユウシュウエナガ	* 23
キユウシュウキジ	* 141
キユウシュウコゲラ	* 50
キユウシュウゴジュウカラ	* 21
キユウシュウフクロウ	* 57
キョウジョシギ	55—359
キリアイ	50—333
キレンジャク	11—84
キンクロハジロ	37—248
ギンザンマシコ	4—27
キンメフクロウ	24—172

ク

クイナ	63—410
-----	--------

クサシギ	45—304
クビワカモメ	58—373
クビワコウテンシ	8—53
クマゲラ	22—157
クマタカ	26—184
クロアシアホウドリ	42—287
クロアジサシ	57—371
クロウミツバメ	40—274
クロガモ	37—254
クロコシジロウミツバメ	40—271
クロサギ	30—209
クロジ	7—47
クロツグミ	15—111
クロツラヘラサギ	29—200
クロツル	62—404
クロトウゾクカモメ	59—386
クロトキ	29—202
クロハラアジサシ	56—362
ゲンカンドリ	39—264

ケ

ケアシノスリ	26—183
ケイマフリ	60—391
ケリ	54—356

コ

コアオアシシギ	46—310
コアカゲラ	21—154
コアジサシ	57—369
コアホウドリ	42—286
コイカル	3—19
ゴイサギ	31—213
コウノトリ	29—197
コウミスズメ	61—397
コウライウグイス	2—14
コウライキジ	64—423
コオバシギ	49—323
コオリガモ	37—252

コガモ	35—236
コガラ	10—72
コカワラヒワ	3—20
コクガン	33—228
コクマルガラス	1—5
コゲラ	21—155
コケワタガモ	38—256
コサギ	30—207
コサメビタキ	12—89
コシアカツバメ	18—137
コシギ	52—343
コシジロアジサシ	56—366
コシジロウミツバメ	40—270
コシジロオオソリハシシギ	*106
コシジロヤマドリ	64—*142
コシャクシギ	48—322
ゴジュウカラ	10—69
コジュケイ	64—422
コジュリン	7—49
コチドリ	54—352
コチョウゲンボウ	25—177
コノハズク	24—168
コノリ	27—188
コバシチドリ	53—347
コブハクチョウ	32—221
コベニヒワ	*6
コホオアカ	7—46
コマドリ	17—125
ゴマフスズメ	5—32
コミミズク	24—170
コムクドリ	2—12
コムシクイ	13—*29
コモンシギ	51—335
コヨシキリ	14—107
コルリ	18—129

サ

サカツラガン	32—222
--------	--------

ササゴイ	31—212
サシバ	28—194
サドカケス	* 3
サメイロコノハズク	* 55
サメビタキ	12— 91
サルハマシギ	49—325
サンカノゴイ	31—218
サンコウチョウ	12— 88
サンショウクイ	12— 87

シ

シコクキバシリ	* 20
シコクコゲラ	* 50
シコクヤマドリ	* 142
シジュウカラ	10— 70
シジュウカラガン	33—229
シチトウメジロ	* 20
シノリガモ	38—255
シベリアアオジ	* 11
シベリアオオモズ	* 24
シベリアジュリン	* Ⅲ
シベリアセンニュウ	14—130
シベリアハヤブサ	* 58
シマアオジ	6—39
シマアジ	36—242
シマエナガ	10—* 23
シマキジ	* 141
シマクイナ	63—412
シマゴマ	18—128
シマセンニュウ	14—102
シマノジコ	5— 38
シマハヤブサ	* 58
シマフクロウ	23—166
シマメジロ	* 20
シメ	3— 17
ジュウイチ	22—163
ショウドウツバメ	18—139
ジョウビタキ	17—123
シラオネツタイチョウ	39—268
シラガホオジロ	5— 36

シラコバト	44—298
シラヒゲウミスズメ	61—396
シロアジサシ	57—372
シロエリオオハム	* 98
シロカモメ	58—380
シロチドリ	54—350
シロハヤブサ	25—175
シロハラ	15—114
シロハラクイナ	63—414
シロハラゴジュウカラ	* 21
シロハラチュウシャクシギ	48—319
シロハラトウゾクカモメ	59—387
シロハラホオジロ	7— 48
シロハラミズナギドリ	41—282
シロフクロウ	23—164

ス

スインホーガラ	10— 76
ズグロカモメ	59—382
ズグロチャキンチョウ	5— 37
スズガモ	37—249
スズメ	3— 15

セ

セイタカシギ	55—358
セグロアジサシ	57—368
セグロカモメ	58—375
セグロセキレイ	9— 63
セジロタヒバリ	8— 59
セッカ	14—108
センダイムシクイ	13— 97

ソ

ゾウゲカモメ	59—383
ソデグロツル	62—408
ソリハシシギ	47—313

タ

ダイサギ	*	69
タイシャクシギ		48—317
ダイゼン		53—345
タカブシギ		45—305
タゲリ		54—355
タシギ		52—339
タネアオゲラ	*	48
タネコマドリ	*	38
タネヤマガラ	*	22
タヒバリ		8—61
タマシギ		52—344
タンチョウ		62—405

チ

チゴハヤブサ		25—176
チゴモズ		11—82
チシマウガラス		38—263
チシマウソ	*	7
チシマウミバト	*	131
チシマシメ	*	5
チュウサギ		30—206
チュウジシギ		52—341
チュウシャクシギ		48—320
チュウダイサギ		30—205
チュウヒ		27—185
チョウゲンボウ		25—178
チョウセンアオバズク	*	57
チョウセンエナガ	*	23
チョウセンオオタカ	*	63
チョウセンカワラヒワ	*	6
チョウセンサンショウクイ	*	27
チョウセンハシブトガラス	*	1
チョウセンミソサザイ	*	41
チョウセンヤブサメ	*	30

ツ

ツクシガモ		34—232
ツグミ		16—118
ツシマカケス	*	3
ツシマコゲラ	*	50
ツシマヒガラ	*	22

ツシマミソサザイ	*	41
ツシマヤマガラ	*	22
ツツドリ		22—161
ツノメドリ		61—401
ツバメ		18—135
ツバメチドリ		55—360
ツミ		27—189
ツメナガセキレイ	*	19
ツメナガホオジロ		7—51
ツルクイナ		63—416

テ

テツケイ	*	140
------	--------	-----

ト

トウゾクカモメ		59—385
トウネン		49—327
トキ		29—201
トビ		27—190
トモエガモ		35—237
トラツグミ		15—109
トラフズク		24—169
トリシマウゲイス	*	30

ナ

ナキイスカ		4—29
ナベコウ		29—198
ナベツル		62—406
ナミエオオアケゲラ	*	49
ナミエヤマガラ	*	21

ニ

ニューナイスズメ		3—16
----------	-------	------

ノ

ノガン		62—402
ノゴマ		17—124
ノジコ		6—42
ノスリ		26—182
ノビタキ		17—121
ノミゾツグミ(仮称)	*	Ⅲ

ハ

ハイロウミツバメ	40—275
ハイロガン	32—223
ハイロチュウヒ	27—186
ハイロハイタカ	* 64
ハイロヒレアシギ	45—302
ハイロミズナギドリ	41—280
ハイタカ	27—188
ハギマシコ	5—31
ハクガン	33—227
ハクセキレイ	9—62
ハクチョウ	32—220
ハゲワシ	28—195
ハシジロアビ	43—293
ハシナガホシガラス	* 3
ハシビロガモ	36—243
ハシブトウミガラス	60—389
ハシブトオオヨシキリ	14—105
ハシブトガラス	1—2
ハシボソガラス	1—3
ハシボソシロチドリ	* 119
ハシボソミズナギドリ	41—281
ハジロカイツブリ	43—291
ハジロクロハラアジサシ	56—361
ハジロコチドリ	54—351
ハチクマ	28—193
ハチジョウツグミ	16—*36
ハチジョウヒヨドリ	* 26
ハマシギ	49—326
ハマヒバリ	8—56
ハヤブサ	25—174
ハリオアマツバメ	18—142
ハリオシギ	52—342
ハリモモチュウシャク	48—321
バ ン	63—415

ヒ

ヒガラ	10—74
ヒクイナ	63—413

ヒゲガラ	10—78
ヒシクイ	33—226
ヒドリガモ	35—239
ヒバリ	8—55
ヒバリシギ	49—323
ヒメウ	38—262
ヒメウズラシギ	* III
ヒメクイナ	63—411
ヒメクロウミツバメ	40—272
ヒメシヅクカラガン	* 76
ヒメシロハラミズナギドリ	* III *94
ヒメノガン	62—403
ヒメハジロ	37—251
ヒュウガカケス	* 3
ヒヨドリ	11—86
ヒレンジャク	11—85
ビロードキンクロ	37—253
ビンズイ	8—58

フ

フクロウ	24—173
フッポウソウ	20—145
フルマカモメ	42—284

ヘ

ベニアジサシ	56—365
ベニバト	14—299
ベニバラウソ	4—*7
ベニヒワ	3—22
ベニマシコ	4—23
ヘラサギ	29—199
ヘラシギ	51—334
ヘンソンハシブトガラ	10—73

ホ

ホウロクシギ	48—318
ホオアカ	6—44
ホオジロ	6—43
ホオジロガモ	37—250
ホオジロハクセキレイ	9—* 18

ホシガラス	2— 8
ホシハジロ	36—245
ホトトギス	22—162

マ

マ ガ モ	34—233
マ ガ ン	33—224
マキノセンニュウ	14—104
マダラウミスズメ	60—392
マナヅル	62—407
マ ヒ ワ	3— 21
マミジロ	15—110
マミジロアジサシ	57—367
マミジロキビタキ	* 28
マミジロタヒバリ	8— 57
マミジロツメナガセキレイ	9— 65
マミチャジナイ	16—115

ミ

ミコアイサ	38—257
ミ サ ゴ	28—196
ミズナギドリ	41—279
ミゾゴイ	31—214
ミソサザイ	18—133
ミツユビカモメ	58—374
ミフウズラ	64—418
ミミカイツブリ	43—290
ミヤケコゲラ	* 49
ミヤコドリ	55—357
ミヤマカケス	2—* 3
ミヤマガラス	1— 4
ミヤマシトド	5— 33
ミヤマホオジロ	6— 40
ミユビシギ	51—336

ム

ムギマキ	12— 92
------	--------

ムクドリ	2— 11
ムナグロ	53—346
ムネアカタヒバリ	8— 60
ムラサキシギ	29—204

メ

メ ジ ロ	9— 67
メジロガモ	Ⅲ
メダイチドリ	53—349
メボソムシクイ	13— 96
メリケンキアシシギ	45—*102

モ

モ ズ	11— 81
モスケミソサザイ	* 41
モミヤマフクロウ	* 57

ヤ

ヤイロチョウ	18—140
ヤクコマドリ	* 38
ヤクシマアカコッコ	* 36
ヤクシマカケス	* 3
ヤクシマキビタキ	* 28
ヤクシマヤマガラ	* 22
ヤツガシラ	20—144
ヤブサメ	13— 99
ヤマガラ	10— 71
ヤマゲラ	21—150
ヤマシギ	51—337
ヤマシヨウビン	20—148
ヤマセミ	20—146
ヤマドリ	64—425
ヤマヒバリ	18—131

ユ

ユキホオジロ	7— 52
--------	-------

ユリカモメ…………… 59—381

ヨ

ヨシガモ…………… 35—238

ヨシゴイ…………… 31—215

ヨタカ…………… 20—143

ラ

ライチョウ…………… 64—419

リ

リュウキュウアオバズク……………* 57

リュウキュウアカショウビン……………* 47

リュウキュウウグイス……………* 30

リュウキュウオオコノハズク……………* 55

リュウキュウキジバト……………* 99

リュウキュウコノハズク……………* 55

リュウキュウサンコウチョウ……………* 27

リュウキュウサンショウクイ……………* 27

リュウキュウズアカアオバト… 44—301

リュウキュウツバメ…………… 18—136

リュウキュウヘシブトガラス……………* 1

リュウキュウヒタイナ…………… *138

リュウキュウメジロ……………* 20

リュウキュウヨシゴイ…………… 31—217

ル

ルリカケス…………… 2—10

ルリビタキ…………… 17—122

ワ

ワキアカツグミ…………… 15—112

ワシカモメ…………… 58—379

ワシミミズク…………… 23—165

ワタリガラス……………1—1

INDEX

(英 名)

A

	PL. NO.
ACCENTOR	
NORTH CHINA ALPINE ...	18—130
ALBATROSS	
BLACK-FOOTED	42—287
LAYSAN	42—286
STELLER'S	42—285
AUK	
ANCIENT	60—393
CRESTED	61—395
JAPANESE	60—394
LEAST	61—397
PAROQUET	61—398
PARTRIDGE	60—392
WHISKERED	61—396

B

BITTERN	31—218
CHINESE LITTLE	31—215
CINNAMON	31—217
SCHRENCK'S LITTLE	31—216
BLUE-TAIL	
SIBERIAN	17—122
BLUE-THROAT	
WEIGOLD'S RED-SPOTTED	
.....	18—127
BRAMBLING	4—30
BRENT	
BLACK	33—228
BUFFLE-HEAD	37—251
BULBUL	
BROWN-EARED	11—86
BULLFINCH	
JAPANESE	4—24

BUNTING

BLACK-HEADED	5—37
CHESTNUT	5—38
GREY-HEADED	6—44
JAPANESE	6—41
JAPANESE GREY	7—47
JAPANESE MEADOW	6—43
JAPANESE REED	7—49
JAPANESE YELLOW	6—42
KAMCHATKAN RUSTIC	7—45
LAPLAND	7—51
LESSER REED	III
LITTLE	7—46
PINE	5—36
SNOW	7—52
SWINHOLE'S REED	7—50
TRISTRAM'S	7—48
USSURIAN YELLOW-BREASTED	
.....	6—39
YELLOW	5—35
YELLOW-THROATED	6—40

BUSTARD

EASTERN LITTLE	62—403
SIBERIAN	62—402

BUZZARD

JAPANESE	26—182
JAPANESE HONEY	28—193
SIBERIAN ROUGH-LEGGED	
.....	26—183
UPLAND	26—181

C

CANVAS-BACK	36—246
COOT	63—417
CORMORANT	
JAPANESE	38—260

TEMMINCK'S	38-261
CRAKE	
EASTERN BAILLON'S.....	63-411
JAPANESE RUDDY.....	63-413
SWINHOLE'S.....	63-412
CRANE	
DEMOISELLE	62-409
EASTERN COMMON	62-404
JAPANESE	62-405
HOODED	62-406
SIBERIAN WHITE	62-408
WHITE-NAPED	62-407
CREEPER	
JAPANESE TREE.....	9-68
CROSSBILL	
JAPANESE	4-28
TWO-BARRED.....	4-29
CROW	
EASTERN CARRION	1-3
JAPANESE JUNGLE	1-1
CUCKOO	
CHINESE HAWK.....	22-163
HIMALAYAN.....	22-161
JAPANESE	22-161
LITTLE	22-160
CURLEW	
AUSTRALIAN	48-318
INDIAN	22-162
SLENDER-BILLED	48-319

D

DIPPER	
PALE PALLAS'S	48-317
DIVER	
RED-THROATED.....	48-295
SIBERIAN BLACK-THROATED	
.....	43-294

WHITE-BILLED.....	43-293
DOTTEREL	53-347
EASTERN	54-354
DOVE	
BURMESE RED TURTLE	44-299
EASTERN RING	44-298
EASTERN TURTLE	44-297
DOWITCHER	
LONG-BILLED.....	47-314
DUCK	
EASTERN SCAUP	37-249
FERRUGINOUS.....	III
LONG-TAILED	37-252
MANDARIN	36-244
PACIFIC HARLEQUIN	38-255
SIBERIAN WHITE-EYED.....	36-247
SPOT-BILLED	34-234
TUFTED	37-248
WHITE-EYE	III
DUNLIN	
EASTERN	49-32

E

EAGLE	
CHINESE IMPERIAL	26-180
GREAT SPOTTED.....	III
JAPANESE GOLDEN.....	26-170
JAPANESE HAWK	26-184
STELLER'S SEA	28-192
WHITE-TAILED SEA	28-191
EGRET	
CHINESE	30-208
EASTERN GREAT WHITE	
.....	30-205
INDIAN CATTLE.....	30-211
LITTLE	30-207
PLUMED	30-206
EIDER	
STELLER'S	38-256

F

FALCON	
--------	--

JAPANESE PEREGRINE.....	25—174
SIBERIAN GYR	25—175
FIELDFARE.....	III
FINCH	
JAPANESE LONG-TAILED ROSE	
.....	4— 23
KAMCHATKAN SCARLET.....	4— 25
PALLAS'S ROSE	4— 26
SMALL JAPANESE GREEN...	3— 20
ELYCATCHER	
CHINESE GREY-SPOTTED	
.....	12— 90
JAPANESE BLUE	12— 94
JAPANESE PARADISE	12— 88
MUGIMAKI	12— 92
NARCISSUS	12— 93
SIBERIAN	12— 91
SUMATRAN BROWN.....	12— 89
FREGATE BIRD	
LESSER	39—264
PACIFIC	III
FULMAR	
BONIN GADFLY.....	41—282
PACIFIC	42—284

G

GADWALL	34—235
GANNET	
NEW CALEDONIAN BROWN	
.....	39—266
GARGANEY	36—243
GODWIT	
EASTERN BAR-TAILED	47—316
EASTERN BLACK-TAILED.....	47—315
GOLDEN-EYE	37—250
GOLDCREST	
JAPANESE	10— 77
GCOSANDER	
ORIENTAL	38—259
GOOSE	
CHINESE	32—222
EASTERN BEAN	33—226
EASTERN GREY-LEG	32—223
LESSER CANADA	33—229
LESSER WHITE-FRONTED	
.....	33—225
SNOW.....	33—227
WHITE-FRONTED.....	33—224
GOSHAUK	
JAPANESE	27—187
GREBE	
BLACK-NECKED	43—291
CHINESE LITTLE	43—292
EASTERN RED-NECKED	43—289
GREAT CRESTED	43—288
SLAVONIAN.....	43—290
GREENSHANK.....	46—311
NORDMANN'S	47—312
GROSBEAK	
JAPANESE	3— 17
KURILE PINE	4— 27
MIGRATORY CHINESE	3— 19
GROUSE	
JAPANESE HAZEL	64—420
GUILEMOT	
BERING ISLAND.....	60—388
PALLAS'S	60—389
PIGEON	60—390
SOOTY.....	60—391
GULL	
ASIATIC COMMON	58—377
BLACK-TAILED	58—378
EASTERN GLAUCOUS	58—380
EASTERN SABINE'S	58—373
GLAUCOUS-WINGED	58—379
IVORY	59—383
KAMCHATKAN BLACK-HEADED	

.....	59—381
SAUNDER'S	59—82
SLATY-BACKED	58—376
VEGA HERRING	58—375

H

HARRIER	
EASTERN MARSH	27—185
HEN	27—186
HAWFINCH	
JAPANESE	3—17
HAWK	
ASIATIC SPARROW	27—188
EASTERN BUZZARD	28—194
JAPANESE SPARROW	27—189
HEDGE-SPARROW	
CHINESE MOUNTAIN	18—131
JAPANESE	18—132
HERON	
AMUR GREEN	31—212
CHINESE POND	30—210
EASTERN GREY	29—203
EASTERN PURPLE	29—204
EASTERN REEF	30—209
JAPANESE NIGHT	31—214
NIGHT	31—213
HOBBY	25—179
HOOPOE	
TIBETAN	20—144

I

IBIS	
JAPANESE CRESTED	29—201
WHITE	29—202

J

JAKDAW

DAURIAN	1—5
---------------	-----

JAY

LIDTH'S	2—10
JAPANESE	2—9

K

KESTREL	
JAPANESE	25—178
KINGFISHER	
BLACK-CAPPED	20—148
COMMON INDIAN	20—147
JAPANESE PIED	20—146
JAPANESE RUDDY	20—149
KITE	
BLACK-EARED	27—190
KITTIWAKE	
PACIFIC	58—374
KNOT	
EASTERN	49—323
GREAT	49—324

L

LAPWING	54—355
GREY-HEADED	54—356
LARK	
EASTERN CALANDRA	8—53
JAPANESE	8—55
SHORE or HORNED	8—56
YAMASHINA'S SHORT-TOED	8—54
LINNET	
JAPANESE GROUND	5—31

M

MAGPIE	
JAPANESE BLUE	1—7
KOREAN	1—6

MALLARD	34—233
MARTIN	
EASTERN SAND	18—138
JAPANESE HOUSE	18—138
MERGANSER	
RED-BREASTED.....	38—258
MERLIN	
ASIATIC	25—177
MINIVET	
ASHY.....	12—87
MYNA	
CHINESE	2—13
RED-CHEEKED	2—11

N

NATHATCH	
HONDO	10—69
NIGHTJAR	
JAPANESE JUNGLE	20—143
NODDY	
PHILIPPINE	57—371
NUTCRACKER	
JAPANESE	2—8

O

ORIOLE	
BLACK-NAPED	2—14
OSPREY	28—196
OUZEL	
PALE.....	15—114
OWL	
BLAKISTON'S EAGLE	23—166
BROWN HAWK	24—170
CLARK'S EAGLE.....	23—165
FEATHERED-TOED SCOPS	
.....	24—167
HONSHIU URAL.....	24—173

JAPANESE SCOPS.....	24—168
LONG-EARED	24—164
SHORT-EARED	24—170
SIBERIAN TENGMALM'S	24—172
SNOWY	23—164
OYSTERCATCHER	
EASTERN	55—357

P

PELICAN	
DALMATIAN.....	39—265
PETREL	
BULWER'S	42—283
GREY FORK-TAILED.....	40—275
JAPANESE	III
MADEIRAN FORK-TAILED.....	40—271
MATSUDAIRA'S FORK-TAILED	
.....	40—274
LEACH'S FORK-TAILED	40—270
STEJNEGER'S FORK-TAILED	
.....	40—273
SWINHOLE'S FORK-TAILED	
.....	40—272
WILSON'S STORM.....	40—269
PHALAROPE	
GREY.....	45—302
RED-NECKED	45—303
PHEASANT	
CHINESE BAMBOO	64—422
GREEN	64—424
KOREAN RING-NECKED	
.....	64—423
HONDO COPPER	64—425
PIGEON	
JAPANESE GREEN.....	44—300
JAPANESE WOOD.....	44—296
RIU KIU GREEN.....	44—301
PINTAIL.....	35—241
PIPIP	

CHINESE TREE	8—58
JAPANESE WATER.....	8—61
PETCHORA	8—59
RED-THROATED.....	8—60
RICHARD'S	8—57

PITTA

FAIRY.....	18—140
------------	--------

PLOVER

EASTERN GOLDEN	53—346
EASTERN KENTISH.....	54—350
GEOFFROY'S SAND	53—348
GREY.....	53—345
LITTLE RINGED	54—352
LONG-BILLED RINGED ...	54—353
LOWE'S RINGED	54—351
STEGMANN'S MONGOLIAN	53—349

POCHARD	36—245
---------------	--------

PRATINCOLE

LARGE INDIAN	55—360
--------------------	--------

PTARMIGAN

JAPANESE	64—419
----------------	--------

PUFFIN

HORN-BILLED	61—399
HORNED	61—401
TUFTED	61—400

Q

QUAIL

CHINESE BUTTON	64—418
JAPANESE	64—421

R

RAIL

EASTERN WATER ...	63—410
-------------------	--------

RAVEN

KAMCHATKAN.....	1—1
-----------------	-----

REDPOLL

MEALY	3—22
-------------	------

REDSHANK

DUSKY	46—308
EASTERN	46—309

REDSTART

DAURIAN	17—123
---------------	--------

REDWING.....	15—112
--------------	--------

REEVE	50—322
-------------	--------

ROBIN

JAPANESE	17—125
PALLAS'S BLUE	18—129
SWINHOE'S RED-TAILED...	18—128
TEMMINCK'S	17—126

ROLLER

CHINESE BROAD-BILLED	20—145
----------------------------	--------

ROOK

EASTERN	1—4
---------------	-----

RUBY-THROAT	17—124
-------------------	--------

RUFF.....	50—332
-----------	--------

S

SANDERLING	51—336
------------------	--------

SANDPIPER

BAIRD'S	III
BUFF-BREASTED	51—335
COMMON.....	46—307
CURLEW	49—325
EASTERN BROAD-BILLED...	50—333
GREEN	45—304
MARSH	46—310
PECTORAL	50—331
SIBERIAN PECTORAL	50—330
SPOON-BILLED	54—334
TEREK	47—313
WOOD	45—305

SCOTER

AMERICAN BLACK.....	37—254
---------------------	--------

EASTERN VELVET	37—253	SWINHOE'S	52—341
SHAG		SPARROW	
BARE-FACED	38—263	GAMBEL'S	5—33
PELAGIC	38—262	GOLDEN-CROWNED	5—34
SHELDRAKE	34—232	JAPANESE TREE	3—15
CRESTED	34—231	KODIAK FOX	5—32
RUDDY	34—230	RUSSET	3—16
SHEARWATER		SPOONBILL	
CHRISTMAS ISLAND	41—279	BLACK-FACED	29—200
PINK-FOOTED	41—277	JAPANESE	29—199
SLENDER-BILLED	41—281	STARLING	
SOOTY	41—280	GREY	2—11
STREAKED	41—296	STILT	
WEDG-TAILED	41—278	BLACK-WINGED	55—358
SHOVELLER	36—243	STINT	
SHRIKE		EASTERN LITTLE	49—327
BULL-HEADED	11—81	LONG-TOED	49—328
CHINESE GREAT GREY	11—80	TEMMINCK'S	49—329
JAPANESE RED-TAILED	11—83	STONECHAT	
SAKHALIN GREY	11—79	JAPANESE	17—121
THICK-BILLED	11—82	STORK	
SISKIN	3—21	BLACK	29—198
SKUA		JAPANESE	29—197
ARCTIC	59—386	SWALLOW	
LONG-TAILED	59—387	EASTERN HOUSE	18—135
MACCORMICKI'S GREAT	59—384	JAPANESE STRIATED	18—137
POMATORHINE	59—385	RIU KIU BUNGALOW	18—136
SKYLARK		SWAN	
JAPANESE	8—55	EASTERN BEWICK'S	32—220
SMEW	38—257	MUTE	32—221
SNIPE		WHOOPEE	32—219
COMMON	52—339	SWIFT	
EASTERN SOLITARY	51—338	KURODA'S WHITE-RUMPED	
JACK	52—343		18—141
LATHAM'S	52—340	NEEDLE-TAILED	18—141
PAINTED	52—344		
PINTAIL	52—342		

T

CHINESE TREE	8—58
JAPANESE WATER.....	8—61
PETCHORA	8—59
RED-THROATED.....	8—60
RICHARD'S	8—57

PITTA

FAIRY.....	18—140
------------	--------

PLOVER

EASTERN GOLDEN	53—346
EASTERN KENTISH.....	54—350
GEOFFROY'S SAND	53—348
GREY.....	53—345
LITTLE RINGED	54—352
LONG-BILLED RINGED	54—353
LOWE'S RINGED	54—351
STEGMANN'S MONGOLIAN	53—349

POCHARD	36—245
---------------	--------

PRATINCOLE

LARGE INDIAN	55—360
--------------------	--------

PTARMIGAN

JAPANESE	64—419
----------------	--------

PUFFIN

HORNBILLED	61—399
HORNED	61—401
TUFTED	61—400

Q

QUAIL

CHINESE BUTTON	64—418
JAPANESE	64—421

R

RAIL

EASTERN WATER	63—410
---------------------	--------

RAVEN

KAMCHATKAN	1—1
------------------	-----

REDPOLL

MEALY	3—22
-------------	------

REDSHANK

DUSKY	46—308
EASTERN	46—309

REDSTART

DAURIAN	17—123
---------------	--------

REDWING.....	15—112
--------------	--------

REEVE	50—322
-------------	--------

ROBIN

JAPANESE	17—125
PALLAS'S BLUE	18—129
SWINHOLE'S RED-TAILED.....	18—128
TEMMINCK'S	17—126

ROLLER

CHINESE BROAD-BILLED	20—145
----------------------------	--------

ROOK

EASTERN	1—4
---------------	-----

RUBY-THROAT	17—124
-------------------	--------

RUFF.....	50—332
-----------	--------

S

SANDERLING	51—336
------------------	--------

SANDPIPER

BAIRD'S	III
BUFF-BREASTED	51—335
COMMON.....	46—307
CURLEW	49—325
EASTERN BROAD-BILLED.....	50—333
GREEN	45—304
MARSH	46—310
PECTORAL	50—331
SIBERIAN PECTORAL	50—330
SPOON-BILLED	54—334
TEREK	47—313
WOOD	45—305

SCOTER

AMERICAN BLACK.....	37—254
---------------------	--------

EASTERN VELVET	37—253	SWINHOLE'S	52—341
SHAG		SPARROW	
BARE-FACED	38—263	GAMBEL'S	5—33
PELAGIC	38—262	GOLDEN-CROWNED	5—34
SHELDRAKE	34—232	JAPANESE TREE	3—15
CRESTED	34—231	KODIAK FOX	5—32
RUDDY	34—230	RUSSET	3—16
SHEARWATER		SPOONBILL	
CHRISTMAS ISLAND	41—279	BLACK-FACED	29—200
PINK-FOOTED	41—277	JAPANESE	29—199
SLENDER-BILLED	41—281	STARLING	
SOOTY	41—280	GREY	2—11
STREAKED	41—296	STILT	
WEDGE-TAILED	41—278	BLACK-WINGED	55—358
SHOVELLER	36—243	STINT	
SHRIKE		EASTERN LITTLE	49—327
BULL-HEADED	11—81	LONG-TOED	49—328
CHINESE GREAT GREY	11—80	TEMMINCK'S	49—329
JAPANESE RED-TAILED	11—83	STONECHAT	
SAKHALIN GREY	11—79	JAPANESE	17—121
THICK-BILLED	11—82	STORK	
SISKIN	3—21	BLACK	29—198
SKUA		JAPANESE	29—197
ARCTIC	59—386	SWALLOW	
LONG-TAILED	59—387	EASTERN HOUSE	18—135
MACCORMICK'S GREAT	59—384	JAPANESE STRIATED	18—137
POMATORHINE	59—385	RIU KIU BUNGALOW	18—136
SKYLARK		SWAN	
JAPANESE	8—55	EASTERN BEWICK'S	52—220
SMEW	38—257	MUTE	32—221
SNIFE		WHOOPEE	32—219
CCMMCN	52—339	SWIFT	
EASTERN SOLITARY	51—338	KURODA'S WHITE-RUMPED	18—141
JACK	52—343	NEEDLE-TAILED	18—141
LATHAM'S	52—340		
PAINTED	52—344		
PINTAIL	52—342		

T

TATTLER

ASIATIC WANDERING45-306

TEAL

BAIKAL35-238

SPECTACLED35-237

TERN

ALEUTIAN56-366

ASIATIC LITTLE57-36

BLACK-NAPED57-370

BROWN-WINGED57-367

CHINESE ROSEATE56-365

CHINESE WHISKERED56-362

EASTERN CRESTED56-363

INDIAN SOOTY57-368

MICRONESIAN WHITE59-372

NORDMANN'S56-364

WHITE-WINGED BLACK56-361

THRUSH

DAVISON'S GROUND15-110

DUSKY16-118

GOLDEN MOUNTAIN15-109

GREY-BACKED15-113

GREY-HEADED16-115

LARGE RED-BELLIED ROCK

.....16-119

JAPANESE BROWN16-116

JAPANESE GREY15-111

SEVEN ISLANDS16-117

TIT

CHINESE PENDULINE10-76

HENSON'S MARSH10-73

JAPANESE COAL10-74

JAPANESE GREAT10-70

JAPANESE LONG-TAILED

.....10-75

JAPANESE WILLOW10-72

VARIED10-71

TITMOUSE

EASTERN BEARDED10-78

TROPIC BIRD

AUSTRALIAN WHITE-TAILED

.....39-268

LAYSAN RED-TAILED39-269

TURNSTONE55-359

V

VULTURE

CHINESE CINEREOUS28-195

W

WAGTAIL

EASTERN BLUE-HEADED... 9-65

EASTERN GREY9-64

FOREST9-66

JAPANESE9-63

JAPANESE PIED

.....9-62

WARBLER

AMUR PALLAS'S REED.....14-105

DAVID'S GRASSHOPPER ...14-103

EASTERN GREAT REED.....14-106

GRAY'S GRASSHOPPER ...14-101

IJIMA'S WILLOWIII

JAPANESE BUSH13-98

JAPANESE FAN-TAIL

.....14-108

JAPANESE SWAMP.....13-100

MIDDENDORFF'S GRASSHOPPER

.....14-102

PALE-LEGGED WILLOW

.....13-95

SHORT-TAILED BUSH13-99

STREAKED GRASSHOPPER

.....14-104

SWINHOLE'S WILLOW13-96

TEMMINCK'S CROWNED		AMERICAN	35-240
WILLOW	13-97	WOODCOCK	51-337
VON SCHRENCK'S REED	14-107	WOODPECKER	
WATER-COCK	63-416	AMUR LESSER SPOTTED	21-154
WATERHEN		GREAT BLACK	22-157
CHINESE WHITE-BREASTED		HONSHIU GREAT SPOTTED	
	63-414		21-152
INDIAN	63-415	HONSHIU PIGMY	21-155
WAXWING		INOUE'S THREE-TOED	21-155
EASTERN	11-84	JAPANESE BLACK-NAPED	
JAPANESE	11-85	GREEN	21-150
WHEATER		JAPANESE GREEN	21-151
ISABELLINE	17-120	JAPANESE WHITE-BACKED	
WHIMBREL			21-153
BRISTLE-THIGHED	48-321	TRISTRAM'S	22-158
EASTERN	48-320	WREN	
LEAST	48-322	JAPANESE	18-133
WHITE-EYE		WRYNECK	
JAPANESE	9-67	JAPANESE	22-159
WIGEON	35-239		

INDEX

(学 名)

A

PL. NO.

- Accipiter gentilis fujiyamae* ...27—187
Accipiter gentilis schvedowi*63
Accipiter nisus nisosimilis27—188
Accipiter nisus pallens*64
Accipiter virgatus gularis27—189
Acrocephalus arundinaceus orientalis
 14—106
Acrocephalus bistrigiceps.....14—107
Aegithalos caudatus japonicus 10—*23
Aegithalos caudatus hiuensis.....*23
Aegithalos caudatus magnus*23
Aegithalos caudatus trivirgatus
 10—75
Aegolius funereus sibiricus24—172
Aegyptius monachus chinou ..28—195
Aethia cristatella61—395
Aethia psittacus61—398
Aethia pusilla61—397
Aethia pygmaea61—396
Aix galericulata36—244
Alauda arvensis japonica8—55
Alauda arvensis kagoshimae*15
Alauda arvensis lönnerbergi*15
Alauda arvensis pekinensis*15
Alcedo atthis bengalensis20—147
Amaurornis phoenicurus chinensis
 63—414
Anas aouda acuta35—241
Anas americana35—240
Anas clypeata36—243
Anas crecca crecca35—236
Anas falcata35—238
Anas formosa35—237
Anas penelope35—239
Anas platyrhynchos platyrhynchos
 34—233
Anas querquedula36—242
Anas strepera34—235
Anous stolidus pileatus57—371
Anser albifrons frontalis33—224
Anser anser rubrirostris32—223
Anser caerulescens caerulescens
 32—227
Anser cygnoid32—222
Anser erythropus33—225
Anser fabalis serratirostris33—226
Anser fabalis middendorffi*75
Anthropoides virgo62—409
Anthus cervina8—60
Anthus gustavi gustavi8—59
Anthus hodgsoni hodgsoni8—58
Anthus hodgsoni yunnanensis*16
Anthus novaeseelandae richardi 8—57
Anthus spinoletta japonica ...8—61
Apus pacificus kurode19—140
Apus pacificus pacificus*44
Aquila chrysaetos japonica26—179
Aquila clanga III
Aquila heliaca richetti26—180
Ardea cinerea jouyi29—203
Ardea purpurea manilensis29—204
Ardcola bacchus30—210
Arenaria interpres interpres55—359
Asio flammeus flammeus24—170
Asio otus otus24—169
Aythya baeri36—247
Aythya ferina36—245
Aythya fuligula37—248
Aythya marila mariloides37—249

<i>Aythya nyroca</i>	III
<i>Aythya valisineria</i>	36—246

B

<i>Bombusicola thoracica sonorivox</i> ...	*140
<i>Bombusicola thoracica thoracica</i>	64—422
<i>Bombycilla garrulus centralasiae</i>	11—84
<i>Bombycilla japonica</i>	11—85
<i>Botaurus stellaris stellaris</i>	31—218
<i>Brachyramphus marmoratus perdix</i>	60—392
<i>Bradypterus pryori pryori</i>	13—100
<i>Branta bernicla orientalis</i>	33—228
<i>Branta canadensis leucopareia</i> ...	33—229
<i>Branta canadensis minima</i>	* 76
<i>Bubo blakistoni blakistoni</i>	23—166
<i>Bubo bubo tenuipes</i>	23—165
<i>Bubulcus ibis coromandus</i>	30—211
<i>Bucephala albeola</i>	37—251
<i>Bucephala clangula clangula</i> ...	37—250
<i>Bulweria bulwerii</i>	42—283
<i>Butastur indicus</i>	28—194
<i>Buteo buteo burmanicus</i>	26—182
<i>Buteo lagopus menzbieri</i>	26—183
<i>Buteo rufinus hemilasius</i>	26—181
<i>Butorides striatus amurensis</i> ...	31—212

C

<i>Calandrella cinerea puii</i>	8—54
<i>Calcarius lapponicus lapponicus</i>	7—51
<i>Calidris acuminata</i>	50—330
<i>Calidris alpina sakhalina</i>	49—326
<i>Calidris bairdii</i>	III
<i>Calidris canutus canutus</i>	49—323
<i>Calidris ferruginea</i>	49—325
<i>Calidris melanotos</i>	50—331
<i>Calidris minutilla subminuta</i> ...	49—328
<i>Calidris ruficollis ruficollis</i> ...	49—327
<i>Calidris temminckii</i>	49—329

<i>Calidris tenuirostris</i>	49—324
<i>Calonectris leucomelas</i>	41—276
<i>Caprimulgus indicus jotaka</i> ..	20—143
<i>Carauelis flammea exilipes</i>	* 6
<i>Carduelis flammea flammea</i>	3—22
<i>Carduelis spinus</i>	3—21
<i>Catharacta skua maccormicki</i> ...	59—384
<i>Cephus carbo</i>	60—391
<i>Cephus columba columba</i>	60—390
<i>Cephus columba snowi</i>	*131
<i>Cerorhinca monocerata</i>	61—399
<i>Certhia familiaris orientalis</i>	* 20
<i>Certhia familiaris japonica</i>	9—68
<i>Certhia familiaris shikokiana</i>	*20
<i>Ceryle lugubris lugubris</i>	20—146
<i>Ceryle lugubris pallidus</i>	* 46
<i>Cettia diphone cantans</i>	13—98
<i>Cettia diphone ijimae</i>	* 30
<i>Cettia diphone panafidimicus</i>	* 30
<i>Cettia diphone riukiensis</i>	* 30
<i>Cettia diphone sakhalensis</i>	* 30
<i>Chaetura caudacuta caudacuta</i>	18—141
<i>Charadrius alexandrinus alexandrinus</i>	*119
<i>Charadrius alexandrinus nihonensis</i>	54—350
<i>Charadrius dominicus fulvus</i>	53—346
<i>Charadrius dubius curonicus</i>	54—352
<i>Charadrius hiaticula tundrae</i>	54—351
<i>Charadrius leschenaultii</i>	53—348
<i>Charadrius mongolus stegmanni</i>	53—349
<i>Charadrius morinellus</i>	53—347
<i>Charadrius placidus japonicus</i>	54—353
<i>Chlidonias hybrida swinhoei</i>	56—362
<i>Chlidonias leucoptera</i>	56—361
<i>Chloris sinica kawarabida</i>	3—20
<i>Chloris sinica minor</i>	3—20

<i>Chloris sinica sitchitoensis</i>	3—20
<i>Chloris sinica ussuriensis</i>	* 6
<i>Ciconia ciconia boyciana</i>	29—197
<i>Ciconia nigra</i>	29—198
<i>Cinclus pallasii hondoensis</i>	18—134
<i>Circus aeruginosus spilonotus</i>	27—185
<i>Circus cyaneus cyaneus</i>	27—186
<i>Cisticola juncidis bruniceps</i>	14—108
<i>Clangula hyemalis</i>	37—252
<i>Coccothraustes coccothraustes japonicus</i>	3—17
<i>Coccothraustes coccothraustes lönbergi</i>	* 5
<i>Coccothraustes coccothraustes verticalis</i>	* 5
<i>Columba janthina janthina</i>	44—296
<i>Corvus corax kamtschaticus</i>	1—1
<i>Corvus corone orientalis</i>	1—3
<i>Corvus frugilegus pastinator</i>	1—4
<i>Corvus leuallantii connectens</i>	* 1
<i>Corvus leuallantii japonensis</i>	1—2
<i>Corvus leuallantii mandchuricus</i>	* 1
<i>Corvus monedula dauuricus</i>	1—5
<i>Coturnix coturnix japonica</i>	64—421
<i>Crocethia alba</i>	51—336
<i>Cuculus canorus telephonus</i>	22—160
<i>Cuculus fugax hyperythrus</i>	22—163
<i>Cuculus poliocephalus poliocephalus</i>	22—162
<i>Cuculus saturatus horsfieldi</i>	22—161
<i>Cyanopica cyaneus japonica</i>	1—7
<i>Cygnus columbianus jankowskii</i>	32—220
<i>Cygnus cygnus</i>	32—219
<i>Cygnus olor</i>	32—221

D

<i>Delichon urbica dasypus</i>	18—138
<i>Demigretta sacra ningeri</i>	30—209
<i>Dendrocopos kizuki amamii</i>	* 50

<i>Dendrocopos kizuki kizuki</i>	*50
<i>Dendrocopos kizuki kotataki</i>	*50
<i>Dendrocopos kizuki matsudairai</i>	*49
<i>Dendrocopos kizuki nippon</i>	21—155
<i>Dendrocopos kizuki seebohmii</i>	*49
<i>Dendrocopos kizuki shikokuensis</i>	*50
<i>Dendrocopos leucotos subcirris</i>	*49
<i>Dendrocopos leucotos namiyei</i>	*49
<i>Dendrocopos leucotos owestoni</i>	21—*49
<i>Dendrocopos leucotos stejnegeri</i>	21—153
<i>Dendrocopos major hondoensis</i>	21—152
<i>Dendrocopos major japonicus</i>	*48
<i>Dendrocopos minor amurensis</i>	21—154
<i>Dendronanthus indicus</i>	9—66
<i>Diomedea albatrus</i>	42—285
<i>Diomedea immutabilis</i>	42—286
<i>Diomedea nigripes</i>	42—287
<i>Dryocopus martius</i>	22—157
<i>Dryocopus javensis richardsi</i>	22—158

E

<i>Egretta alba alba</i>	*69
<i>Egretta alba modesta</i>	30—205
<i>Egretta eulophotes</i>	30—208
<i>Egretta garzetta garzetta</i>	30—207
<i>Egretta intermedia</i>	30—206
<i>Emberiza aureola ornata</i>	6—39
<i>Emberiza cioides ciopsis</i>	6—43
<i>Emberiza cioides ijimae</i>	*12
<i>Emberiza citrinella citrinella</i>	5—35
<i>Emberiza elegans elegans</i>	6—40
<i>Emberiza fucata fucata</i>	6—44
<i>Emberiza leucocephala</i>	5—36
<i>Emberiza melanocephala</i>	5—37
<i>Emberiza pallasi pallasi</i>	III
<i>Emberiza pallasi polaris</i>	III
<i>Emberiza pusilla</i>	7—46

<i>Emberiza rustica latifascia</i>	7—45
<i>Emberiza rutila</i>	5—38
<i>Emberiza schoeniclus nortonensis</i>	7—50
<i>Emberiza spodocephala personata</i>	6—41
<i>Emberiza spodocephala spodocephala</i>	*11
<i>Emberiza sulphurata</i>	6—42
<i>Emberiza tristrami</i>	7—48
<i>Emberiza variabilis</i>	7—47
<i>Emberiza yessoensis yessoensis</i>	7—49
<i>Eophona migratoria migratoria</i>	3—19
<i>Eophona personata personata</i>	3—18
<i>Eremophila alpestris flava</i>	8—56
<i>Erithacus akahige akahige</i>	17—125
<i>Erithacus akahige kobayassii</i>	*38
<i>Erithacus akahige tanensis</i>	*38
<i>Erithacus calliope camtschatkensis</i>	*38
<i>Erithacus calliope calliope</i>	17—124
<i>Erithacus cyane</i>	18—129
<i>Erithacus cyanurus cyanurus</i>	17—122
<i>Erithacus komadori komadori</i>	17—126
<i>Erithacus sibilans</i>	18—128
<i>Erithacus svecica weigoldi</i>	18—127
<i>Erythrura erythrura grebnilskii</i>	4—25
<i>Erythrura rosea</i>	4—26
<i>Eupoda asiatica veredus</i>	54—354
<i>Eurynorhynchus pygmeus</i>	51—334
<i>Eurystomus orientalis abundus</i>	20—145

F

<i>Falco columbarius insignis</i>	15—177
<i>Falco peregrinus fruati</i>	*58
<i>Falco peregrinus harterti</i>	*58
<i>Falco peregrinus leucogenys</i>	25—174

<i>Falco peregrinus pealei</i>	*58
<i>Falco rusticolus uralensis</i>	25—175
<i>Falco subbuteo subbuteo</i>	25—176
<i>Falco tinnunculus interstinctus</i>	25—178
<i>Fratercula corniculata</i>	61—401
<i>Fregata ariel ariel</i>	39—264
<i>Fregata minor minor</i>	III
<i>Fringilla montifringilla</i>	4—30
<i>Fulica atra atra</i>	63—417
<i>Fulmarus glacialis rodgersii</i>	42—284

G

<i>Gallicrex cinerea</i>	63—416
<i>Gallinago gallinago</i>	52—339
<i>Gallinago hardwickii</i>	52—340
<i>Gallinago megala</i>	52—341
<i>Gallinago solitaria japonica</i>	51—338
<i>Gallinago sterura</i>	52—342
<i>Gallinula chloropus indica</i>	63—415
<i>Garrulus glandarius japonicus</i>	2—9
<i>Garrulus glandarius namiyei</i>	*3
<i>Garrulus glandarius hiugaensis</i>	*3
<i>Garrulus glandarius orii</i>	*3
<i>Garrulus glandarius pallidifrons</i>	2—*3
<i>Garrulus glandarius tokugawae</i>	*3
<i>Garrulus lidthi</i>	2—10
<i>Gavia adamsii</i>	43—293
<i>Gavia arctica pacifica</i>	*98
<i>Gavia arctica viridigularis</i>	43—294
<i>Gavia stellata</i>	43—295
<i>Glareola pratincola maldivarum</i>	55—360
<i>Gorsakius goisagi</i>	31—214
<i>Grus grus lilfordi</i>	62—404
<i>Grus japonensis</i>	62—405
<i>Grus leucogeranus</i>	62—408
<i>Grus monacha</i>	42—406

<i>Grus vipio</i>	62—407
<i>Gygis alba candida</i>	57—372

H

<i>Haematopus ostralegus osculans</i>	55—357
<i>Halcyon coromanda bangsi</i>	*47
<i>Halcyon coromanda major</i>	20—149
<i>Halcyon pileata</i>	20—148
<i>Haliaeetus albicilla albicilla</i>	28—191
<i>Haliaeetus pelagicus pelagicus</i>	28—192
<i>Himantopus himantopus himantopus</i>	55—358
<i>Hirundo daurica japonica</i>	18—137
<i>Hirundo rustica gutturalis</i>	18—135
<i>Hirundo rustica mandschurica</i>	18—135
<i>Hirundo tahitica namiyei</i>	18—136
<i>Histrionicus histrionicus pacificus</i>	38—255
<i>Hypsipetes amaurotis amaurotis</i>	11—86
<i>Hypsipetes amaurotis hensoni</i>	*26
<i>Hypsipetes amaurotis matchie</i>	*26
<i>Hypsipetes amaurotis ogawae</i>	*26

I

<i>Ixobrychus cinnamomeus</i>	31—217
<i>Ixobrychus eurhythmus</i>	31—216
<i>Ixobrychus sinensis</i>	31—215

J

<i>Jynx torquilla japonica</i>	22—159
--------------------------------------	--------

L

<i>Lagopus mutus japonicus</i>	64—419
<i>Lanius bucephalus bucephalus</i>	11—81
<i>Lanius cristatus superciliosus</i>	11—83

<i>Lanius excubitor bianchii</i>	11—79
<i>Lanius excubitor mollis</i>	*24
<i>Lanius sphenocercus sphenocercus</i>	11—80
<i>Lanius tigrinus</i>	11—82
<i>Larus argentatus vegae</i>	58—375
<i>Larus canus kamtschatschensis</i>	58—377
<i>Larus crassirostris</i>	58—378
<i>Larus glaucescens</i>	58—379
<i>Larus hyperboreus pallidissimus</i>	58—389
<i>Larus ridibundus sibiricus</i>	59—381
<i>Larus saundersi</i>	59—382
<i>Larus schistisagus</i>	58—376
<i>Leucosticte arctoa brunneonucha</i>	5—31
<i>Limicola falcinellus sibirica</i>	50—333
<i>Limnodromus scolopaceus</i>	47—314
<i>Limosa limosa melanuroides</i>	47—315
<i>Limosa lapponica baueri</i>	47—316
<i>Limosa lapponica menzbieri</i>	*106
<i>Lobipes lobatus</i>	45—303
<i>Locustella certhiola minor</i>	14—103
<i>Locustella fasciolata</i>	14—101
<i>Locustella lanceolata</i>	14—104
<i>Locustella ochotensis ochotensis</i>	14—102
<i>Locustella ochotensis pleskei</i>	14—*31
<i>Loxia curvirostra japonica</i>	4—28
<i>Loxia leucoptera bifasciata</i>	4—29
<i>Lunda cirrhata</i>	61—400
<i>Lymnocyrtus minima</i>	52—343

M

<i>Melanitta fusca stejnegeri</i>	37—253
<i>Melanitta nigra americana</i>	37—254
<i>Melanocorypha bimaculata bimaculata</i>	8—53

<i>Mergus albellus</i>	38—257
<i>Mergus merganser merganser</i>	*86
<i>Mergus merganser orientalis</i>	38—259
<i>Mergus serrator serrator</i>	38—258
<i>Microsarcops cinerea</i>	54—356
<i>Miscicapa griseisticta</i>	12—90
<i>Miscicapa latirostris latirostris</i>	12—89
<i>Milvus migrans lineatus</i>	27—190
<i>Monticola solitarius magnus</i>	16—119
<i>Motacilla alba leucopsis</i>	9—*18
<i>Motacilla alba lugens</i>	9—62
<i>Motacilla cinerea caspica</i>	9—64
<i>Motacilla flava similima</i>	9—65
<i>Motacilla flava taiwana</i>	*19
<i>Motacilla grandis</i>	9—63
<i>Muscicapa cyanomelana cyanomelana</i>	12—94
<i>Muscicapa mugimaki</i>	12—92
<i>Muscicapa narcissina jakuschima</i>	*28
<i>Muscicapa narcissina narcissina</i>	12—93
<i>Muscicapa narcissina zanthopygia</i>	*28
<i>Muscicapa sibirica sibirica</i>	12—91

N

<i>Ninox scutulata japonica</i>	24—171
<i>Ninox scutulata macroptera</i>	*57
<i>Nipponia nippon</i>	29—201
<i>Nucifraga caryocatactes japonicus</i>	2—8
<i>Nucifraga caryocatactes macrorhynchos</i>	*3
<i>Numenius arquata orientalis</i>	48—317
<i>Numenius madagascariensis</i>	48—318
<i>Numenius minutus</i>	48—322

<i>Numenius phaeopus variegatus</i>	48—320
<i>Numenius tahitiensis</i>	48—321
<i>Numenius tenuirostris</i>	48—319
<i>Nyctea scandiaca</i>	23—164
<i>Nycticorax nycticorax nycticorax</i>	31—213

O

<i>Oceanites oceanicus</i>	40—269
<i>Oceanodroma castro</i>	40—271
<i>Oceanodroma furcata furcata</i>	40—275
<i>Oceanodroma leucorhoa leucorhoa</i>	40—270
<i>Oceanodroma matsudairae</i>	40—274
<i>Oceanodroma monorhis monorhis</i>	40—272
<i>Oceanodroma tristrani</i>	40—273
<i>OEnonthe isabellina</i>	17—120
<i>Oriolus chinensis diffusus</i>	2—14
<i>Otis tarda dybowskii</i>	62—402
<i>Otis tetrax orientalis</i>	62—403
<i>Otus asio pryori</i>	*55
<i>Otus asio semitorques</i>	24—167
<i>Otus asio ussuriensis</i>	*55
<i>Otus scops elegans</i>	*55
<i>Otus scops japonicus</i>	24—168

P

<i>Pagophila eburnea</i>	59—333
<i>Pandion haliaëtus haliaëtus</i>	28—196
<i>Panurus biarmicus russicus</i>	10—78
<i>Parus ater insularis</i>	10—74
<i>Parus ater teraokai</i>	*22
<i>Parus atricapillus restrictus</i>	10—72
<i>Parus atricapillus sachalinensis</i>	*22
<i>Parus major amamiensis</i>	*21

<i>Parus maior kagoshimae</i>	*21	<i>Phasianus soemmerringii ijimae</i>	64—425
<i>Parus major minor</i>	10—70	<i>Phasianus versicolor versicolor</i>	*141
<i>Parus palustris hensoni</i>	10—73	<i>Phasianus versicolor tohkaidi</i>	64—424
<i>Parus varius amamii</i>	*22	<i>Phasianus versicolor tanensis</i>	*141
<i>Parus varius ijimae</i>	*22	<i>Phasianus versicolor robustifex</i> ...	*141
<i>Parus varius namiyei</i>	*21	<i>Philomachus pugnax</i>	50—332
<i>Parus varius oustoni</i>	10—*21	<i>Phoenicurus aureus aureus</i>	17—123
<i>Parus varius sataensis</i>	*22	<i>Phragmaticola aëdon rufescens</i>	14—105
<i>Parus varius sunsnupi</i>	*22	<i>Phylloscopus borealis borealis</i>	13—*29
<i>Parus varius varius</i>	10—71	<i>Phylloscopus borealis examinandus</i>	*29
<i>Parus varius yakushimensis</i>	*22	<i>Phylloscopus borealis xanthodryas</i>	13—96
<i>Passerella iliaca insularis</i>	5—32	<i>Phylloscopus ijimae</i>	13—*III—*29
<i>Passer montanus kaibatoi</i>	*5	<i>Phylloscopus occipitalis coronatus</i>	13—97
<i>Passer montanus saturatus</i>	3—15	<i>Phylloscopus tenellipes</i>	13—95
<i>Passer rutilans rutilans</i>	3—16	<i>Pica pica japonica</i>	1—6
<i>Pelecanus roseus crispus</i>	39—265	<i>Picoides tridactylus inouei</i>	21—156
<i>Pericrocotus roseus divaricatus</i>	12—87	<i>Picus awokera awokera</i>	21—151
<i>Pericrocotus roseus intermedius</i>	*27	<i>Picus awokera horii</i>	*48
<i>Pericrocotus roseus tegimae</i>	*27	<i>Picus awokera takatsukasae</i>	*48
<i>Pernis apivorus japonicus</i>	28—193	<i>Picus canus jessoensis</i>	21—150
<i>Phaethon lepturus dorotheae</i> ...	39—268	<i>Pinicola enucleator urupensis</i> ...	4—27
<i>Phaethon rubricaudus rothschildi</i>	39—267	<i>Platalea leucorodia major</i>	29—199
<i>Phalacrocorax capillatus</i>	38—261	<i>Pitta brachyura nympha</i>	18—140
<i>Phalacrocorax carbo hanedae</i> ...	38—260	<i>Platalea minor</i>	29—200
<i>Phalacrocorax pelagicus</i>	38—262	<i>Plectrophenax nivalis pallidior</i> ...	7—52
<i>Phalacrocorax urile</i>	38—263	<i>Podiceps aurita</i>	43—290
<i>Phalaropus fulicarius</i>	45—302	<i>Podiceps caspicus caspicus</i>	43—291
<i>Phasianus colchicus karpowei</i> ...	64—423	<i>Podiceps cristata cristata</i>	43—288
<i>Phasianus soemmerringii scintillans</i>	64—425	<i>Podiceps griseigena holböllii</i> ...	43—289
<i>Phasianus soemmerringii intermedius</i>	*142		
<i>Phasianus soemmerringii subrufus</i>	64—425		
<i>Phasianus soemmerringii soemmerringii</i>	*142		

<i>Podiceps ruficollis poggei</i>	43—292
<i>Porzana fusca erythrothorax</i>	63—413
<i>Porzana fusca phaeopygia</i>	*138
<i>Porzana noveboracensis exquisita</i>	63—412
<i>Porzana pusilla pusilla</i>	63—411
<i>Prinella colaris erythropygia</i>	18—130
<i>Prinella montanella badia</i>	18—131
<i>Prinella rubida fervida</i>	*40
<i>Prinella rubida rubida</i>	18—132
<i>Ptsodroma leucoptera hypoleuca</i>	41—282
<i>Pterodroma longirostris longirostris</i>	* III
<i>Puffinus carneipes</i>	41—277
<i>Puffinus griseus</i>	41—280
<i>Puffinus nativitatis</i>	41—279
<i>Puffinus pacificus chlororhynchus</i>	41—278
<i>Puffinus tenuirostris</i>	41—281
<i>Pyrrhula pyrrhula cassinii</i>	4—*7
<i>Pyrrhula pyrrhula griseiventris</i>	4—24
<i>Pyrrhula pyrrhula kurilensis</i>	*7
<i>Pyrrhula pyrrhula rosacea</i>	*7

R

<i>Rallus aquaticus indicus</i>	63—410
<i>Regulus regulus japonensis</i>	10—77
<i>Remiz pendulinus consobrinus</i>	10—76
<i>Riparia riparia ijimae</i>	18—138
<i>Rissa tridactyla pellicaris</i>	58—374
<i>Rostratula benghalensis benghalensis</i>	52—344

S

<i>Saxicola torquatus stejnegeri</i>	17—121
--	--------

<i>Scolopax rusticola mira</i>	51—*114
<i>Scolopax rusticola rusticola</i>	51—337
<i>Sitta europaea baicalensis</i>	*21
<i>Sitta europaea hondoensis</i>	10—69
<i>Sitta europaea roseilia</i>	*21
<i>Somateria stelleri</i>	38—256
<i>Sphenurus formosae permagnus</i>	44—301
<i>Sphenurus sieboldii sieboldii</i>	44—300
<i>Spizaetus japonensis orientalis</i>	26—184
<i>Squatrarool squatarola</i>	53—345
<i>Stercorarius longicaudus</i>	59—387
<i>Stercorarius parasiticus</i>	59—385
<i>Stercorarius pomarinus</i>	59—385
<i>Sterna albifrons sinensis</i>	57—369
<i>Sterna alaudica</i>	56—366
<i>Sterna anaethetus anaethetus</i>	57—367
<i>Sterna dougallii bangsi</i>	56—365
<i>Sterna fuscata nubilosa</i>	57—368
<i>Sterna hirundo longipennis</i>	56—364
<i>Sterna hirundo minussensis</i>	*124
<i>Sterna sumatrana sumatrana</i>	57—370
<i>Streptopelia decaocto stoliczkae</i>	44—298
<i>Streptopelia orientalis orientalis</i>	44—297
<i>Streptopelia orientalis stimpsoni</i>	*99
<i>Streptopelia tranquebarica humilis</i>	44—299
<i>Strix uralensis fuscescens</i>	*57
<i>Strix uralensis hondoensis</i>	24—173
<i>Strix uralensis japonica</i>	*57
<i>Strix uralensis momiyamae</i>	*57
<i>Sturnia philippensis</i>	2—12
<i>Sturnia sinensis</i>	2—13
<i>Sturnus cineraceus</i>	2—11
<i>Sula leucogaster plotus</i>	39—266

Synthliboramphus antiquus..... 60—393
Synthliboramphus uumizusume 60—394

T

Tadorna cristata..... 34—231
Tadorna ferruginea..... 34—230
Tadorna tadorna..... 34—232
Terpsiphone atrocaudata atrocaudata
 12—88
Terpsiphone atrocaudate illex.....*27
Tetrastes bonasia vicinista..... 64—420
Thalasseus bergii cristatus..... 56—363
Tringa erythropus..... 46—308
Tringa glareola..... 45—305
Tringa guttifer..... 47—312
Tringa hypoleucos..... 46—307
Tringa incana brevipes..... 45—306
Tringa incana incana 45—*102
Tringa nebularia..... 46—311
Tringa ocropus..... 45—304
Tringa stagnatilis..... 46—310
Tringa totanus eurhinus..... 46—309
Troglodytes troglodytes fumigatus
 18—133
Troglodytes troglodytes mosukei.....*41
Troglodytes troglodytes ogawae.....*41
Troglodytes troglodytes peninsulae.....*41
Troglodytes tungloxytes utanoi*41
Turdus cardis cardis..... 15—111
Turdus celaenops celaenops..... 16—117
Turdus celaenops yakushimensis.....*36
Turdus chrysolaus chrysolaus..... 16—116
Turdus chrysolaus orii..... *35
Turdus dauma amami..... *33
Turdus dauma aureus..... *33
Turdus dauma toratugami 15—109
Turdus hortulorum 15—113

Turdus musicus musicus 15—112
Turdus naumanni eionomus ... 16—118
Turdus naumanni naumanni... 16—*36
Turdus obscurus obscurus..... 16—115
Turdus pallidus..... 15—114
Turdus pilaris..... III
Turdus sibiricus davisoni..... 15—110
Turnix suscitator okinawensis... 64—418
Tryngites subruficollis..... 51—335

U

Uragus sibiricus sanguinolentus 4—23
Uria aalge inornata..... 60—388
Uria lomvia arra..... 60—389
Urosphena squameiceps squameiceps
 13—99
Urosphena squameiceps ussuriensis
 *30
Upupa epops saturata..... 20—144

V

Vanellus vanellus..... 54—355

X

Xema sabini tschuktschorum... 58—373
Xenus cinereus..... 47—313

Z

Zonotrichia atricapilla..... 5—34
Zonotrichia leucophrys gambelii
 5—33
Zosterops palpebrosa iijimae..... *20
Zosterops palpebrosa insularis.....*20
Zosterops palpebrosa japonica... 9—67
Zosterops palpebrosa lochoensis... *20
Zosterops palpebrosa stejnegeri*20
Zosterops palpebrosa yesonensis.....*20



原色日本鳥類図鑑 奥付

(© 小林桂助 1954)

昭和31年3月10日 印刷

昭和31年3月15日 発行

昭和37年6月5日 八刷発行

定価 1200円

著 者 小 林 桂 助

作 画 宮 本 孝
編 集 保育社編集部 中 西 良 二
" 池 山 勝 男

原色製版 アール印刷写真製版部 宮 田 武 次
原色印刷 アール印刷株式会社 長 谷 川 朝 造
活版印刷 大谷印刷株式会社 大 谷 末 吉
製 本 平田製本株式会社 平 田 増 一
用 紙 日本加工製紙株式会社
北越製紙株式会社
ク ロ ス 日本クロス工業株式会社

発 行 者 今 井 龍 雄

発 行 所 株式会社 保 育 社

大阪市東区内久宝寺町1の20
電話 大阪(762)1731~5番
振替 大阪 12346番
東京都台東区御徒町2の49
電話 東京(831)1897, (861)0732番

万一落丁・乱丁のときはお取替えいたします。

保育社の

原
色
図
鑑

世界の学者から
賞讃されている

出
版
目
録

保育社

保育社の 原色図鑑

編者 竹内吉蔵 著

③ 原色日本昆虫図鑑(下)

A5判 262頁・上製・定価 1100円

日本産昆虫類のうちバッタ・トンボ・ハナなど1140種を原色図版に収め、詳しく平易に解説してある。

小林桂助 著

⑤ 原色日本鳥類図鑑

A5判 282頁・上製・定価 1200円

日本全土で知られている鳥類のすべて425種を原色図版に収め、その形態・生態・分布などについて詳しく解説。

編者 塚本洋太郎 著

⑦ 原色花卉図鑑(上)

A5判 198頁・上製・定価 1100円

宿根・球根類…キク・デューロー・チューリップ・ユリなど240種を原色図版に収め、詳しく解説してある。

編者 武田久吉 著

⑨ 原色日本高山植物図鑑

A5判 198頁・上製・定価 1200円

著者自身が苦心撮影の日本の高山植物約300種を定評ある原色図版に収録して、その分布・開花期など詳述した。

編者 北村四郎他 共著

⑪ 原色日本植物図鑑(上)

A5判 378頁・上製・定価 1500円

草本類合弁花類…日本に自生する野草のうち合弁花類草本588種を原色図版に収め、検索表を付し詳細に解説した。

編者 福川宗吉 著

⑬ 原色日本海藻図鑑

A5判 282頁・上製・定価 1200円

緑藻、褐藻、紅藻、石莖藻など日本近海産の海藻592種を実物写真により図版に収録、検索表を付し詳細に解説した。

編者 江崎修三序・横山光夫 著

① 原色日本蝶類図鑑(増補版)

A5判 236頁・上製・定価 1200円

新しく23種を原色図版に収め増補し、日本産蝶類の殆どの種220余種を収録、詳しく解説し別に蝶類生態一覧表を付す。

日本貝類学会理事 吉良吉明 著

④ 原色日本貝類図鑑(改訂版)

A5判 330頁・上製・定価 1200円

日本産貝類1270種を定評ある原色図版に実物そのまゝに収録して、1種ごとに詳細な解説をほどこしてある。

編者 岡田要校関・今泉吉典 著

⑥ 原色日本哺乳類図鑑

A5判 260頁・上製・定価 1300円

わが国に産する哺乳類200種及び亜種を国産写真とともに原色図版に収録して、多くの凸版図を挿入し解説した。

編者 塚本洋太郎 著

⑧ 原色花卉図鑑(下)

A5判 198頁・上製・定価 1100円

1・2年草、花本類…グイトウ・パンジー・サクラなど210種を原色図版に収録、平易に解説した。

編者 益寿寺之助 著

⑩ 原色岩石図鑑

A5判 238頁・上製・定価 1100円

岩石ブロック写真288種と顕微鏡写真86図、造岩鉱物61種を原色図版に収めて、詳細な解説をほどこしてある。

編者 北村四郎他 共著

⑫ 原色日本植物図鑑(中)

A5判 468頁・上製・定価 1600円

草本類離弁花類…日本に自生する野草のうち離弁花類草本653種を原色図版に収め、検索表を付し詳細に解説した。

京大林学教室 編者 北村四郎 補・岡本吉吉 著

⑭ 原色日本樹木図鑑

A5判 386頁・上製・定価 1500円

日本産樹木380余種の花、実、樹皮、樹相等をエングラーの分類順に原色図版に収め、検索表を付し詳しく解説した。

日本甲虫学会 編

② 原色日本昆虫図鑑(上)

A5判 346頁・上製・定価 1300円

日本産甲虫類のうちカミキリ・タマシなど1500余種を原色図版に収録、虫現期・棲息場所など詳しく解説した。

編者 高瀬治吉 著

④ 原色日本魚類図鑑(改訂版)

A5判 242頁・上製・定価 1200円

魚類分類学上の各群の代表的な魚300余種を著者の原因に正確に彩色し図版に収め、1種ごとに詳しく解説を付す。

編者 内海弘士 著

⑥ 原色日本海岸動物図鑑

A5判 266頁・上製・定価 1200円

クラゲ・カニ・エビ・ウニをはじめ日本の海岸に棲息する小動物約500種を原色図版に収め詳しく解説した。

編者 塚本洋太郎他 共著

⑧ 原色薔薇洋蘭図鑑

A5判 286頁・上製・定価 1300円

バラ168種と洋蘭144種を原色図版に収め、その栽培や栽培上注意すべきことがらを凸版図を入れ解説してある。

編者 木下竜城 著

⑩ 原色鉱石図鑑(増補改訂版)

A5判 330頁・上製・定価 1500円

新しく増補して日本中から集めた349種の鉱石標本と102種の顕微鏡写真を原色図版に収録、詳しく解説した。

編者 北村四郎他 共著

⑫ 原色日本植物図鑑(下)

・続刊・

草本類単子葉類…日本に自生する野草のうち単子葉植物約600種を原色図版に収め、検索表を付して詳しく解説。

日本熱帯魚研究所 編者 牧野信司 著

⑭ 原色熱帯魚図鑑(増補改訂版)

A5判 276頁・上製・定価 1200円

わが国で飼育されている熱帯魚100種を、特殊撮影による写真で原色図版に収め、1種ごとに平易に詳しく解説す。

監修 江崎幹三・監修 一色周知他 共著

② 原色 日本 蛾類 図鑑 (上)

A 5 判 406頁・上製・定価 1500円

日本産の小蛾類のほかシヤクガ科等をふくめて1381種 (1557個体) を原色図版に収め、詳しい解説をした。

監修 江崎幹三・監修 一色周知他 共著

③ 原色 日本 蛾類 図鑑 (下)

A 5 判 392頁・上製・定価 1500円

日本産の大蛾類1018種 (1121個体) を原色図版に収めて詳しく解説、採集・飼育等についても詳述した。

農林省林業試験場
今岡六也・木崎次雄 共著

④ 原色 日本 菌類 図鑑

A 5 判 270頁・上製・定価 1200円

日本産菌類のうちから342種と別に64種の生息写真や原色図版に収録して、詳細な解説をほどこした原色図鑑。

監修 田川基二 著

⑤ 原色 日本 羊歯植物 図鑑

A 5 判 350頁・上製・定価 1500円

屋久島以北の日本に自生する羊歯植物399種を原色図版に収め、科・属・種の検索表を付して詳しく解説してある。

監修 波部忠彦 著

⑥ 統原色 日本 貝類 図鑑

A 5 判 308頁・上製・定価 1500円

既刊④原色日本貝類図鑑に未収録の貝類約1600種を原色図版に収録して、既刊分と同様につけて詳しく解説した。

監修 藤原隆治 著

⑦ 統原色 日本 魚類 図鑑

A 5 判 246頁・上製・定価 1400円

既刊④原色日本魚類図鑑に未収録の重要魚類340種を原色図版に収録して詳しく解説、巻末に「方言名索引」を付す。

日本熱帯魚研究所 牧野信司 著

⑧ 統原色 熱帯魚 図鑑

A 5 判 256頁・上製・定価 1500円

既刊④原色熱帯魚図鑑に未収録のもの、その後新しく輸入された熱帯魚130種を原色図版に収録、詳しく解説した。

監修 武田久吉 著

⑨ 統原色 日本 高山植物 図鑑

・近刊・

既刊④原色日本高山植物図鑑に未収録の高山植物を定評ある原色図版に収めて詳しい解説をしてある。

農林 久保利夫 著

⑩ 原色 果実 図鑑

A 5 判 234頁・上製・定価 1500円

日本で栽培されている重要果樹22種類、212品種を美しい原色図版に収め、栽培・特徴・栽培法などを解説した。

保育社の 原色大図鑑

監修 白水 隆 著

⑪ 原色 鳥 蛾類 大図鑑

B 5 判 566頁・上製・定価 2400円

台湾産蛾類のほとんど全種を実物大に原色図版に収録して凸版図を豊富に挿入して詳しく解説した貴重な原色図鑑

監修 白水 隆・原 共著

⑫ 原色 日本 蛾類 幼虫大図鑑 I

B 5 判 208頁・上製・定価 1800円

日本産蛾類87種の卵・幼虫・蛹を生態的に撮影し原色図版に収録、分布・食草・発生経過など詳細に解説してある。

監修 白水 隆・原 共著

⑬ 原色 日本 蛾類 幼虫大図鑑 II

・近刊・

日本産蛾類109種の卵・幼虫・蛹を生態的に撮影し原色図版に収め、分布・食草・発生など平易に詳しく述べた。

監修 八木沼健夫 著

⑭ 原色 日本 蜘蛛 大図鑑

B 5 判 258頁・上製・定価 1800円

北海道から九州まで日本全土に見られるクモの殆んど全部を網羅、335種を原色図版に収めて、平易に解説した。

監修 山崎 勇 著

⑮ 日本プランクトン 図鑑

B 5 判 244頁・上製・定価 1300円

著者が長年各地を調査蒐集した資料による図鑑兼写真、海水産450余、淡水産100種を鮮明なグロビア印刷で収録。

監修 清原幸保 著

⑯ 原色 日本 野鳥生態 図鑑 I

B 5 判 156頁・上製・定価 1500円

著者自身が苦心撮影した山野の鳥の生態写真を中心に広く世界の鳥類から集めた写真を原色とグロビア印刷で収録

監修 清原幸保 著

⑰ 原色 日本 野鳥生態 図鑑 II

B 5 判 160頁・上製・定価 1500円

著者自身が苦心撮影した水辺の鳥の生態写真を中心に広く世界の鳥類から集めた写真を原色とグロビア印刷で収録

監修 宇田川龍男 著

⑱ 原色 飼鳥 大図鑑

B 5 判 216頁・上製・定価 1800円

美しい飼鳥170種を原色図版に収め、一般愛好家にもわかりやすく飼鳥技術の実際についてまで平易に述べてある。

神大教授 田中 薫・田中千代 共著

⑲ 原色 世界 衣服 大図鑑

B 5 判 192頁・上製・定価 2000円

世界各国のめずらしい民族衣装を、定評ある原色図版に収め、1点ずつの身長、着付法など図入で詳しく解説した。

京大教授 貴島恒夫・岡本省吾 共著

⑳ 原色 木材 大図鑑

B 5 判 310頁・上製・定価 2500円

日本産木材を主に外国産のものに加え、256種の材産及び樹皮を原色図版に収録各種の葉の凸版図を入れて詳述した

早大講師 田辺和雄 著

㉑ 原色 日本 植物生態 図鑑

<①水平分布・垂直分布編>

B 5 判 150頁・上製・定価 1800円

本書では主体を気候による植物等の水平分布と垂直分布におき植物の生息写真や原色及びグロビア図版に収録した

